Workspace Environment Management 2303

Machine translated content

Disclaimer

このコンテンツの正式なバージョンは英語で提供されています。Cloud Software Group ドキュメントのコンテンツの一部は、お客様の利便性のみを目的として機械翻訳されています。Cloud Software Group は機械翻訳されたコンテンツを管理していないため、誤り、不正確な情報、不適切な用語が含まれる場合があります。英語の原文から他言語への翻訳について、精度、信頼性、適合性、正確性、またはお使いの Cloud Software Group 製品またはサービスと機械翻訳されたコンテンツとの整合性に関する保証、該当するライセンス契約書またはサービス利用規約、あるいは Cloud Software Group とのその他すべての契約に基づき提供される保証、および製品またはサービスのドキュメントとの一致に関する保証は、明示的か黙示的かを問わず、かかるドキュメントの機械翻訳された範囲には適用されないものとします。機械翻訳されたコンテンツの使用に起因する損害または問題について、Cloud Software Group は責任を負わないものとします。

Contents

Workspace Environment Management 2303 **6**

新機能 **6**

解決された問題 **7**

既知の問題 **7**

サードパーティ製品についての通知 **7**

廃止 **8**

クイックスタートガイド **9**

システム要件 **55**

インストールと構成 **60**

インフラストラクチャサービス **60**

管理コンソール **76**

エージェント **80**

デプロイのスケールとサイズに関する考慮事項 **90**

環境のアップグレード **91**

ユーザーエクスペリエンス **95**

リボン **96**

アクション **100**

操作グループ **101**

グループポリシーの設定 **113**

アプリケーション **119**

プリンター **123**

ネットワーク ドライブ **125**

仮想ドライブ **126**

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

レジストリエントリ **127**

環境変数 **129**

ポート **130**

INI ファイル **132**

外部タスク **133**

ファイル システム操作 **138**

ユーザー **DSN** **140**

ファイルの関連付け **141**

フィルター **145**

Assignments **147**

システム最適化 **149**

CPU 管理 **150**

メモリ管理 **155**

I/O 管理 **157**

高速ログオフ **158**

Citrix Optimizer **158**

マルチセッションの最適化 **161**

ポリシーとプロファイル **161**

環境設定 **162**

Microsoft USV の設定 **164**

Citrix Profile Management 設定 **166**

セキュリティ **173**

Active Directory オブジェクト **191**

トランスフォーマーの設定 **194**

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

詳細設定 198

管理 208

監視 215

CMD および **UI** モードのエージェント 218

共通コントロールパネルアプレット 220

動的トークン 222

#UserName 225

#UserProfile 225

#FullUserName 225

#UserInitials 226

#UserAppData 226

#UserPersonal 226

#UserDocuments 226

#UserDesktop 226

#UserFavorites 226

#UserTemplates 226

#UserStartMenu 226

#UserStartMenuPrograms 226

#UserLocalAppData 226

#UserMusic 226

#UserPictures 226

#UserVideos 226

#UserDownloads 226

#UserLinks 226

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

#UserContacts **226**

#UserSearches **227**

#commonprograms **227**

#ComputerName **227**

#ClientName **227**

#ClientIPAddress **227**

#IpAddress **227**

#ADSite **227**

#DefaultRegValue **227**

#UserLDAPPath **227**

#VUEMAgentFolder **227**

#RDSSessionID **227**

#RDSSessionName **227**

#ClientRemoteOS **227**

#ClientOSInfos **227**

環境設定のレジストリ値 **231**

フィルター条件 **254**

FIPS サポート **269**

NetScaler ADC による負荷分散 **274**

ログパーサー **275**

ポート情報 **276**

ログファイルの表示 **278**

WEM 整合性条件リストマネージャー **285**

XML プリンターリストの構成 **300**

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

用語集 **304**

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

Workspace Environment Management 2303

June 1, 2023

Workspace Environment Management では、インテリジェントなリソース管理およびプロファイル管理テクノロジを使用して、Citrix Virtual Apps and Desktops 展開で最高のパフォーマンス、デスクトップログオン、およびアプリケーションの応答時間を提供します。これは、ドライバーを必要としない、ソフトウェアのみのソリューションです。

新機能

June 1, 2023

2303 年の新着情報

> ヒント：
>
> Citrix Virtual Apps and Desktops のダウンロードページから最新の Workspace Environment Management インストーラーをダウンロードできます。https://www.citrix.com/downloads/citrix-virtual-apps-and-desktops/。そのページで、最新バージョンの Citrix Virtual Apps and Desktops のコンポーネントの下にあるインストーラーにアクセスします。

このリリースは、次の新機能が含まれ問題に対応しているため、より優れたユーザーエクスペリエンスを提供します：

Profile Management

Workspace Environment Management では、2303 までのすべてのバージョンの Profile Management がサポートされるようになりました。以下の新しいオプションが [管理コンソール**] > [**ポリシーとプロファイル**] > [Citrix Profile Management** 設定**]** で使用できるようになりました。

- 同時セッションのサポートを有効にします。同時セッションでネイティブの Outlook 検索エクスペリエンスを提供します。有効にすると、各同時セッションで個別の Outlook OST ファイルが使用されます。Outlook OST ファイルを格納する VHDX ディスクの最大数を指定できます。このオプションは、［ポリシーとプロファイル］**>**［**Citrix Profile Management** 設定］**>**［詳細設定］で使用できます。
- 保留エリアのプロファイルストリーミングを有効にします。有効にすると、保留領域のファイルは、要求された場合にのみローカルプロファイルにフェッチされます。これにより、同時セッションシナリオでの最適なログオンエクスペリエンスが保証されます。このオプションは、［ポリシーとプロファイル］**>**［**Citrix Profile Management** 設定］**>**［ストリーム配信ユーザープロファイル］で利用できます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

詳しくは、「Citrix Profile Management の設定」を参照してください。

解決された問題

June 1, 2023

Workspace Environment Management 2303 には、Workspace Environment Management 2212 と比較して次の修正された問題が含まれています。

- 管理コンソールで、「**State** 」列の見出しをクリックしてソートしても、項目が期待どおりにソートされません。[WEM-25978、WEMHELP-274]
- 権限昇格機能が期待どおりに機能しない可能性があります。この問題は、Citrix WEM ソフトウェアの署名に使用された証明書の有効期限が切れているために発生します。回避策として、`HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\Agent Host`で DWORD レジストリ値を作成し、値を 1 に設定して、証明書の有効性チェックをバイパスしてください。[WEM-26420, WEMHELP-284]

既知の問題

June 1, 2023

- Windows 11 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-16602]
- SaaS アプリケーションなど、「Citrix Workspace（StoreFront）リソース」タイプの特定のアプリケーションは、エージェントマシンで起動できない場合があります。[WEM-26968]

サードパーティ製品についての通知

June 1, 2023

Workspace Environment Management の現在のリリースには、次のドキュメントで定義されている条件の下でライセンスされているサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。

Workspace Environment Management 第三者通知

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

廃止

June 1, 2023

この資料の発表は、段階的に廃止されているプラットフォームと Workspace Environment Management 機能について事前に通知し、タイムリーにビジネス上の決定を下すことができるようにすることを目的としています。シトリックスではお客様の使用状況とフィードバックをチェックして、各プラットフォーム、Citrix 製品、機能を撤廃するかどうかを判断しています。発表は、後続のリリースで変更されることがあり、非推奨の機能や機能がすべて含まれるとは限りません。

製品ライフサイクルサポートの詳細については、「製品ライフサイクルサポートポリシー」を参照してください。

廃止と削除

次の表に、非推奨または削除されたプラットフォームと Workspace Environment Management (WEM) の機能を示します。

廃止アイテムはすぐには削除されません。このリリースでは Citrix が引き続きサポートしていますが、今後のリリースでは削除される予定です。アスタリスク（*）が付いている項目は、次の Citrix Virtual Apps and Desktops の長期サービスリリース（LTSR）リリースまでサポートされます。

削除されたアイテムは、Workspace Environment Management で削除されるか、サポートされなくなりました。

項目	告知するメディア	削除されたバージョン	代替手段
—-	———	——-	——-
キャッシュ同期ポートのサポート (Workspace Environment Management 1909 以前に適用可能。Workspace Environment Management 1912 以降では、キャッシュされたデータ同期ポートに置き換えられました)。	2012	**2103**	Workspace Environment Management 1912 以降にアップグレードします。注意:Workspace Environment Management 2103 以降を使用する場合は、Workspace Environment Management エージェントを 1912 以降にアップグレードしてください。
VMware ペルソナ設定のサポート。	1906	**1909**
次の OS プラットフォーム上の WEM インフラストラクチャサービスのサポート:Windows Server 2008 R2 SP1 および Windows Server 2012。	4.7	**1808**
Windows Vista SP2 32 ビットと 64 ビット、Windows 7 SP1 32 ビットと 64 ビット、Windows 8.x 32 ビットと 64 ビット、Windows Server 2008 SP2、Windows Server 2008 R2 SP1、Windows Server 2012 に対応している。	4.7	**1808**
Windows Vista SP2 32 ビットおよび 64 ビット、および Windows Server 2008 SP2 の OS プラットフォームで WEM エージェントをサポートします。	4.7	**1808**
WEM 3.0、3.1、3.5、3.5.1 から WEM 4.x*	4.5	WEM 3.5.2 にアップグレードした後、WEM 4.x にアップグレードする。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

Windows XP SP3 32 ビットおよび 64 ビットですべての WEM コンポーネントをサポートします。	4.5	4.5	サポートされている OS プラットフォームを使用する。
以下の OS プラットフォームでの WEM エージェントのサポート: Windows XP SP3 32 ビットおよび 64 ビット、Windows Server 2003 32 ビットおよび 64 ビット、Windows Server 2003 R2 32 ビットおよび 64 ビット	4.5	4.5	サポートされている OS プラットフォームを使用する。
GPO を介して既存の（バージョン 4.3 以前）エージェントをサイトに割り当ててバインドするためのサポート。	4.3		エージェントを Workspace Environment Management 4.3 以降にアップグレードする。
以下の OS プラットフォームでの WEM 管理コンソールのサポート: Windows XP SP3 32 ビットおよび 64 ビット、Windows Server 2003 32 ビットおよび 64 ビット、Windows Server 2003 R2 32 ビットおよび 64 ビット	4.2	4.5	サポートされている OS プラットフォームを使用する。
以下の OS プラットフォームでの WEM 管理コンソールのサポート。Windows Vista SP1 32 ビットおよび 64 ビット、Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2	4.2
4.5	Microsoft .NET Framework 4.0、4.5.1 のすべての WEM コンポーネントのサポート。| 4.2	4.5	Microsoft .NET Framework 4.5.2 へのアップグレード。

クイックスタートガイド

June 1, 2023

このガイドでは、Workspace Environment Management (WEM) をインストールおよび構成する方法について説明します。インストールと構成の手順と、推奨されるベストプラクティスについて説明します。

概要

WEM は、ユーザーに最高の Workspace エクスペリエンスを提供できるように設計されたユーザー環境管理ソリューションです。これは、ドライバーを必要としない、ソフトウェアのみのソリューションです。

前提条件

環境に WEM をインストールする前に、すべてのシステム要件を満たしていることを確認してください。詳しくは、「システム要件」を参照してください。

インストールと構成

最新バージョンの WEM をインストールすることをお勧めします。WEM の展開は、インフラストラクチャサービス、管理コンソール、エージェントの 3 つのコアコンポーネントのインストールと構成で構成されます。次の手順では、これらのコンポーネントをインストールおよび構成する方法について詳しく説明します。

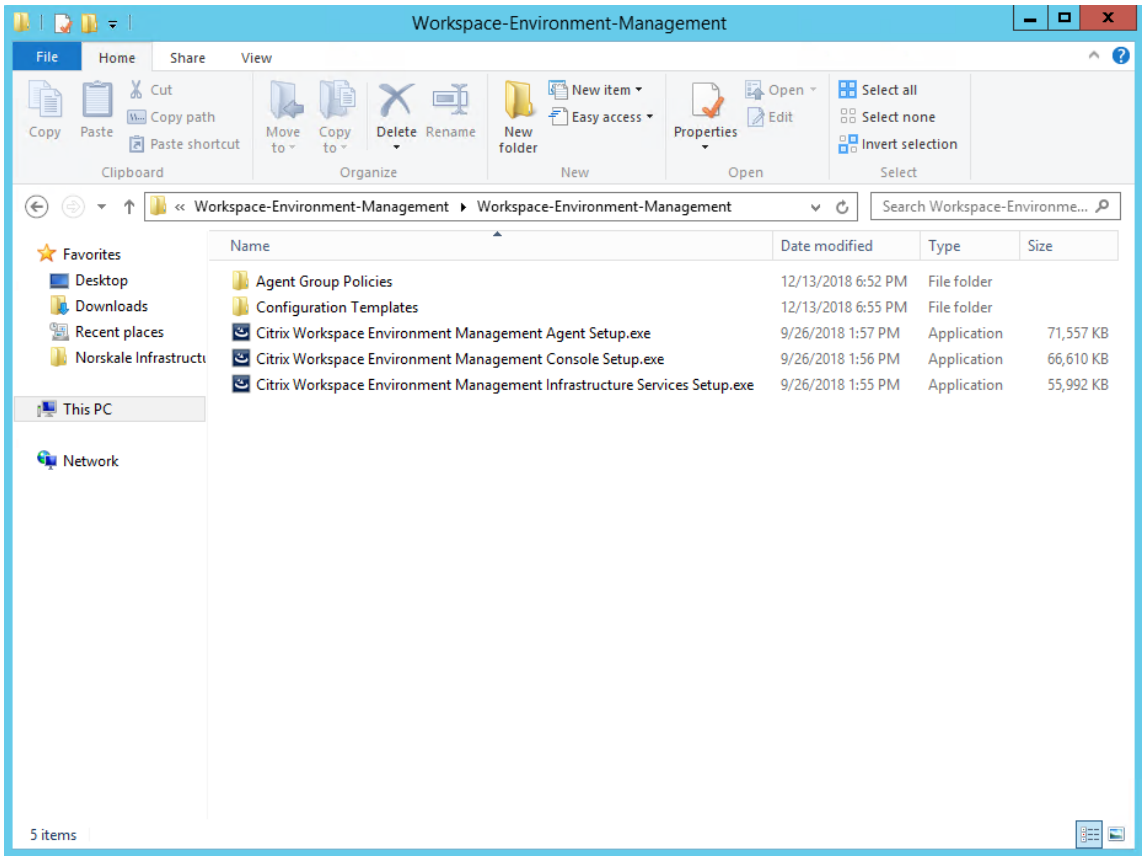
© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

- インフラストラクチャサービス
- 管理コンソール
- Agent

> 注:
>
> - 上記のコンポーネントのいずれも、ドメイン Controller にインストールしないでください。
> - Delivery Controller がインストールされているサーバーにはインフラストラクチャサービスをインストールしないでください。

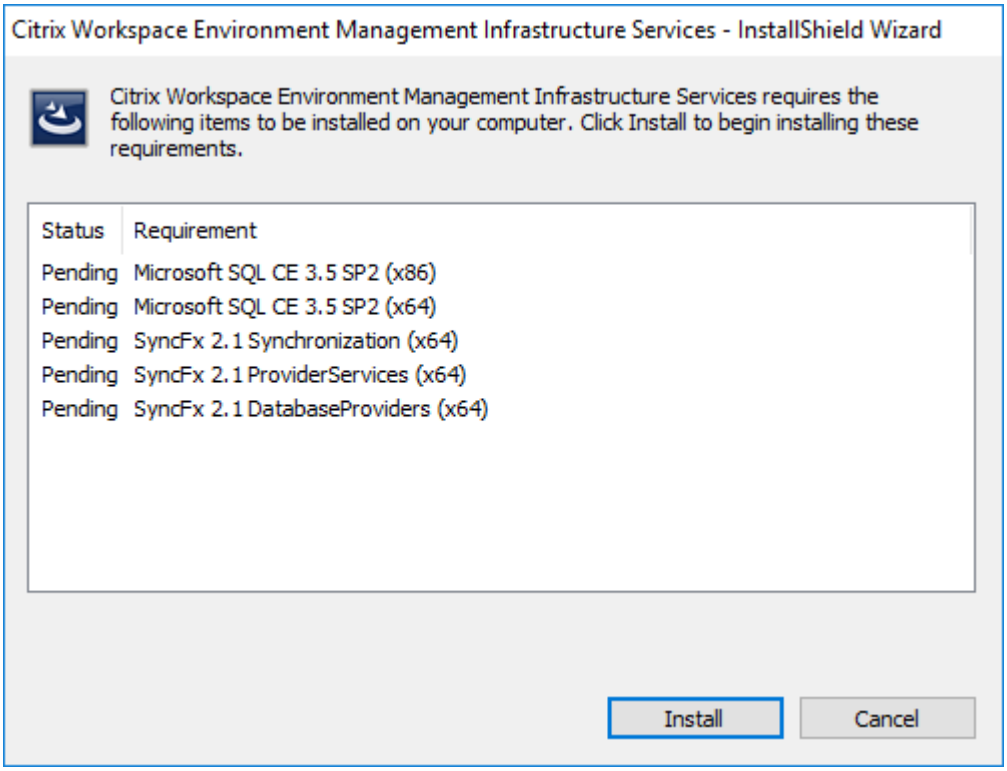
手順 **1:** インフラストラクチャサービスをインストールする

1. Citrix Virtual Apps and Desktops Advanced または Premium エディションコンポーネントのダウンロードページhttps://www.citrix.com/downloads/citrix-virtual-apps-and-desktops/から最新の WEM インストーラーをダウンロードします。適切なフォルダーに zip ファイルを展開します。

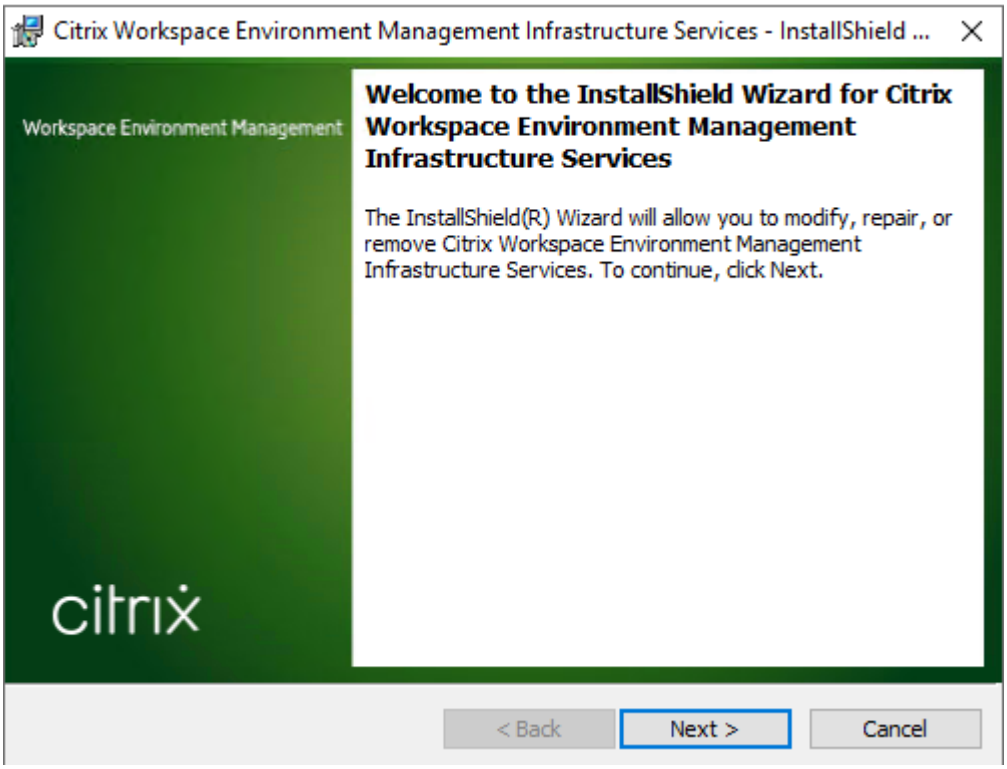


2. **Citrix Workspace Environment Management** インフラストラクチャ **Services.exe** をインフラストラクチャサーバーで実行します。
3. ［**Install**］をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

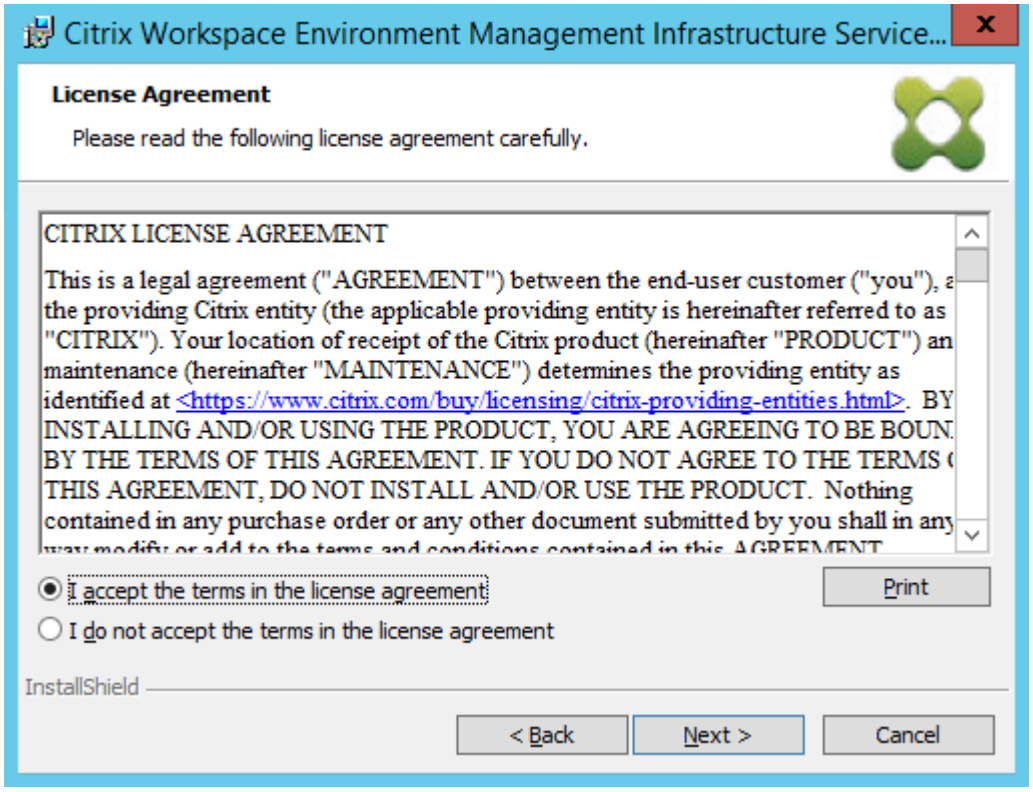


4. ［次へ］をクリックします。

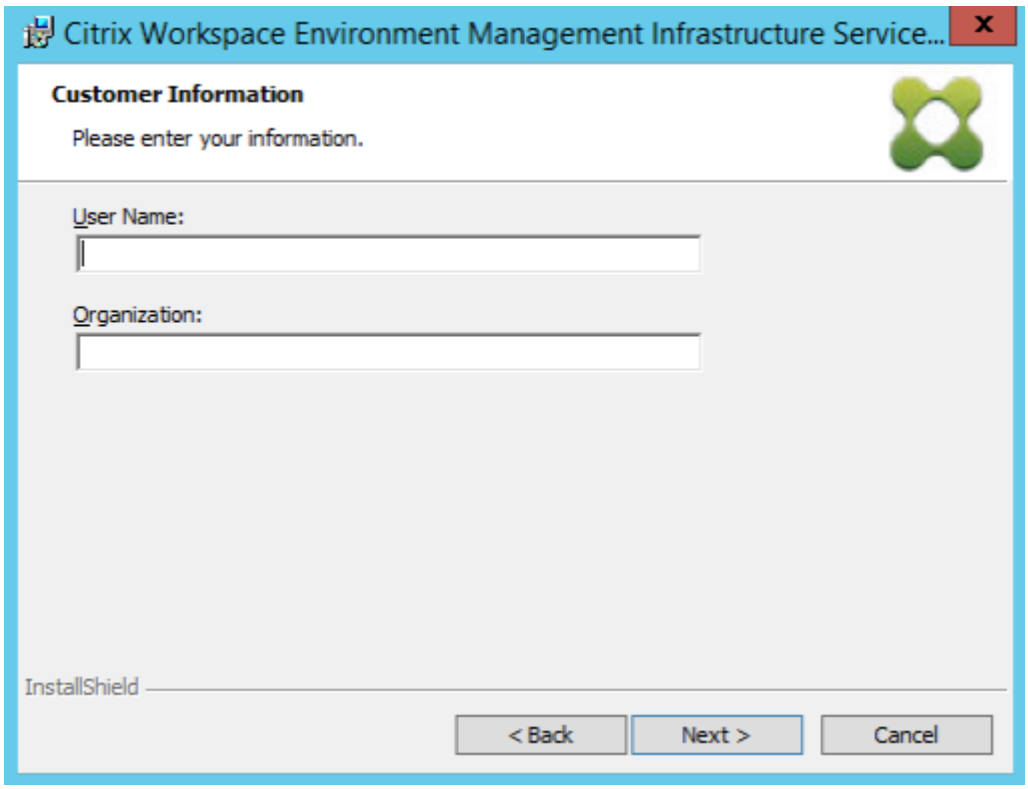


5. [使用許諾契約書の条項に同意します] を選択し、[次へ] をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



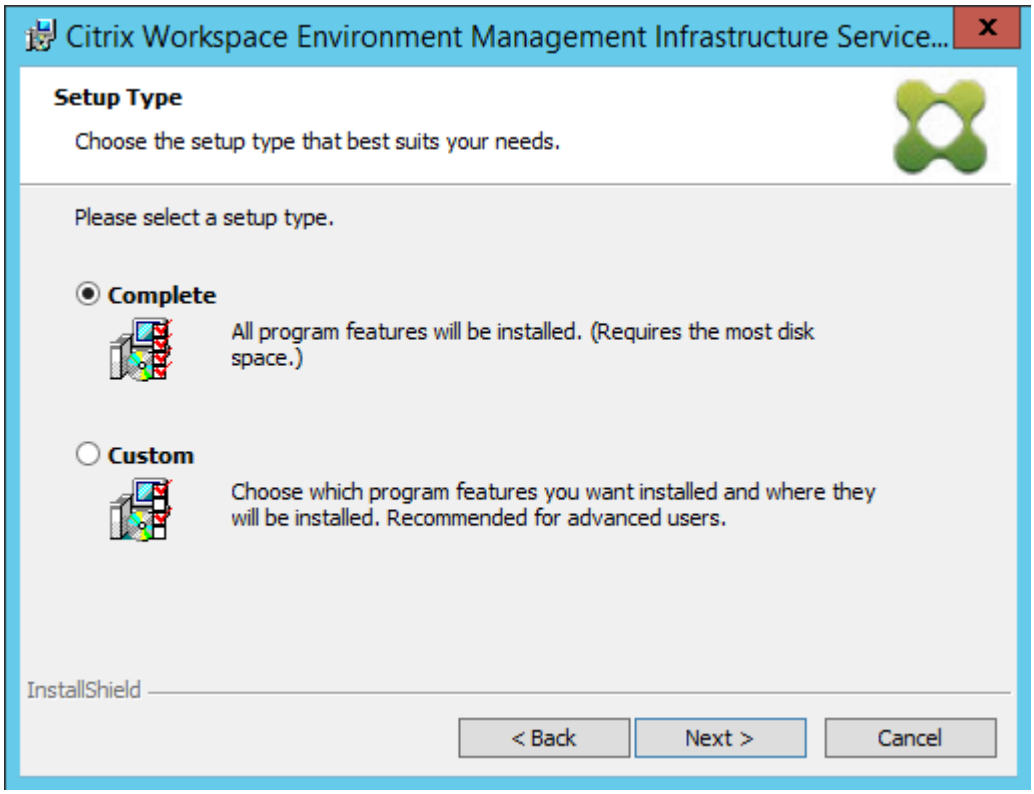
6. ユーザー名と組織を入力し、[次へ] をクリックします。



7. [完了] を選択し、[次へ] をクリックします。

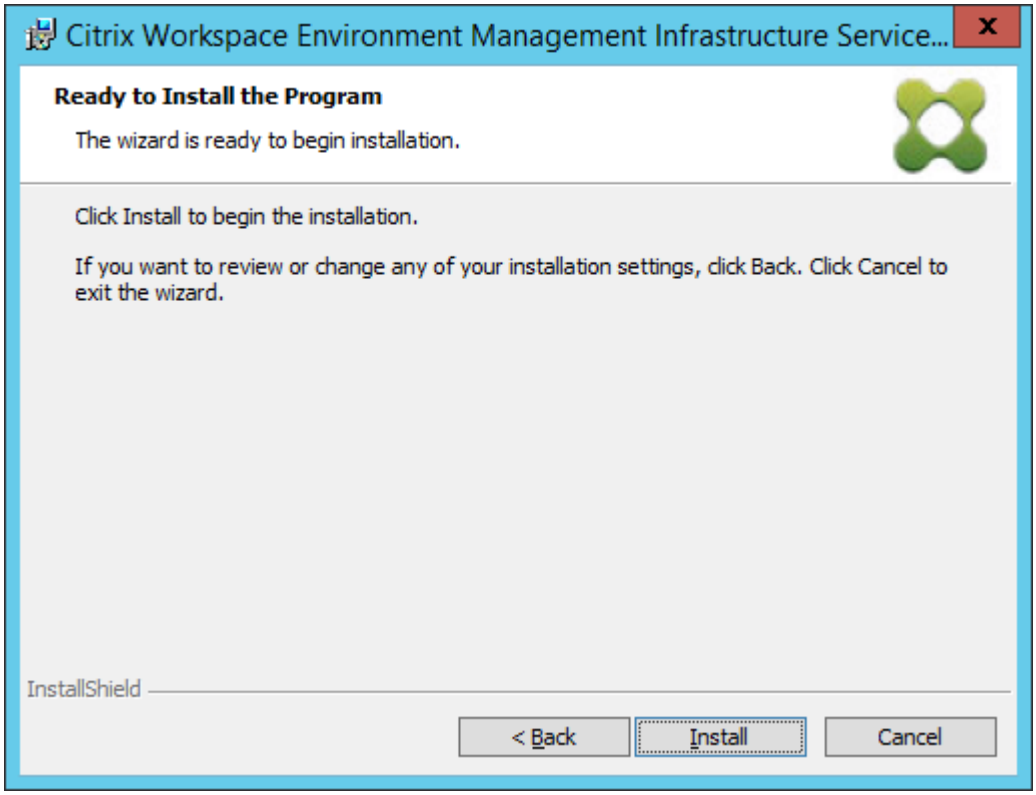
© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

> 注:
>
> インストールフォルダを変更するか、SDK のインストールを禁止するには、[カスタム] を選択します。



8. [プログラムのインストールの準備完了] ページで、[インストール] をクリックします。

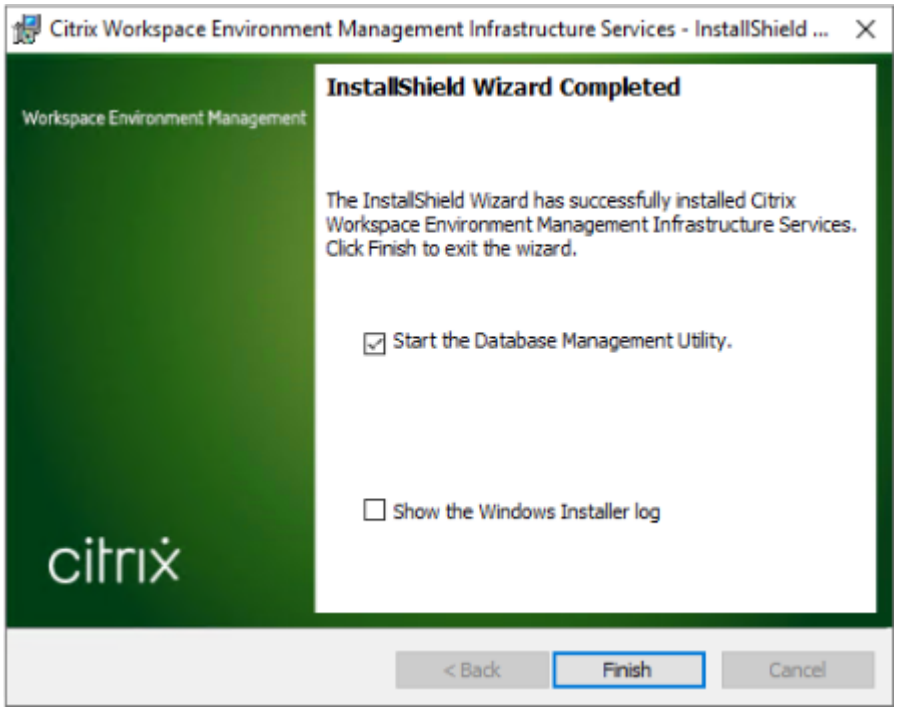
© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



9. [完了] をクリックし、ステップ 2 に進みます。

> 注:
>
> デフォルトでは、[データベース管理ユーティリティの起動] オプションが選択され、ユーティリティが自動的に起動します。**Citrix** > **Workspace Environment Management** > **WEM** データベース管理ユーティリティの［** スタート］メニューからユーティリティを起動することもできます **。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

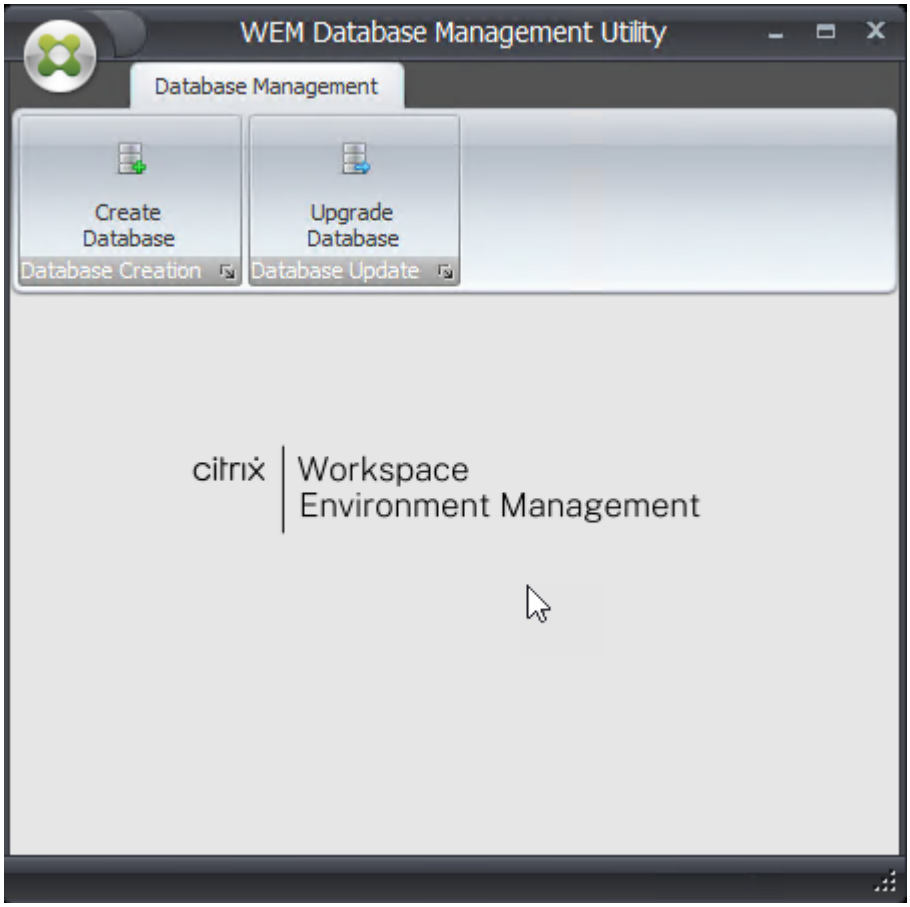


手順 **2: WEM** データベースを作成する

1. データベース管理ユーティリティで、[データベースの作成] をクリックして、展開用の WEM データベースを作成します。データベース作成ウィザードが表示されます。

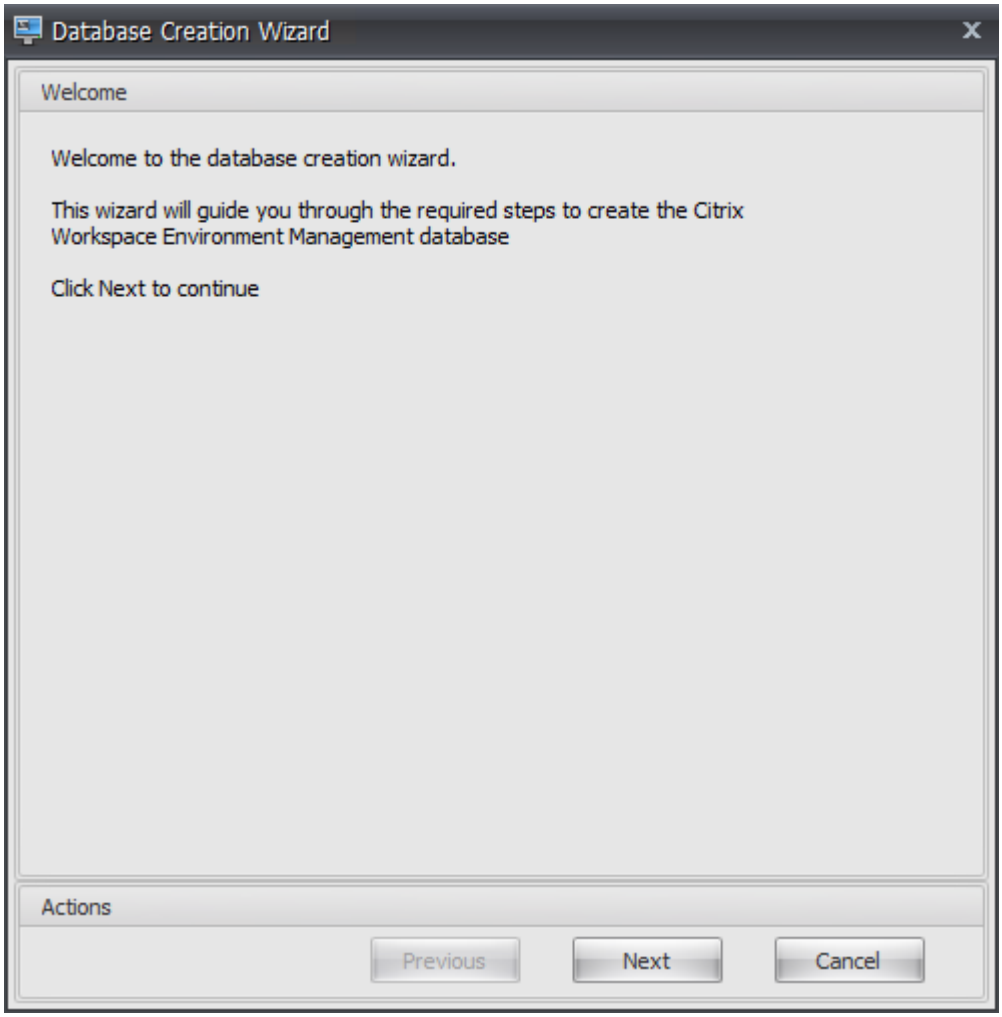
   > 注:
   >
   > SQL Server で Windows 認証を使用している場合は、システム管理者のアクセス許可を持つ ID でデータベース作成ユーティリティを実行します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



2. [ようこそ] ページで、[次へ] をクリックします。

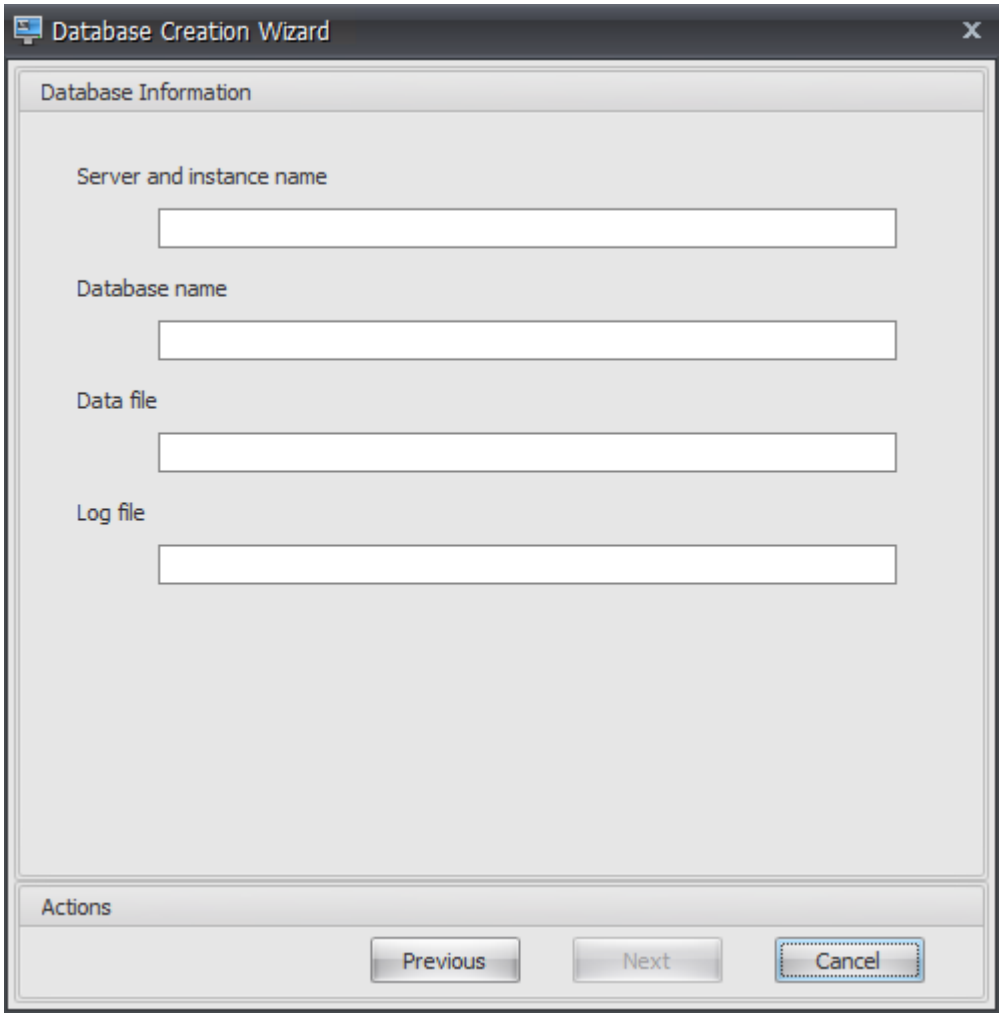
© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



3. [データベース情報] ページで、必要な情報を入力し、[次へ] をクリックします。

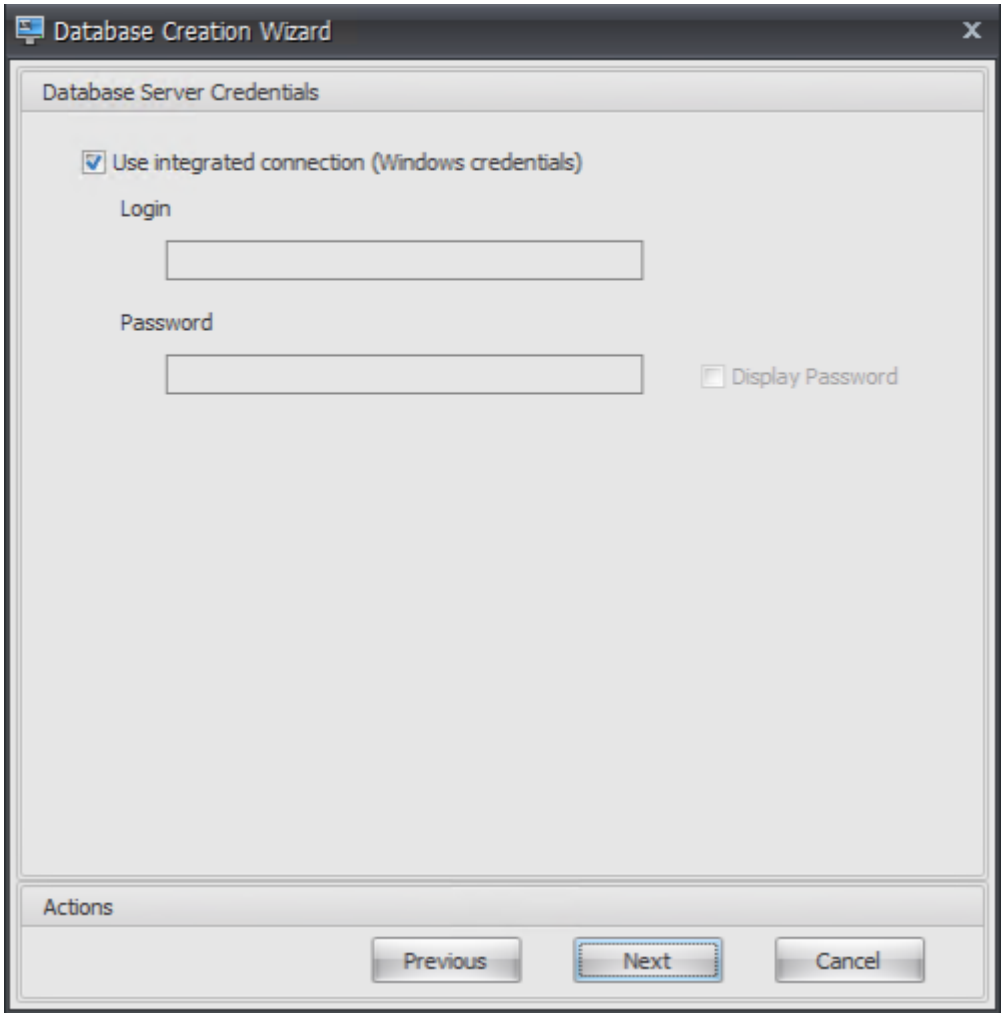
> 注:
>
> - サーバー名とインスタンス名には、マシン名、完全修飾ドメイン名、または IP アドレスを入力します。
> - ファイルパスには、データベース管理者が指定した正確なパスを入力します。自動補完されたファイルパスが正しいことを確認します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



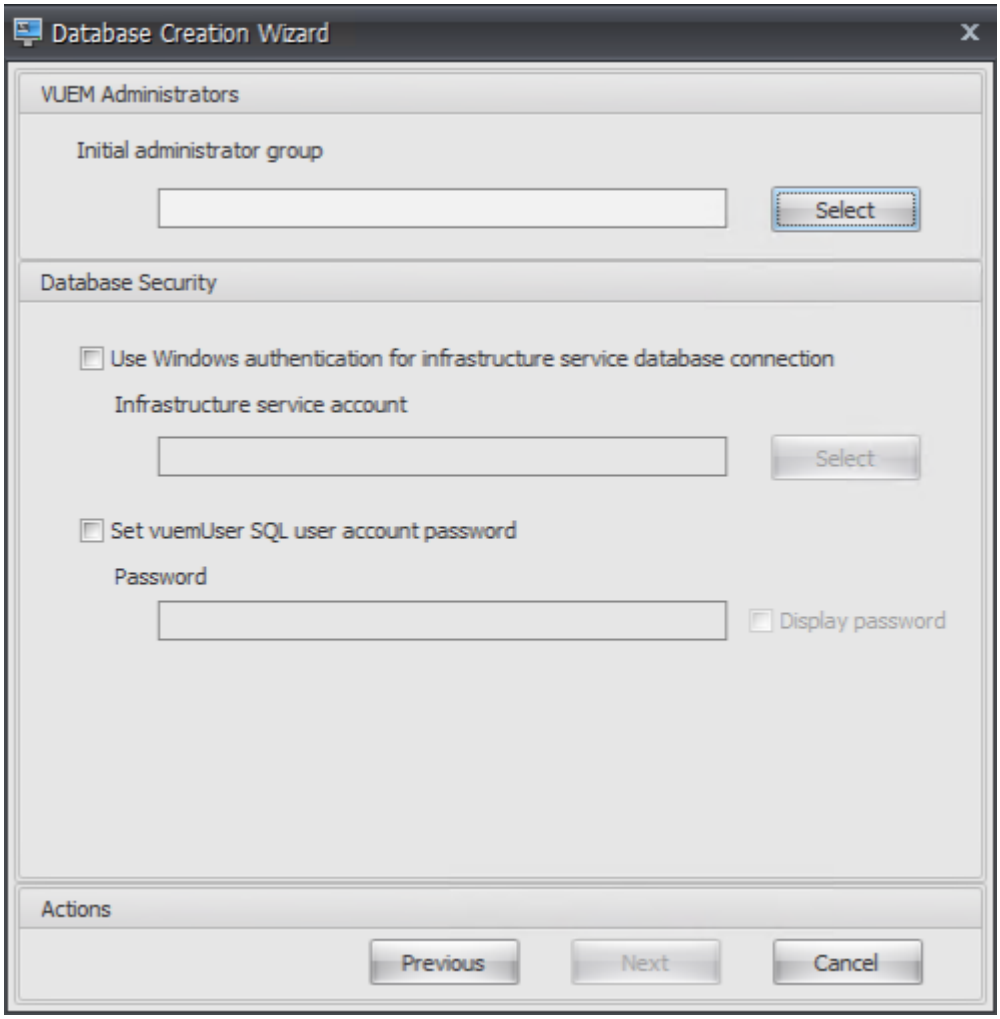
4. [データベースサーバーの資格情報] ページで、必要な情報を入力し、[次へ] をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

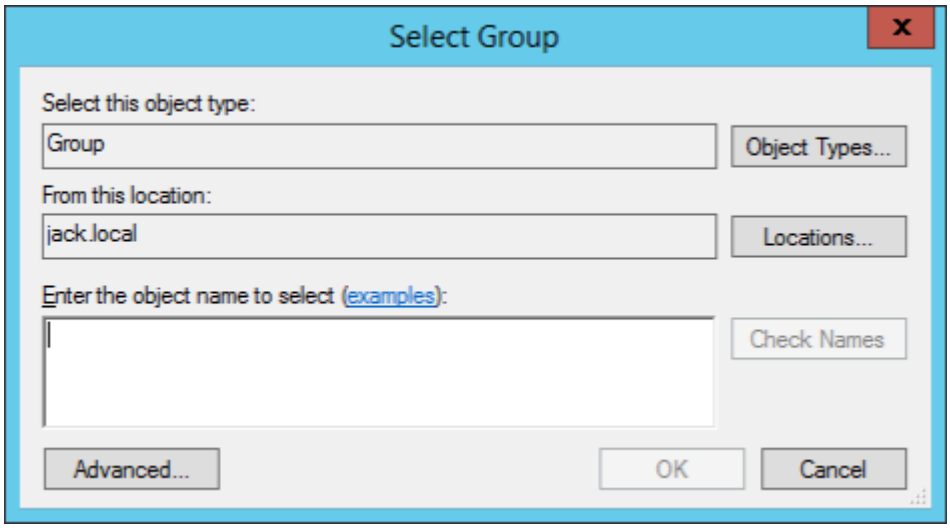


5. [VUEM 管理者] で、[選択] をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



6. ［グループの選択］ウィンドウで、管理コンソールに対する管理権限を持つユーザーグループを入力し、［名前の確認］をクリックし、［**OK**］をクリックします。

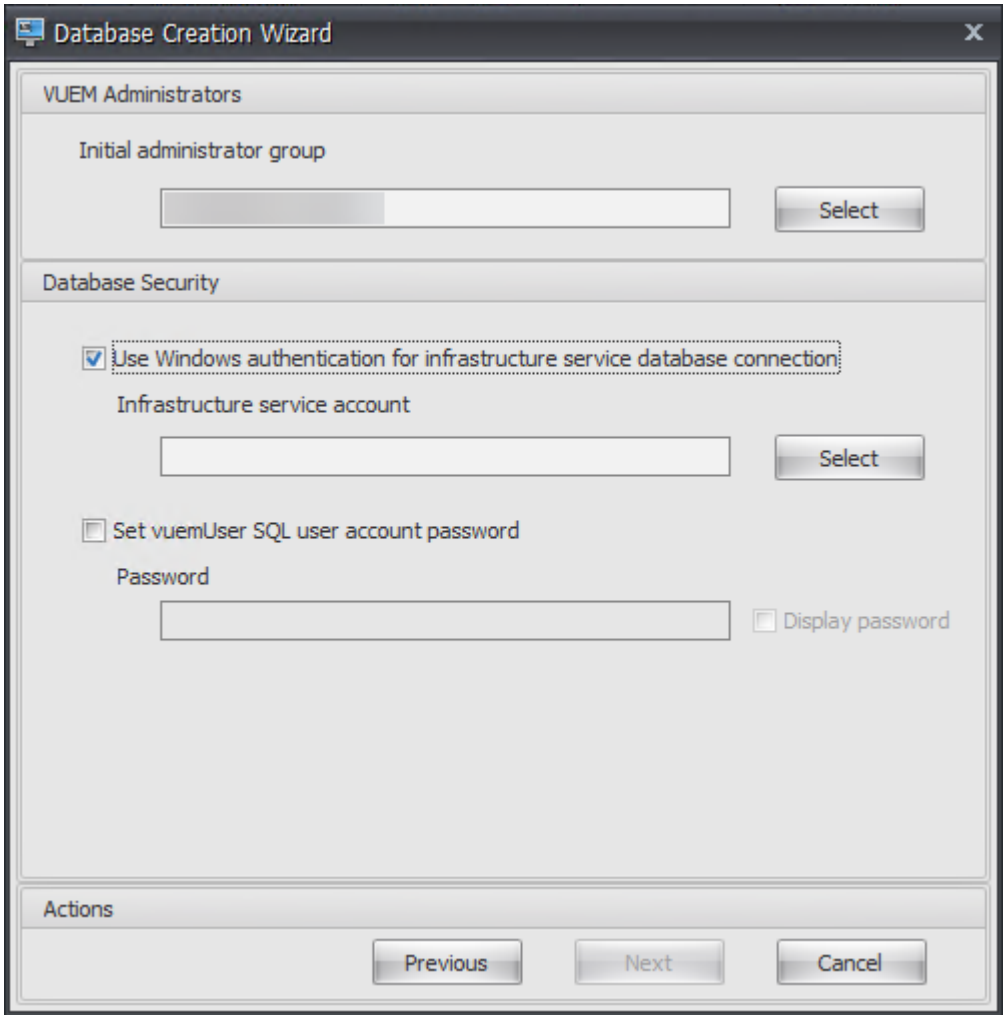


7. ［データベースセキュリティ］で、［インフラストラクチャサービスのデータベース接続に **Windows** 認証を使

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

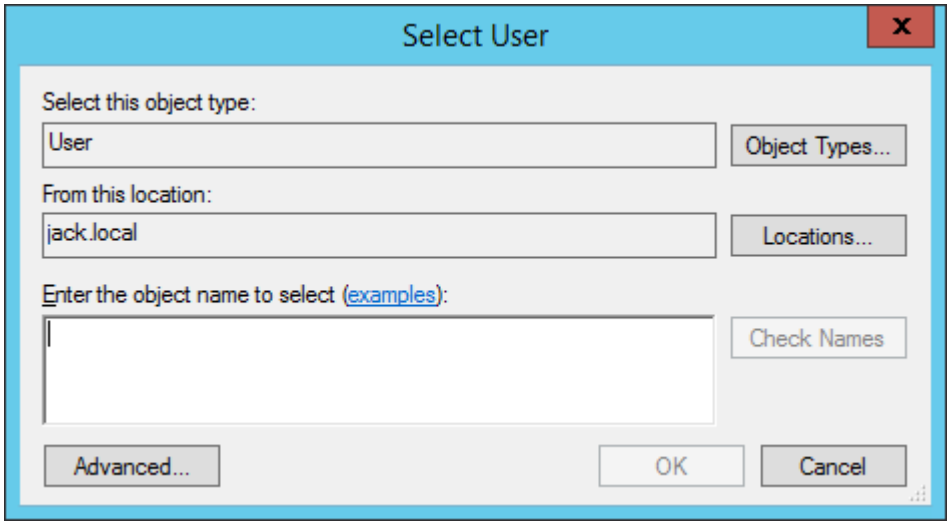
用する] を選択し、[選択] をクリックします。

> 注:
>
> - インフラストラクチャサービスデータベース接続に **Windows** 認証を使用する] または [**VueMuser SQL** ユーザアカウントのパスワードの設定] のいずれも選択しない場合、デフォルトで SQL ユーザアカウントが使用されます。
> - 独自の VueUser SQL アカウントパスワードを使用するには (たとえば、SQL ポリシーにより複雑なパスワードが必要な場合)、[**VueMuser SQL** ユーザーアカウントパスワードの設定] を選択します。

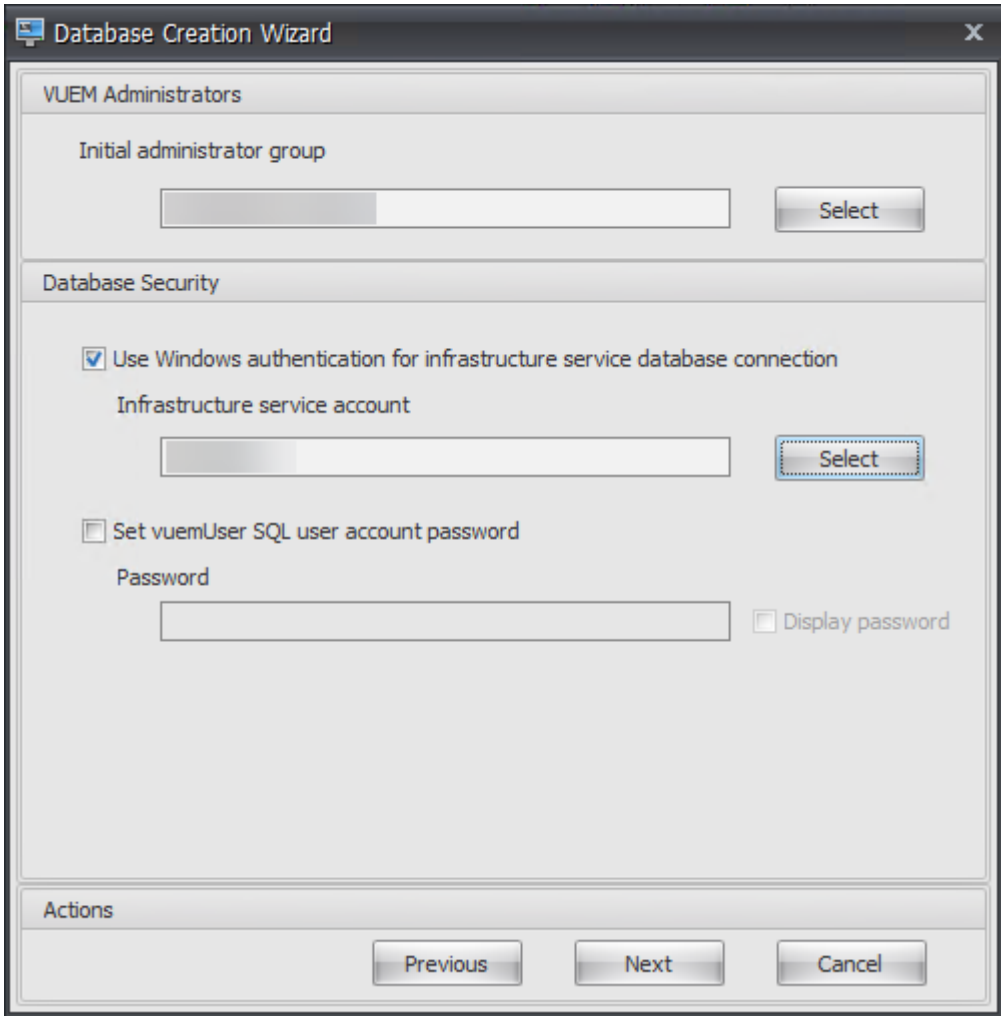


8. ［ユーザーの選択］ウィンドウで、インフラストラクチャサービスアカウントの名前を入力し、［名前の確認］をクリックし、［**OK**］をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

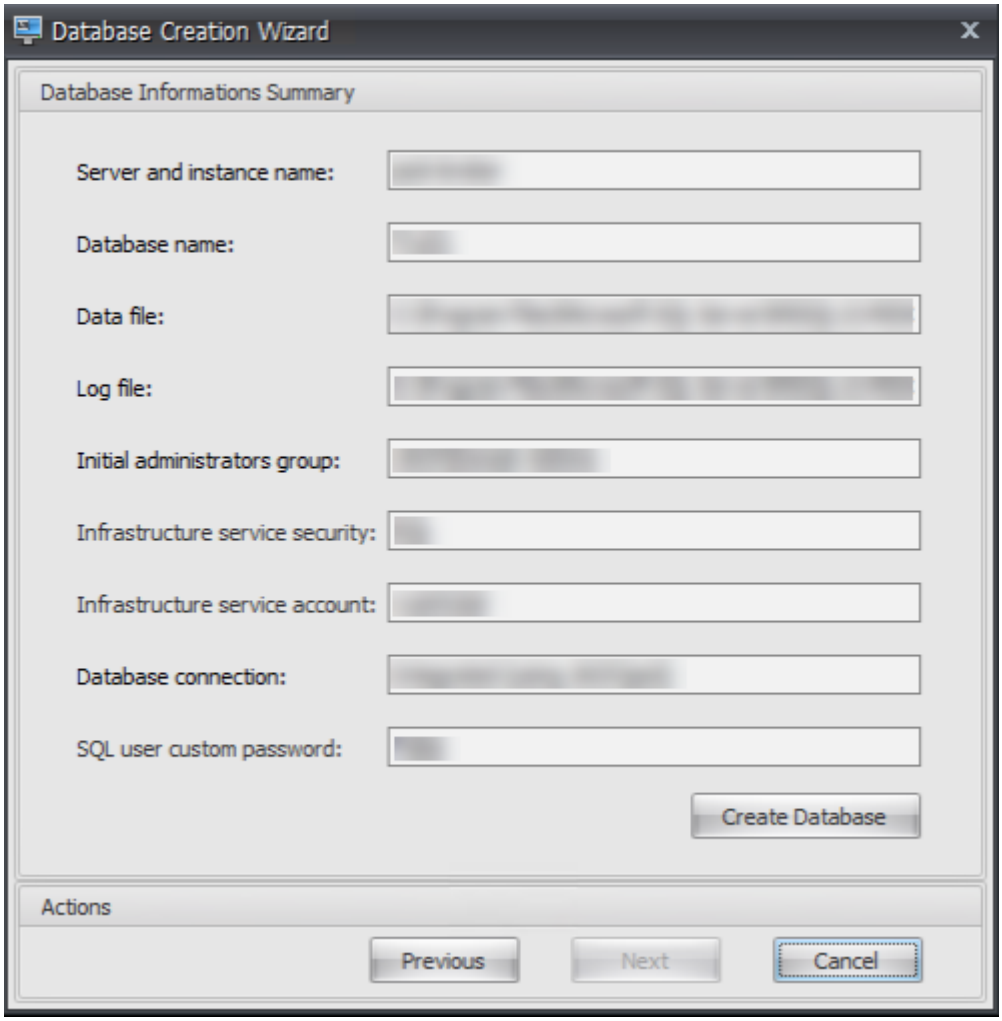


9. ［次へ］をクリックします。

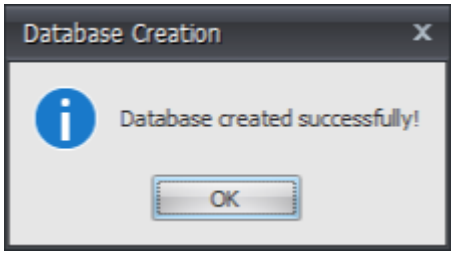


10. ［データベース情報の概要］ページで、［データベースの作成］をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

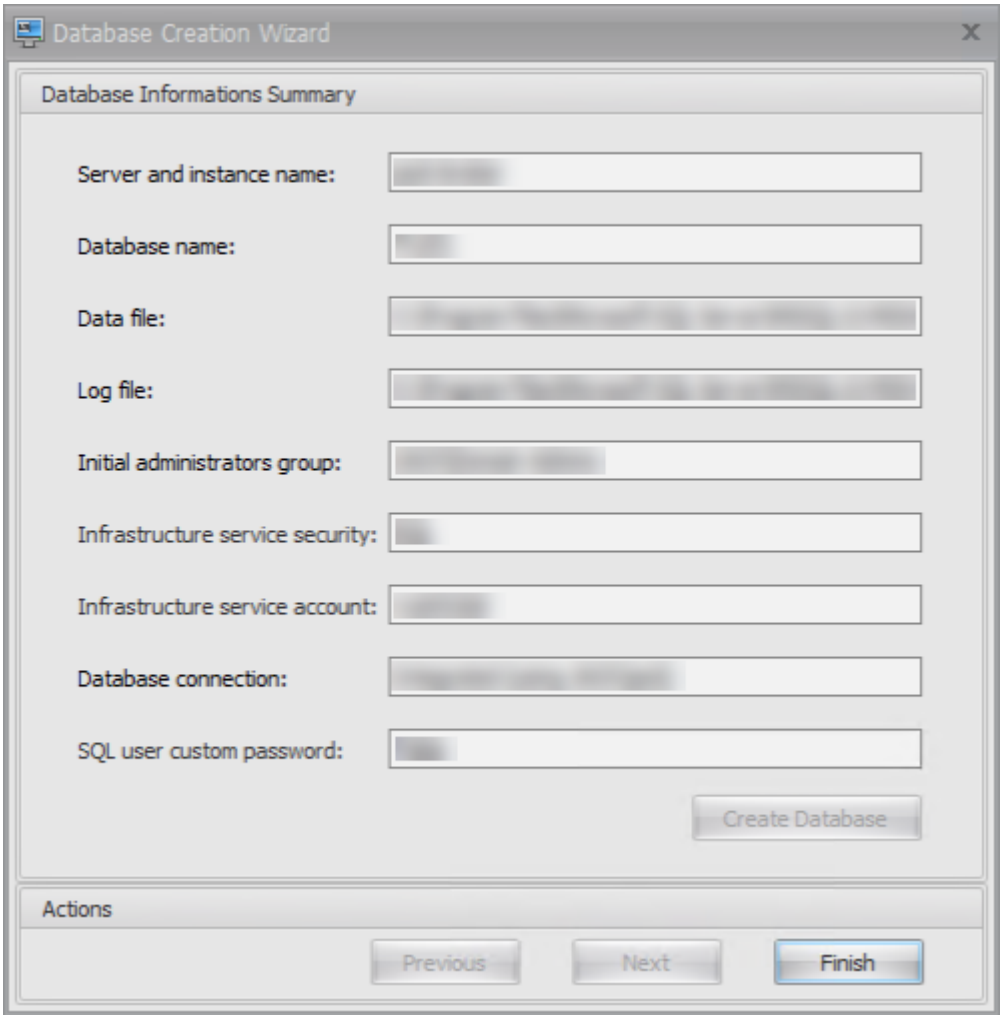


11. [**OK**] をクリックします。



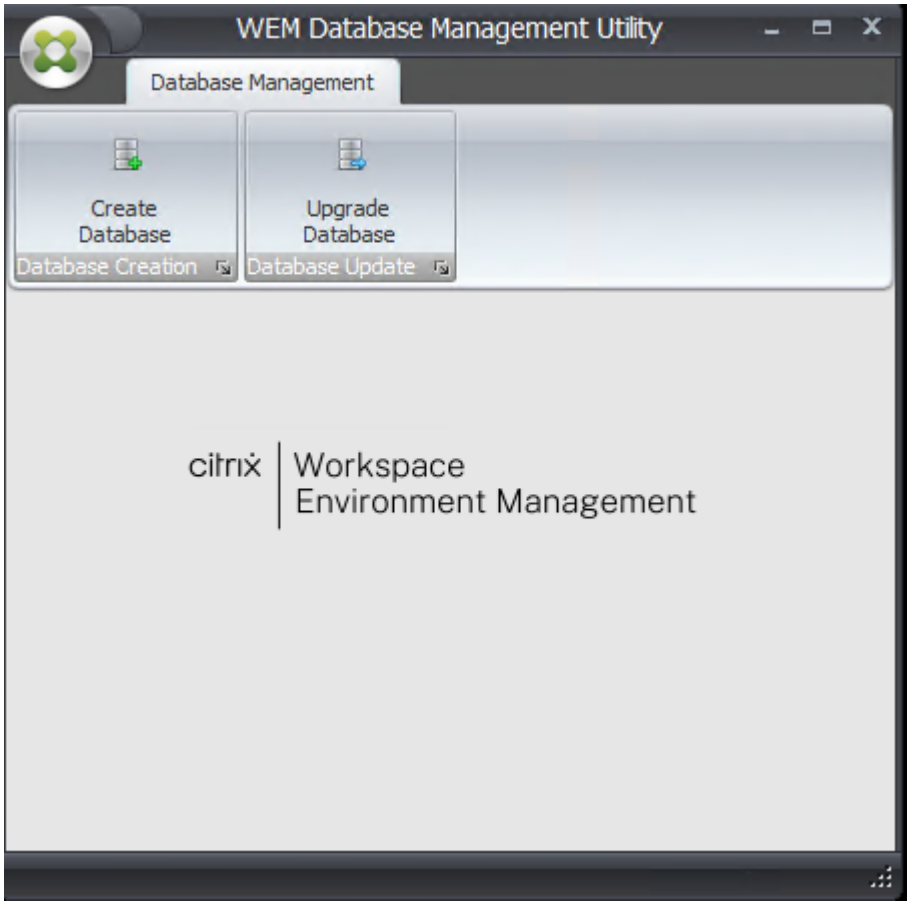
12. [データベース情報の概要] ページで、[完了] をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



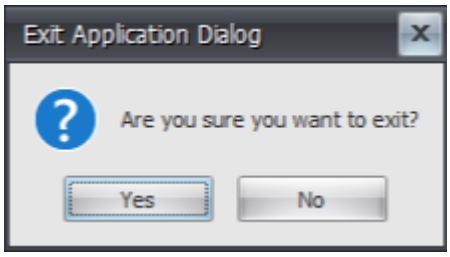
13. **WEM** データベース管理ユーティリティを閉じます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



14. [アプリケーションの終了] ダイアログで、[はい] をクリックします。

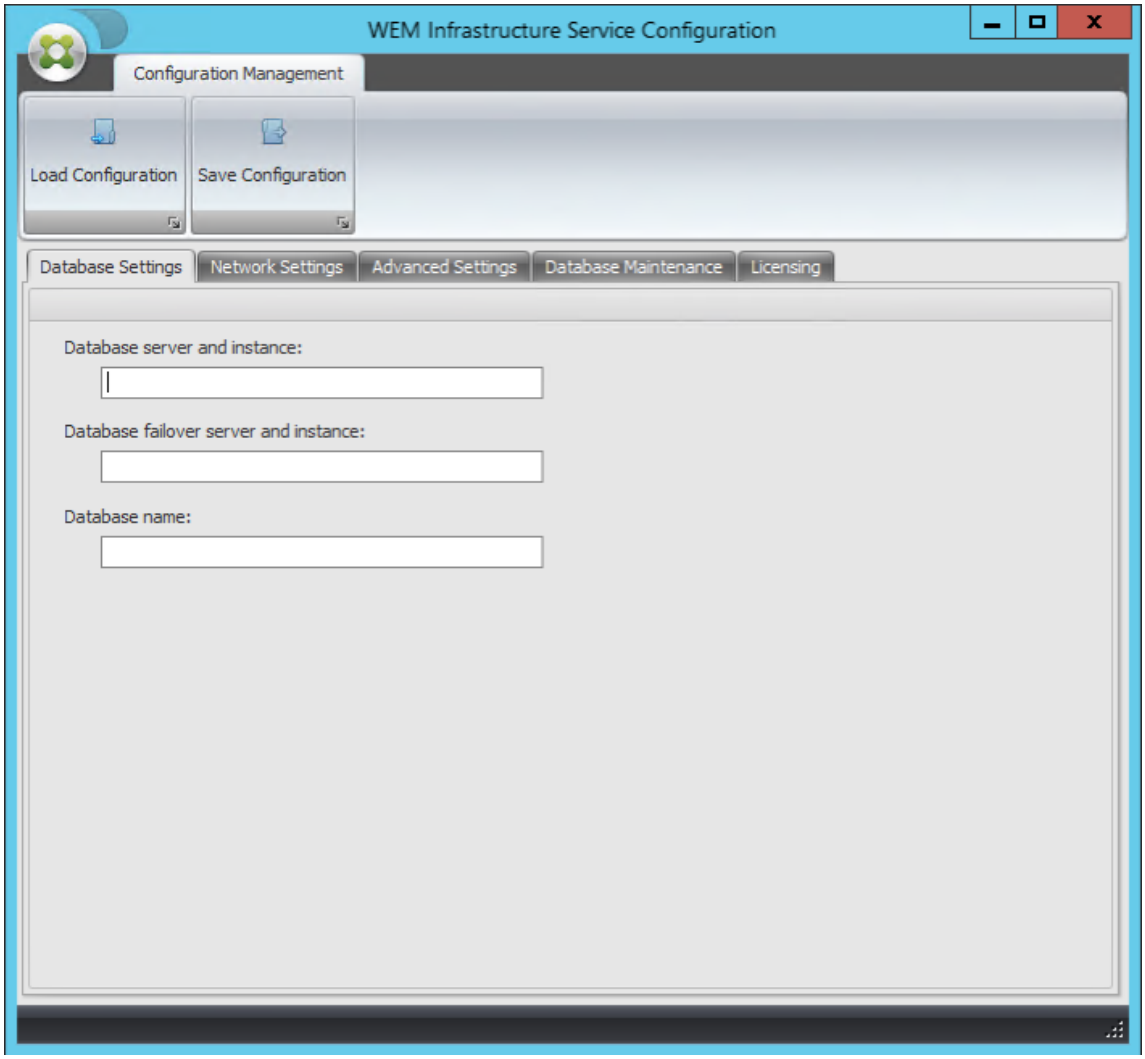
> 注:
>
> データベースの作成中にエラーが発生した場合は、インフラストラクチャサービスのインストールフォルダにあるログファイル「Citrix WEM Database Management Utility Debug Log.log」で詳細を確認してください。



手順 **3:** インフラストラクチャサービスを構成する

1. [スタート] メニューから **WEM** インフラストラクチャサービス設定ユーティリティを開きます。
2. [データベース設定] タブで、必要な情報を入力します。

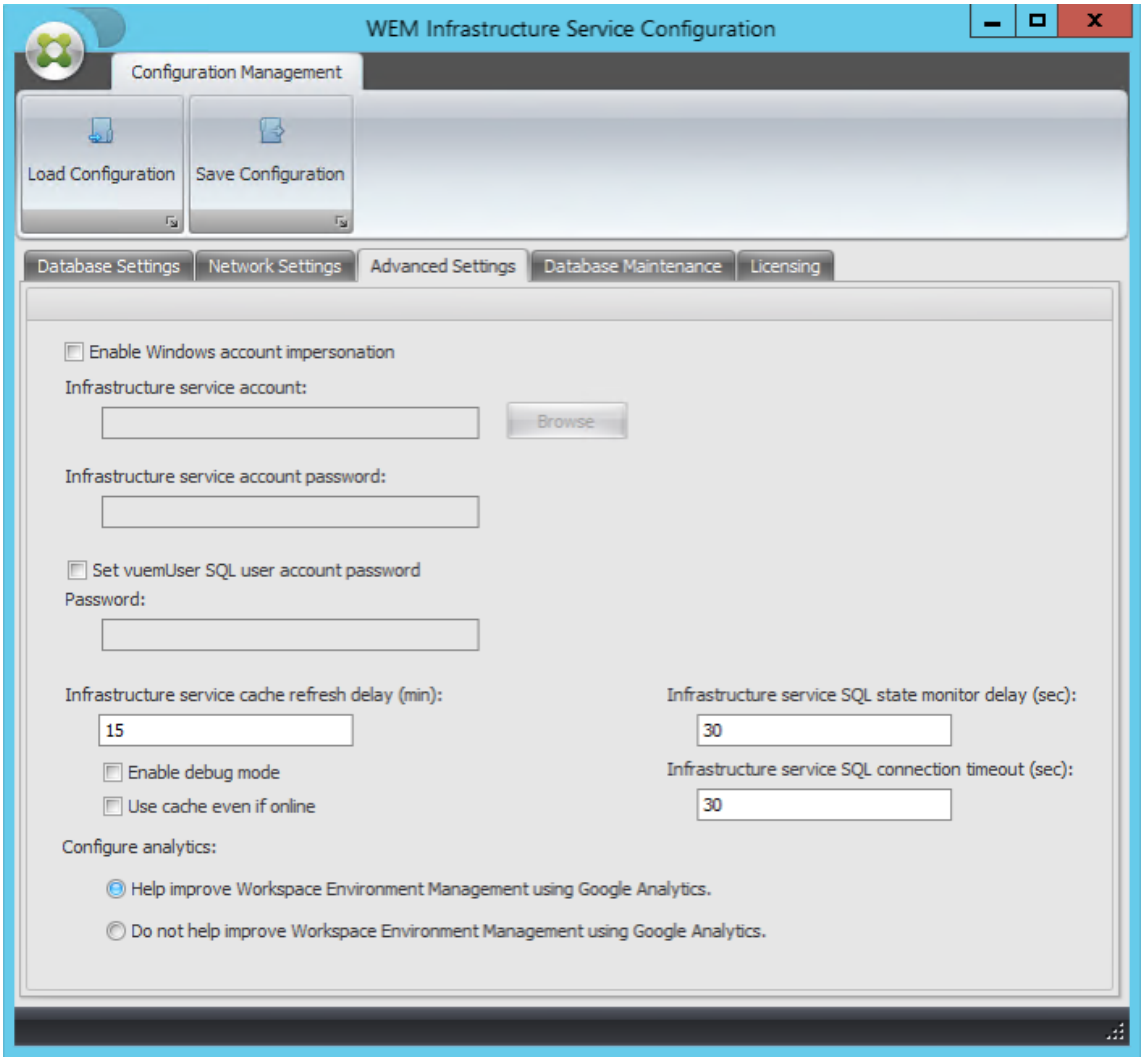
© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



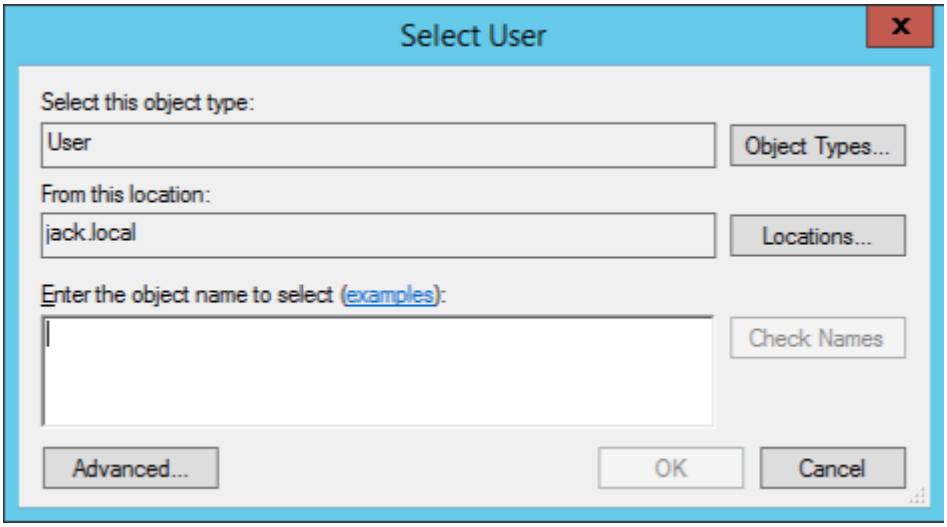
3. [詳細設定] タブで、[**Windows** アカウントの偽装を有効にする] を選択し、[参照] をクリックします。

> 注:
>
> 手順 2 で WEM データベースの作成時に行った選択に応じて、[**Windows** アカウントの偽装を有効にする] または [**VueMuser SQL** ユーザアカウントのパスワードの設定] を選択します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

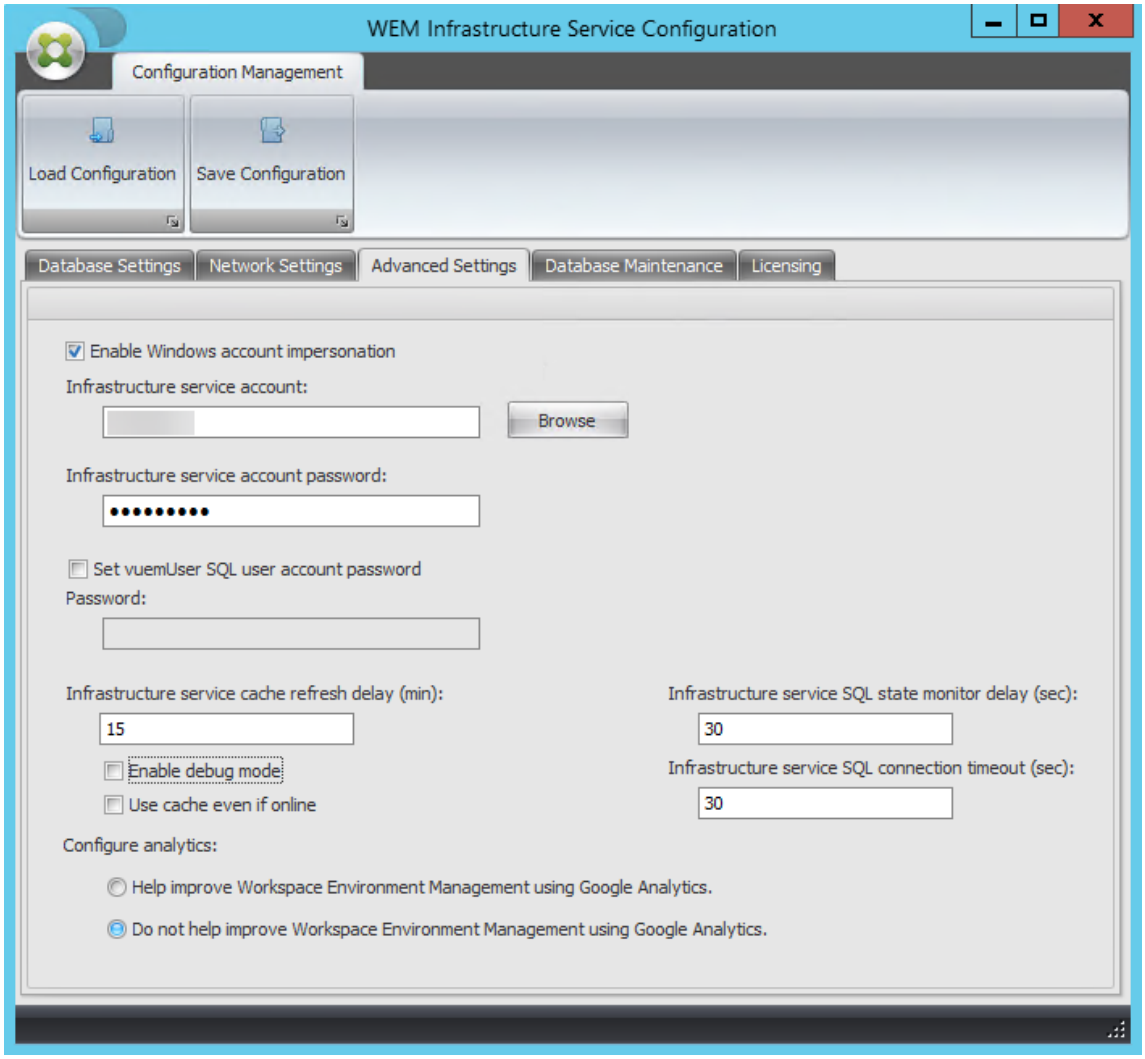


4. ユーザー名を入力し、「名前の確認」をクリックし、「**OK**」をクリックします。



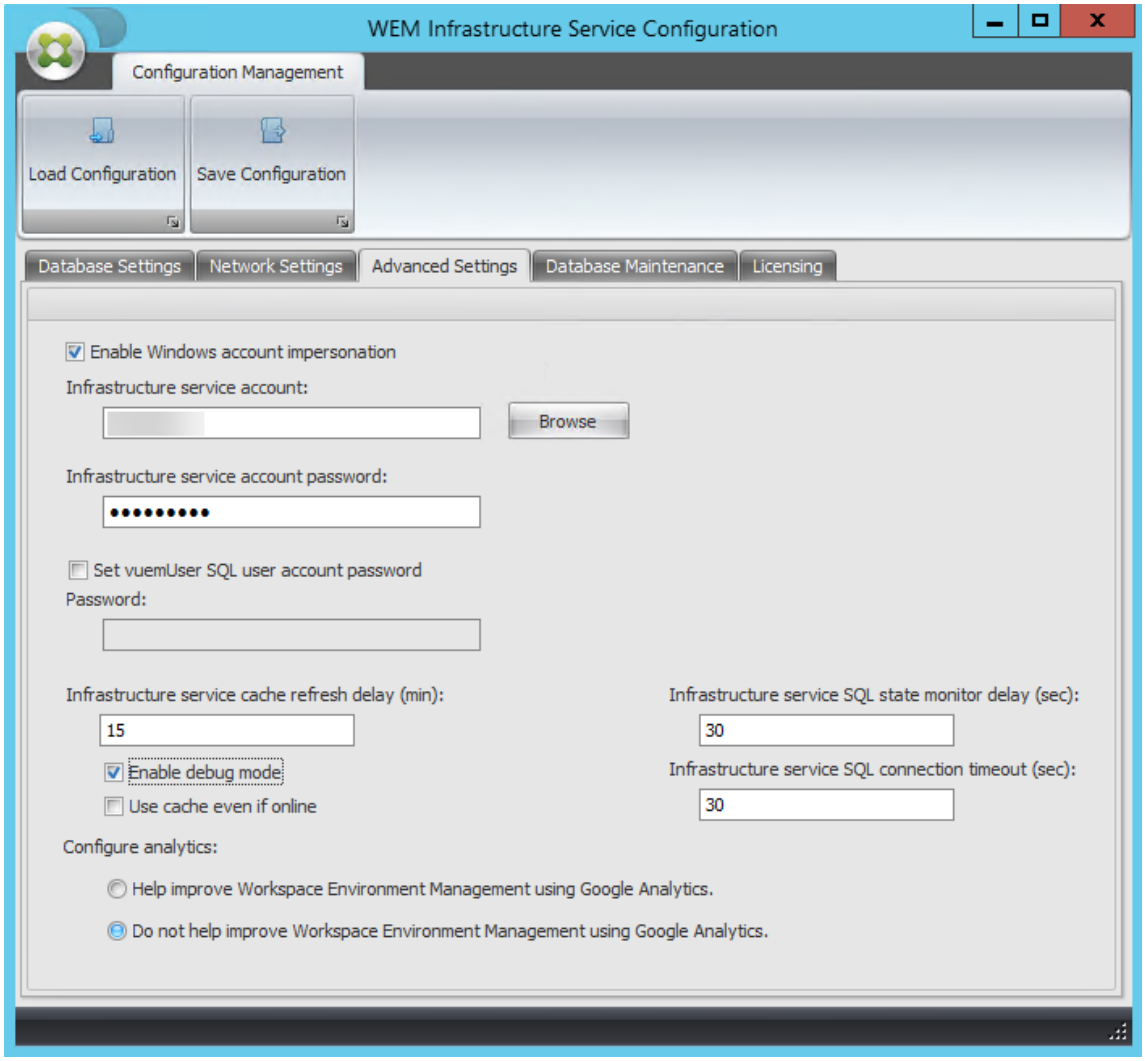
5. インフラストラクチャサービスアカウントのパスワードを入力します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



6. [デバッグモードを有効にする] を選択します。

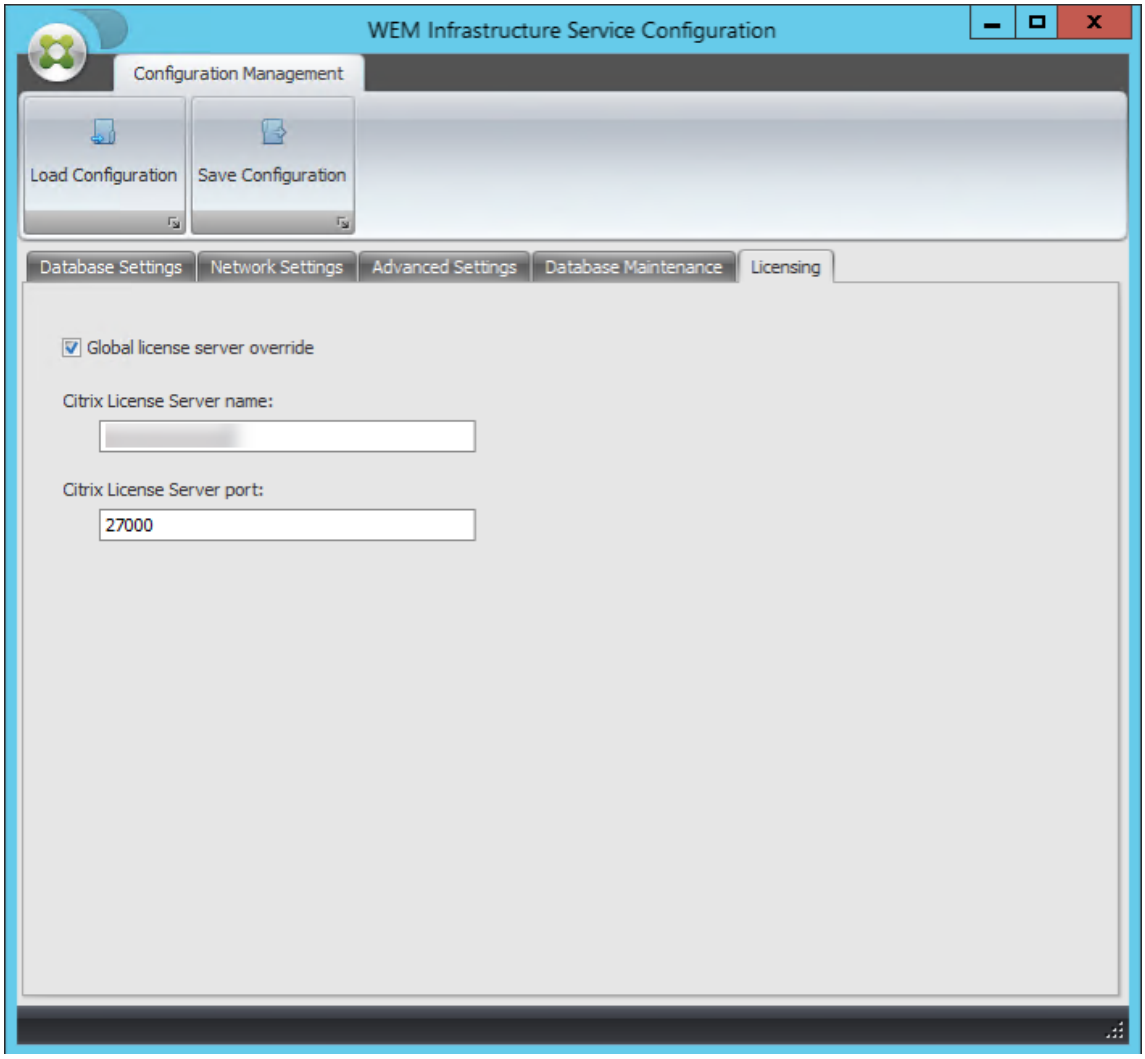
© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



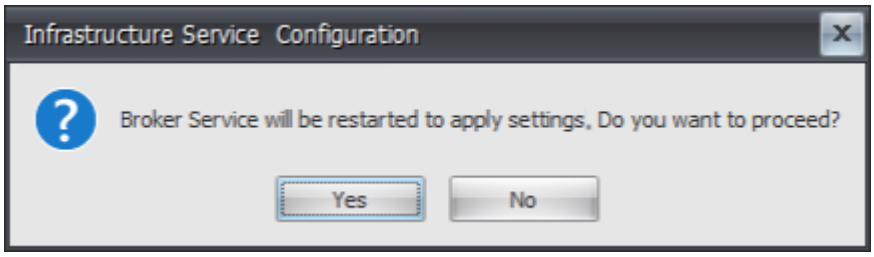
7. [ライセンス] タブで、[グローバルライセンスサーバーのオーバーライド] を選択し、ライセンス情報を入力し、[構成の保存] をクリックします。

> 注:
>
> - [Citrix ライセンスサーバー名] に、ライセンスサーバーのマシン名、完全修飾ドメイン名、または IP アドレスを入力します。
> - Citrix ライセンスサーバーのポートの場合、デフォルトのポートは 27000 です。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



8. ［はい］をクリックします。

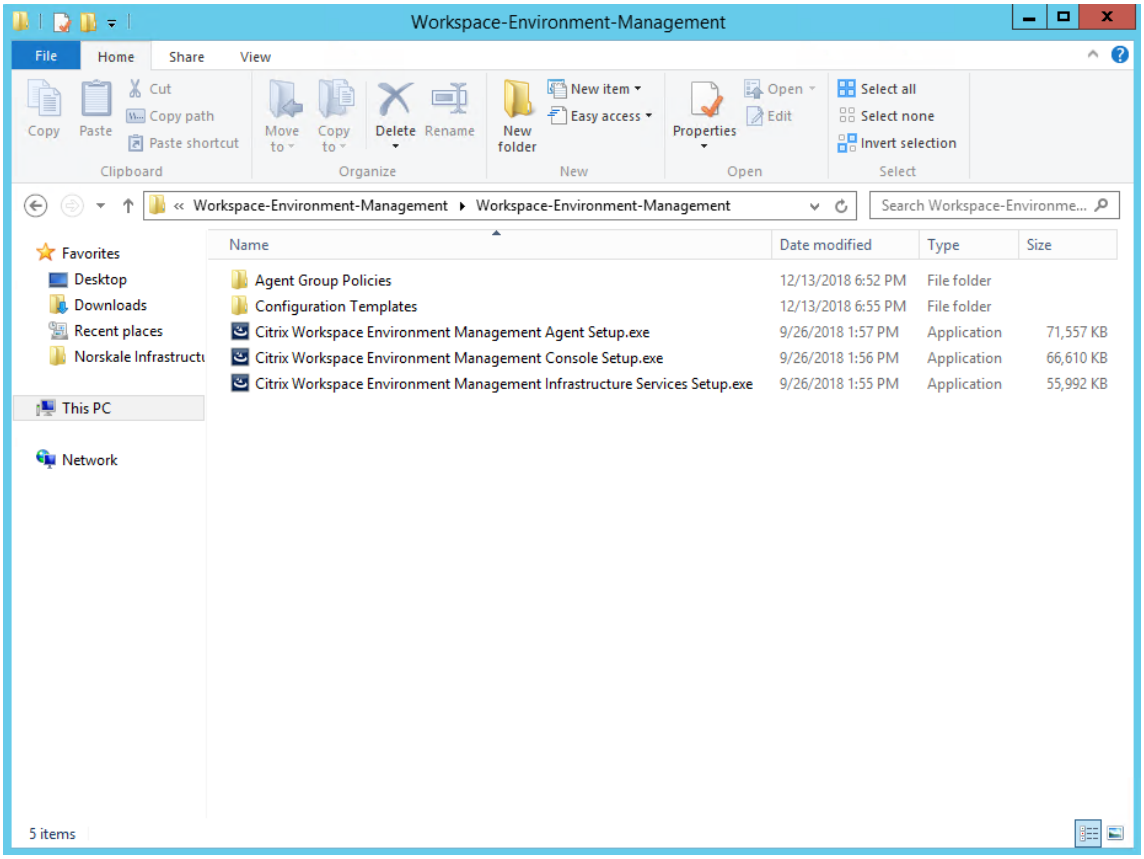


9. **WEM** インフラストラクチャサービス構成ユーティリティを閉じます。

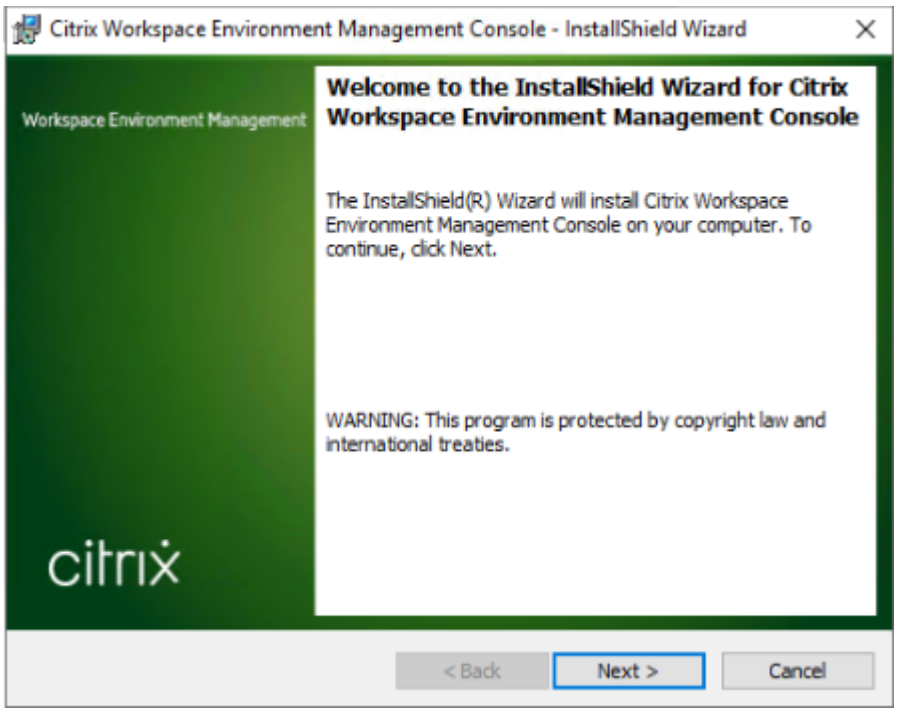
手順 **4:** 管理コンソールをインストールする

1. **Citrix Workspace Environment Management Console.exe** を実行します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

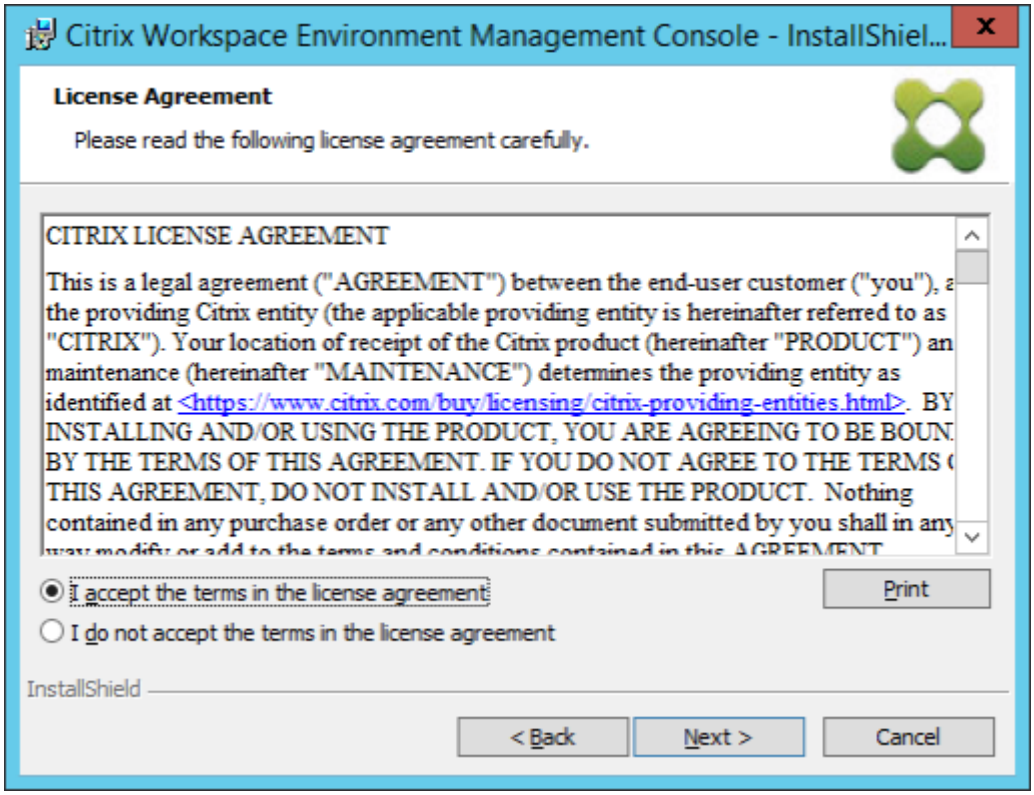


2. [ようこそ] ページで、[次へ] をクリックします。

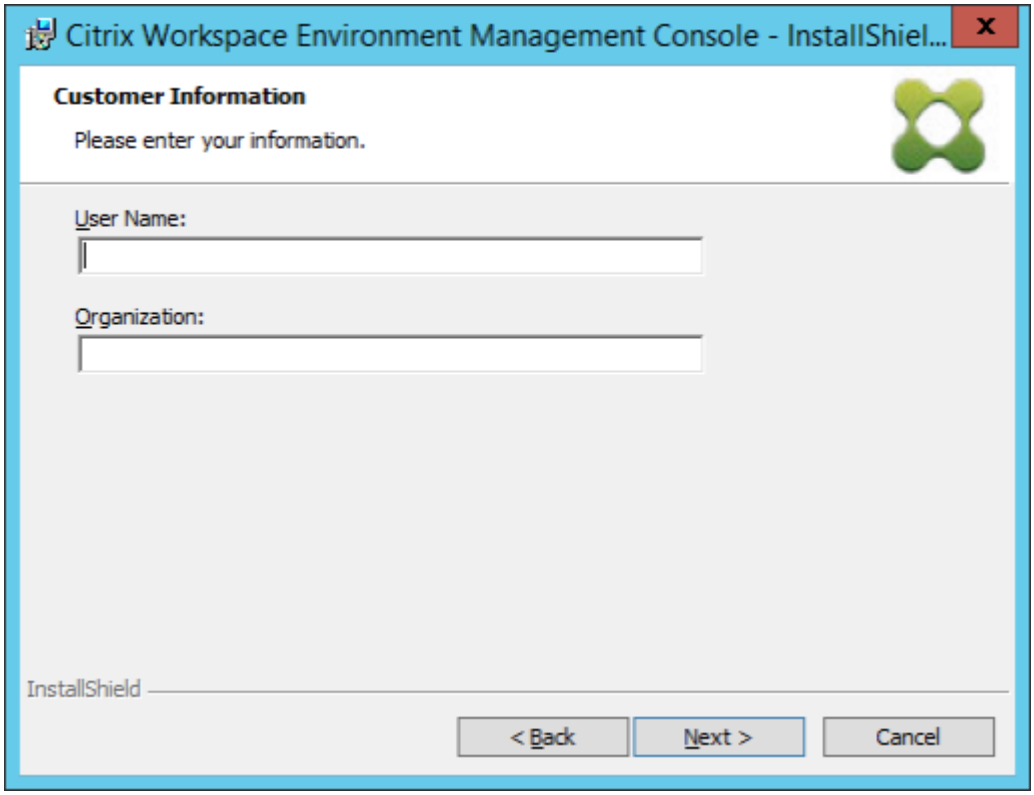


3. [使用許諾契約] ページで、[使用許諾契約書の条項に同意します] を選択し、[次へ] をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

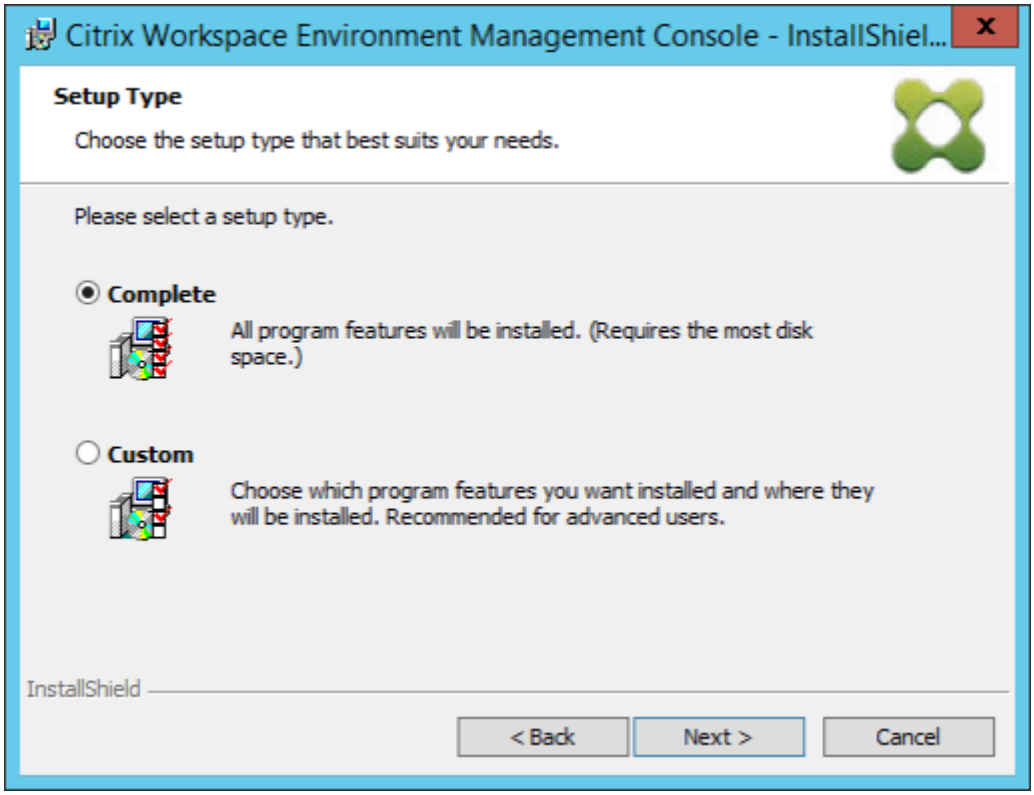


4. [顧客情報] ページで、必要な情報を入力し、[次へ] をクリックします。

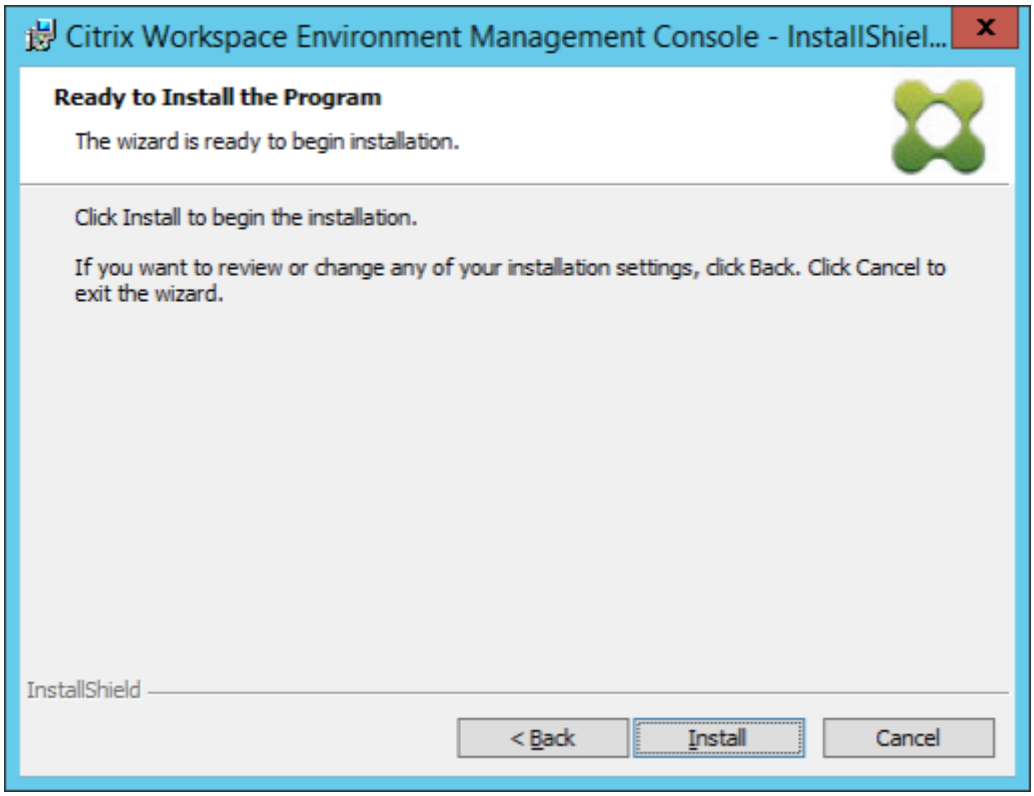


5. [セットアップの種類] ページで、[完了] を選択し、[次へ] をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

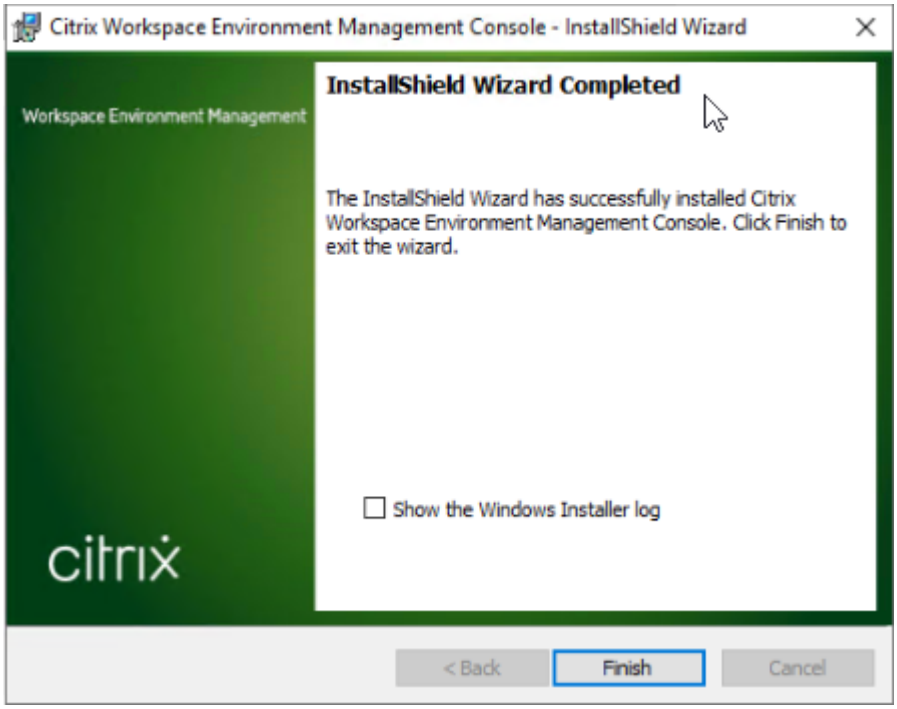


6. [プログラムのインストールの準備完了] ページで、[インストール] をクリックします。



7. ウィザードを終了するには、［完了］をクリックします。

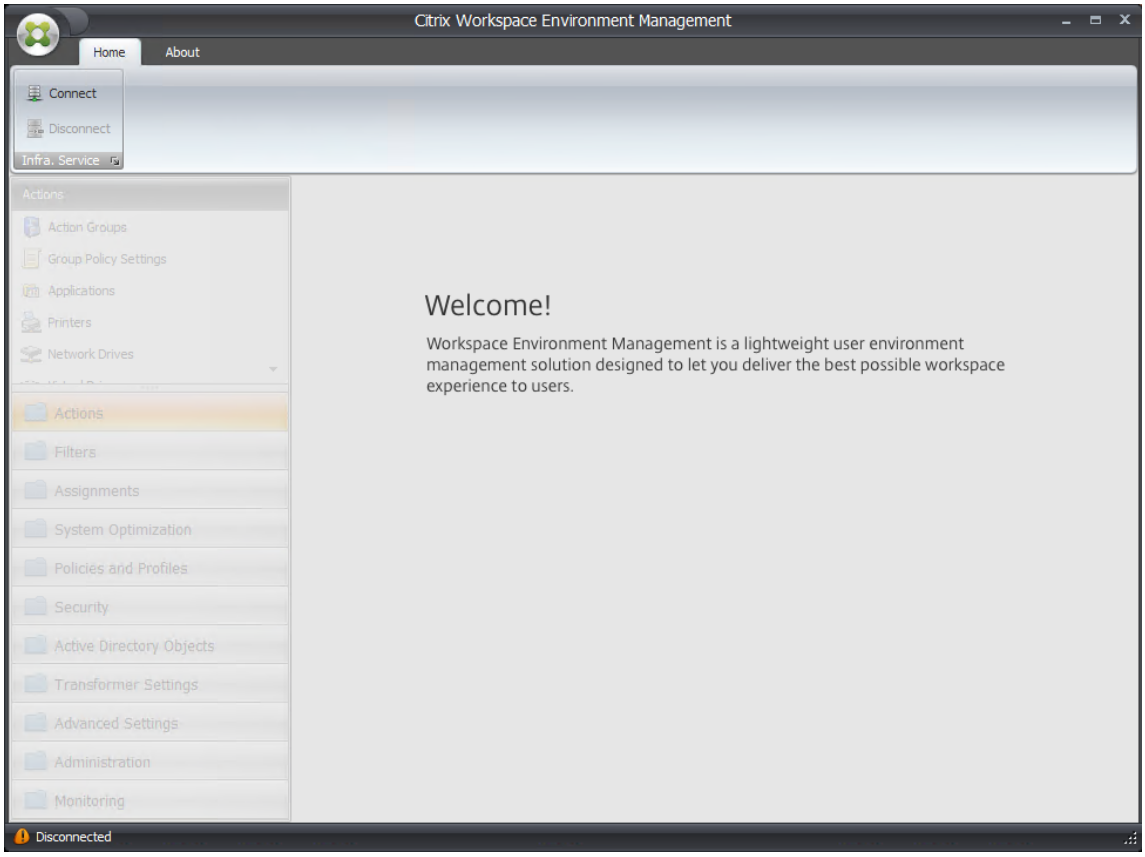
© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



手順 **5:** 構成セットを構成する

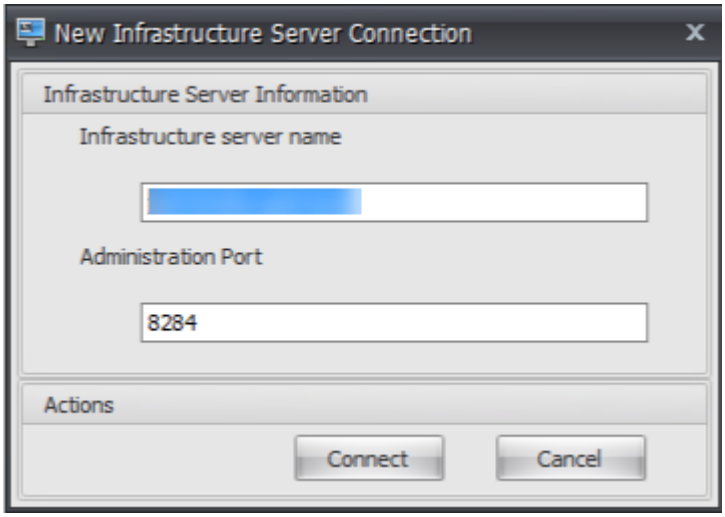
1. [スタート] メニューから **WEM** 管理コンソールを開き、[接続] をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



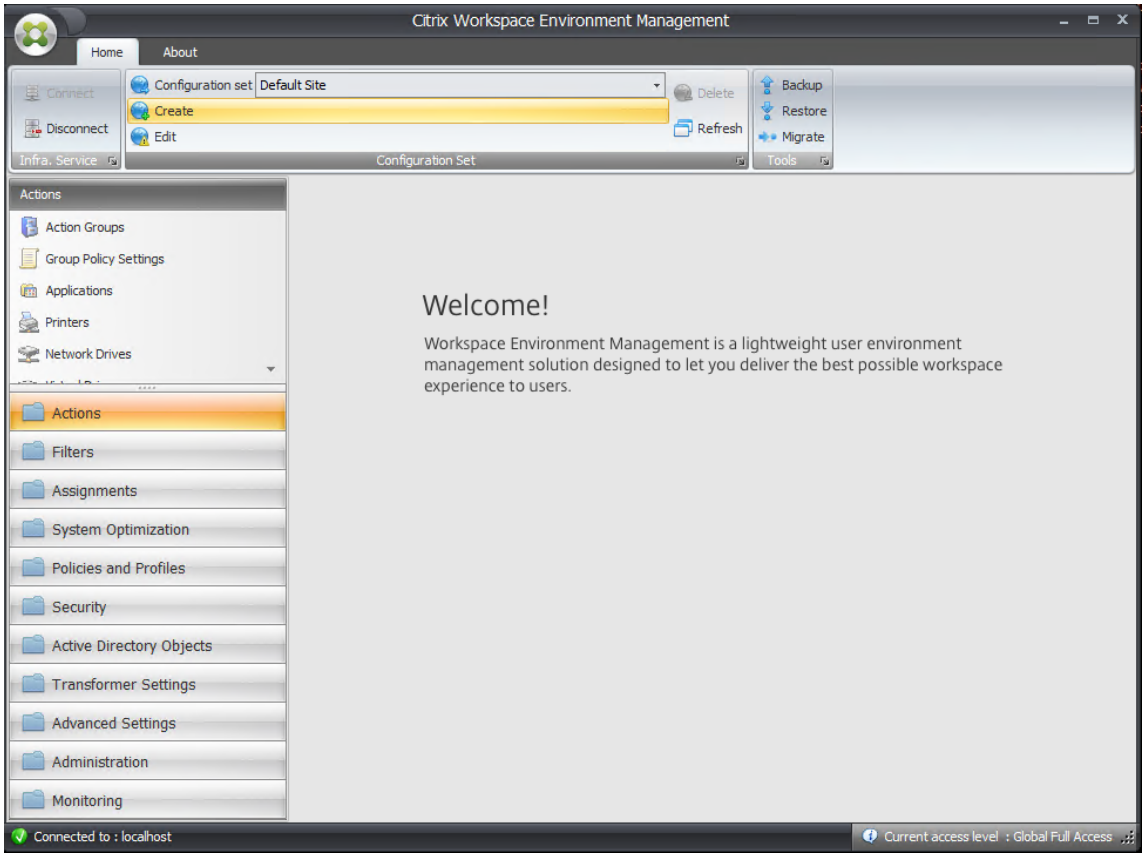
2. 「新規インフラストラクチャサーバ接続」ウィンドウで、情報を確認し、「接続」をクリックします。

> 注:
>
> - [インフラストラクチャサーバー名] に、WEM インフラストラクチャサーバーのマシン名、完全修飾ドメイン名、または IP アドレスを入力します。
> - 管理ポートの場合、デフォルトのポートは 8284 です。

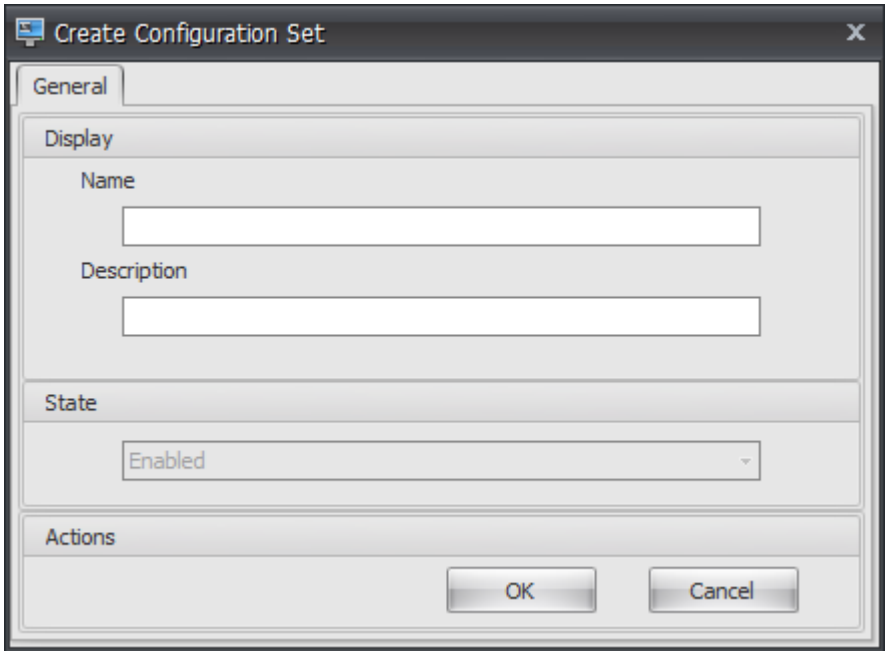


3. [ホーム] タブのリボンで、[作成] をクリックして構成セットを作成します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

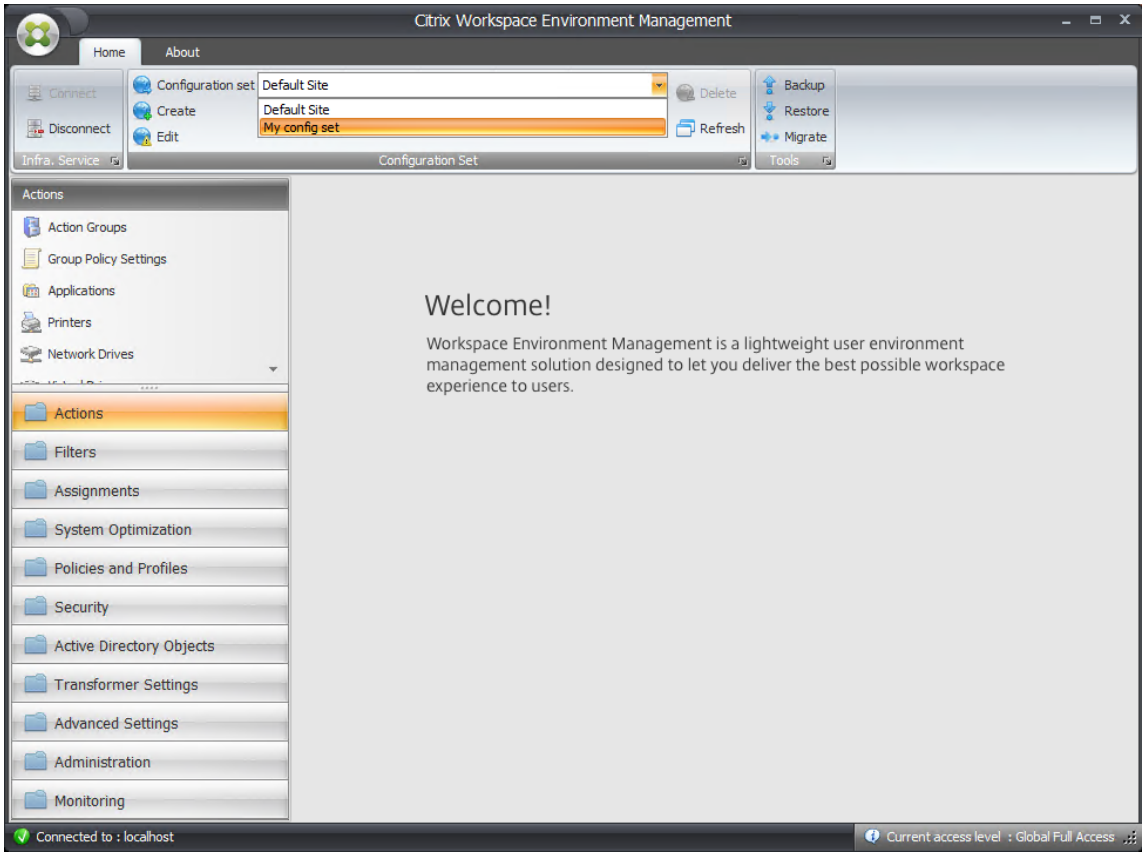


4.「構成セットの作成」ウィンドウで、構成セットの名前と説明を入力し、「**OK**」をクリックします。



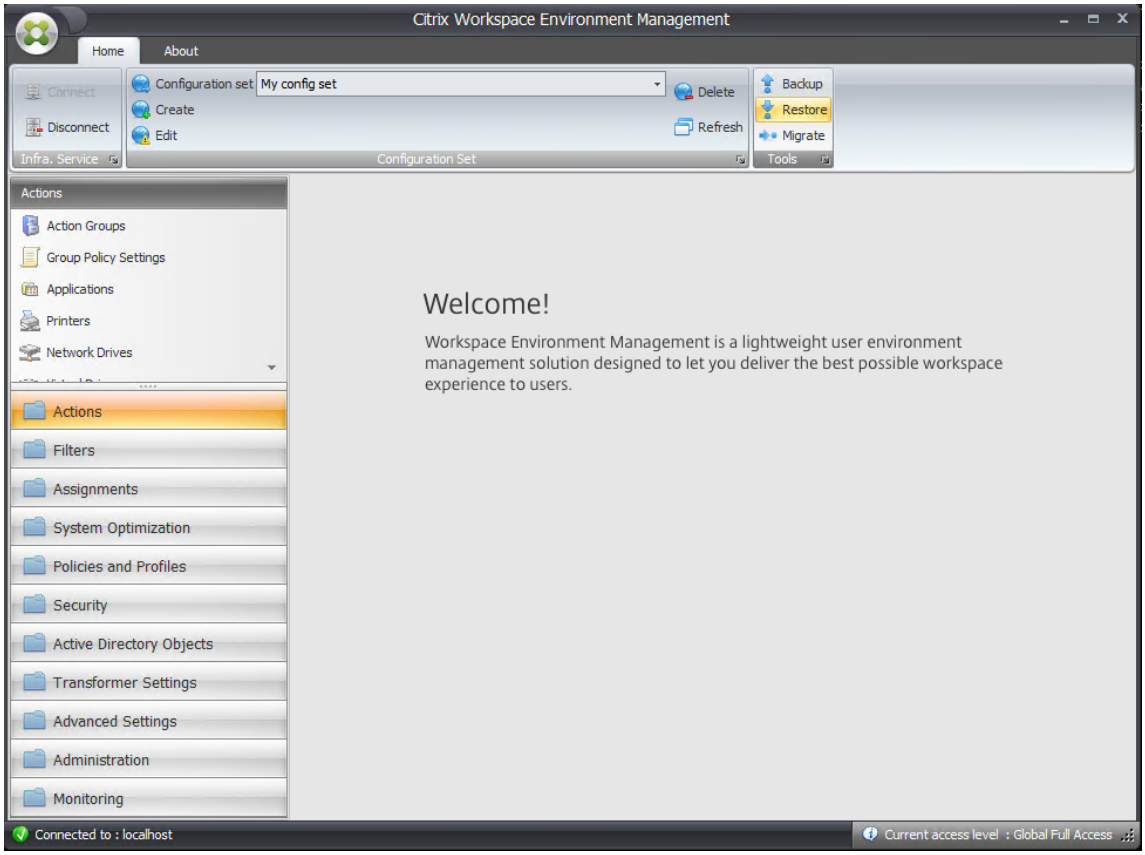
5. リボンの [構成セット] で、新しく作成した構成セットを選択します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



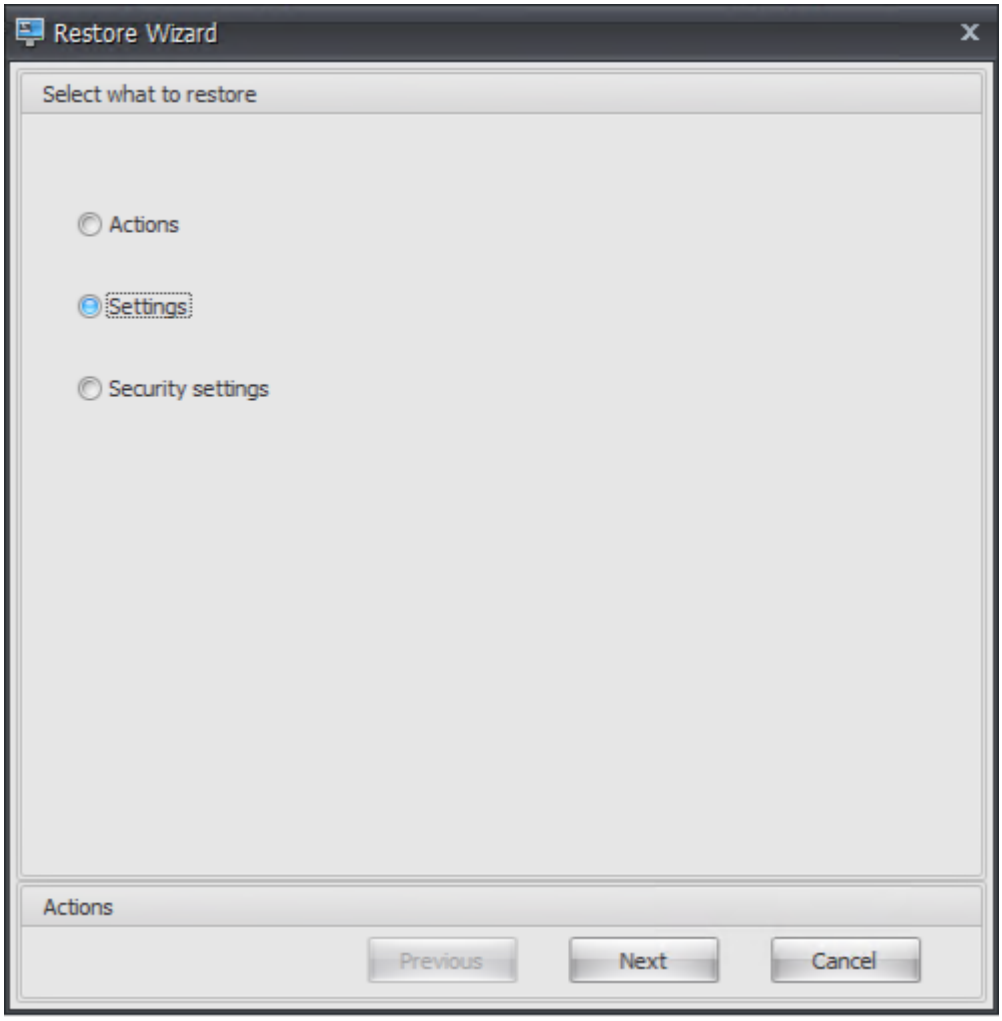
6. リボンの [バックアップ] で、[復元] をクリックします。リストアウィザードが表示されます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



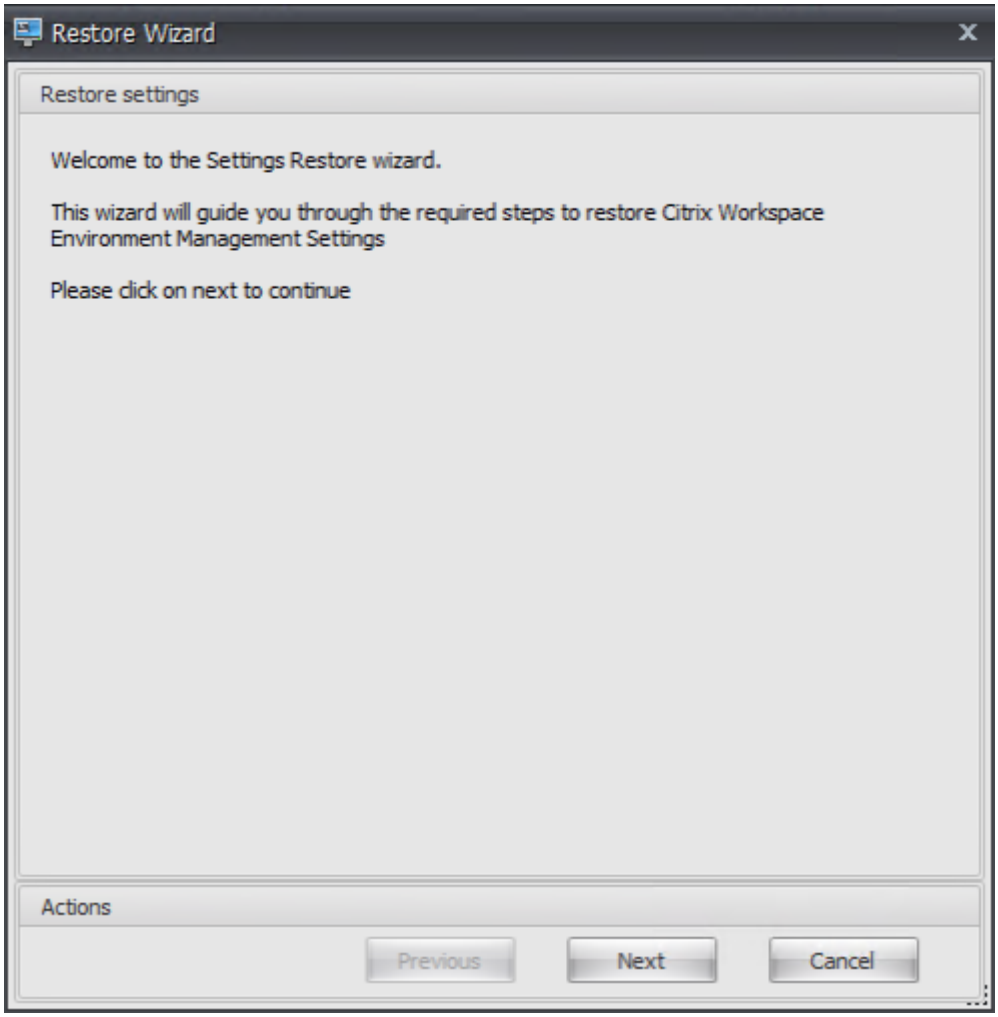
7. [復元する対象を選択] ページで [設定] を選択し、[次へ] をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



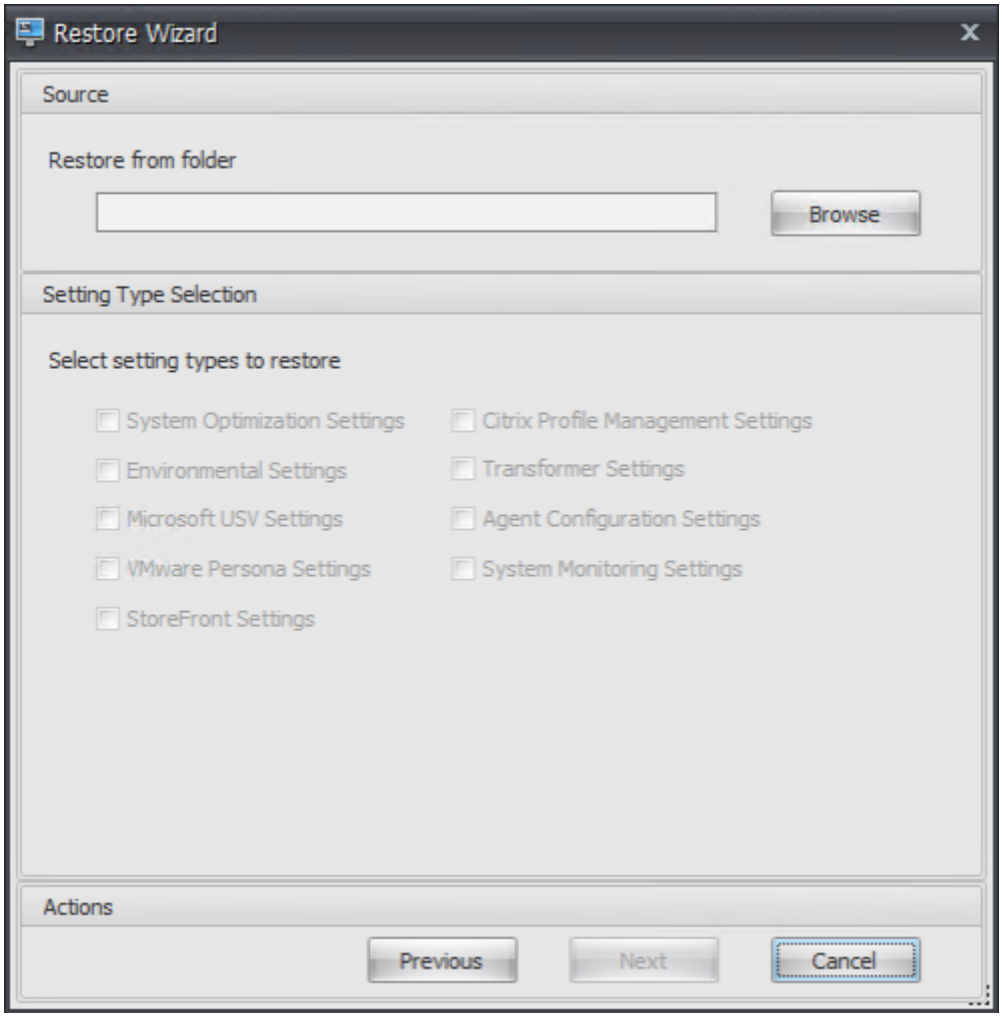
8. [設定を復元] ページで、[次へ] をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



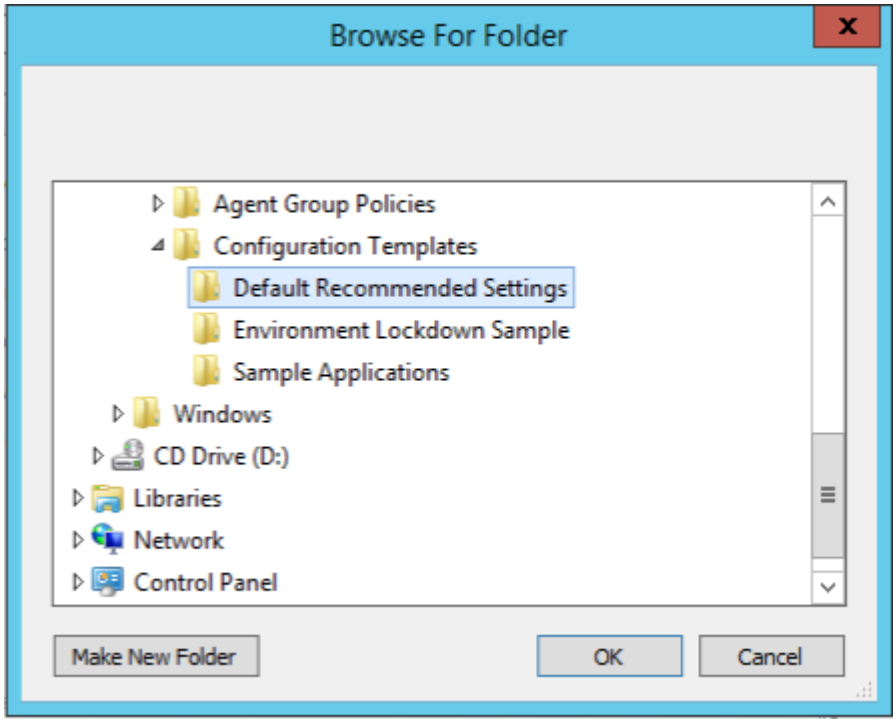
9. [ソース] ページで、[参照] をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



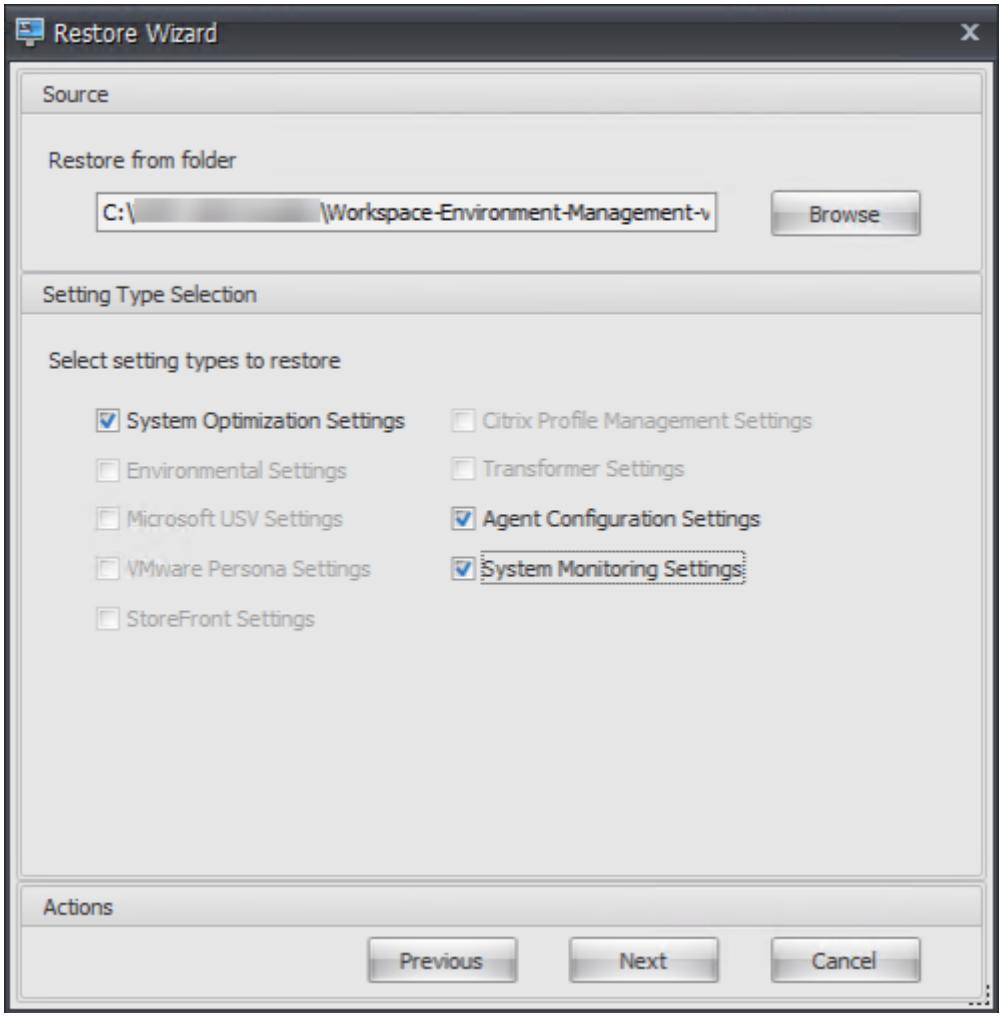
10. 「フォルダの参照」ウィンドウで、「デフォルトの推奨設定」フォルダ (Workspace Environment Management に用意されている) を参照し、「**OK**」をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



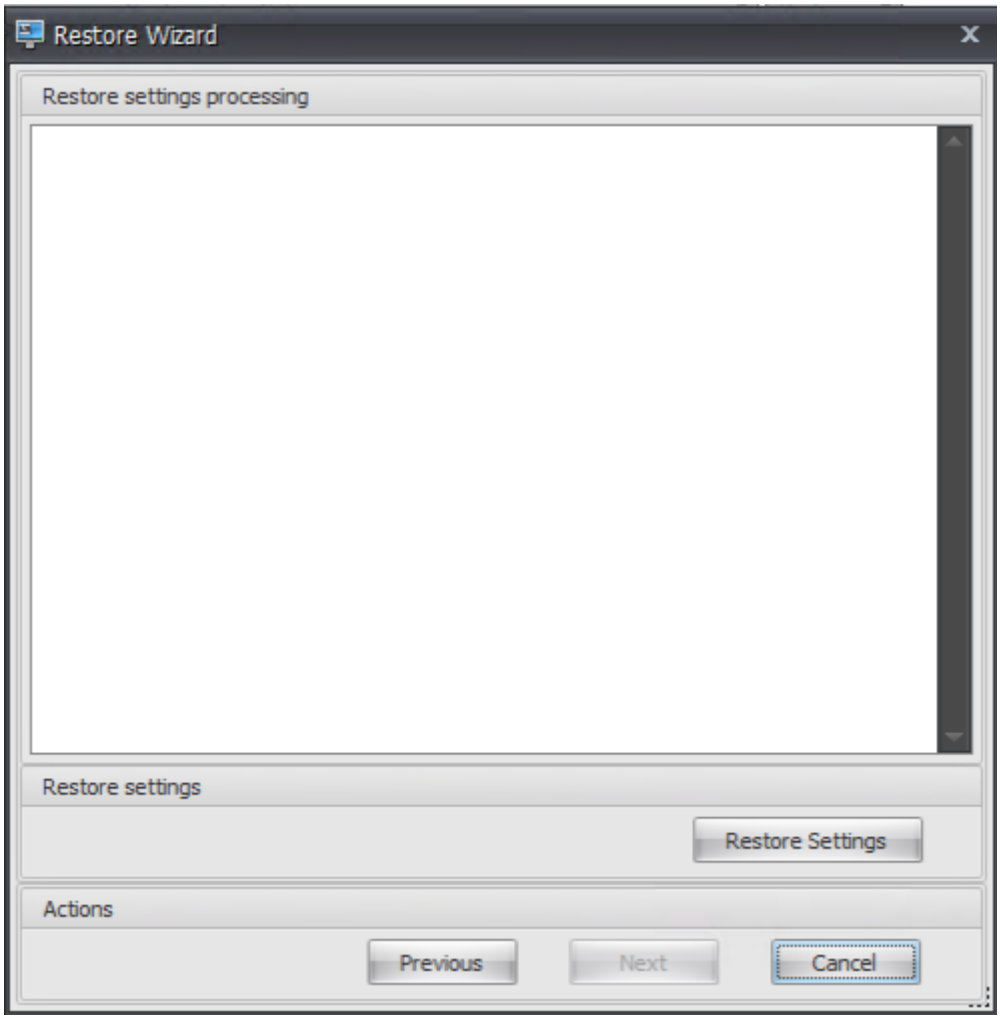
11. 「ソース」ページで、「システム最適化設定」、「エージェント構成設定」、「システム監視設定」を選択し、「次へ」をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

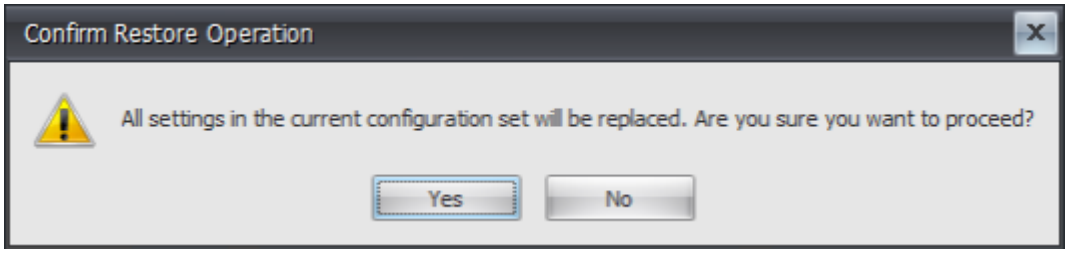


12. [設定の復元処理] ページの [設定の復元] で、[設定の復元] をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

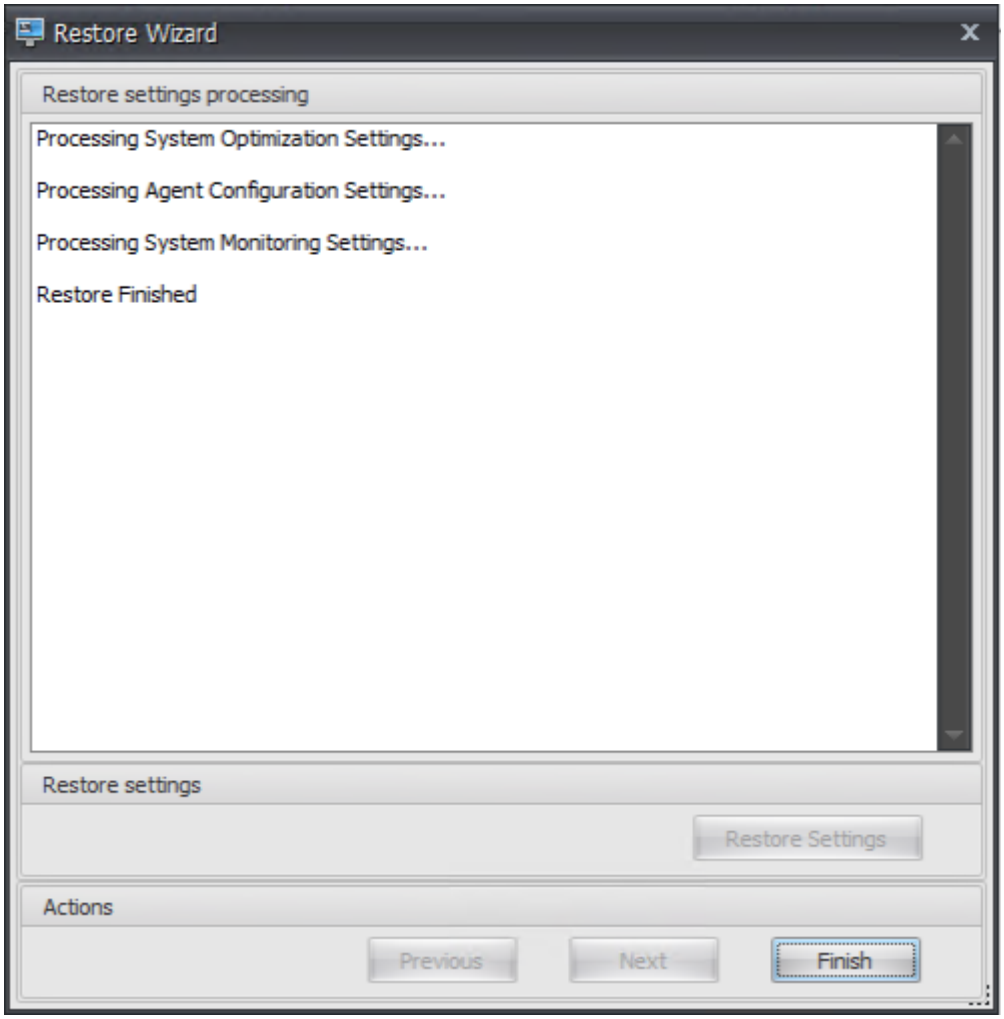


13. ［はい］をクリックします。



14. ［完了］をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



ステップ **6:** グループポリシーテンプレートを追加する **(**オプション**)**

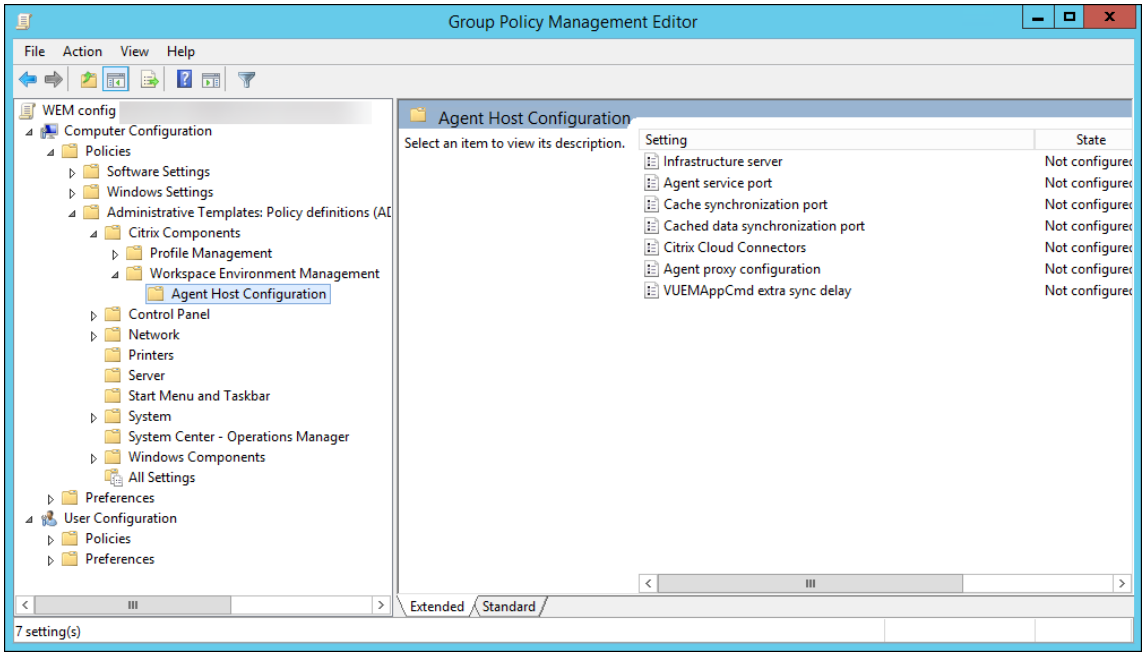
オプションで、グループポリシーの設定を選択できます。WEM エージェントパッケージで提供されるエージェントグループポリシー管理用テンプレートは、エージェントホスト構成ポリシーを追加します。

1. WEM インストールパッケージに付属する **Agent Group Policies** フォルダを WEM ドメインコントローラにコピーします。
2. .admx ファイルを追加します。
   a) AA エージェントの **[**グループポリシー**] > [ADMX**] フォルダに移動します。
   b) 2 つのファイル（*Citrix*Workspace Environment Management エージェントホスト構成.admx と CitrixBase.admx**）をコピーします。
   c) <`C:\Windows`>\`PolicyDefinitions`フォルダに移動して、ファイルを貼り付けます。
3. .adml ファイルを追加します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

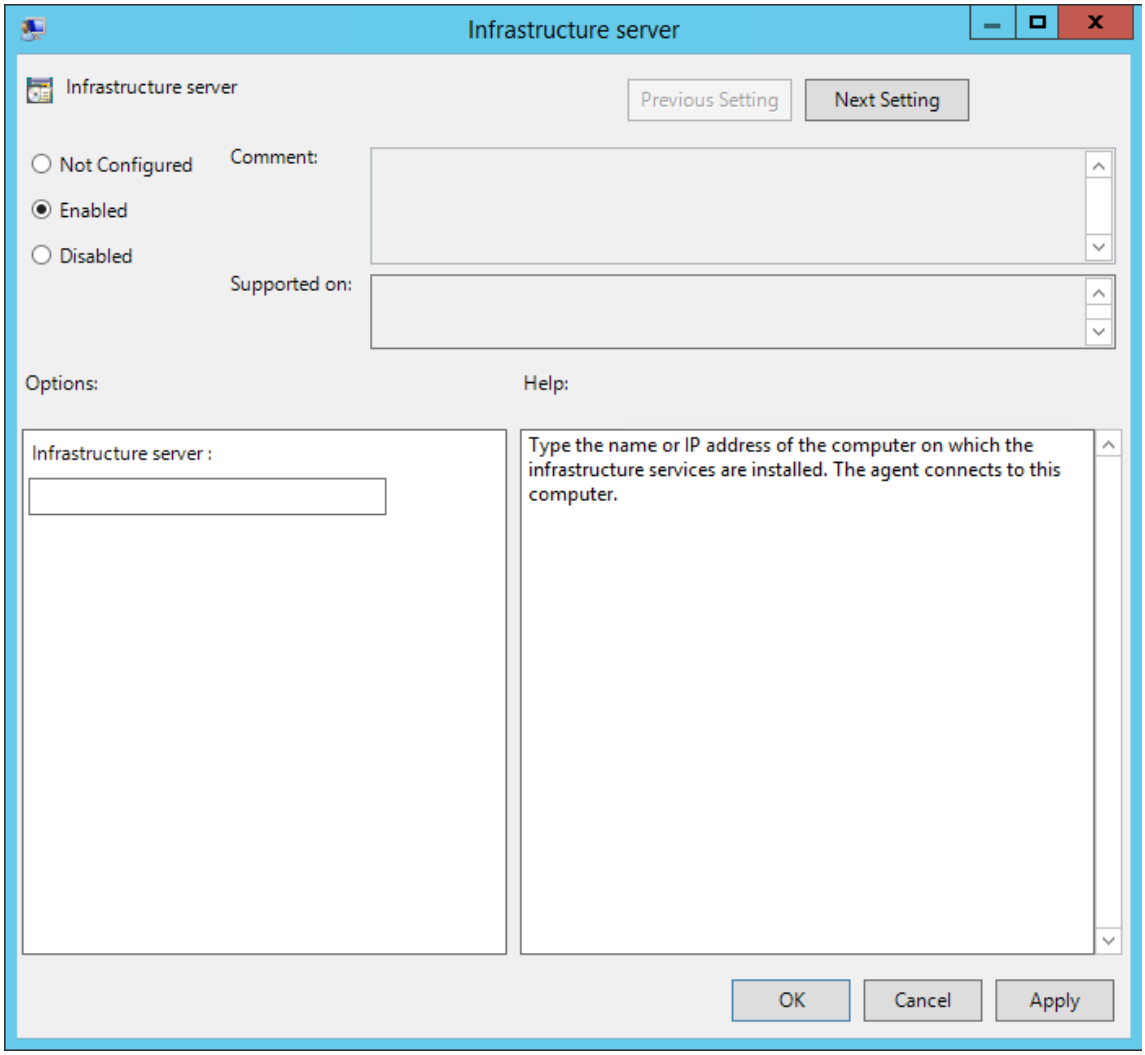
a) [エージェントグループポリシー] **> [ADMX] > [en-US]** フォルダに移動します。
b) 2 つのファイル（*Citrix*Workspace Environment Management エージェントホスト構成.adml と CitrixBase.adml**）をコピーします。
c) <`C:\Windows`>`\PolicyDefinitions\en-US`フォルダに移動して、ファイルを貼り付けます。

4. [グループポリシー管理エディタ] ウィンドウで、[コンピュータの構成] **> [**ポリシー**] > [**管理用テンプレート**] > [Citrix** コンポーネント**] > [Workspace Environment Management] > [**エージェントホスト構成] の順に選択し、[インフラストラクチャサーバー] をダブルクリックします。



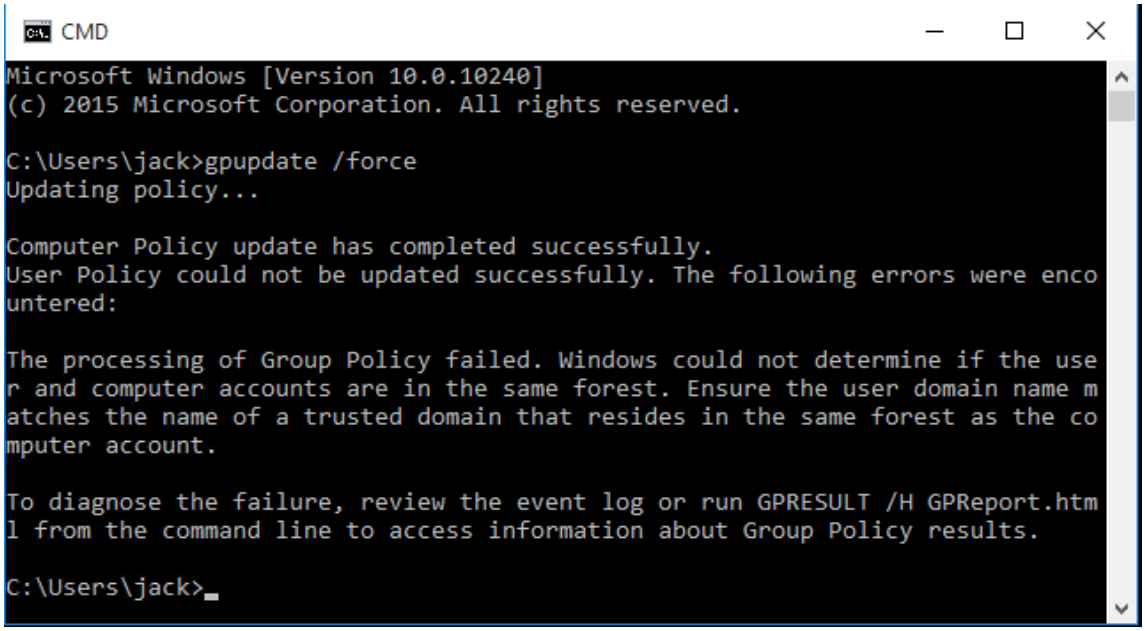
5. [インフラストラクチャサーバー] ウィンドウで、[有効] を選択し、[オプション] にインフラストラクチャサービスがインストールされているコンピューターの IP アドレスを入力し、[適用] と [**OK**] をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



6. エージェントホストに移動し、コマンドラインを開き、`gpupdate /force`と入力します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

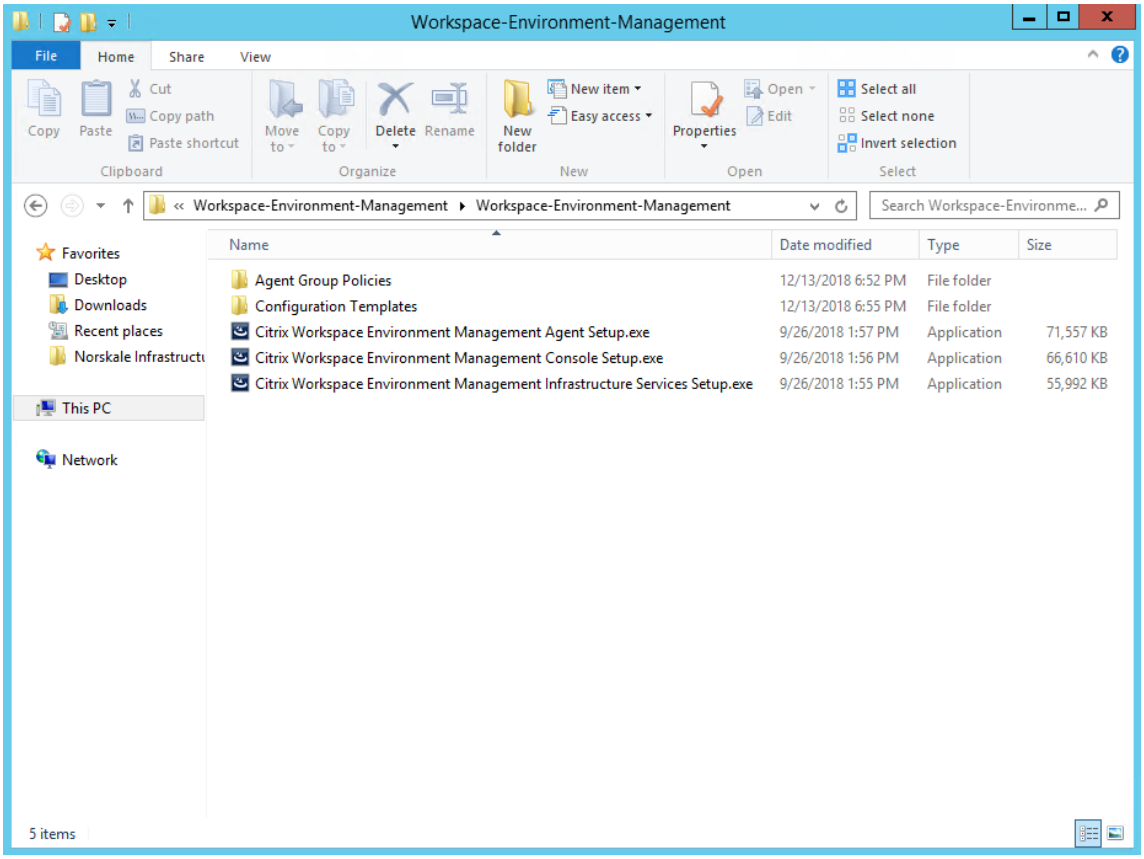


手順 **7:** エージェントをインストールする

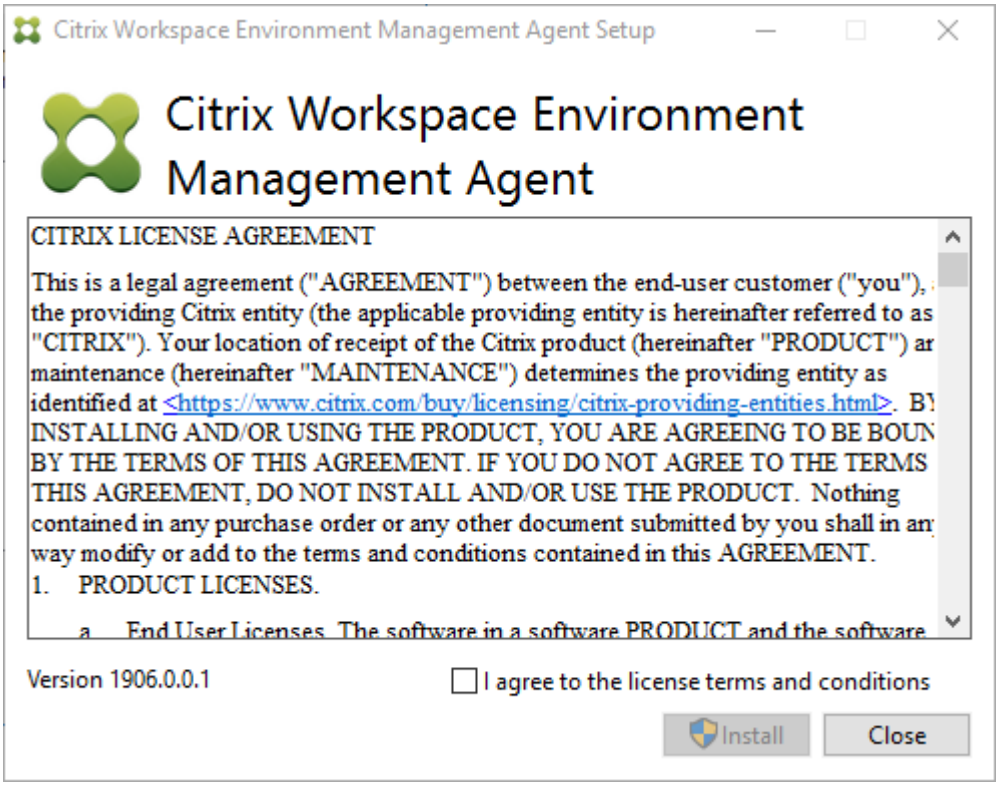
> 重要:
>
> インフラストラクチャサーバーに WEM エージェントをインストールしないでください。

1. マシンで **Citrix Workspace Environment Management Agent.exe** を実行します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

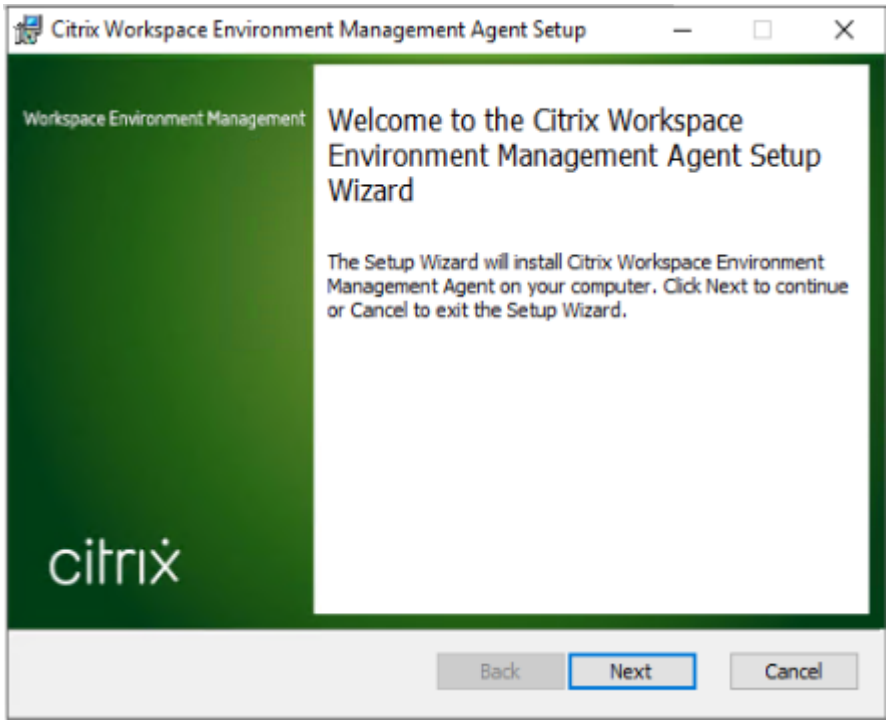


2. [ライセンス契約条件に同意する] を選択し、[インストール] をクリックします。

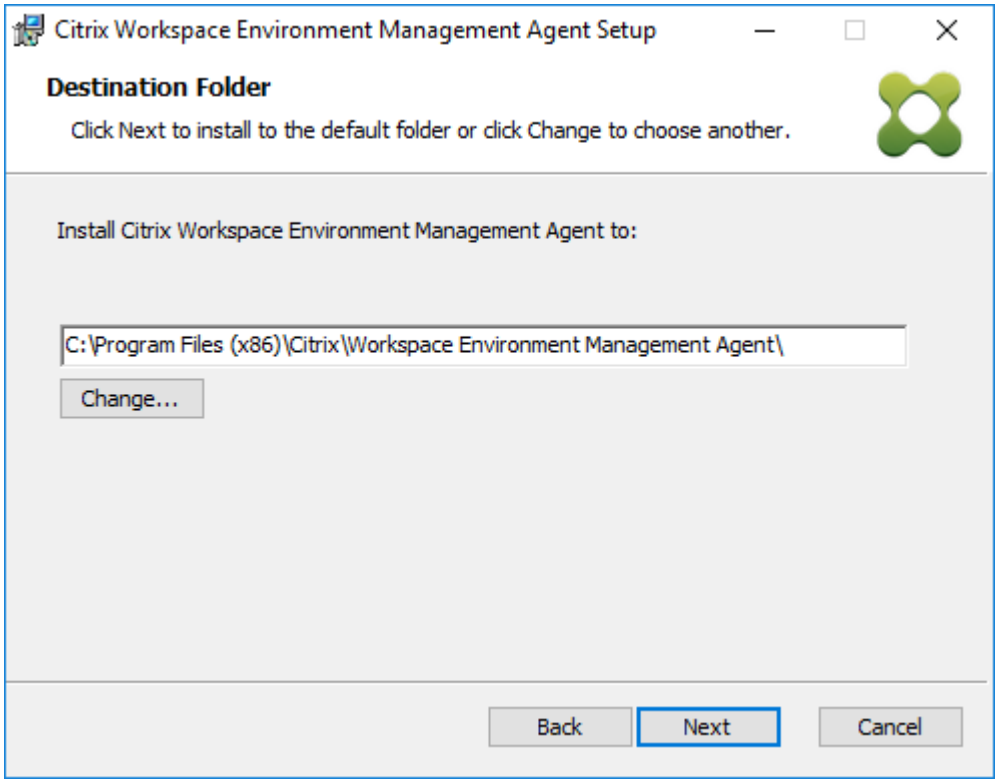


© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

3. [ようこそ] ページで、[次へ] をクリックします。

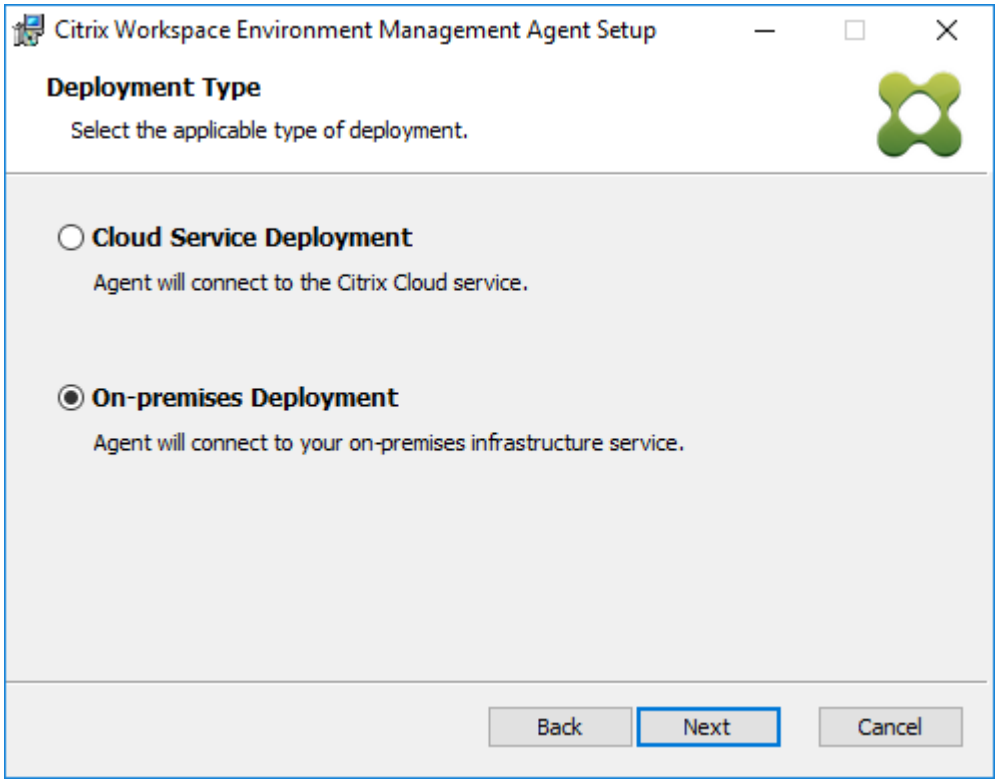


4. [インストール先フォルダー] ページで、**[次へ]** をクリックします。



5. [展開の種類] ページで、適切な展開の種類を選択し、**[次へ]** をクリックします。この場合は、**[オンプレミス展開]** を選択します。

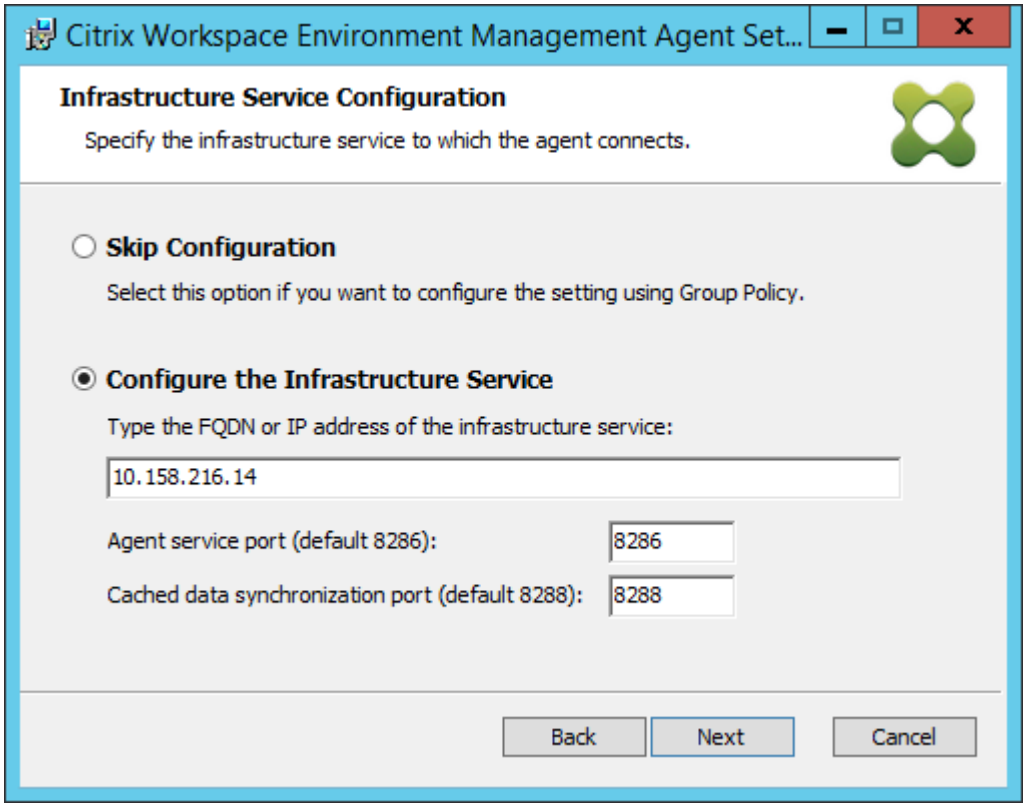
© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



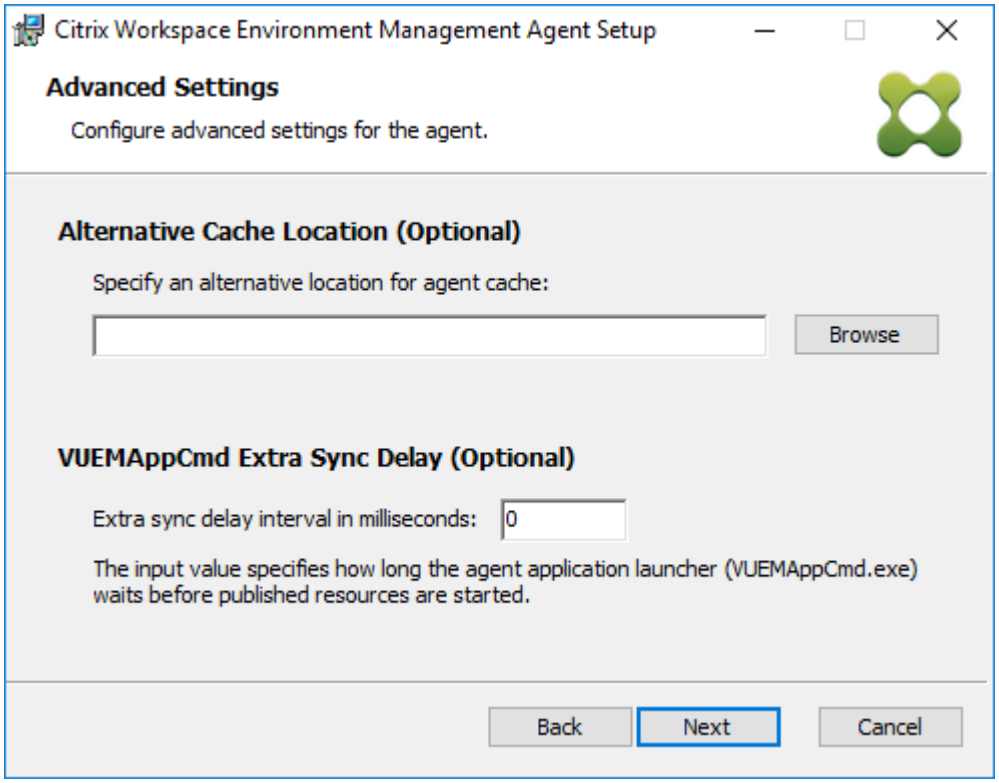
6. [インフラストラクチャサービスの構成] ページで、[インフラストラクチャサービスの構成] を選択し、インフラストラクチャサービスの FQDN または IP アドレスを入力して、[次へ] をクリックします。

> 注:
>
> エージェントサービスポートのデフォルトポートは 8286 です。キャッシュデータ同期ポートの場合、デフォルトのポートは 8288 です。詳細については、「ポート情報」を参照してください。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



7. [詳細設定] ページで、[次へ] をクリックします。



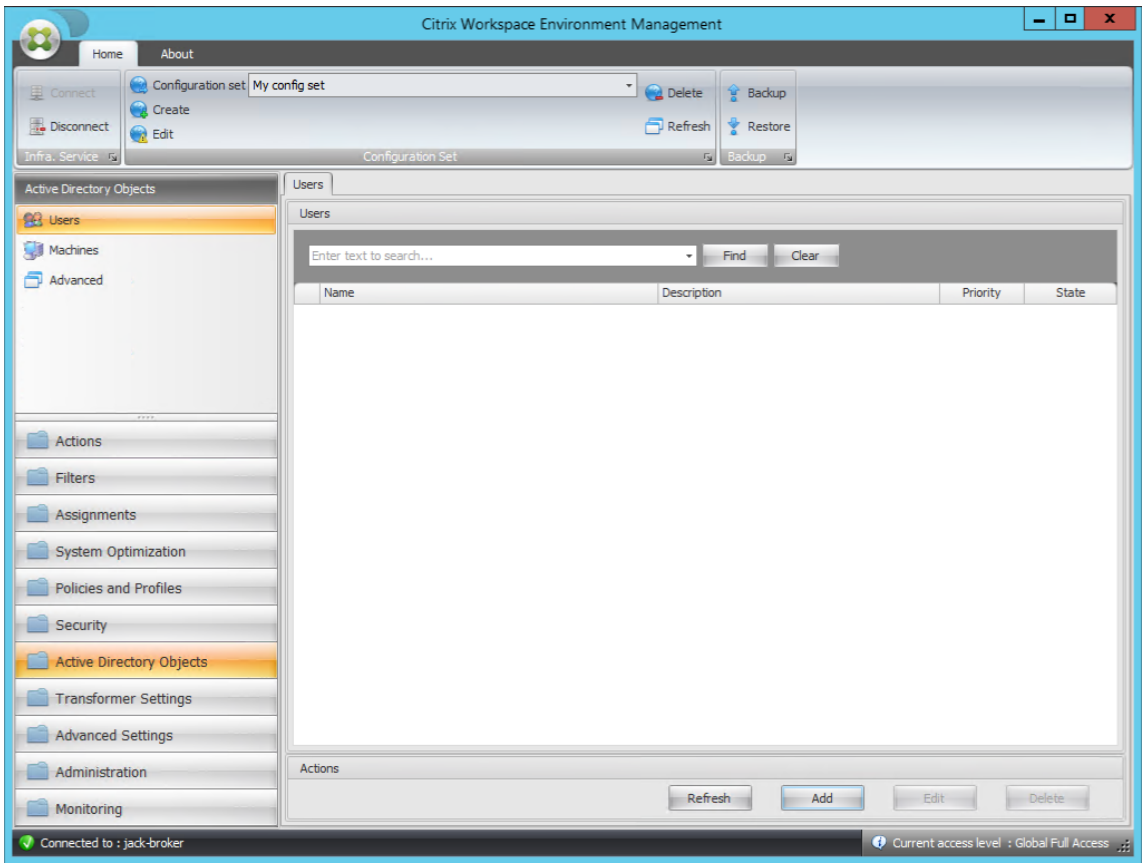
8. [インストールの準備完了] ページで、[インストール] をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

9. [完了] をクリックして、インストールウィザードを終了します。

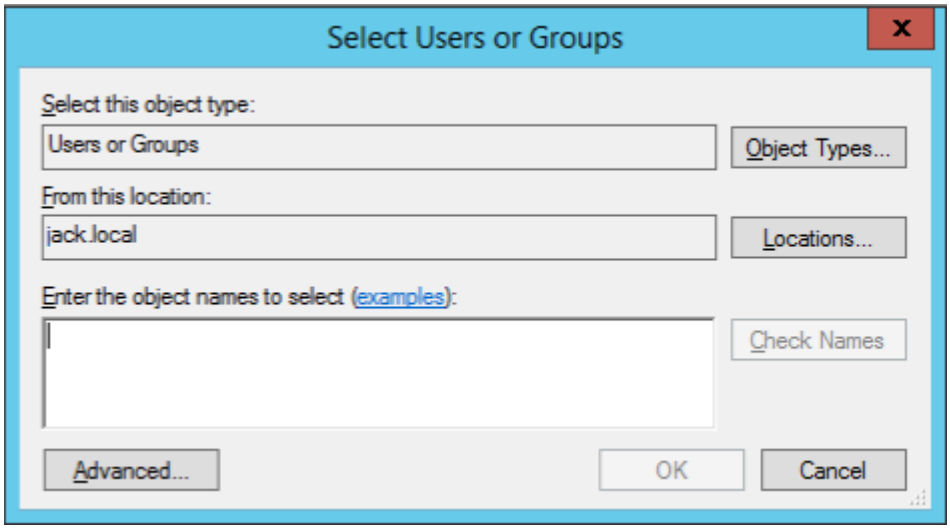
手順 **8:** 作成した構成セットにエージェントを追加する

1. [スタート] メニューから **WEM** 管理コンソールを開き、[**Active Directory** オブジェクト] をクリックし、[追加] をクリックします。

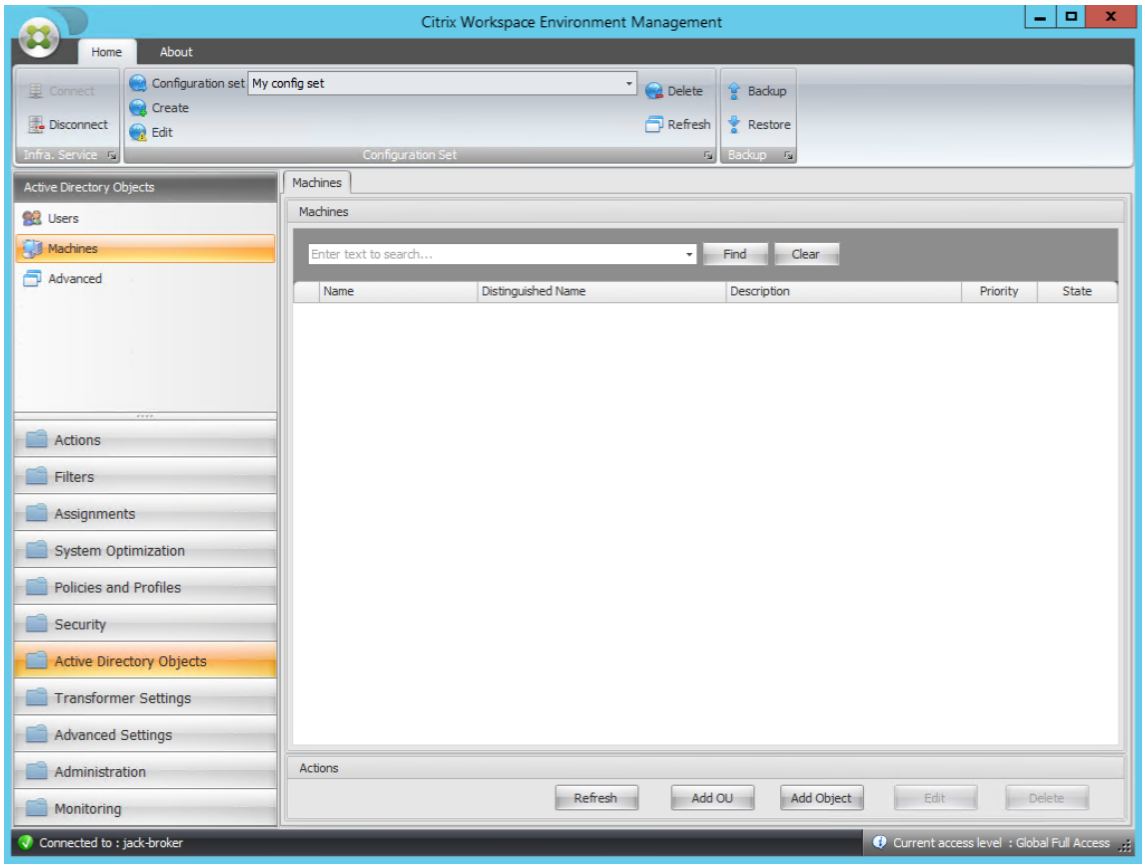


2.「ユーザーまたはグループの選択」ウィンドウで名前を入力し、「名前の確認」をクリックし、「**OK**」をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



3. [マシン] をクリックします。



4. [マシン] タブで、[**OU** の追加] または [オブジェクトの追加] をクリックして、作成した構成セットに管理するマシンを追加します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

システム要件

June 1, 2023

ソフトウェアの前提条件

.NET Framework 4.7.1 以降。このコンポーネントは、Workspace Environment Management エージェントに必要です。まだインストールされていない場合は、エージェントのインストール中に自動的にインストールされます。ただし、エージェントをインストールする前に、この前提条件を手動でインストールすることをお勧めします。そうしないと、エージェントのインストールを続行するにはマシンを再起動する必要があり、完了までに時間がかかることがあります。

Microsoft Visual C++。このコンポーネントは、Workspace Environment Management エージェントに必要です。まだインストールされていない場合、Microsoft Visual C++ 2015-2019 再頒布可能ファイルは、エージェントのインストール時に自動的にインストールされます。

Microsoft Edge WebView2 ランタイムバージョン **98** 以降。このコンポーネントは、Workspace Environment Management サービスエージェントに必要です。まだインストールされていない場合は、エージェントのインストール中に自動的にインストールされます。

> 注:
>
> - このコンポーネントが必要なのはバージョン 2209 以降だけです。
> - Microsoft Edge WebView2 ランタイムをダウンロードしてインストールするには、インターネットにアクセスできる必要があります。

Microsoft SQL Server 2012 以降。Workspace Environment Management では、データベースを作成するには SQL Server インスタンスへの **sysadmin** アクセス権と、データベースを使用するにはデータベースへの読み取り/書き込みアクセス権が必要です。データベースの作成中に、Workspace Environment Management によって SQL ログインが作成され、データベース・ユーザーマッピングがログインに追加されます。ユーザーには、データベースへの読み取り/書き込みアクセス権が自動的に付与されます。SQL Server インスタンスでは、大文字と小文字を区別しない照合順序を使用する必要があります。それ以外の場合、データベースの作成またはアップグレードは失敗します。

> 注:
>
> アップグレードの場合は、**sysadmin** サーバーの役割を持つユーザーアカウントを使用することをお勧めします。

Microsoft Active Directory. Workspace Environment Management では、構成された設定をユーザーにプッシュするには、Active Directory への読み取りアクセス権が必要です。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

> 注:
>
> - 外部の信頼関係は、フォレスト内のすべての Active Directory オブジェクトのコピーを格納する WEM のグローバルカタログではサポートされていません。代わりに、フォレストの信頼関係など、他の関係タイプを使用する必要があります。
> - WEM は、フォレスト間の一方向フォレスト信頼関係もサポートしていません。

Citrix ライセンスサーバー **11.14**. Workspace Environment Management には、Citrix ライセンスが必要です。Citrix ライセンスは、Citrix ライセンスサーバー上で管理および保存されます。

シトリックスの **Virtual Apps and Desktops**。このリリースの Workspace Environment Management では、サポートされているすべてのバージョンの Citrix Virtual Apps または Citrix Virtual Desktops が必要です 。

Windows 向け **Citrix Workspace** アプリ。Workspace Environment Management コンソールで構成された Citrix StoreFront ストアリソースに接続するには、Windows 向け Citrix Workspace アプリを管理コンソールマシンとエージェントホストマシンにインストールする必要があります。サポートされるバージョンは、以下のとおりです。

- 管理コンソールマシンでは、次の操作を行います。
  - Citrix Receiver for Windows バージョン: 4.9 LTSR、4.10、4.10.1、4.11、および 4.12
  - Windows 向け Citrix Workspace アプリ 1808 以降
- エージェントホストマシンでは、次の操作を行います。
  - Citrix Receiver for Windows versions: 4.4 LTSR CU5, 4.7, 4.9, 4.9 LTSR CU1, and 4.10
  - Windows 向け Citrix Workspace アプリ 1808 以降

Transformer のキオスク対応のマシンでは、シングルサインオンを有効にして Windows 向け Citrix Workspace アプリをインストールし、パススルー認証用に構成する必要があります。詳しくは、Citrix Workspace アプリのドキュメントを参照してください。

オペレーティングシステムの前提条件

> 注:
>
> Workspace Environment Management と関連コンポーネントは、製造元がサポートするオペレーティングシステムのバージョンでのみサポートされます。オペレーティングシステムの製造元から延長サポートを購入する必要がある場合があります。

インフラストラクチャサービス

以下のオペレーティングシステムがサポートされています:

- Windows Server 2022 標準エディションとデータセンターエディション

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

- Windows Server 2019 標準エディションおよびデータセンターエディション
- Windows Server 2016 の標準およびデータセンターの版
- Windows Server 2012 R2 標準およびデータセンターの版

> 注:
>
> 異なるオペレーティングシステムバージョンのサーバー (インフラストラクチャサーバー) のプールでの Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスの実行がサポートされています。インフラストラクチャサーバーのオペレーティングシステムをアップグレードするには、まず新しいオペレーティングシステムを使用する別のマシンにインフラストラクチャサービスをインストールし、同じインフラストラクチャサービス設定で手動で構成してから、「古い」インフラストラクチャサーバーを切断します。

管理コンソール

以下のオペレーティングシステムがサポートされています:

- Windows 11、32 ビットおよび 64 ビット
- Windows 10 バージョン 1607 以降、32 ビット版および 64 ビット版
- Windows Server 2022 標準エディションとデータセンターエディション
- Windows Server 2019 標準エディションおよびデータセンターエディション
- Windows Server 2016 の標準およびデータセンターの版
- Windows Server 2012 R2 標準およびデータセンターの版

エージェント

以下のオペレーティングシステムがサポートされています:

- Windows 11、32 ビットおよび 64 ビット
- Windows 10 バージョン 1607 以降、32 ビットと 64 ビット
- Windows 8.1 Professional および Enterprise エディション、32 ビットおよび 64 ビット
- Windows 7 SP1 Professional、Enterprise、Ultimate エディション、32 ビットおよび 64 ビット
- Windows Server 2022 Standard および Datacenter エディション *
- Windows Server 2019 Standard および Datacenter エディション *
- Windows Server 2016 Standard および Datacenter エディション *
- Windows Server 2012 R2 Standard および Datacenter エディション *
- Windows Server 2012 Standard および Datacenter エディション *
- Windows Server 2008 R2 SP1 Standard、Enterprise、Datacenter エディション *

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

* Transformer 機能は、マルチセッションオペレーティングシステムではサポートされていません。

WEM 4.4 では、Windows XP がサポートされた。

> 注:
>
> マルチセッションのオペレーティングシステムで実行されている Citrix Workspace Environment Management Agent は、Microsoft の動的フェアシェアスケジューリング（DFSS）が有効になっていると正しく動作しません。DFSS を無効にする方法については、CTX127135を参照してください。

SQL サーバは常にオン

Workspace Environment Management では、Microsoft SQL Server に基づくデータベースの高可用性を実現するために、常にオン可用性グループ (基本および詳細) がサポートされています。Citrix では、Microsoft SQL Server 2017 を使用してこれをテストしています。

Always On 可用性グループを使用すると、プリンシパル SQL Server またはプライマリ SQL Server のハードウェアまたはソフトウェアに障害が発生した場合に、データベースが自動的にフェイルオーバーされます。これにより、Workspace Environment Management が想定どおりに動作し続けることが保証されます。Always On 可用性グループ機能では、SQL Server インスタンスが Windows Server フェールオーバークラスター (WSFC) ノードに存在する必要があります。詳しくは、https://docs.microsoft.com/en-us/sql/database-engine/availability-groups/windows/always-on-availability-groups-sql-server?view=sql-server-ver15を参照してください。

Workspace Environment Management（WEM）を常にオン可用性グループとともに使用する手順は、次のとおりです。

1. **WEM** データベース管理ユーティリティを開き、WEM データベースを作成します。
   - 必ず「* VuemUser SQL ユーザーアカウントのパスワードの設定」** オプションを選択し、VuemUser SQL ユーザーアカウントのパスワードを入力してください。データベースを可用性グループに追加するときは、このパスワードを指定する必要があります。
   - [サーバーとインスタンス名] に、プライマリ SQL Server の名前を入力します。

   > 注:
   >
   > WEM データベースは、プライマリ SQL Server 上に作成されます。

2. プライマリ SQL Server に移動し、作成した WEM データベースをバックアップします。
   - [可用性グループにデータベースを追加] **>** [データベースの選択] ページで **WEM** データベースを選択するには、パスワード (手順 1 で作成したパスワード) を入力する必要があります。これを行うには、[パスワード] 列の対応する空白領域を右クリックし、パスワードを入力し、[更新] をクリックします。
   - データベースバックアップの [完全リカバリ] モデルを選択します。
3. SQL Server で、WEM データベースを可用性グループに追加し、可用性グループリスナーを構成します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

4. WEM インフラストラクチャサービスマシンに移動し、**WEM** インフラストラクチャサービス構成ユーティリティを開きます。

    - データベースサーバーとインスタンス。可用性グループリスナーの名前を入力します。
    - データベースフェイルオーバーサーバーとインスタンス。空のままにします。
    - データベース名。データベースの名前を入力します。

ハードウェアの前提条件

インフラストラクチャサービス:4 個の vCPU、8 GB の RAM、80 GB の使用可能なディスク容量。インフラストラクチャサービスの規模とサイズの考慮事項については、「デプロイの規模とサイズの考慮事項」を参照してください。

管理コンソール:2 GB RAM、40 MB の空きディスク容量 (インストール時に 100 MB) の最小デュアルコアプロセッサ。

エージェント:RAM の平均消費量は 10 MB ですが、安全を確保するために 20 MB を提供することを推奨します。40 MB の空きディスク容量 (インストール時に 100 MB)。

データベース:Workspace Environment Management データベースに使用可能なディスク領域が最低 75 MB です。

サービスの依存関係

Netlogon。エージェントサービス (「Norskale Agent Host service」) は、[Net Logon Dependencies] リストに追加され、ログオン前にエージェントサービスが実行されていることを確認します。

ウイルス対策の除外

デフォルトでは、Workspace Environment Management エージェントおよびインフラストラクチャサービスは、次のフォルダにインストールされます。

- エージェント
    - C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent (64-bit OS)
    - C:\Program Files\ Citrix\Workspace Environment Management Agent (32-bit OS)
- インフラストラクチャサービス
    - C:\Program Files (x86)\Norskale\Norskale Infrastructure Services

オンアクセス検索は、エージェントの「Citrix」インストールフォルダ全体、およびインフラストラクチャサービスの「Norskale」インストールフォルダ全体に対して無効にする必要があります。これが不可能な場合は、次のプロセスをオンアクセススキャンから除外する必要があります。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

インフラストラクチャサービスのインストールフォルダ内

- Norskale Broker Service.exe
- Norskale Broker Service Configuration Utility.exe
- Norskale Database Management Utility.exe

エージェントのインストールフォルダ内

- Agent Log Parser.exe
- AgentCacheUtility.exe
- AgentGroupPolicyUtility.exe
- AppsMgmtUtil.exe
- Citrix.Wem.Agent.Service.exe
- Citrix.Wem.Agent.LogonService.exe
- PrnsMgmtUtil.exe
- VUEMAppCmd.exe
- VUEMAppCmdDbg.exe
- VUEMAppHide.exe
- VUEMCmdAgent.exe
- VUEMMaintMsg.exe
- VUEMRSAV.exe
- VUEMUIAgent.exe

インストールと構成

June 1, 2023

次のコンポーネントをインストールして構成します。

- インフラストラクチャサービス
- 管理コンソール
- Agent

インフラストラクチャサービス

June 1, 2023

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

Windows インフラストラクチャサービスが 1 つあります。**Norskale Infrastructure Service** (NT SERVICE\ Norskale Infrastruct Workspace Environment Management (WEM) インフラストラクチャサービスを管理します。アカウント:LocalSystem またはインフラストラクチャサービスが実行されるインフラストラクチャサーバー上の管理者ユーザーグループに属する、指定されたユーザーアカウント。

インフラストラクチャサービスのインストール

> 重要:
>
> - インフラストラクチャサービスは、ドメイン Controller にインストールできません。Kerberos 認証の問題により、このシナリオではインフラストラクチャサービスが機能しなくなります。
> - Delivery Controller がインストールされているサーバーにはインフラストラクチャサービスをインストールしないでください。
>
> 使用データ収集に関する通知**:**
>
> - デフォルトでは、インフラストラクチャサービスは WEM の使用状況に関する匿名の分析を毎晩収集し、HTTPS を介して Google Analytics サーバーに即座に送信します。Analytics のコレクションは、Citrix プライバシーポリシーに準拠しています。
> - インフラストラクチャサービスをインストールまたはアップグレードすると、データ収集がデフォルトで有効になります。オプトアウトするには、[WEM インフラストラクチャサービスの構成] ダイアログの [詳細設定] タブで、[**Google Analytics** を使用した **Workspace Environment Management** 改善に役立たない] オプションを選択します。

インフラストラクチャサービスをインストールするには、インフラストラクチャサーバーで **Citrix Workspace Environment Management** インフラストラクチャ **Services.exe** を実行します。「完全」セットアップオプションは、既定で PowerShell SDK モジュールをインストールします。「カスタム」設定オプションを使用して、SDK のインストールを禁止したり、インストールフォルダを変更したりできます。デフォルトでは、インフラストラクチャサービスは次のフォルダにインストールされます:C:\Program ファイル (x86)\ Norskale\ Norskale インフラストラクチャサービス。デフォルトでは、PowerShell SDK モジュールは次のフォルダにインストールされます。C:\Program ファイル (x86)\ Norskale\ Norskale インフラストラクチャサービス\ SDK。SDK のドキュメントについては、Citrix Developer ドキュメントを参照してください。

次の引数を使用して、インストールをカスタマイズできます。

AgentPort: インフラストラクチャサービスのセットアップは、ファイアウォールポートをローカルで開き、エージェントのネットワークトラフィックがブロックされないようにするスクリプトを実行します。AgentPort 引数を使用すると、開くポートを設定できます。デフォルトのポートは 8286 です。有効なポートはすべて受け入れられる値です。

AgentSyncPort: インフラストラクチャサービスのセットアップは、ファイアウォールポートをローカルで開き、エージェントのネットワークトラフィックがブロックされないようにするスクリプトを実行します。AgentSyncPort

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

引数を使用すると、どのポートを開くかを構成できます。デフォルトのポートは 8285 です。有効なポートはすべて受け入れられる値です。

AdminPort: インフラストラクチャサービスのセットアップでは、ファイアウォールポートをローカルで開くスクリプトを実行して、エージェントのネットワークトラフィックがブロックされないようにします。adminPort 引数を使用すると、開くポートを設定できます。デフォルトのポートは 8284 です。有効なポートはすべて受け入れられる値です。

これらのインストール引数の構文は次のとおりです。

```
"path:\\to\\Citrix Workspace Environment Management Infrastructure
Services Setup.exe"/v"argument1=\\"value1\\"argument2=\\"value2\\""
```

インフラストラクチャサービスのサイレントインストールまたはアップグレードを選択できます。構文は次のとおりです。

- .\setup.exe /s /v‘ “/qn CLOUD=0‘”
  - `setup.exe`。インストーラのファイル名に置き換えることができます。
  - `/s`。サイレントモードを示します。
  - `/v`。msiexec に引数を渡します。
  - `/qn`。インストール中にユーザーインターフェイスが表示されないことを示します。
  - `CLOUD=0`. オンプレミス環境を示します。
- 例:
  - .\Citrix Workspace Environment Management Infrastructure Services.exe /s /v‘ “/qn CLOUD=0‘”

サービスプリンシパル名の作成

> 重要:
>
> - 同じフォレストに存在する個別のドメインに対して、複数のサービスプリンシパル名 (SPN) を作成しないでください。環境内のすべてのインフラストラクチャサービスは、同じサービスアカウントを使用して実行する必要があります。
> - 負荷分散を使用する場合は、インフラストラクチャサービスのすべてのインスタンスを同じサービスアカウント名を使用してインストールおよび構成する必要があります。
> - **Windows** 認証は、AD を使用する SQL インスタンスの特定の認証方法です。もう 1 つのオプションは、代わりに SQL アカウントを使用することです。

インストーラーの完了後、インフラストラクチャサービスの SPN を作成します。WEM では、エージェント、インフラストラクチャサービス、ドメイン Controller 間の接続と通信は Kerberos によって認証されます。SPN は、サービスインスタンスをサービスログオンアカウントに関連付けるために Kerberos 認証で使用されます。インフラストラクチャサービスインスタンスのログオンアカウントと、SPN に登録されているアカウントとの間に関係を構成する

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

必要があります。したがって、Kerberos 認証要件に準拠するには、環境に適したコマンドを使用して、WEM SPN を既知の AD アカウントに関連付けるように構成します。

- Windows 認証または負荷分散を使用しない場合は、次のコマンドを使用します。
  - **setspn-C-S Norskale/**ブローカーサービス **[*** ホスト名 ***]**

  [*hostname*] はインフラストラクチャサーバの名前です。
- Windows 認証または負荷分散 (Windows 認証が必要) を使用する場合は、次のコマンドを使用します。
  - **setspn-U-S Norskale/**ブローカーサービス **[*** アカウント名 ***]**

  ここで、[*accountname*] は、Windows 認証に使用されているサービスアカウントの名前です。
- gMSA ソリューションを使用する場合は、次のコマンドを使用します。
  - **setspn -C -S Norskale/BrokerService [*gMSA*]$**

  ここで [*gmsa*] は gMSA アカウントの名前です。

SPN では、大文字と小文字が区別されます。

グループマネージドサービスアカウント

WEM のグループマネージドサービスアカウント (gMSa) ソリューションを実装できます。gMSA ソリューションを使用すると、新しい gMSA プリンシパルのサービスを構成でき、パスワード管理は Windows によって処理されます。詳しくは、「https://docs.microsoft.com/en-us/windows-server/security/group-managed-service-accounts/group-managed-service-accounts-overview」を参照してください。gMSA をサービスプリンシパルとして使用すると、Windows オペレーティングシステムによってアカウントのパスワードが管理されます。これにより、後でアカウントのパスワードを変更する場合、インフラストラクチャサービスに対して構成した Windows アカウントの偽装設定を変更する必要がなくなります。WEM 用の gMSA ソリューションを実装するには、次の手順を実行します。

1. ドメインコントローラーで gMSA を作成します。gMSA の作成の詳細については、「https://docs.microsoft.com/en-us/windows-server/security/group-managed-service-accounts/getting-started-with-group-managed-service-accounts」を参照してください。
2. Citrix WEM SPN をアカウントとバインドします。WEM SPN の詳細については、「サービスプリンシパル名の作成」を参照してください。
3. SQL Server の設定を構成して、アカウントがデータベースにアクセスできるようにします。
   a) プライマリ SQL Server で、[セキュリティ **] > [**ログイン] に移動し、[ログイン] を右クリックして [新規ログイン] を選択します。
   b) [ログイン**-**新規**]** ウィンドウで、[検索] をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

c)「ユーザーまたはグループの選択」ウィンドウで、次のように設定を構成し、「**OK**」をクリックしてウィンドウを終了します。

- オブジェクトタイプ。[サービスアカウント] のみを選択します。
- 所在地。[管理対象サービスアカウント] を選択します。
- オブジェクト名。手順 1 で作成したアカウント名を入力します。

d) [ユーザーマッピング] ページで、gMSA を適用するデータベースを選択し、データベースのロールメンバシップとして **db-owner** を選択します。

e) **[**ステータス] ページで、[許可] および [有効] オプションが選択されていることを確認します。

f)「**OK**」をクリックして「ログイン**-**新規」ウィンドウを終了します。

4. 追加したサービスアカウントを使用して、Norskale インフラストラクチャサービスを開始します。

a) インフラストラクチャサーバーで、Windows サービスマネージャーを開き、Norskale インフラストラクチャサービスを右クリックし、[プロパティ] を選択します。

b) [ログオン] ページで、[このアカウント] を選択し、[参照] をクリックして、手順 3 の 3 番目のサブステップの説明に従って設定を構成します。

c) **OK** をクリックして **Norskale** インフラストラクチャサービスのプロパティウィンドウを終了します。

d) Windows サービスマネージャーで、Norskale インフラストラクチャサービスを再起動します。

負荷分散の構成

> ヒント：
>
> NetScaler ADC による負荷分散の記事では 、WEM 管理コンソールと WEM エージェントからの着信要求を負荷分散するように NetScaler ADC アプライアンスを構成する方法について詳しく説明します。

ロードバランシングサービスで WEM を構成するには、次の手順を実行します。

1. WEM データベースに接続するための WEM インフラストラクチャサービスの Windows インフラストラクチャサービスアカウントを作成します。

2. WEM データベースを作成するときは、[インフラストラクチャサービスデータベース接続に **Windows** 認証を使用する] オプションを選択し、インフラストラクチャサービスのアカウント名を指定します。詳細については、「Workspace Environment Management データベースの作成」を参照してください。

3. SQL 認証ではなく Windows 認証を使用して SQL データベースに接続するように、各インフラストラクチャサービスを構成します。[**Windows** アカウントの偽装を有効にする] オプションを選択し、インフラストラクチャサービスアカウントの資格情報を指定します。詳細については、「インフラストラクチャサービスの構成」を参照してください。

4. WEM インフラストラクチャサービスの SPN を構成して、インフラストラクチャサービスアカウント名を使用します。詳細については、「サービスプリンシパル名の作成」を参照してください。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

> 重要:
>
> WEM 環境を展開する前に、サービスアカウントまたはマシンアカウントのどちらを使用するかを決定します。WEM 環境を既に展開した後は、元に戻すことはできません。たとえば、マシンアカウントをすでに使用した後に着信要求をロードバランシングする場合は、サービスアカウントではなくマシンアカウントを使用する必要があります。

5. VIP の背後に配置するインフラストラクチャサーバーの数をカバーする仮想 IP アドレス (VIP) を作成します。エージェントが VIP に接続すると、VIP の対象となるインフラストラクチャサーバーはすべて対象となります。
6. エージェントホスト構成 GPO を構成するときは、インフラストラクチャサーバーの設定を個々のインフラストラクチャサーバーのアドレスではなく VIP に設定します。詳細については、「エージェントのインストールと構成」を参照してください。
7. セッション永続性は、管理コンソールとインフラストラクチャサービス間の接続に必要です。(エージェントとインフラストラクチャサービスの間のセッション永続性は必要ありません)。VIP を使用するのではなく、各管理コンソールをインフラストラクチャサービスサーバーに直接接続することをお勧めします。

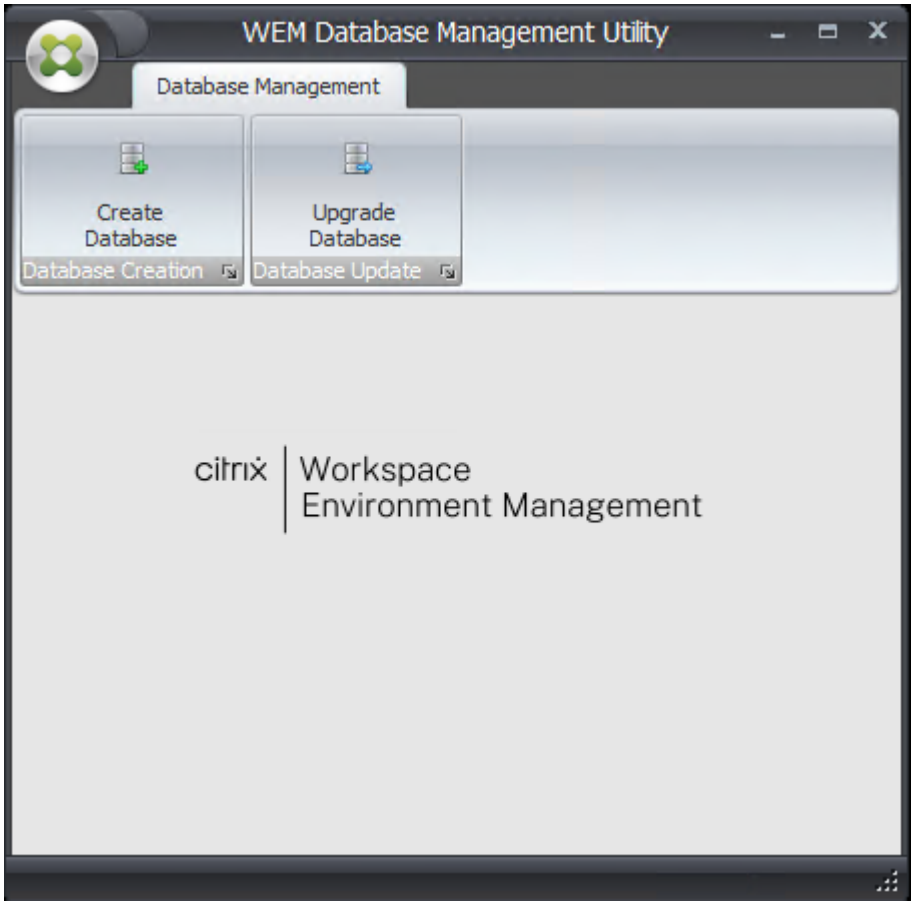
Workspace Environment Management データベースの作成

> ヒント:
>
> WEM PowerShell SDK モジュールを使用してデータベースを作成することもできます。SDK のドキュメントについては、Citrix Developer ドキュメントを参照してください。
>
> 注:
>
> - SQL Server で Windows 認証を使用している場合は、sysadmin アクセス許可を持つ ID でデータベース作成ユーティリティを実行します。
> - WEM データベースのプライマリファイル（.mdf ファイル）をデフォルトサイズ 50 MB で構成することをお勧めします。

WEM データベース管理ユーティリティを使用してデータベースを作成します。これは、インフラストラクチャサービスのインストールプロセス中にインストールされ、その後すぐに開始されます。

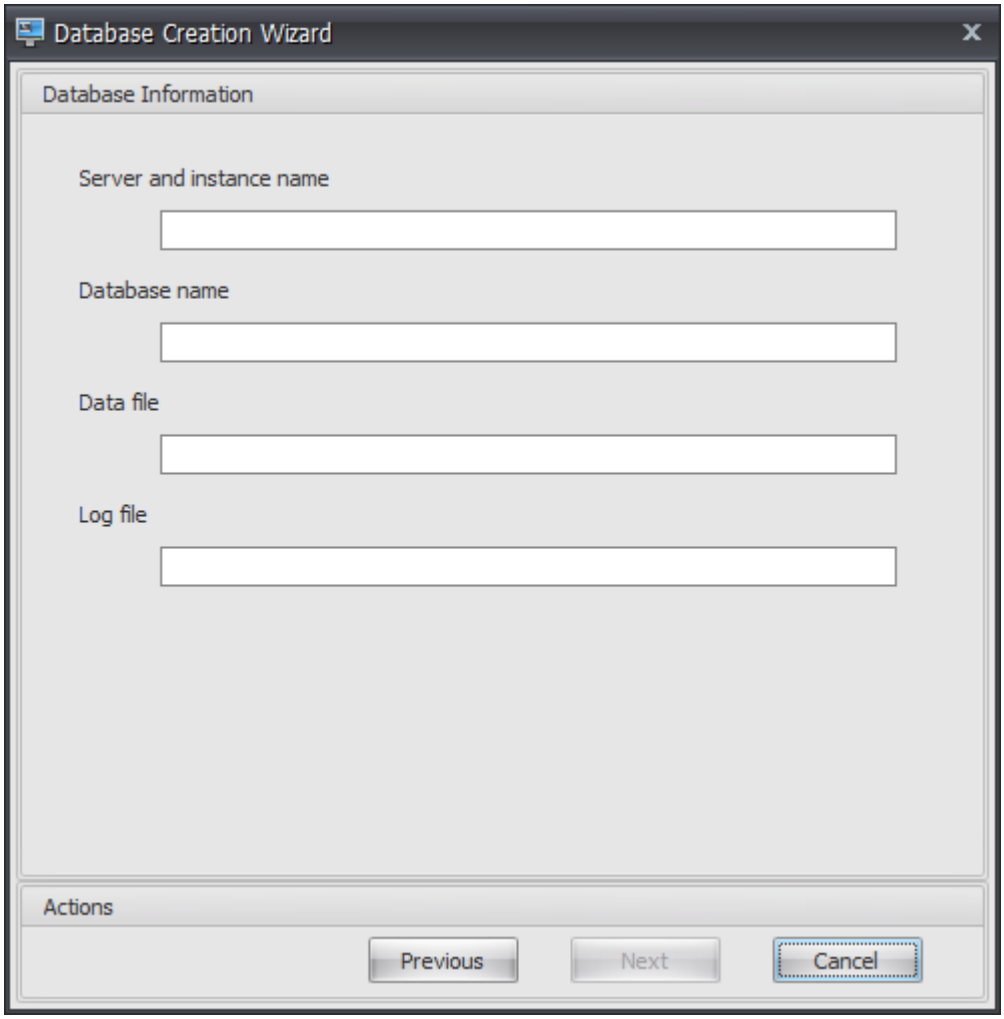
1. データベース管理ユーティリティがまだ開いていない場合は、［スタート］メニューから［**Citrix**］**>**［**Workspace Environment Management**］**>**［**WEM** データベース管理ユーティリティ］を選択します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



2. [データベースの作成] をクリックし、[次へ] をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



3. 次のデータベース情報を入力し、[次へ] をクリックします。

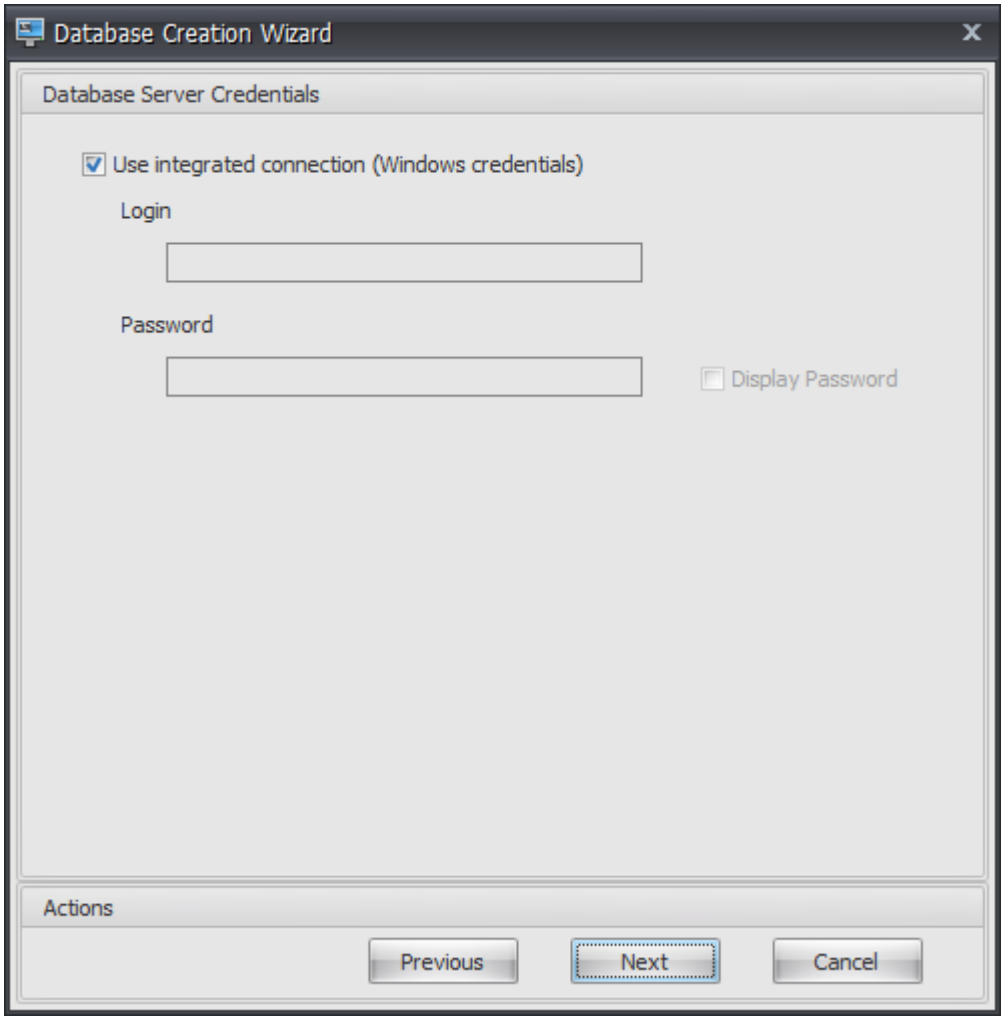
   - サーバー名とインスタンス名。データベースがホストされる SQL Server のアドレス。このアドレスは、インフラストラクチャサーバから入力されたとおりに到達可能である必要があります。マシン名、完全修飾ドメイン名、または IP アドレスとして、サーバーおよびインスタンス名を入力します。完全なインスタンスアドレスをサーバーアドレス、ポート**\ instanceName** として指定します。ポートが指定されていない場合、デフォルトの SQL ポート番号 (1433) が使用されます。
   - データベース名。作成する SQL データベースの名前。

   > 注:
   >
   > データベース名には、ハイフン (-) やダッシュ (/) などの特殊文字は使用できません。

   - データファイル:SQL サーバー上の**.mdf** ファイルの場所へのパス。
   - ログファイル:SQL Server 上の**.ldf** ファイルの場所へのパス。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

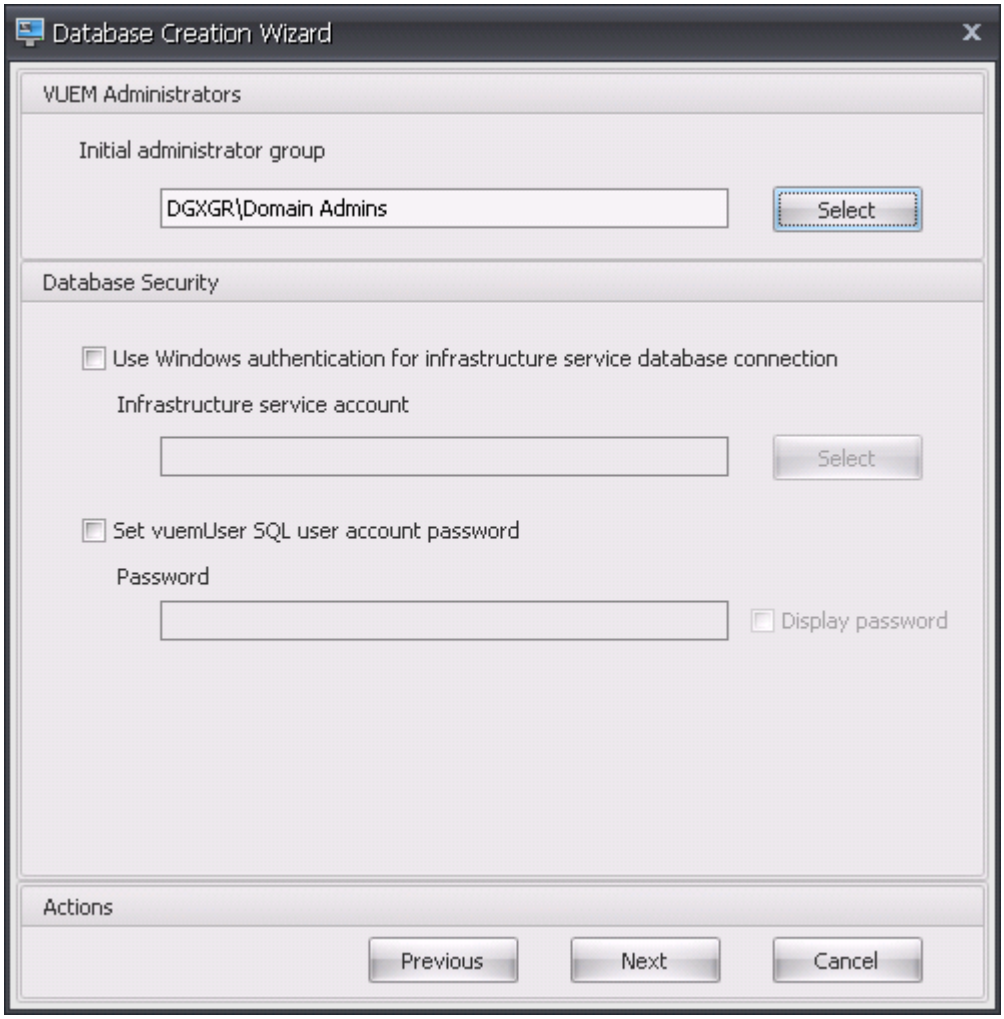
> 注:
>
> データベース管理ユーティリティは、データファイルとログファイルの既定の場所を SQL Server に照会できません。MS SQL Server の既定のインストールでは、既定値が設定されます。これら 2 つのフィールドの値が MS SQL Server のインストールに適していることを確認してください。そうしないと、データベース作成プロセスが失敗します。



4. ウィザードでデータベースの作成に使用できるデータベースサーバー認証情報を指定し、[次へ] をクリックします。これらの資格情報は、データベースの作成後にインフラストラクチャサービスによってデータベースへの接続に使用される資格情報とは独立しています。これらは保存されません。

   デフォルトでは、[統合接続を使用] オプションが選択されています。これにより、ウィザードは、実行中の ID の Windows アカウントを使用して SQL に接続し、データベースを作成できます。この Windows アカウントにデータベースを作成するための十分な権限がない場合は、データベース管理ユーティリティを十分な権限を持つ Windows アカウントとして実行するか、このオプションをオフにして、代わりに十分な権限を持つ SQL アカウントを指定できます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



5. VUEM 管理者とデータベースセキュリティの詳細を入力し、[次へ] をクリックします。ここで指定した資格情報は、データベースの作成後にデータベースに接続するためにインフラストラクチャサービスによって使用されます。それらはデータベースに格納されます。

   - 初期管理者グループ。このユーザー・グループは、管理コンソールのフルアクセス管理者として事前構成されています。Workspace Environment Management 管理者として構成されたユーザーのみが、管理コンソールを使用できます。有効なユーザーグループを指定してください。指定しないと、管理コンソールを自分で使用できなくなります。

   - インフラストラクチャサービスデータベース接続に **Windows** 認証を使用します。このオプションをオフにすると (デフォルト)、データベースはインフラストラクチャサービスが *VuemUser SQL* ユーザーアカウントを使用して接続することを期待します。VUEMuser SQL ユーザーアカウントは、インストールプロセスによって作成されます。これには、SQL インスタンスで混合モード認証を有効にする必要があります。

   このオプションを選択すると、データベースはインフラストラクチャサービスが Windows アカウントを使用してそれに接続することを想定します。この場合、選択した Windows アカウントに SQL インスタンスへの

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

ログインが既になっていない必要があります。つまり、データベースの作成に使用したのと同じ Windows アカウントを使用してインフラストラクチャサービスを実行することはできません。

- **vuemUser SQL** ユーザーアカウントのパスワードを設定する。デフォルトでは、VUEMuser SQL アカウントは大文字、小文字、数字、および句読点を使用する 8 文字のパスワードを使用して作成されます。独自の VUEMuser SQL アカウントのパスワードを入力する場合 (たとえば、SQL ポリシーでより複雑なパスワードが必要な場合) は、このオプションを選択します。

> 重要:
>
> - Workspace Environment Management データベースを SQL Server 常時オン可用性グループに展開する場合は、vuemUser SQL ユーザーアカウントパスワードを設定する必要があります。
> - ここでパスワードを設定する場合は、インフラストラクチャサービスを設定するときに同じパスワードを指定することを忘れないでください。

6. [サマリー] ペインで、選択した設定を確認し、問題がなければ [データベースの作成] をクリックします。
7. データベースの作成が正常に完了したことが通知されたら、[完了] をクリックしてウィザードを終了します。

   データベースの作成中にエラーが発生した場合は、インフラストラクチャサービスのインストールディレクトリにあるログファイル「Citrix WEM データベース管理ユーティリティのデバッグ Log.log」を確認します。

インフラストラクチャサービスの構成

> ヒント:
>
> Workspace Environment Management PowerShell SDK モジュールを使用してインフラストラクチャサービスを構成することもできます。SDK のドキュメントについては、Citrix Developer ドキュメントを参照してください。

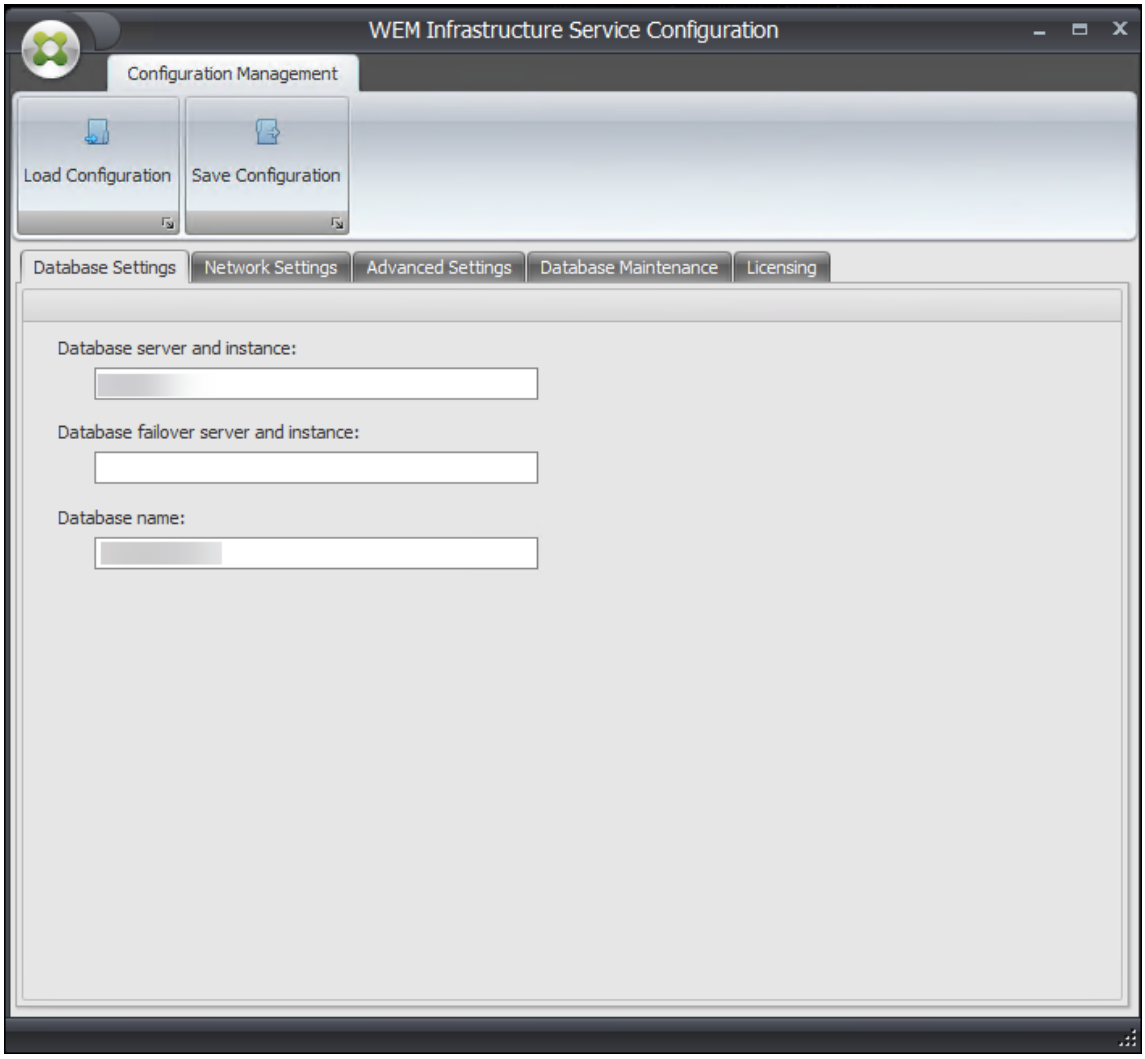
インフラストラクチャサービスを実行する前に、ここで説明するように **WEM** インフラストラクチャサービス構成ユーティリティを使用して構成する必要があります。

1. ［スタート］メニューから［**Citrix**］**>**［**Workspace Environment Management**］［WEM インフラストラクチャサービス構成ユーティリティ］を選択します。
2. [データベース設定] タブで、次の詳細を入力します。

   - データベースサーバーとインスタンス。Workspace Environment Management データベースがホストされている SQL Server インスタンスのアドレス。これは、インフラストラクチャサーバーから入力されたとおりに到達可能である必要があります。完全なインスタンスアドレスを「サーバアドレス, ポート\ instanceName」として指定します。ポートが指定されていない場合、デフォルトの SQL ポート番号 (1433) が使用されます。
   - データベースフェイルオーバーサーバーとインスタンス。データベースミラーリングを使用している場合は、ここでフェールオーバーサーバーのアドレスを指定します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

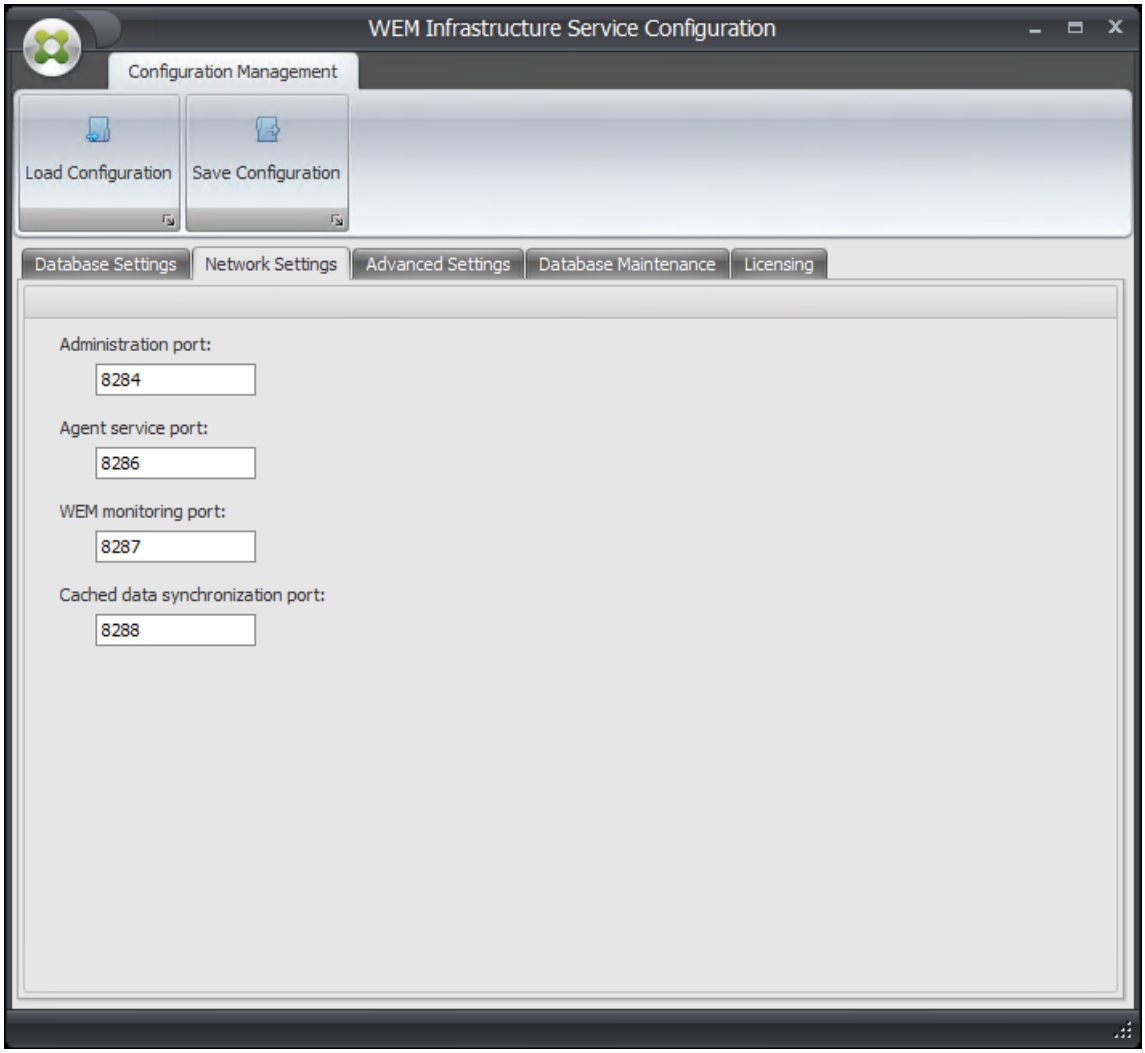
- データベース名。SQL インスタンス上の Workspace Environment Management データベースの名前。



3. [ネットワーク設定] タブで、インフラストラクチャサービスが使用するポートを入力します。

   - 管理ポート。このポートは、管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するために使用されます。
   - エージェントサービスポート。このポートは、インフラストラクチャサービスに接続するためにエージェントホストによって使用されます。
   - キャッシュ同期ポート。このポートは、エージェントサービスによってキャッシュをインフラストラクチャサービスと同期するために使用されます。
   - **WEM** モニタリングポート。[現在は使用されていません。]

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



4. [詳細設定] タブで、偽装と自動更新の設定を入力します。

   - **Windows** アカウントの偽装を有効にします。デフォルトでは、このオプションはクリアされ、インフラストラクチャサービスは混合モード認証を使用してデータベースに接続します (データベース作成時に作成された SQL アカウント *VuemUser* を使用)。代わりに、データベースの作成中に Windows インフラストラクチャサービスアカウントを選択した場合は、このオプションを選択し、接続中に偽装するインフラストラクチャサービスに対して同じ Windows アカウントを指定する必要があります。選択するアカウントは、インフラストラクチャサーバーのローカル管理者である必要があります。

   - **vuemUser SQL** ユーザーアカウントのパスワードを設定する。データベースの作成時に *VueUser SQL* ユーザに対して設定されたカスタムパスワードをインフラストラクチャサービスに通知できます。このオプションは、データベースの作成時に独自のパスワードを指定した場合のみ有効にします。

   - インフラストラクチャサービスキャッシュの更新遅延。インフラストラクチャサービスがキャッシュを更新するまでの時間（分単位）。キャッシュは、インフラストラクチャサービスが SQL に接続できない場合に使用されます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

- インフラストラクチャサービス **SQL** 状態モニタの遅延。各インフラストラクチャサービスが SQL Server をポーリングしようとする間隔 (秒)。
- インフラストラクチャサービスの **SQL** 接続タイムアウト。SQL Server との接続の確立を試みるときにインフラストラクチャサービスが待機する時間（秒）。試行を終了してエラーが発生します。
- デバッグモードを有効にします。有効にすると、インフラストラクチャサービスは冗長ログモードに設定されます。
- オンラインでもキャッシュを使用する。有効にすると、インフラストラクチャサービスは常にキャッシュからサイト設定を読み取ります。
- パフォーマンスチューニングを有効にします。接続されているエージェントの数が特定のしきい値（デフォルトは 200）を超えるシナリオで、パフォーマンスを最適化できます。その結果、エージェントまたは管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するのに要する時間が短くなります。
  - ワーカースレッドの最小数。スレッドプールが要求に応じて作成するワーカースレッドの最小数を指定します。30～3000 の範囲のワーカースレッド数を設定します。接続されているエージェントの数に基づいて値を決定します。デフォルトでは、ワーカースレッドの最小数は 200 です。
  - 非同期 **I/O** スレッドの最小数。スレッドプールが要求に応じて作成する非同期 I/O スレッドの最小数を指定します。非同期 I/O スレッドの数を 30 ～3000 の範囲で設定します。接続されているエージェントの数に基づいて値を決定します。デフォルトでは、非同期 I/O スレッドの最小数は 200 です。

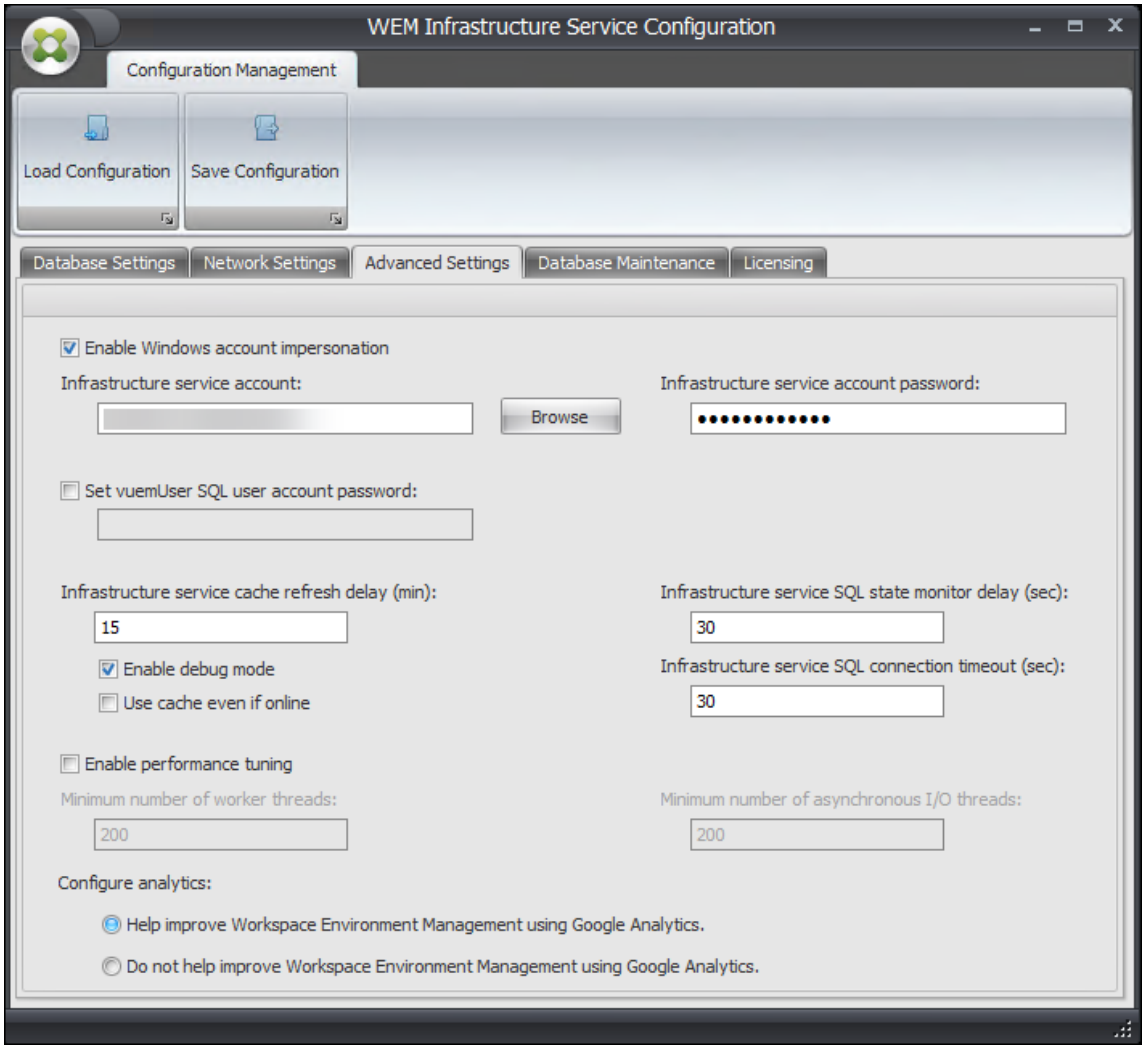
> 重要：
>
> この機能は、エージェントまたは管理コンソールがインフラストラクチャサービスから断続的に切断する場合に特に便利です。
>
> 注：
>
> [Enable Performance Tuning] フィールドで設定した値は、新しい要求が行われたとき、およびスレッドの作成と破棄を管理するアルゴリズムに切り替える前に使用されます。詳しくは、「https://docs.microsoft.com/en-us/dotnet/api/system.threading.threadpool.setminthreads?view=netframework-4.8」および「https://support.microsoft.com/en-sg/help/2538826/wcf-service-may-scale-up-slowly-under-load」を参照してください。

- **Google Analytics** を使用して、**Workspace Environment Management** 改善を支援します。選択すると、インフラストラクチャサービスは匿名分析を Google Analytics クスサーバーに送信します。
- **Google Analytics** を使用して **Workspace Environment Management** 改善に役立たない。選択した場合、インフラストラクチャサービスは Google Analytics サーバーに匿名のアナリティクスを送信しません。

> 重要：
>
> 2212 以降、Workspace Environment Management は、インフラストラクチャサービスをホスト

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

> するマシンのリージョンに基づいてどのオプションを選択するかを決定します。マシンがヨーロッパ以外の地域にある場合は、最初のオプションが選択されます。マシンがヨーロッパ地域にある場合は、2 番目のオプションが選択されます。この動作は新規インストールにのみ適用されます。



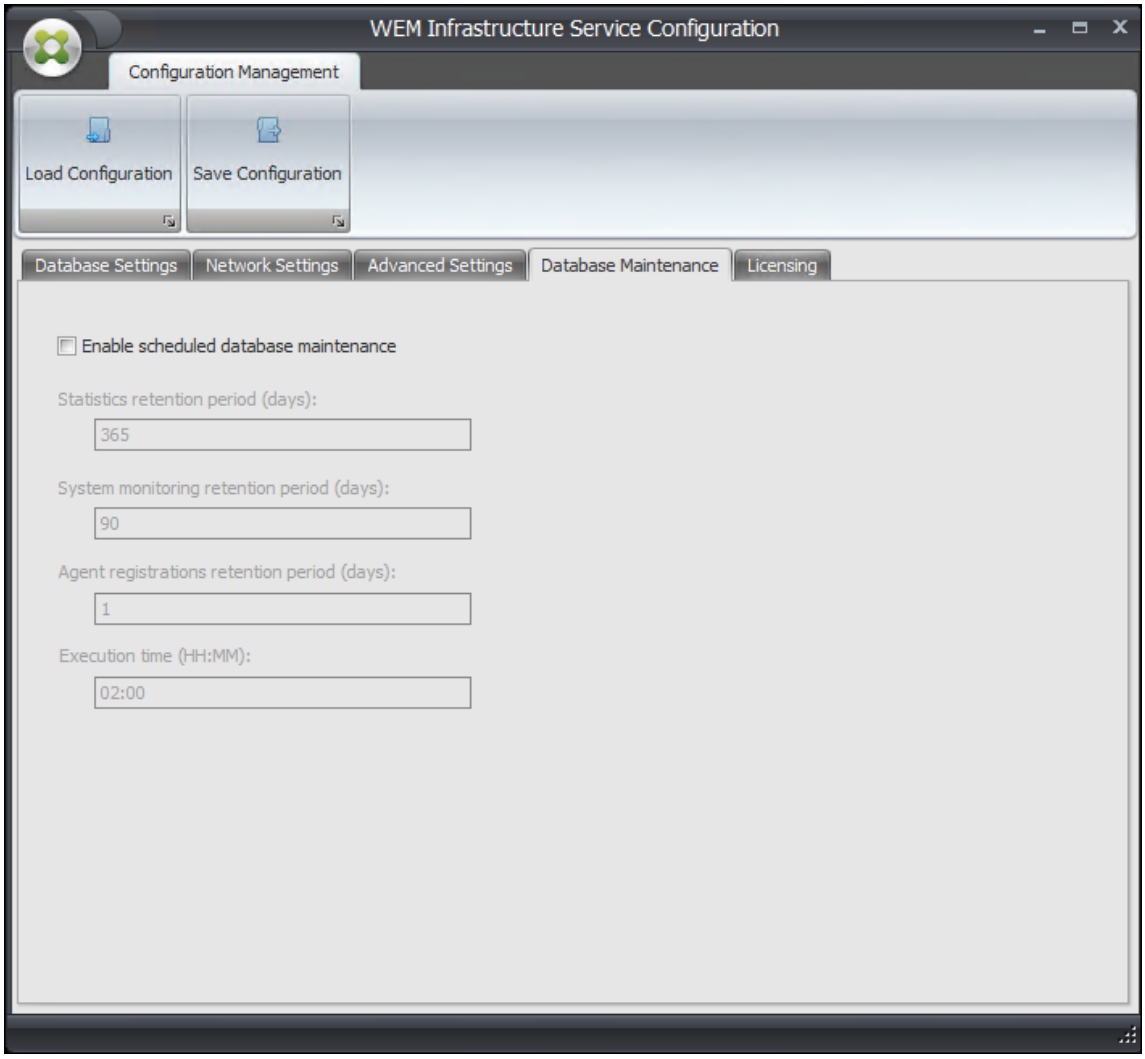
5. [データベースのメンテナンス] タブを使用して、データベースメンテナンスを構成できます。

   - スケジュールされたデータベースメンテナンスを有効にします。この設定を有効にすると、データベースから古い統計レコードが定期的に削除されます。
   - 統計保持期間。ユーザおよびエージェントの統計情報を保持する期間を指定します。デフォルトは 365 日です。
   - システム監視の保持期間。システム最適化統計情報を保持する期間を指定します。デフォルトは 90 日です。
   - エージェント登録の保持期間。エージェント登録ログをデータベースに保持する期間を決定します。デフォルトは 1 日です。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

- 実行時間。データベースのメンテナンス・アクションが実行される時刻を指定します。デフォルトは 02:00 です。

> ヒント
>
> ベストプラクティスとして、データベースのサイズを削減し、最高のパフォーマンスを達成するために、スケジュールされたデータベースメンテナンスを有効にすることをお勧めします。単一の WEM 展開に複数のインフラストラクチャサービスがある場合は、1 つのインフラストラクチャサービスに対してのみ有効にします。

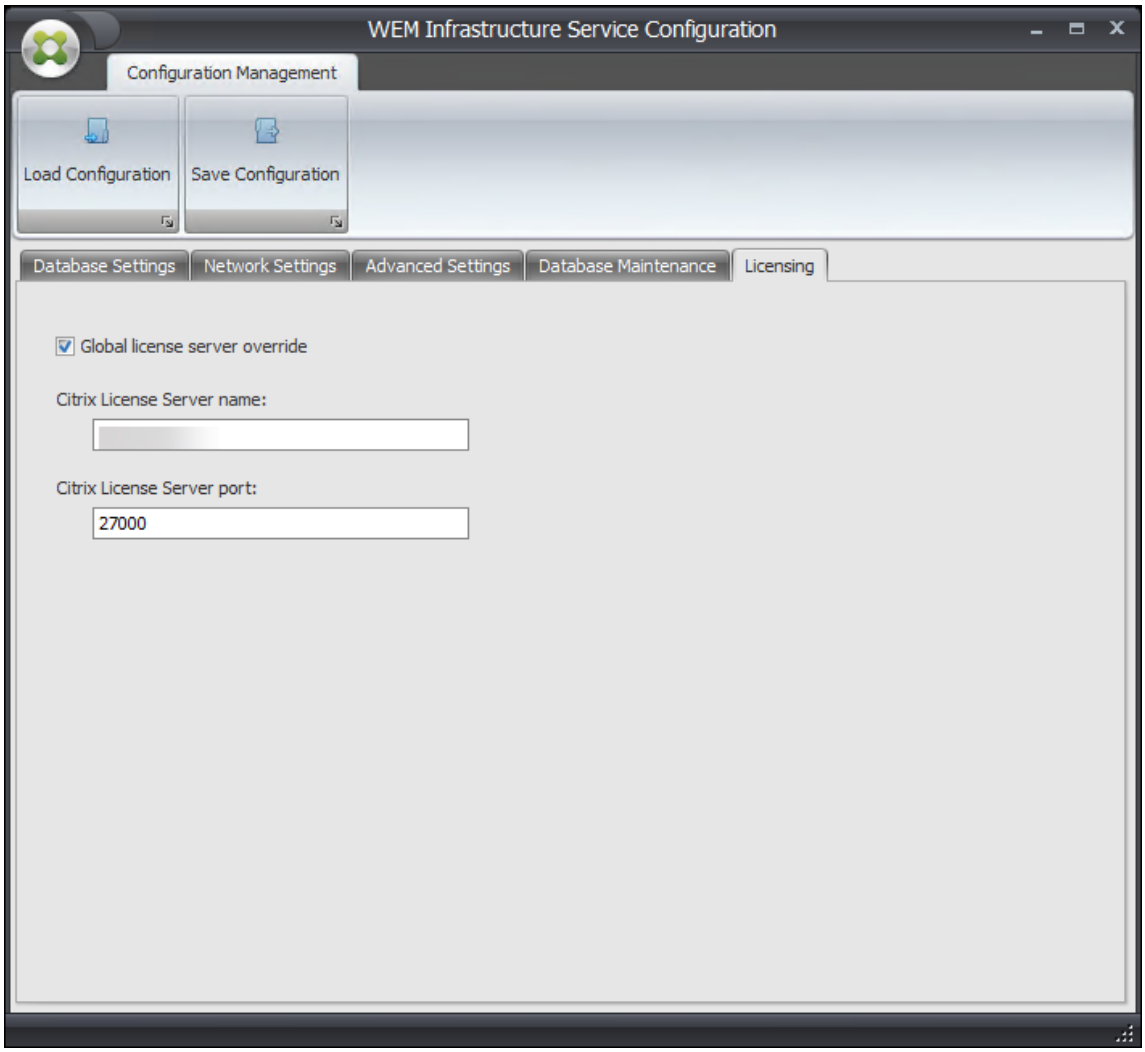


6. 必要に応じて、［ライセンス］タブを使用して、インフラストラクチャサービスの構成中に Citrix ライセンスサーバーを指定できます。接続していない場合は、管理コンソールが新しい Workspace Environment Management データベースに初めて接続するときに、管理コンソールリボンの［バージョン情報］タブに Citrix ライセンスサーバーの資格情報を入力する必要があります。いずれの場合も、Citrix ライセンスサーバーの情報は、データベース内の同じ場所に保存されます。

   - グローバルライセンスサーバの上書き。Workspace Environment Management で使用される

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

Citrix ライセンスサーバーの名前を入力するには、このオプションを有効にします。ここで入力した情報は、Workspace Environment Management データベースにすでに存在する Citrix ライセンスサーバー情報よりも優先されます。



インフラストラクチャサービスを適切に設定したら、[構成の保存] をクリックしてこれらの設定を保存し、[インフラストラクチャサービス構成] ユーティリティを終了します。

管理コンソール

June 1, 2023

管理コンソールのインストール

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

> 注:
>
> Citrix StoreFront で公開されているリソースを管理コンソールから Workspace Environment Management でアプリケーションショートカットとして割り当てる場合は、管理コンソールマシンとエージェントホストマシンに Windows 向け Citrix Workspace アプリがインストールされていることを確認します。詳細については、「システム要件」を参照してください。

管理者コンソール環境で **Citrix Workspace Environment Management Console.exe** を実行します。

次の引数を使用して、インストールをカスタマイズできます。

AgentPort: 管理コンソールのセットアップは、エージェントネットワークトラフィックがブロックされていないことを確認するために、ファイアウォールポートをローカルで開くスクリプトを実行します。この引数を使用すると、どのポートを開くかを設定できます。指定しない場合、デフォルトのポート 8286 が使用されます。受け入れられる値は、任意の有効なポートです。

adminPort: 管理コンソールのセットアップは、エージェントネットワークトラフィックがブロックされていないことを確認するために、ファイアウォールポートをローカルで開くスクリプトを実行します。この引数を使用すると、どのポートを開くかを設定できます。指定しない場合、デフォルトのポート 8284 が使用されます。受け入れられる値は、任意の有効なポートです。

これらのインストール引数の構文は次のとおりです。

```
"path:\\to\\Citrix Workspace Environment Management Console.exe "/v"
argument=\\"value\\""
```

管理コンソールのサイレントインストールまたはアップグレードを選択できます。構文は次のとおりです。

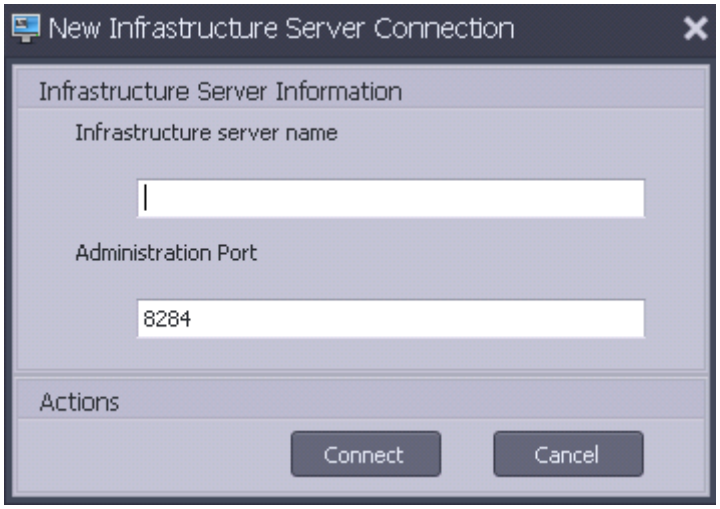
- .\setup.exe /s /v‘ “/qn CLOUD=0‘”
  - `setup.exe`。インストーラのファイル名に置き換えることができます。
  - `/s`。サイレントモードを示します。
  - `/v`。msiexec に引数を渡します。
  - `/qn`。インストール中にユーザーインターフェイスが表示されないことを示します。
  - `CLOUD=0`. オンプレミスのデプロイを示します。
- 例:
  - .\Citrix Workspace Environment Management Console.exe /s /v‘ “/qn CLOUD=0‘”

インフラストラクチャ・サーバ接続の作成

[スタート] メニューで、[**Citrix] > [Workspace Environment Management] **[WEM 管理コンソール] を選択します。デフォルトでは、管理コンソールは切断状態で起動します。

リボンで、[接続] をクリックして [新規インフラストラクチャサーバー接続] ウィンドウを開きます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

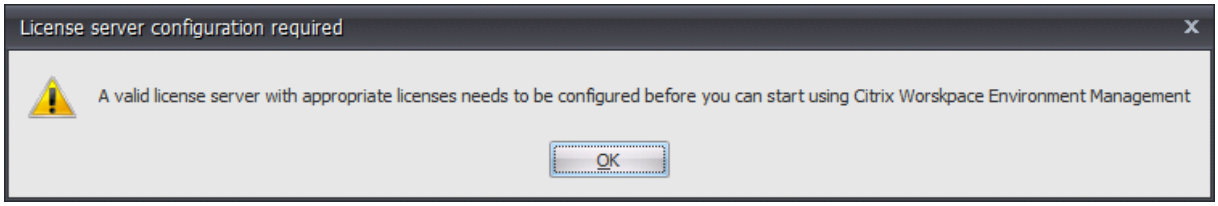


次の値を入力し、[**Connect**] をクリックします。

インフラストラクチャサーバー名。Workspace Environment Management インフラストラクチャサーバーの名前。入力したとおりに管理コンソール環境から解決する必要があります。

管理ポート。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポート。

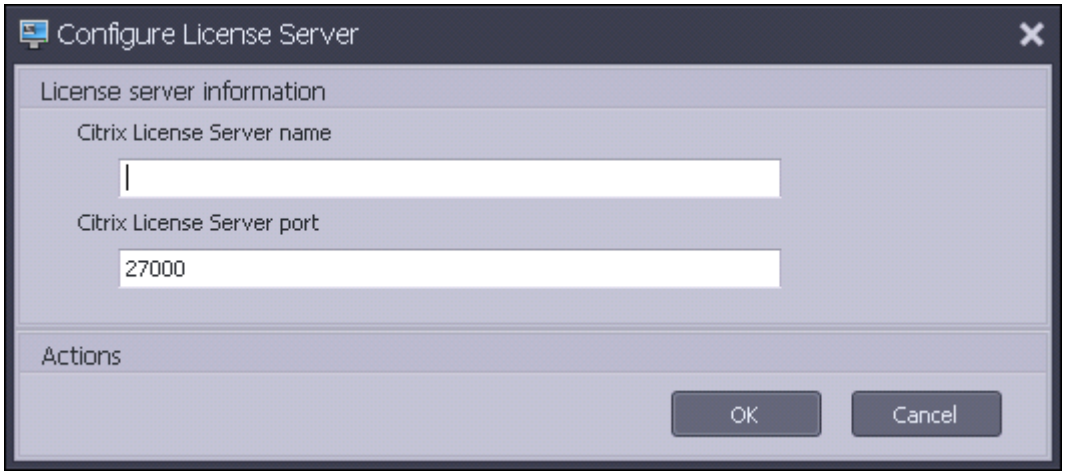
新しいデータベースに初めて接続すると、有効なライセンスを持つ Citrix ライセンスサーバーがまだ構成されていないため、次のメッセージが表示されます。



ライセンスサーバーを使用したデータベースの構成

ライセンスサーバーを使用してデータベースを構成するには、管理コンソールリボンで [バージョン情報] をクリックし、[ライセンスサーバーの構成] をクリックして、Citrix ライセンスサーバーの詳細を入力します。Citrix ライセンスサーバーのアドレスは、管理コンソール環境から入力されたとおりに解決される必要があります。

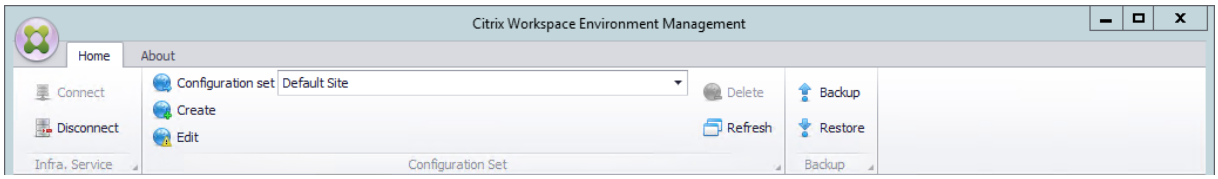
© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



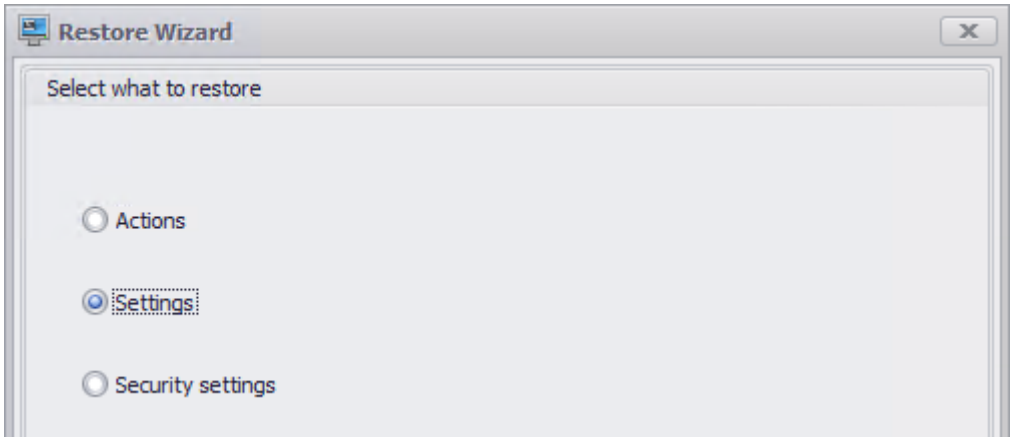
クイックスタート設定の読み込み

Workspace Environment Management には、Workspace Environment Management データベースを事前構成するために使用できる XML ファイルが含まれています。この XML ファイルは、概念証明をすぐに準備できます。XML ファイルは、Workspace Environment Management インストーラパッケージの「構成テンプレート」フォルダで提供されます。

クイックスタート設定ファイルをインポートするには、[ホーム] リボンで [復元] をクリックします。



復元ウィザードで、[設定] を選択し、[次へ] をクリックします。



復元ウィザードで、クイックスタート設定ファイルを含むフォルダ「構成テンプレート」を選択し、すべての設定タイプを選択します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

エージェント

June 1, 2023

エージェントのインストールと構成

> 注:
>
> - Workspace Environment Management (WEM) エージェントをインフラストラクチャサーバーにインストールしないでください。
> - WEM エージェントと管理コンソールを同じマシンにインストールしないでください。
> - 管理コンソールから WEM のアプリケーションショートカットとして Citrix StoreFront ストアに公開されているリソースを割り当てる場合は、管理コンソールとエージェントホストマシンに Windows 向け Citrix Workspace アプリがインストールされていることを確認してください。詳しくは、「システム要件」を参照してください。

手順 **1:** グループポリシーを構成する **(**オプション**)**

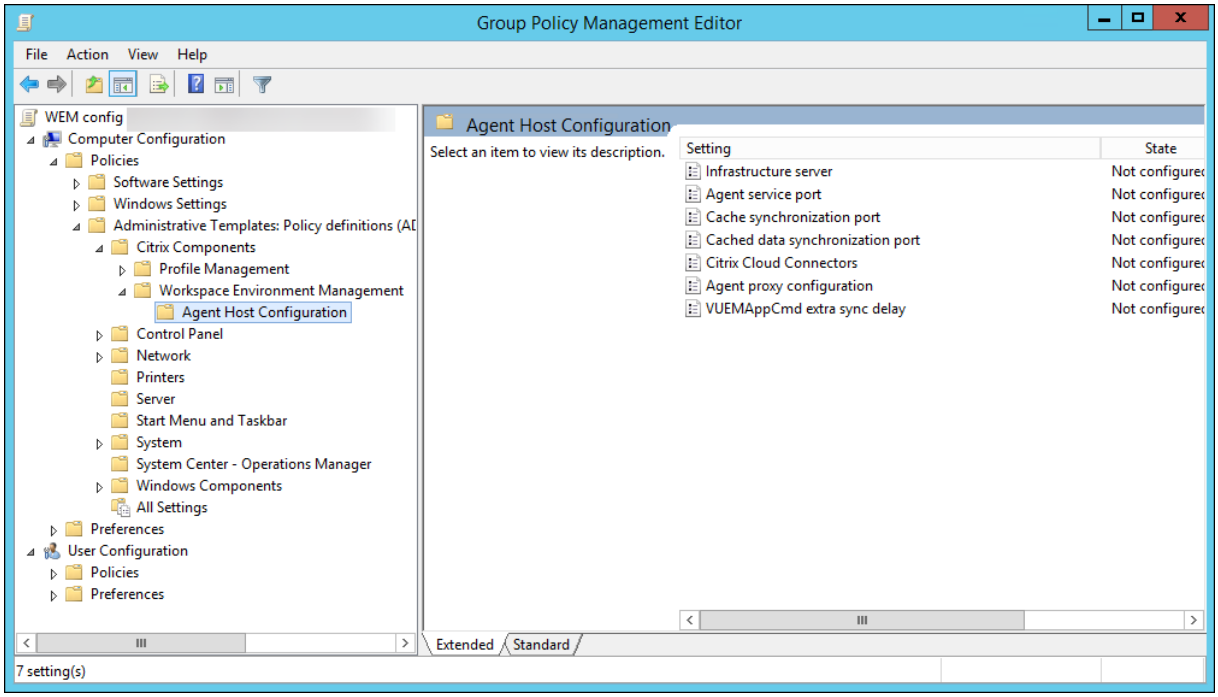
オプションで、エージェントグループポリシー管理用テンプレートを使用して、エージェントのグループポリシーを構成するように選択できます。WEM インストールパッケージには、このテンプレートが含まれています。テンプレートファイルは、.admx ファイルと言語固有の.adml ファイルに分割されます。ドメインコントローラーでグループポリシーを構成することをお勧めします。

エージェント・ホスト構成ポリシーを追加するには、次の手順を実行します。

1. WEM インストールパッケージに付属する **Agent Group Policies** フォルダを WEM ドメインコントローラにコピーします。
2. .admx ファイルを追加します。
   a) [エージェントグループポリシー**] > [ADMX**] フォルダに移動します。
   b) 2 つのファイル（*Citrix*Workspace Environment Management エージェントホスト構成.admx と CitrixBase.admx**）をコピーします。
   c) <`C:\Windows`>`\PolicyDefinitions`フォルダに移動して、ファイルを貼り付けます。
3. .adml ファイルを追加します。
   a) [エージェントグループポリシー**] > [ADMX] > [en-US]** フォルダに移動します。
   b) 2 つのファイル（*Citrix*Workspace Environment Management エージェントホスト構成.adml と CitrixBase.adml**）をコピーします。
   c) <`C:\Windows`>`\PolicyDefinitions\en-US`フォルダに移動して、ファイルを貼り付けます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

グループポリシー管理エディターを使用して、次の設定で GPO を構成します。



インフラストラクチャサーバー。WEM インフラストラクチャサーバーのアドレス。インフラストラクチャサービスがインストールされているマシンの名前または IP アドレスを入力します。

エージェントサービスポート。エージェントがインフラストラクチャ・サーバに接続するポート。エージェントサービスポートは、インフラストラクチャサービスの構成時にエージェントサービスポートに対して構成したポートと同じである必要があります。指定しない場合、ポートはデフォルトで 8286 になります。

キャッシュされたデータ同期ポート。(Workspace Environment Management 1912 以降に適用可能。Workspace Environment Management 1909 以前のキャッシュ同期ポートを置き換えます。) エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続し、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバと同期させるポート。キャッシュされたデータ同期ポートは、インフラストラクチャサービスの構成中にキャッシュデータ同期ポート（**WEM Infrastructure Service Configuration > Network Settings**）に設定したポートと同じである必要があります。ポートのデフォルトは 8288 で、`CachedDataSyncPort`コマンドライン引数に対応します。または、WEM エージェントのサイレントインストールでコマンドラインオプションを使用してポートを指定することもできます。例:

- `citrix_wem_agent_bundle.exe /quiet CachedDataSyncPort=9000`

Citrix Cloud Connector。オンプレミスバージョンの WEM には適用されません。[未構成] の状態のままにします。

エージェントプロキシ構成。オンプレミスバージョンの WEM には適用されません。[未構成] の状態のままにします。

VuemAppCmd 余分な同期遅延です。Citrix Virtual Apps and Desktops の公開リソースが開始されるまでにエージェントアプリケーションランチャー（VUEMAppCmd.exe）が待機する時間をミリ秒単位で指定します。これに

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

より、必要なエージェントの作業が最初に完了します。推奨値は 100 ～200 です。デフォルト値は 0 です。

手順 **2:** エージェントをインストールする

> 重要:
>
> .NET Framework はエージェントのインストール中に自動的にインストールできますが、エージェントをインストールする前に手動でインストールすることをお勧めします。そうしないと、エージェントのインストールを続行するにはマシンを再起動する必要があり、完了までに時間がかかることがあります。

Citrix Workspace Environment Management エージェントは、ユーザー環境で実行できます。また、コマンドラインを使用してエージェントをインストールすることもできます。デフォルトでは、エージェントは、オペレーティングシステムに応じて、次のいずれかのフォルダにインストールされます。

- C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent (64-bit OS)
- C:\Program Files\ Citrix\Workspace Environment Management Agent (32-bit OS)

エージェントを対話形式でインストールするには、次の手順を実行します。

1. マシンで **Citrix Workspace Environment Management Agent.exe** を実行します。
2. **[**ライセンス契約条件に同意する**]** を選択し、**[**インストール**]** をクリックします。
3. [ようこそ] ページで、[次へ] をクリックします。

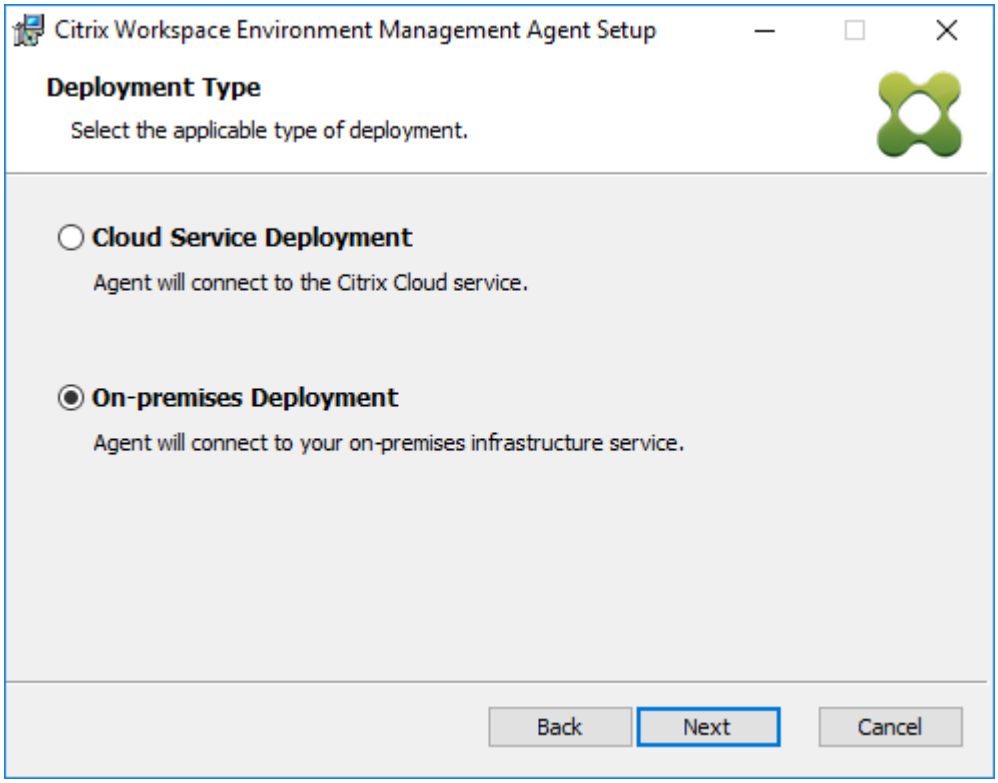
   > 注:
   >
   > [ようこそ] ページが表示されるまでに時間がかかる場合があります。この遅延は、必要なソフトウェアが不足しており、バックグラウンドでインストールされている場合に発生します。

4. [インストール先フォルダー] ページで、**[**次へ**]** をクリックします。

   - デフォルトでは、宛先フォルダフィールドにはデフォルトのフォルダパスが自動的に入力されます。エージェントを別のフォルダーにインストールする場合は、**[**変更**]** をクリックしてフォルダーに移動し、**[**次へ**]** をクリックします。
   - WEM エージェントを既にインストールしている場合、宛先フォルダフィールドに既存のインストールフォルダパスが自動的に入力されます。

5. [展開の種類] ページで、適切な展開の種類を選択し、**[**次へ**]** をクリックします。この場合は、**[**オンプレミス展開**]** を選択します。

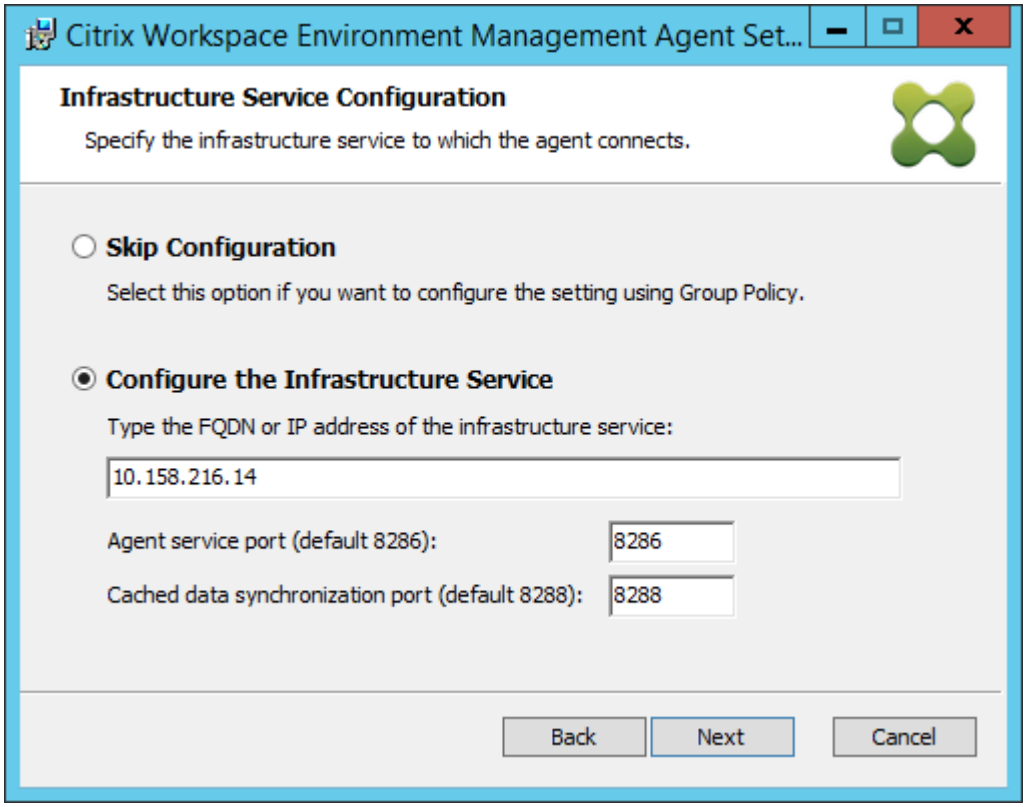
© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



6. [インフラストラクチャサービスの構成] ページで、エージェントが接続するインフラストラクチャサービスを指定し、[次へ] をクリックします。

   - 構成をスキップ。グループポリシーを使用して設定を既に構成している場合は、このオプションを選択します。
   - インフラストラクチャサービスを構成します。インフラストラクチャサービスの FQDN または IP アドレスを入力して、インフラストラクチャサービスを構成できます。
   - エージェントサービスポート。デフォルトでは、値は 8286 です。
   - キャッシュされたデータ同期ポート。デフォルトでは、値は 8288 です。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



7. [詳細設定] ページで、エージェントの詳細設定を構成し、[次へ] をクリックします。

   - 代替キャッシュの場所 **(**オプション**)**。エージェントキャッシュの代替場所を指定できます。[参照] をクリックして、該当するフォルダに移動します。または、レジストリを使用してこれを行うこともできます。そのためには、まず Citrix WEM エージェントホストサービスを停止し、次のレジストリキーを変更します。

     HKEY_LOCAL_MACHINE\ SYSTEM\ currentControlSet\ コントロール\ Norskale\ エージェントホスト

     名前:AgentCache 代替ロケーション

     種類：REG_SZ

     値: 空

     既定では、この値は空です。既定のフォルダは`<WEM agent installation folder path>\Local Databases Set`です。必要に応じて、別のフォルダパスを指定してください。変更を有効にするには、Citrix WEM エージェントホストサービスを再起動します。変更が反映されると、**LocalAgentCache.db** と **LocalAgentDatabase.db** のファイルがフォルダーに表示されます。

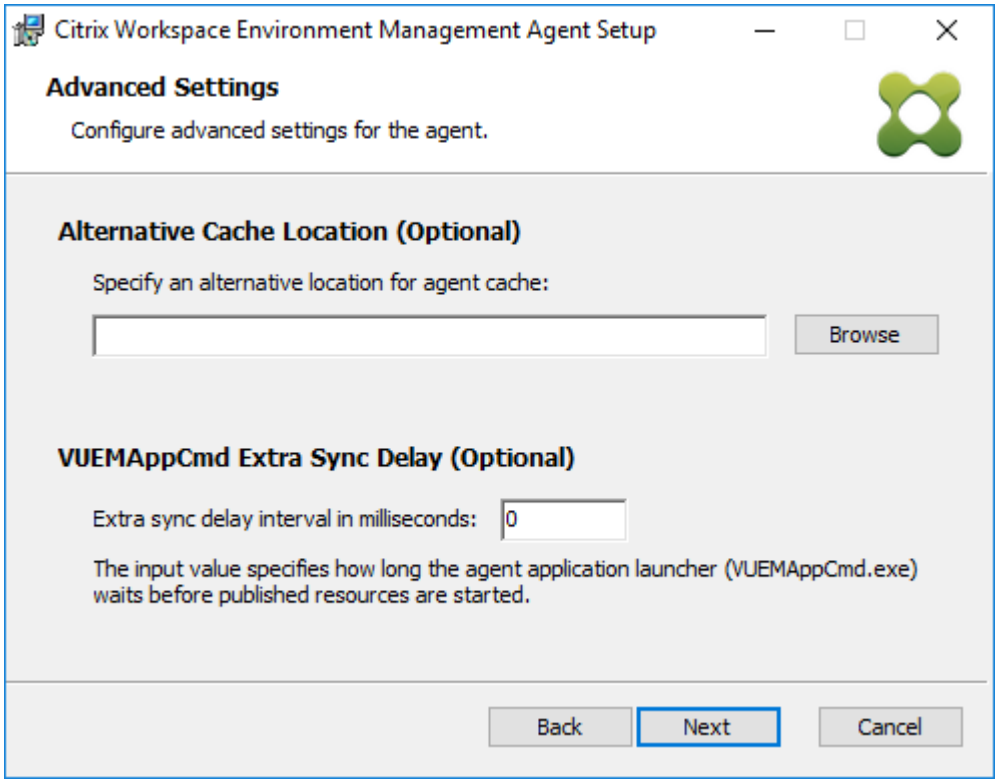
     > 注意：
     >
     > レジストリエディターの使用を誤ると、深刻な問題が発生する可能性があり、オペレーティングシステムの再インストールが必要になる場合もあります。レジストリエディターの誤用による障害

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

> に対して、Citrix では一切責任を負いません。レジストリエディターは、お客様の責任と判断の範囲でご使用ください。また、レジストリファイルのバックアップを作成してから、レジストリを編集してください。

- **VUEMAppCmd** による同期遅延の追加（オプション）。エージェントアプリケーションランチャー (VUEMAppCmd.exe) が公開リソースを開始する前に待機する時間を指定できます。この遅延を設定すると、必要なエージェント作業が最初に完了します。デフォルト値は 0 です。

> 注:
>
> 追加の同期遅延間隔に入力する値は、0 以上の整数である必要があります。



8. [インストールの準備完了] ページで、[インストール] をクリックします。
9. [完了] をクリックして、インストールウィザードを終了します。

または、WEM エージェントのサイレントインストールを選択することもできます。これを行うには、次のコマンドラインを使用します。

- `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe"/quiet Cloud=0`

> ヒント:
>
> - オンプレミスの WEM 展開で実行されているエージェントの場合は、`Cloud=0`と入力します。WEM サービス展開で実行されているエージェントの場合は、`Cloud=1`と入力します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

> - ログファイルを参照して、エージェントのインストールのトラブルシューティングを行うこともできます。既定では、インストール中に発生したすべてのアクションを記録するログファイルは「%TEMP%」で作成されます。`/log log.txt`コマンドを使用して、ログファイルを保存する特定の場所を指定できます。

コマンドラインオプションを使用して、カスタム引数を指定することもできます。これにより、インストールプロセス中にエージェントとシステム設定をカスタマイズできます。詳細については、「知っておきましょう」を参照してください。

インストール後、エージェントは *Citrix WEM* エージェントホストサービス（旧 Norskale エージェントホストサービス）および *Citrix WEM* エージェントユーザーログオンサービスとして実行されます。エージェントはアカウント *localSystem* として実行されます。このアカウントの変更はサポートされていません。このサービスには、ローカルシステム権限としてログオンする必要があります。

ステップ **3:** マシンを再起動してインストールを完了する

前提条件と推奨事項

WEM エージェントが正常に動作するようにするには、次の前提条件と推奨事項に注意してください。

前提条件

次の要件が満たされていることを確認します。

- Windows サービスシステムイベント通知サービスは、起動時に自動的に開始されるように構成されています。
- **WEM** エージェントサービス **Citrix WEM** エージェントホストサービスと **CitrixWEM** ユーザーログオンサービスは、起動時に自動的に開始するように構成されています。
- エージェントキャッシュは、可能な限り、永続的な場所に常駐します。非永続キャッシュの場所を使用すると、潜在的なキャッシュ同期の問題、過剰なネットワークデータ使用量、パフォーマンスの問題が発生する可能性があります。

推奨事項

エージェントを正常に展開するには、このセクションの推奨事項に従ってください。

- たとえば、ログオンスクリプトや起動スクリプトを使用して、**Citrix WEM** エージェントホストサービスを手動で操作しないでください。**Citrix WEM** エージェントホストサービスの停止や再起動などの操作により、Netlogon サービスの動作が停止し、他のアプリケーションで問題が発生する可能性があります。
- UI モードまたは CMD モードのエージェントを起動するには、ログオンスクリプトを使用しないでください。そうしないと、一部の機能が動作しない可能性があります。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

エージェントの起動動作

- **Citrix WEM** エージェントホストサービスは、サービスの開始後に、グループポリシーを使用して構成された Cloud Connector 設定を自動的にリロードします。
- **Citrix WEM** エージェントユーザーログオンサービスは、最初のログオン時にエージェントホストサービスが開始されない場合、**Citrix WEM** エージェントホストサービスを自動的に開始します。この動作により、ユーザー構成が適切に処理されます。
- **Citrix WEM Agent Host Service** は、起動時に次のローカルデータベースファイルを自動的にチェックします。`LocalAgentCache.db`および`LocalAgentDatabase.db`。仮想マシンがプロビジョニングされ、ローカルデータベースファイルがベースイメージからのものである場合、データベースファイルは自動的にパージされます。
- **Citrix WEM** エージェントホストサービスが起動すると、エージェントのローカルキャッシュが最近更新されたことが自動的に検証されます。キャッシュが構成された 3 つ以上のキャッシュ同期時間間隔で更新されていない場合、キャッシュはただちに同期されます。たとえば、デフォルトのエージェントキャッシュの同期間隔が 30 分であるとします。キャッシュが過去 60 分間に更新されなかった場合は、**Citrix WEM** エージェントホストサービスの開始直後に同期されます。
- インストール中、WEM エージェントインストーラは、Windows サービスシステムイベント通知サービスを自動的に開始するように構成します。
- WEM エージェントインストーラは、WEM エージェントのアップグレードが完了した後、Netlogon サービスを自動的に開始します。

エージェント・キャッシュ・ユーティリティ・オプション

Citrix WEM エージェントホストサービスは、更新とキャッシュ同期の設定を自動的に処理します。エージェントキャッシュユーティリティは、設定をすぐに更新してキャッシュを同期する必要があるシナリオでのみ使用します。

コマンドラインを使用して、エージェントインストールフォルダで *AgentCacheUtility.exe* を実行します。実行可能ファイルは、次のコマンドライン引数を受け入れます。

- `-help`: 許可される引数のリストを表示します。
- `-RefreshCache` または `-r`: キャッシュビルドまたは更新をトリガーします。
- `-RefreshSettings` または `-S`: エージェントホストの設定を更新します。
- `-Reinitialize` または `-I`: `-RefreshCache` オプションと一緒に使用すると、エージェントキャッシュを再初期化します。

コマンドラインの使用方法の詳細については、次の例を参照してください。

- エージェントホスト設定のリフレッシュ:

  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshSettings`

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

- エージェントホスト設定とエージェントキャッシュを同時に更新する：

  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshSettings -RefreshCache`

- エージェントキャッシュを再初期化します。

  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshCache -Reinitialize`

ヒント

エージェント実行可能ファイルは、「エージェント設定」および「システム設定」セクションで説明されているカスタム引数を受け入れます。

エージェントの設定

WEM エージェントの設定には、次のものがあります。

- **AgentLocation**。エージェントのインストール場所を指定できます。有効なフォルダパスを指定します。
- **AgentCacheLocation**。エージェントキャッシュの代替場所を指定できます。構成されている場合、エージェントローカルキャッシュファイルは、エージェントインストールフォルダーではなく、指定された場所に保存されます。
- **AgentCacheSyncPort**。エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続し、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバと同期させるポートを指定できます。
- エージェントサービスポート。エージェントがインフラストラクチャサーバに接続するポートを指定できます。
- **Infrastructure Server**。インフラストラクチャサービスが実行されているインフラストラクチャサーバーの FQDN または IP アドレスを指定できます。
- **VUEMAppCmdDelay**。エージェントアプリケーションランチャー (VUEMAppCmd.exe) が Citrix Virtual Apps and Desktops の公開リソースを開始する前に待機する時間を指定できます。デフォルト値は 0 (ミリ秒) です。追加の同期遅延間隔に入力する値は、0 以上の整数である必要があります。

次のことに注意してください：

- コマンドラインを使用して設定を構成する場合、WEM エージェントインストーラは構成された設定を使用します。
- コマンドラインで設定を行わず、以前に構成された設定がある場合、インストーラーは以前に構成された設定を使用します。
- コマンドラインで設定を行わず、以前に構成された設定がない場合、インストーラーは既定の設定を使用します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

システム設定

エージェントホストマシンに関連付けられているシステム設定には、次のものがあります。

- **GpNetworkStartTimeoutPolicyValue**。インストール中に作成された GPNetworkStartTimeoutPolicyValue レジストリキーの値を秒単位で構成できます。この引数は、ログオン時のポリシー処理中に、グループポリシーがネットワーク可用性通知を待機する時間を指定します。引数は、1 (最小) から 600 (最大) の範囲の任意の整数を受け入れます。デフォルトでは、この値は 120 です。
- **syncForegroundPolicy**。エージェントのインストール時に SyncForegroundPolicy レジストリ値を構成できます。このポリシー設定は、グループポリシー処理が同期かどうかを決定します。受け入れられる値: 0、1 値が設定されていない場合、または値を 0 に設定すると、Citrix WEM エージェントユーザーログオンサービスはログオンを遅延せず、ユーザーのグループポリシー設定はバックグラウンドで処理されます。値を 1 に設定すると、ユーザーのグループポリシー設定の処理が完了するまで、Citrix WEM Agent ユーザーログオンサービスはログオンを遅らせます。デフォルトでは、値はインストール中に変更されません。

  > 重要:
  >
  > グループポリシー設定がバックグラウンドで処理される場合、すべてのポリシー設定が処理される前に Windows シェル (Windows エクスプローラ) が起動することがあります。そのため、一部の設定は、ユーザーが初めてログオンしたときに有効にならない場合があります。ユーザーが初めてログオンしたときにすべてのポリシー設定を処理する場合は、値を 1 に設定します。

- **WaitForNetwork**。インストール時に作成された **WaitForNetwork** レジストリキーの値を秒単位で構成できます。この引数は、ネットワークが完全に初期化されて利用可能になるまで、エージェントホストが待機する時間を指定します。引数は、0 (最小) から 300 (最大) の範囲の任意の整数を受け入れます。デフォルトでは、この値は 30 です。

前の 3 つのキーを使用すると、Windows ログオン画面が表示される前に WEM エージェントサービスが開始されます。3 つのキーはすべて、インストール中に **HKEY_LOCAL_MACHINE\ SOFTWARE\ Microsoft\ Windows NT\ CurrentVersion\ Winlogon** の下に作成されます。また、これらのキーは、ログオン前にユーザー環境がインフラストラクチャサーバーアドレス GPO を受信することを確認します。Active Directory またはドメインコントローラーサーバーの応答が遅いネットワーク環境では、ログオン画面が表示されるまでの処理時間が長くなることがあります。影響を与えるには、**gpNetworkStartTimeOutPolicyValue** キーの値を最低 30 に設定することをお勧めします。

- **ServicesPipeTimeout**。ServiceSpipeTimeout レジストリキーの値を設定できます。キーは、インストール中に **HKEY_LOCAL_MACHINE\ SYSTEM\ CurrentControlSet\ Control\ Control** の下に作成されます。このレジストリキーは、サービスコントロールマネージャーが WEM エージェントサービスの状態に関するレポートを許可する前に遅延を追加します。この遅延により、ネットワークが初期化される前にエージェントサービスを起動しないようにすることで、エージェントが失敗するのを防ぎます。この引数は、ミリ秒単位の任意の値を受け入れます。指定しない場合、デフォルト値の 60000（60 秒）が使用されます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

> 注:
>
> コマンドラインを使用して上記の設定を構成しない場合、WEM エージェントインストーラーはインストール中にそれらを処理しません。

例

次のコマンドライン形式を使用して設定を構成できます。

- `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe"<key=value>`

例:

- WEM エージェントのサイレントインストールまたはアップグレードを選択する
  - `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe"/quiet Cloud=0`
- ユーザーログオンネットワークの待機時間を 60 秒に設定する
  - `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe"WaitForNetwork=60`

デプロイのスケールとサイズに関する考慮事項

June 1, 2023

Workspace Environment Management (WEM) は、大規模なエンタープライズ展開用に設計されています。WEM のサイジングとスケーラビリティを評価するときは、データベースのパフォーマンス、Active Directory セットアップ、ファイアウォールルールなどを考慮する必要があります。

WEM のスケーラビリティは、エージェントとユーザーの数に基づいています。利用可能なインフラストラクチャサーバが増えるほど、WEM がサポートできるエージェントとユーザが増えます。インフラストラクチャサーバーは、さまざまなバックエンドコンポーネント (SQL Server および Active Directory) とフロントエンドコンポーネント (管理コンソールおよびエージェント) を同期します。

インフラストラクチャサーバーが実行されているマシンが次の仕様を使用しているとします。

- 4 つの vCPU、8 GB RAM、および 80 GB の使用可能なディスク領域。

次の式を使用して、展開に必要なインフラストラクチャサーバーの数を計算できます。この式は、特定の顧客に関連する統計に基づいて開発されます。

- インフラストラクチャサーバ数 = (エージェント数/1,000) + (ユーザー数/3,000)

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

> 注:
>
> - NTLM 認証を使用するシナリオでは、Workspace Environment Management 2006 以前で特定のパフォーマンスの問題が観察されています。Kerberos 認証を使用する場合、これらの問題は発生していません。
> - Workspace Environment Management 2006 以降では、NTLM 認証と Kerberos 認証のパフォーマンス差は確認されていません。
> - WEM 2212 以降、エージェントは必要な場合にのみ構成データをダウンロードします。この拡張により、帯域幅の消費とインフラストラクチャサービスの負荷を最大 50% 削減できます。「新機能」を参照してください。メリットを享受できるように、エージェントを 2212 以降にアップグレードすることをお勧めします。

環境のアップグレード

June 1, 2023

はじめに

> 注:
>
> WEM 2212 以降、エージェントは必要な場合にのみ構成データをダウンロードします。この拡張により、帯域幅の消費とインフラストラクチャサービスの負荷を最大 50% 削減できます。「新機能」を参照してください。メリットを享受できるように、エージェントを 2212 以降にアップグレードすることをお勧めします。

Workspace Environment Management (WEM) の展開を新しいバージョンにアップグレードするには、最初に新しいマシンやサイトをセットアップする必要はありません。これはインプレースアップグレードと呼ばれます。

Workspace Environment Management 4.7 より前のバージョンからバージョン 1808 以降へのインプレースアップグレードはサポートされていません。これらの以前のバージョンからアップグレードするには、まずバージョン 4.7 にアップグレードしてから、ターゲットバージョンにアップグレードする必要があります。詳細については、次の表を参照してください。

ライセンス	変更後は以下の通り	インプレースアップグレードのサポート
4.6 以前	4.7	はい
4.6 以前	1808 以降	いいえ（ターゲットバージョンにアップグレードする前にバージョン 4.7 にアップグレードします）

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

ライセンス	変更後は以下の通り	インプレースアップグレードのサポート
4.7	1808 以降	はい

> 注:
>
> - WEM データベース、インフラストラクチャサービス、および管理コンソールは、すべて同じバージョンである必要があります。
> - 2006 年より前の WEM 展開を 2209 以降にアップグレードする場合は、次の点に注意してください。データベースのアップグレードが失敗しないように、最初に 2103 にアップグレードしてから 2209 以降にアップグレードしてください。

Workspace Environment Management コンポーネントは、次の順序でアップグレードする必要があります。

1. インフラストラクチャサービス
2. データベース
3. インフラストラクチャサービスの再構成
4. 管理コンソール
5. エージェント

ステップ **1:** インフラストラクチャサービスをアップグレードする

Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスをアップグレードするには、インフラストラクチャサーバーで新しい Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスセットアップを実行します。それ以外の場合、アップグレード手順はインストール手順と同じです。

インフラストラクチャ・サーバのオペレーティング・システムをアップグレードする

インフラストラクチャサーバーのオペレーティングシステムをアップグレードするには、まず、新しいオペレーティングシステムを使用する別のマシンにインフラストラクチャサービスをインストールし、同じインフラストラクチャサービス設定で手動で構成してから、「古い」インフラストラクチャサーバーを切断します。

> 注:
>
> Windows Server 2022 にアップグレードした後、WEM インフラストラクチャサービスが応答しないことがあります。回避策として、インフラストラクチャサービスを再インストールし、WEM データベースに接続するように設定します。

手順 **2:** データベースをアップグレードする

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

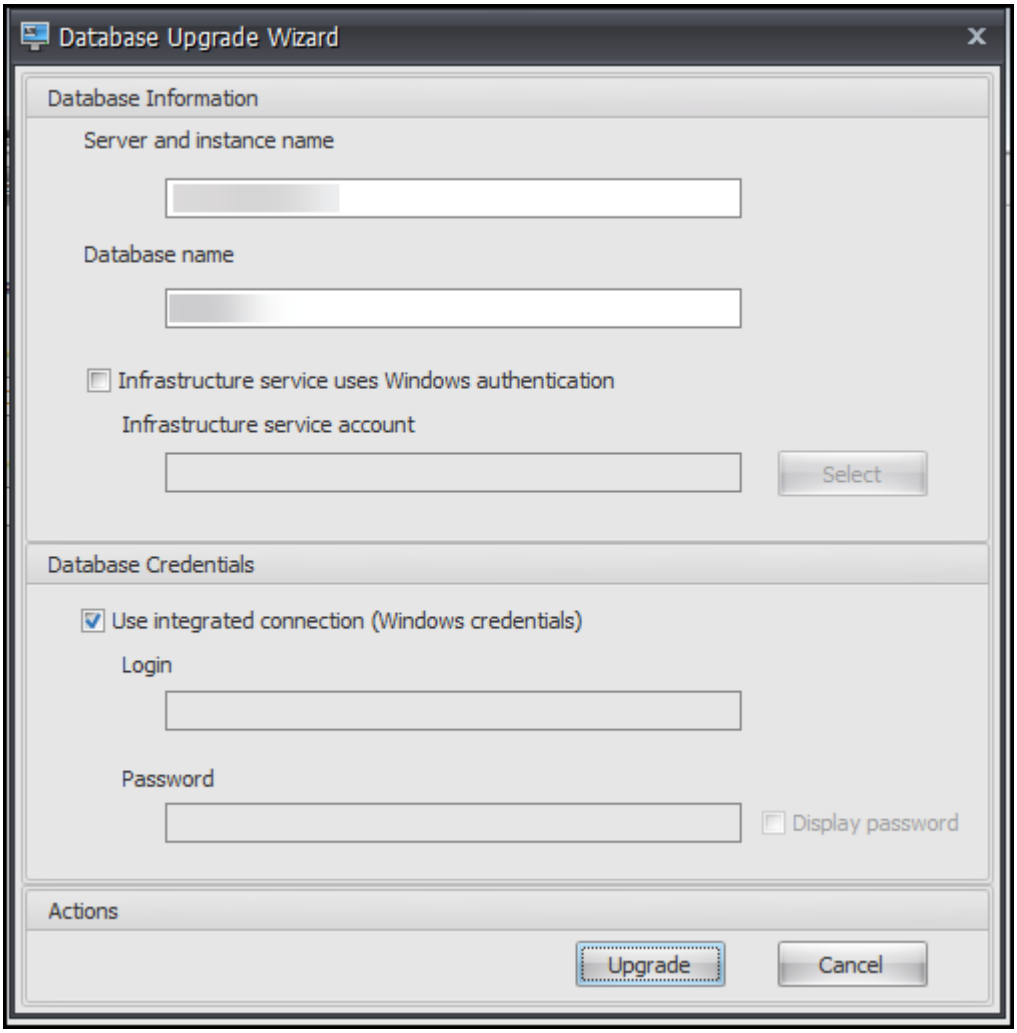
> 重要:
>
> データベースのアップグレード処理は元に戻せません。アップグレードプロセスを開始する前に、有効なデータベースバックアップがあることを確認してください。
>
> ヒント:
>
> Workspace Environment Management PowerShell SDK モジュールを使用してデータベースをアップグレードすることもできます。SDK のドキュメントについては、Citrix Developer ドキュメントを参照してください。

WEM データベース管理ユーティリティを使用してデータベースを更新します。これは、インフラストラクチャサービスのインストールプロセス中に Workspace Environment Management インフラストラクチャサーバーにインストールされます。

> 注:
>
> SQL Server で Windows 認証を使用している場合は、sysadmin アクセス許可を持つ ID でデータベースアップグレードユーティリティを実行します。

1. ［スタート］メニューから［**Citrix**］**>**［**Workspace Environment Management**］**>**［**WEM** データベース管理ユーティリティ］を選択します。
2. [データベースのアップグレード] をクリックします。
3. データベースアップグレードウィザードで、必要な情報を入力します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



- サーバー名とインスタンス名。データベースがホストされている SQL Server\ インスタンスのアドレス。インフラストラクチャサーバから入力したとおりに到達可能である必要があります。
- データベース名。アップグレードするデータベースの名前。
- インフラストラクチャサービスは **Windows** 認証を使用します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。この場合、インフラストラクチャサービスは VUEMuser SQL ユーザーアカウントを使用してデータベースに接続します。(VUEMuser SQL ユーザーアカウントは、インストールプロセス中に作成されます)。SQL インスタンスで混合モード認証が有効になっていることを確認します。

  選択すると、インフラストラクチャサービスは Windows アカウントを使用してデータベースに接続します。この場合、選択する Windows アカウントに SQL インスタンスへのログインが既になっていない必要があります。つまり、インフラストラクチャサービスを実行するためにデータベースを作成するために使用したのと同じ Windows アカウントを使用しないでください。
- 統合接続を使用する。デフォルトではこのオプションが選択されています。このオプションを使用すると、ウィザードは、SQL Server に接続してデータベースを作成するために、ウィザードが実行されている ID の Windows アカウントを使用できます。この Windows アカウントにデータベースを作成す

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

るための十分な権限がない場合は、データベース管理ユーティリティを十分な権限を持つ Windows アカウントとして実行するか、このオプションをオフにして十分な権限を持つ SQL アカウントを入力します。

4. [**Upgrade**] をクリックして、データベースのアップグレードプロセスを開始します。データベースのアップグレードが正常に完了したら、ウィザードを終了します。

データベースのアップグレード中にエラーが発生した場合は、Workspace **Environment Management** インフラストラクチャサービスのインストールフォルダにある **VUEM** データベース管理ユーティリティログファイルを確認します。

ステップ **3:** インフラストラクチャサービスを再構成する

WEM インフラストラクチャサービス構成ユーティリティを使用してインフラストラクチャサービスを再構成します。インフラストラクチャサービスの設定を参照してください。

手順 **4:** 管理コンソールをアップグレードする

管理コンソールで構成されたすべての Workspace Environment Management 設定は、データベースに保存され、アップグレード中に保持されます。

管理コンソールをアップグレードするには、管理コンソールのセットアップ実行ファイルを実行します。それ以外の手順はインストール手順と同じです。

ステップ **5:** エージェントをアップグレードする

> 重要:
>
> - エージェントをアップグレードする前に、ログインしているユーザーがいないことを確認します。これにより、アップグレードプロセスでそのマシン上のファイルを変更できるようになります。
> - WEM インフラストラクチャサービスのバージョンは、WEM エージェントのバージョン以上である必要があります。最新の機能を使用できるように、エージェントを最新バージョンにアップグレードすることをお勧めします。

エージェントをアップグレードするには、ターゲットマシンで新しいエージェントセットアップ実行可能ファイルを実行します。

ユーザーエクスペリエンス

June 1, 2023

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

管理コンソールの起動

1. ［スタート］メニューから、［**Citrix**］ **>** ［**Workspace Environment Management**］ **>** ［**WEM** 管理コンソール］の順に選択します。デフォルトでは、管理コンソールは切断状態で起動します。
2. 管理コンソールのリボンで、[接続] をクリックします。
3. [新しいインフラストラクチャサーバ接続] ウィンドウで、インフラストラクチャサーバのアドレスを入力し、[接続] をクリックします。

インストールの構成

管理コンソールで、次の操作を行います。

1. 左下のペインでメニュー項目をクリックすると、その上のペインにサブセクションが表示されます。
2. サブセクション項目をクリックして、メインウィンドウ領域に適切なコンテンツを設定します。
3. 必要に応じて設定を変更します。使用できる設定の詳細については、『ユーザインタフェースリファレンス』を参照してください。

リボン

June 1, 2023

[ホーム] タブ

[ホーム] タブには、次のコントロールがあります。

接続。管理コンソールを指定されたインフラストラクチャサーバーに接続します。[新しいインフラストラクチャサーバ接続] ダイアログで、次のように指定します。

- インフラストラクチャサーバー名。接続するインフラストラクチャサーバーの名前。
- 管理ポート。インフラストラクチャサービスに接続するポート。デフォルト値の 8284 があらかじめ入力されています。

切断。管理コンソールを現在のインフラストラクチャサービスから切断します。これにより、管理者は、1 つのコンソールから切断して別のコンソールに接続することで、複数のインフラストラクチャサービスを管理できます。

構成セット。Workspace Environment Management (WEM) サイト (構成セット) から別のサイト (構成セット) に切り替えます。

作成。「構成セットの作成」ウィンドウを開きます。複数の WEM サイト（構成セット）を設定できます。

- **Name**：リボンの構成セットリストに表示されるサイト (構成セット) 名。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

- **[説明]**。サイトエディションのウィンドウに表示されるサイト (構成セット) の説明。
- サイトの状態。サイト (構成セット) が [有効] か [無効] かを切り替えます。[無効] の場合、WEM エージェントはサイト (構成セット) に接続できません。

編集。[構成セットの編集] ウィンドウを開きます。このウィンドウには、[構成セットの作成] ウィンドウと同様のオプションがあります。

[削除]。サイト (構成セット) を削除します。WEM が機能するためには「デフォルトサイト」が必要なため、削除できません。ただし、名前を変更することはできます。

更新。サイト (構成セット) リストを更新します。

> 注:
>
> 別の管理コンソールからサイトを作成しても、一覧は自動的に更新されません。

バックアップ。[バックアップ] ウィザードを開き、現在の設定のバックアップコピーを WEM 管理コンソールマシンに保存します。アクション、設定、セキュリティ設定、および Active Directory (AD) オブジェクトをバックアップできます。

- アクション。選択した WEM アクションをバックアップします。各タイプのアクションは、個別の XML ファイルとしてエクスポートされます。
- 設定。選択した WEM 設定をバックアップします。各タイプの設定は、個別の XML ファイルとしてエクスポートされます。
- **[** セキュリティ設定**]**。[セキュリティ] タブにあるすべての設定をバックアップします。各タイプの規則は、個別の XML ファイルとしてエクスポートされます。構成セットに関連付けられている次の項目をバックアップできます。
  - **AppLocker** ルールの設定
  - 特権昇格の設定
- **AD** オブジェクト。WEM が管理するユーザー、コンピューター、グループ、および組織単位をバックアップします。バックアップウィザードでは、バックアップする AD オブジェクトの種類を指定できます。AD オブジェクトには、次の 2 種類があります。
  - [ユーザー]。単一ユーザーおよびユーザー・グループ
  - マシン。単一のマシン、マシングループ、および OU
- 構成セット。選択した WEM 構成セットをバックアップします。各タイプの構成セットは個別の XML ファイルとしてエクスポートされます。バックアップできるのは、現在の構成セットだけです。構成セットに関連付けられている次の項目をバックアップできます。
  - アクション
  - AppLockers

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

  - 割り当て (アクションとアクショングループに関連する)
  - フィルター
  - ユーザー
  - 設定 (WEM 設定)

  次の項目はバックアップできません。

  - マシンに関連する AD オブジェクト（単一マシン、マシングループ、および OU）
  - データのモニタリング（統計およびレポート）
  - 構成セットに登録されているエージェント

復元。復元ウィザードを開き、以前にバックアップした WEM サービス設定に戻します。プロンプトが表示されたら、バックアップコピー (.XML ファイル) を含む適切なフォルダを選択します。

- **[** セキュリティ設定**]**。[セキュリティ] タブにあるすべての設定を復元します。バックアップファイル内の設定は、現在の構成セットの既存の設定と置き換えられます。[セキュリティ] タブに切り替えるか、[セキュリティ] タブを更新すると、無効なアプリケーションセキュリティ規則が検出されます。これらのルールは自動的に削除されます。削除されたルールは、必要に応じてエクスポートできるレポートに一覧表示されます。[リストア] ウィザードでは、復元する対象を選択できます。

  - **AppLocker** ルールの設定
  - 特権昇格の設定
    * 既存の設定を上書きします。競合が発生した場合に、既存の権限昇格設定を上書きするかどうかを制御します。

  [アプリケーションセキュリティ規則の割り当ての確認] ダイアログで、[はい] または [いいえ] を選択して、復元ウィザードでアプリケーションセキュリティ規則の割り当てを処理する方法を指定します。

  - [はい] を選択すると、現在のサイトのユーザーおよびユーザーグループへのルール割り当ての復元が試行されます。再割り当ては、バックアップされたユーザーまたはグループが現在のサイトまたは AD に存在する場合のみ成功します。一致しないルールは復元されますが、割り当てられていないままになり、CSV 形式でエクスポートできるレポートダイアログに一覧表示されます。
  - [いいえ] を選択すると、バックアップ内のすべてのルールが復元され、サイトのユーザーおよびユーザーグループに割り当てられません。

- **AD** オブジェクト。バックアップした AD オブジェクトを既存のサイトに復元します。復元 ウィザードでは、インポートする AD オブジェクトを細かく制御できます。[復元する **AD** オブジェクトを選択**]** ページで、復元する AD オブジェクトと、既存の WEM AD オブジェクトを上書き（置き換える）かどうかを指定できます。

- 構成セット。バックアップされた構成セットを WEM に復元します。一度に復元できる構成セットは 1 つだけです。WEM 管理コンソールに、復元した構成セットが反映されるまでしばらく時間がかかることがあります。復元された構成セットを表示するには、リボンの「構成セット」(Configuration set) メニューから構成セットを選択します。同じ名前のコンフィギュレーションセットがすでに存在する場合は、コンフィギュレーショ

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

ンセットを復元するときに、WEM はその名前を自動的に<`configuration set name`>`_1`に変更します。

> 注:
>
> - 復元されたアクションは、既存のサイトアクションに追加されます。
> - 復元された設定は、既存のサイト設定を置き換えます。
> - 復元された AD オブジェクトは、復元ウィザードの [AD オブジェクト] ページで [上書きモード] を選択したかどうかに応じて、既存のサイト AD オブジェクトに追加または置換されます。
> - [上書き] モードを選択した場合、復元プロセスが開始される前に既存のすべての AD オブジェクトが削除されます。

移行。移行ウィザードを開き、グループポリシーオブジェクト (GPO) の zip バックアップを WEM に移行します。

> 重要:
>
> - 移行ウィザードでは、WEM がサポートしている設定 (GPO) のみが移行されます。
> - 移行プロセスを開始する前に、既存の設定をバックアップすることをお勧めします。

GPO をバックアップするには、次の手順を実行することをお勧めします。

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. [グループポリシーの管理] ウィンドウで、バックアップする GPO を右クリックし、[バックアップ] を選択します。
3. [グループポリシーオブジェクトのバックアップ] ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。オプションで、バックアップに説明を与えることができます。
4. [バックアップ] をクリックしてバックアップを開始し、[**OK**] をクリックします。
5. バックアップフォルダに移動し、zip ファイルに圧縮します。

> 注:
>
> WEM では、複数の GPO バックアップフォルダを含む zip ファイルの移行もサポートしています。

GPO を正常にバックアップしたら、[移行] をクリックして GPO を WEM に移行します。[移行するファイル] ページで、[参照] をクリックし、該当するファイルに移動します。

- **[上書き]**。競合が発生すると、既存の WEM 設定 (GPO) を上書きします。
- 変換。GPO を WEM へのインポートに適した XML ファイルに変換します。インポートする設定を細かく制御する場合は、このオプションを選択します。変換が正常に完了したら、[復元] ウィザードを使用して XML ファイルを手動でインポートします。

  > 注:
  >
  > 出力フォルダには名前を付けることができますが、保存するファイルの名前を指定することはできませ

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

> ん。

[概要] タブ

[バージョン情報] タブには、次のコントロールがあります。

ライセンスサーバーを構成します。Citrix License Server のアドレスを指定できます。指定しない場合、管理コンソールでは設定を変更できません。または、インフラストラクチャサービス構成ユーティリティの [ライセンス] タブを使用して、これらの資格情報を指定することもできます。どちらの場合も、Citrix ライセンスサーバーの情報はデータベース内の同じ場所に保存されます。

ヘルプを入手してください。Citrix 製品ドキュメント Web サイトを Web ブラウザウィンドウで開きます。

オプション。管理コンソールの [オプション] ダイアログを開きます。これらのオプションは、管理コンソールのローカルインスタンスに固有です。

- 自動管理ログオン。有効にすると、管理コンソールは起動時に最後に接続したインフラストラクチャサービスに自動的に接続します。
- デバッグモードを有効にします。管理コンソールの詳細ログを有効にします。ログは、現在のユーザーの「Users」フォルダのルートに作成されます。
- コンソールスキン。管理コンソールのみ、さまざまなスキンから選択できます。
- ポート番号。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポートをカスタマイズできます。このポートは、インフラストラクチャサービス設定で設定されたポートと一致する必要があります。

について。管理コンソールの現在のバージョンとライセンス（ライセンスの種類、登録、および数）、および法的情報が一覧表示されます。

アクション

July 4, 2023

Workspace Environment Management は、使いやすいアクションを提供することで、Workspace 構成プロセスを合理化します。アクションには、アプリケーション、プリンタ、ネットワークドライブ、外部タスクなどの管理が含まれます。割り当てを使用して、ユーザーがアクションを使用できるようにすることができます。Workspace Environment Management には、割り当てをコンテキスト化するためのフィルタも用意されています。

- アクションには、次の管理が含まれます。
  - 操作グループ
  - グループポリシーの設定
  - Applications

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

  - Printers
  - ネットワーク ドライブ
  - 仮想ドライブ
  - レジストリエントリ
  - 環境変数
  - Ports
  - INI ファイル
  - 外部タスク
  - ファイル システム操作
  - ユーザー DSN
  - ファイルの関連付け
- Filters
- Assignments

操作グループ

June 1, 2023

アクショングループ機能を使用すると、最初にアクションのグループを定義し、アクショングループで定義されているすべてのアクションを 1 つの手順でユーザーまたはユーザーグループに割り当てることができます。この機能を使用すると、[操作] ウィンドウに表示される各アクションを 1 つずつ割り当てる必要がなくなりました。その結果、1 つのステップで複数のアクションを割り当てることができます。

> ヒント:
>
> 動的トークンを使用すると 、Workspace Environment Management アクションを拡張して、アクションをより強力にすることができます。

アクショングループ一覧

アクション・グループ

既存のアクショングループのリストを表示します。[検索] を使用して、名前、表示名、または説明でリストをフィルタリングします。

アクション

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

> 重要:
>
> - アクショングループには、各アクションカテゴリ (アプリケーション、プリンタ、ネットワークドライブなど) にすでに存在するアクションのみが含まれます。たとえば、[アプリケーションリスト] タブでアプリケーションを追加していない限り、[Action **Group List]** タブのアクショングループには、[アプリケーション] の下に割り当て可能なアプリケーションが表示されません。
> - 割り当てられたアクショングループのアクションのオプションを設定した場合（アクショングループリスト **>** 名前 **>** 設定済み)、設定したオプションはアクショングループが割り当てられているユーザーに影響を与えません。

「アクション」(Actions) セクションには、使用可能なアクションが表示されます。次の操作を実行できます。

- 追加。ユーザーまたはユーザーグループに割り当てるすべてのアクションを含むアクショングループを作成できます。
- 編集。既存のアクショングループを編集できます。
- **[**コピー**]**。既存のアクショングループからアクショングループを複製できます。
- **[**削除**]**。既存のアクショングループを削除できます。

アクショングループを作成するには、次の手順に従います。

1. [管理コンソール**] > [**アクション**] > [**アクショングループ**] > [**アクショングループリスト] タブで、[追加] をクリックします。
2. 「新規アクショングループ」ウィンドウで、必要な情報を入力し、ドロップダウンから該当するオプションを選択し、「**OK**」をクリックします。

アクショングループを編集するには、リストから該当するグループを選択し、[編集] をクリックします。

アクショングループのクローンを作成するには、クローンを作成するグループを選択し、[コピー] をクリックします。[コピー] をクリックすると、クローンが自動的に作成されることに注意してください。クローンは、元の名前を継承し、「-Copy」という接尾辞が付いています。[編集] をクリックして名前を変更できます。

> 注:
>
> アクショングループをクローンすると、［割り当てプロセスでドライブ文字の再使用を許可］オプションを有効にしない限り、ネットワークドライブおよび仮想ドライブに関連付けられたアクション（存在する場合）はクローンされません。このオプションを有効にするには、**[**詳細設定**] > [**構成**] > [**コンソール設定] タブに移動します。

アクショングループを削除するには、リストから該当するグループを選択し、[削除] をクリックします。

> 注:
>
> すでに割り当てられているアクショングループを削除または編集すると、そのグループが割り当てられているすべてのユーザーに対して変更が加えられます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

フィールドとコントロール

Name：アクショングループリストに表示されるアクショングループの表示名。

[説明**]**。アクショングループに関する追加情報を指定できます。

アクショングループの状態。アクショングループを有効状態と無効状態の間で切り替えます。無効にすると、そのアクショングループをユーザーまたはユーザーグループに割り当てても、エージェントはアクショングループに含まれるアクションを処理しません。

構成

割り当てる、または設定した特定のアクションを検索できます。名前、表示名、または説明でオプションをフィルタするには、[検索] を使用します。

使用できます。作成したアクショングループに追加できるアクションは次のとおりです。

プラス記号をクリックして、特定のアクションカテゴリのアクションを展開します。アクションをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして、アクションを割り当てるか割り当て解除します。

> 注：
>
> - 既にユーザーに割り当てられているアクショングループにアクションを追加すると、そのアクションは自動的にそれらのユーザーに割り当てられます。
> - 既にユーザーに割り当てられているアクショングループからアクションを削除すると、そのアクションはそれらのユーザーから自動的に割り当て解除されます。

設定済み。これらは、作成したアクショングループに既に割り当てられているアクションです。個々のアクションを展開して設定することができます。また、アプリケーションのショートカットの場所、既定のプリンタ、ドライブ文字など、特定の操作ごとにオプションを構成することもできます。

Assignments

> 重要：
>
> [割り当て済み] ペインの [アクションの割り当て**]** タブで、割り当てられたアクショングループ内のアクションのオプションを構成すると、構成されたオプションは、アクショングループが割り当てられているユーザーに自動的に影響します。

[アクション] > [アクショングループ] **> [**アクショングループリスト**]** タブでアクショングループのアクションの設定を完了したら、設定したアクションを該当するユーザーまたはユーザーグループに割り当てる必要がある場合があります。これを行うには、[割り当て] > [アクション割り当て**] > [**アクション割り当て] タブに移動します。そのタブで、ユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックすると、作成したアクショングループを含む [使用可能] ペインに [Action Groups] ノードが表示されます。[Action Groups] ノードの横のプラス記号をクリックすると、作成した

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

アクショングループを表示できます。アクショングループをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして、アクショングループを割り当てるか、割り当て解除します。アクションを割り当てると、そのアクションをコンテキスト化するために使用するルールを選択するよう求められます。

割り当ての仕組みの詳細については、「割り当て」を参照してください。

アクショングループを割り当てる場合、注意すべきいくつかのシナリオがあります。

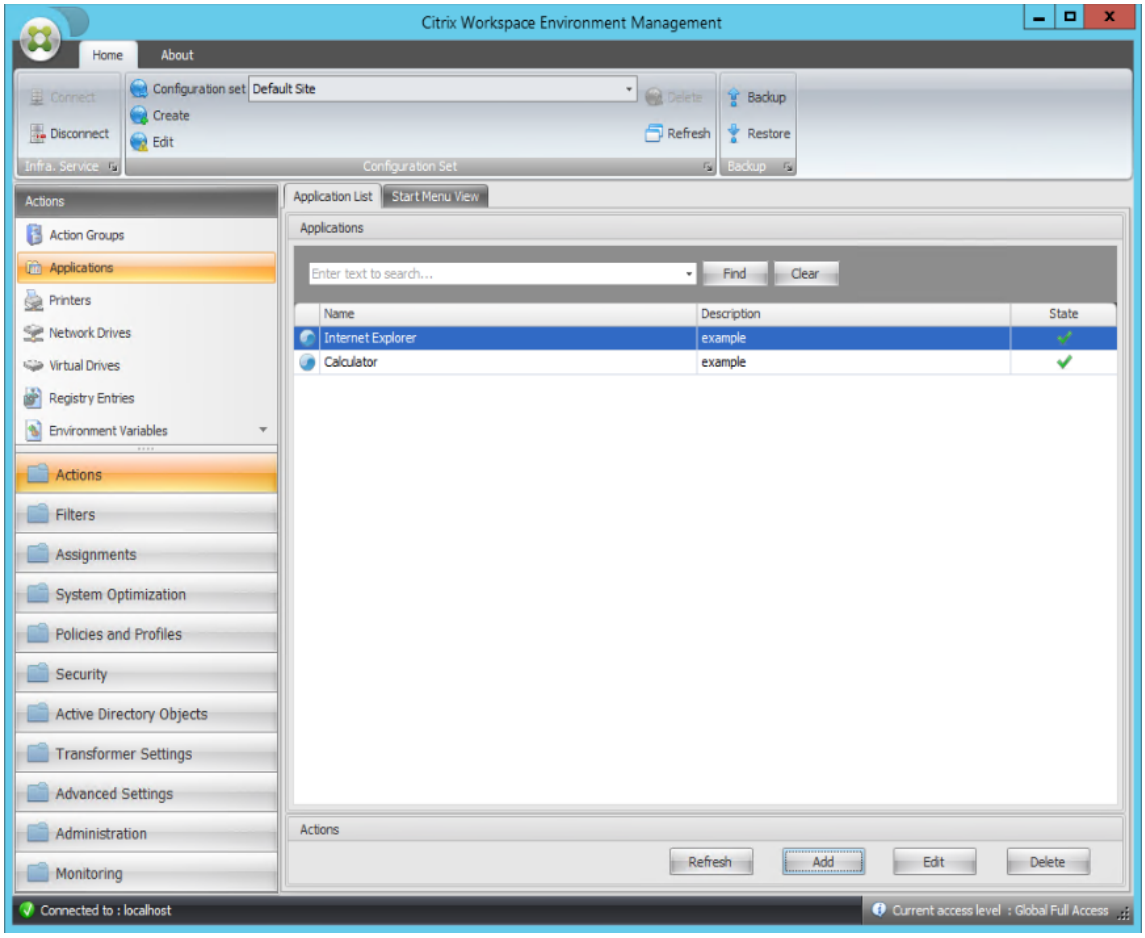
- アクショングループを割り当てると、そのグループに含まれるすべてのアクションが割り当てられます。
- 1 つまたは複数のアクションが、異なるアクショングループで重複する場合があります。オーバーラップするアクショングループの場合、最後に処理されたグループによって、以前に処理されたグループが上書きされます。
- アクショングループ内のアクションが処理されたら、別のアクショングループ内のアクションと重複するアクションを割り当てることを検討してください。この場合、未割り当てのアクションは、以前に処理されたアクションを上書きし、後で処理されたアクションは割り当て解除されます。その他のアクションは変更されません。

サンプルシナリオ

たとえば、アクショングループ機能を使用して 2 つのアプリケーション (iexplore.exe と calc.exe) を一度に 1 人のユーザーに割り当てるには、次の手順に従います。

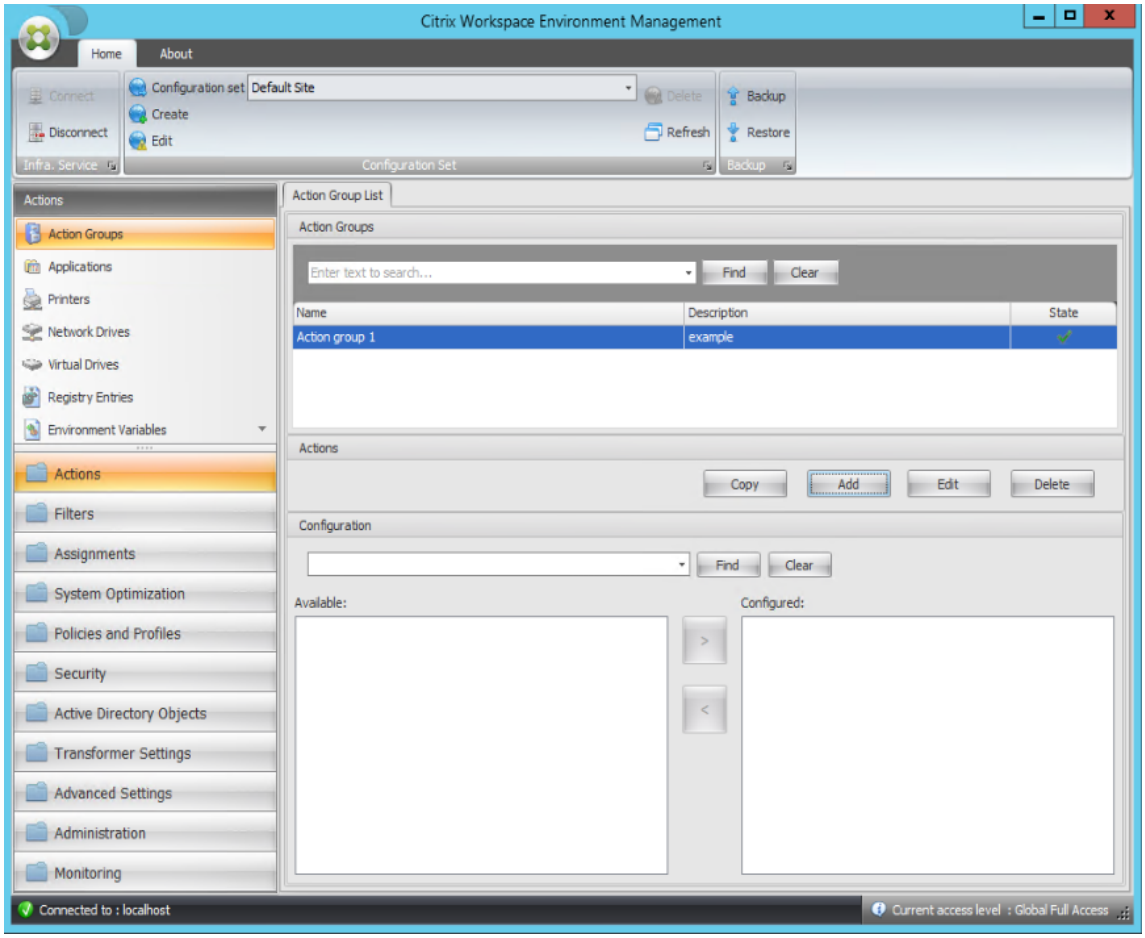
1. [管理コンソール**] > [**アクション**] > [**アプリケーション**] > [**アプリケーションリスト] タブに移動し、アプリケーション (iexplore.exe と calc.exe) を追加します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



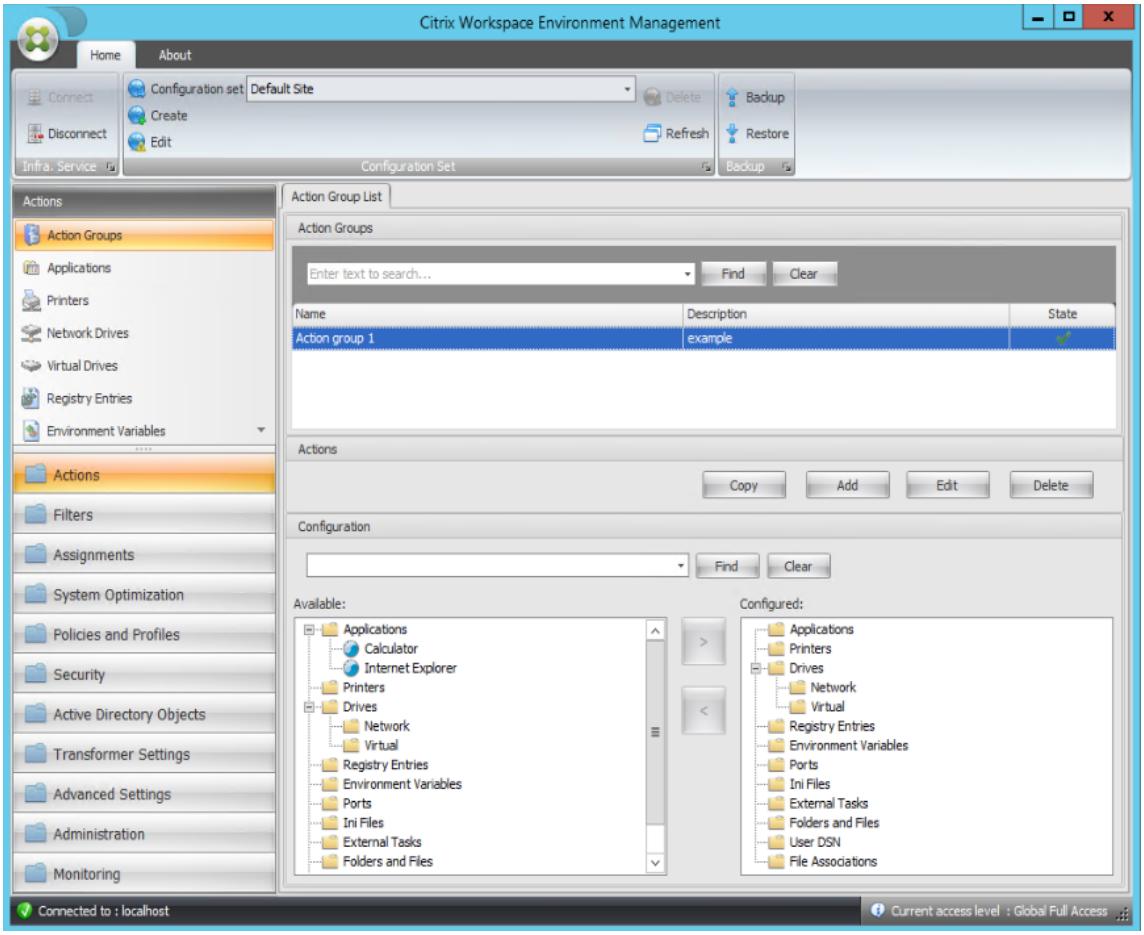
2. [管理コンソール] **>** [アクション] **>** [アクショングループ] **>** [アクショングループリスト] タブに移動し、[追加] をクリックしてアクショングループを作成します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



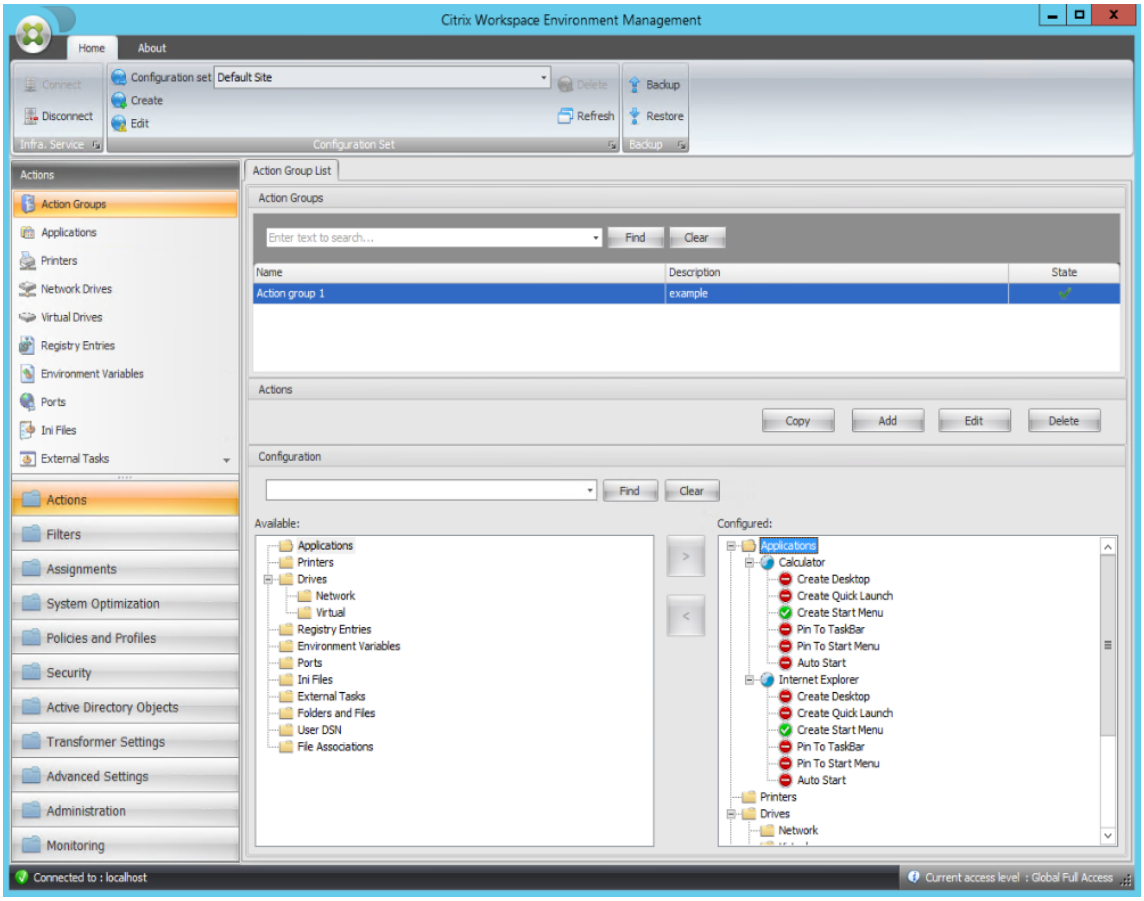
3. [**Action Group List**] タブで、作成したアクショングループをダブルクリックして、[使用可能] ペインと [構成済み] ペインにアクションリストを表示します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



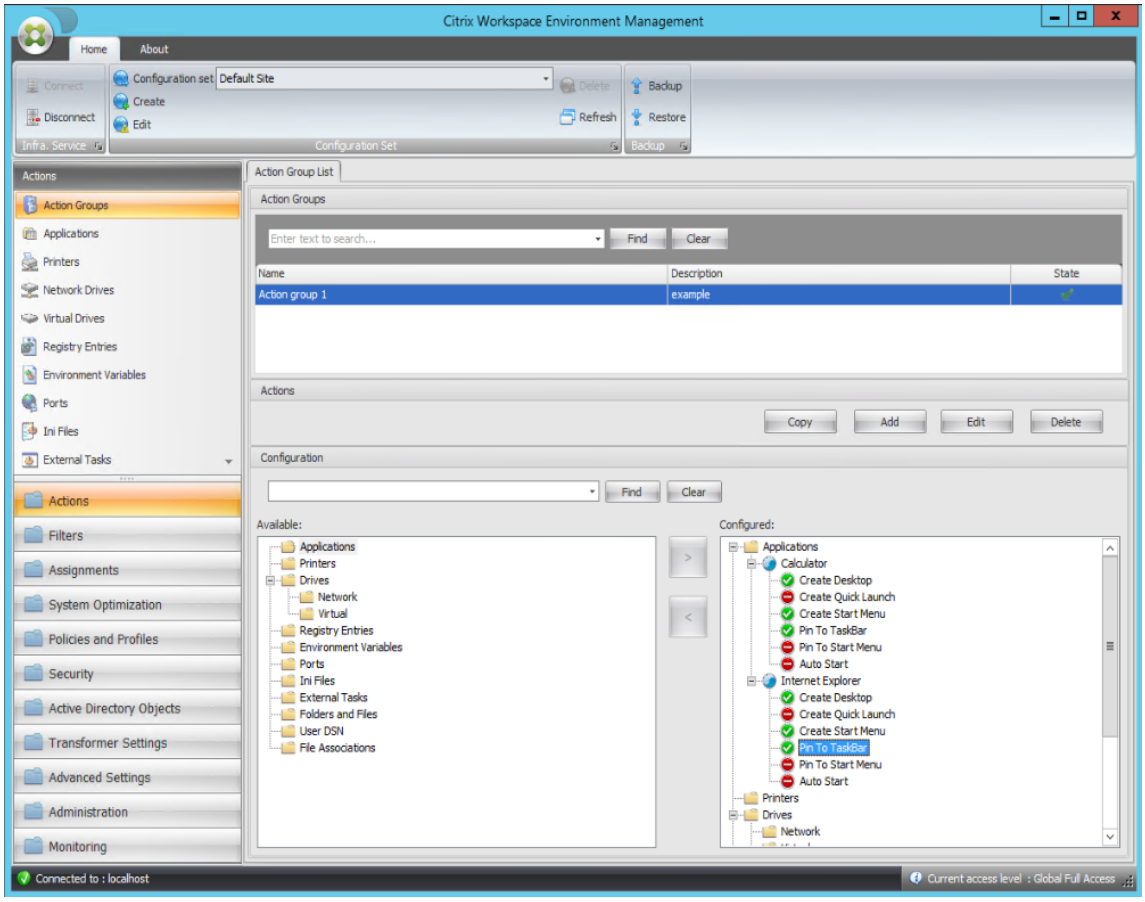
4. [使用可能] ペインで、各アプリケーションをダブルクリックして [構成済み] ペインに移動します。アプリケーションを選択し、右矢印をクリックしても、これを行うことができます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



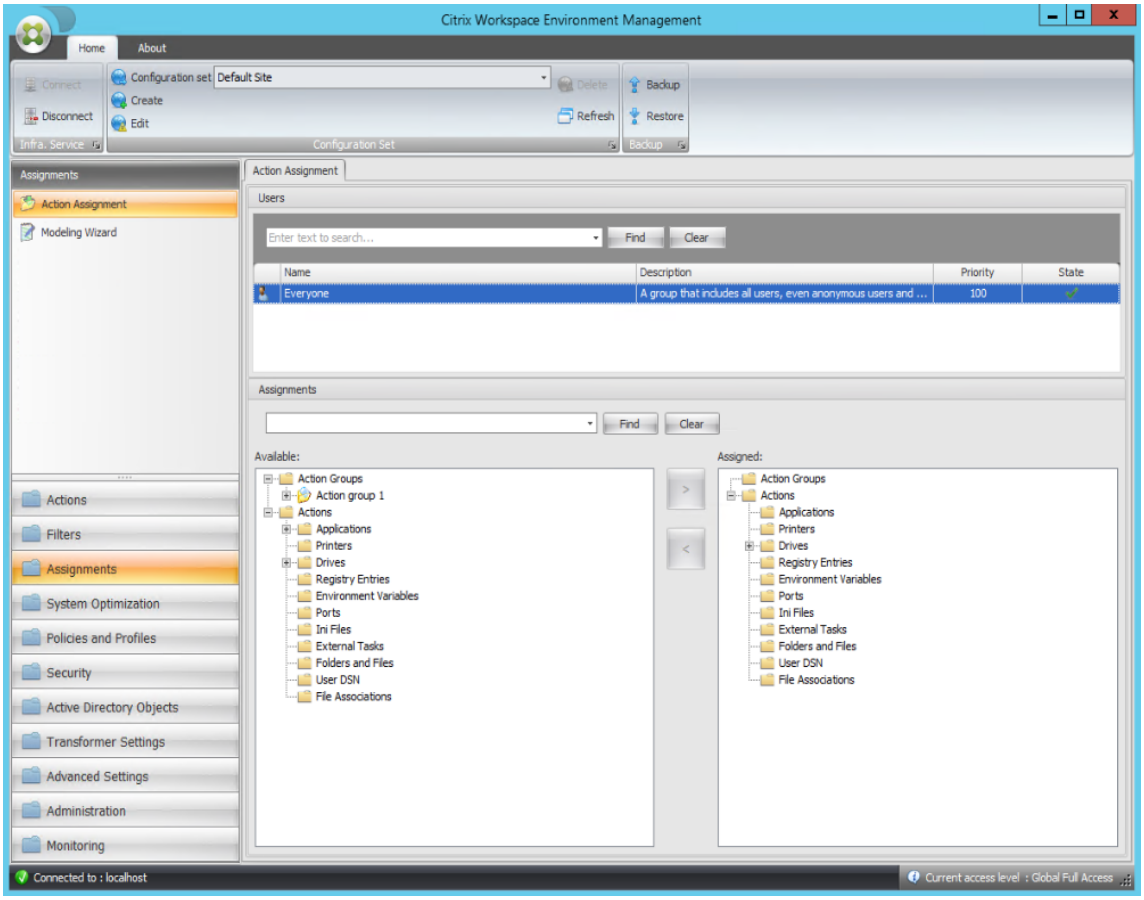
5. [構成済み] ペインで、各アプリケーションのオプションを構成します。この例では、[デスクトップの作成] および [タスクバーに固定する] を有効にします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



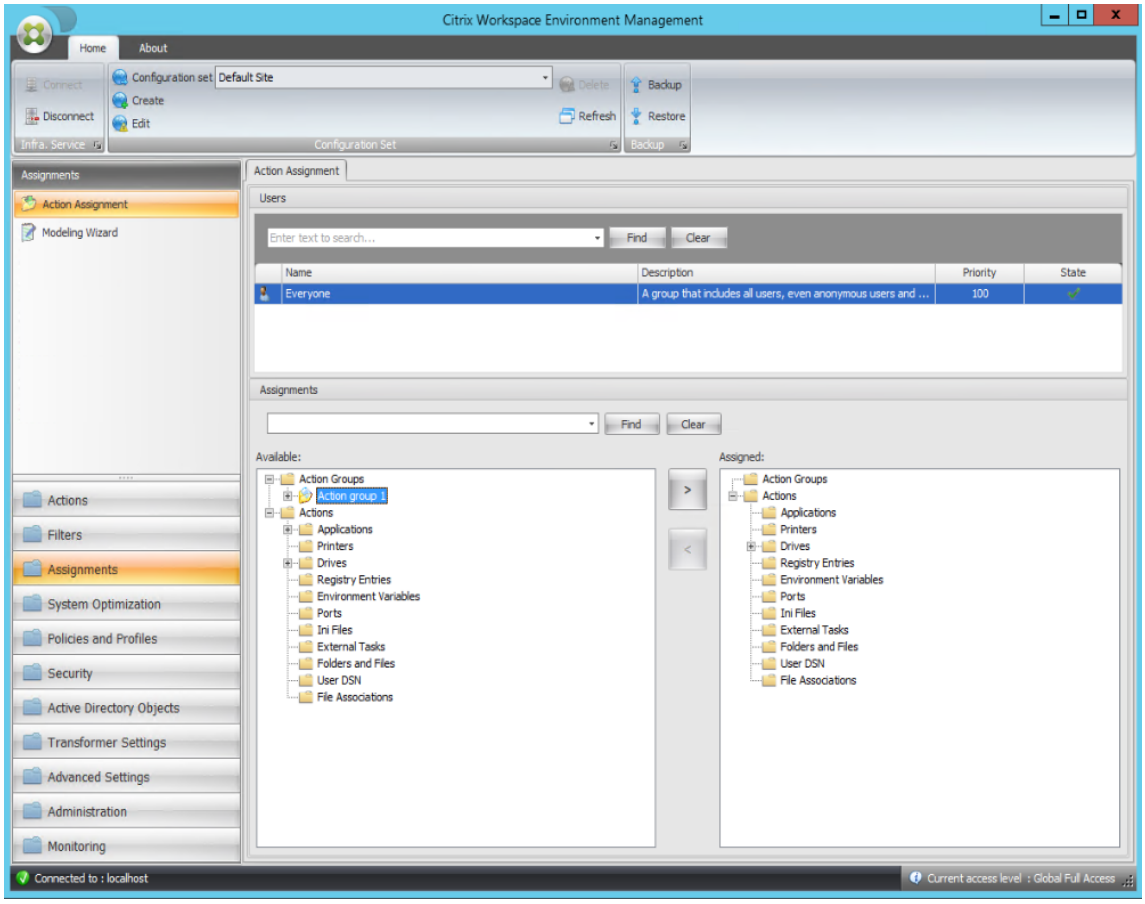
6. [管理コンソール] **>** [割り当て] **>** [アクションの割り当て] タブに移動し、該当するユーザーをダブルクリックして、[使用可能] ペインと [割り当て済み] ペインにアクショングループを表示します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



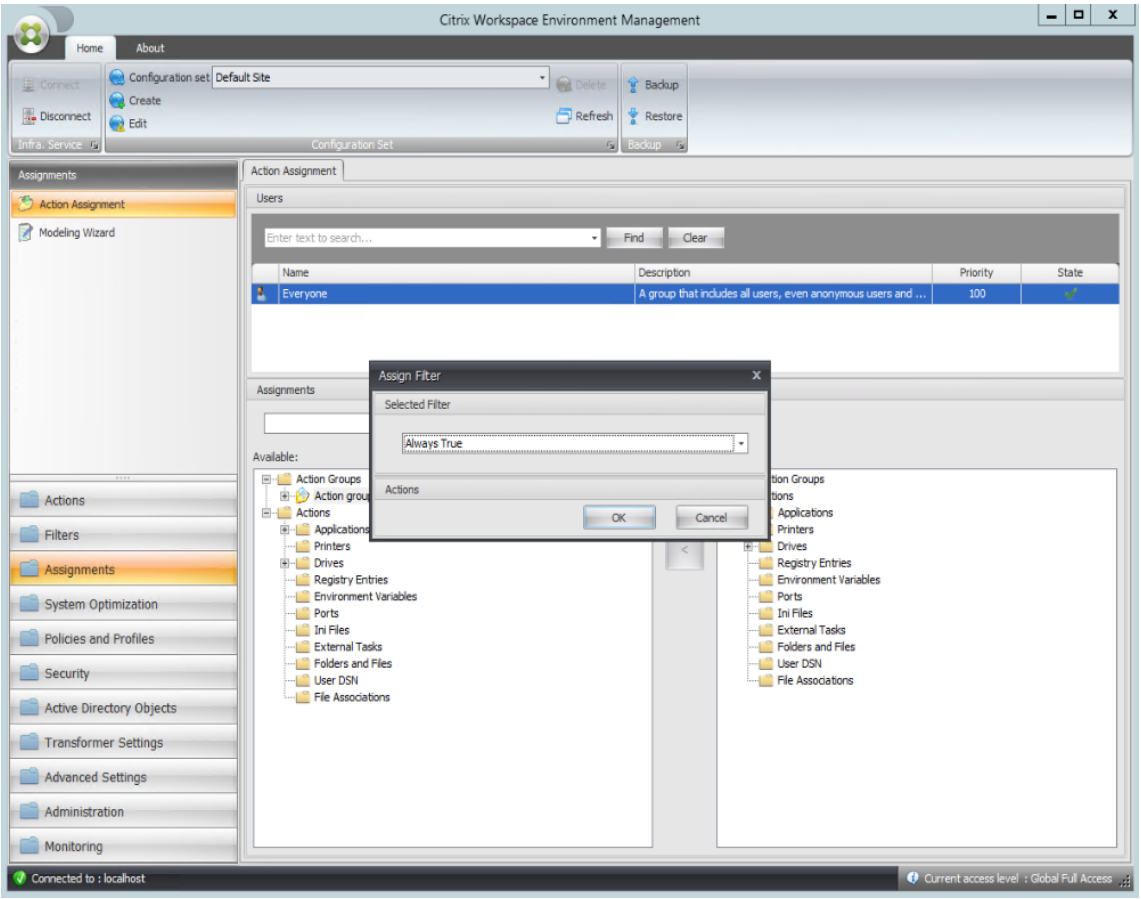
7. [使用可能] ウィンドウで、作成したアクショングループ (この例では、アクショングループ 1) をダブルクリックして [割り当て] ウィンドウに移動します。また、アクショングループを選択して右矢印をクリックすることもできます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



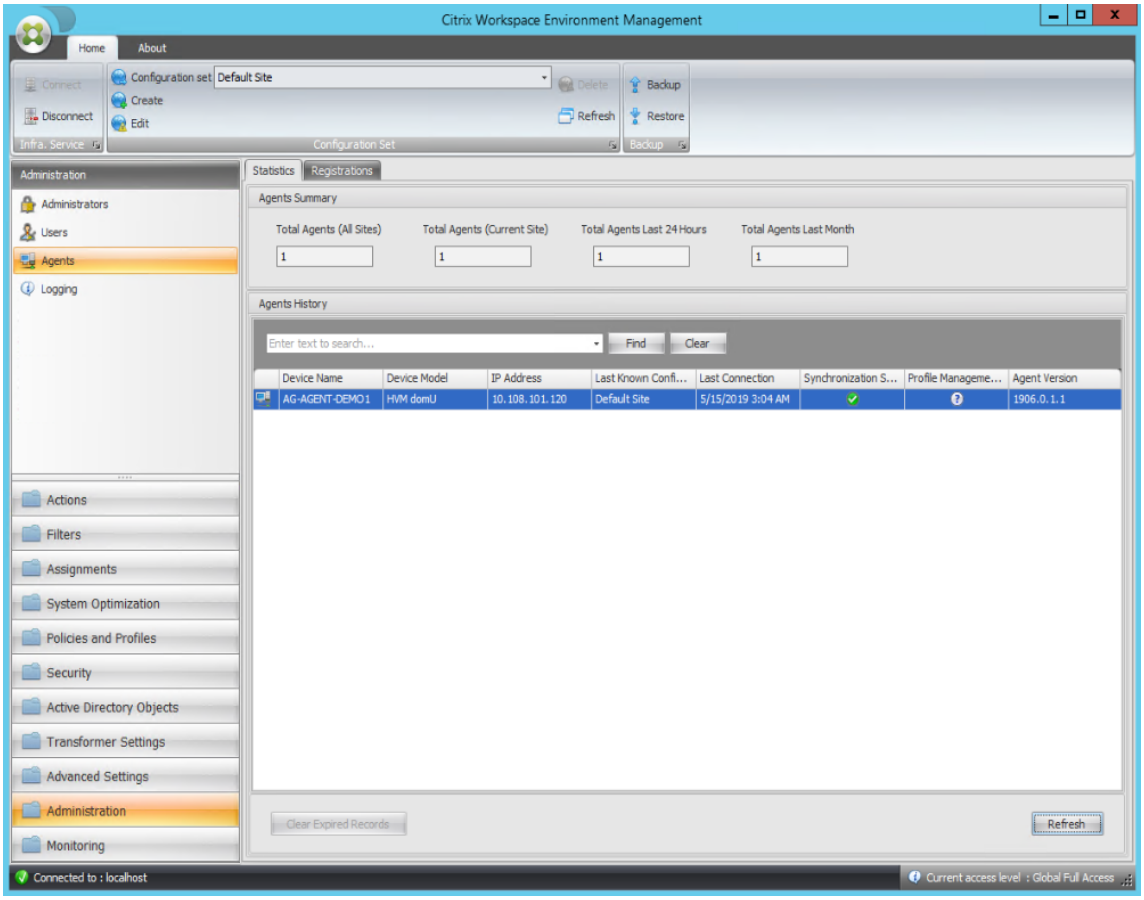
8. **[**フィルターの割り当て**]** ウィンドウで、**[**常に **True]** を選択し、**[OK]** をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



9. [管理コンソール] **>** [管理] **>** [エージェント] **>** [統計] タブに移動し、[更新] をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



10. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューから [ワークスペースエージェントのリフレッシュ] を選択します。
11. エージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）で、構成されたアクションが有効になっていることを確認します。

この例では、2 つのアプリケーションがエージェントホストに正常に割り当てられ、ショートカットがデスクトップに追加され、タスク・バーに固定されます。

グループポリシーの設定

June 1, 2023

> 重要:
>
> WEM は現在、HKEY_LOCAL_MACHINEおよびHKEY_CURRENT_USERレジストリハイブに関連付けられたグループポリシー設定の追加と編集のみをサポートしています。

以前のリリースでは、グループポリシーの基本設定 (GPP) のみを Workspace Environment Management

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

(WEM) に移行できました。詳細については、リボンの移行ウィザードの説明を参照してください。グループポリシー設定 (レジストリベースの設定) を WEM にインポートすることもできます。

設定をインポートした後、割り当てる GPO を決定する前に、各 GPO に関連付けられた設定を項目別に表示できます。他のアクションを割り当てるのと同様に、GPO を異なる AD グループに割り当てることができます。GPO を個々のユーザーに直接割り当てると、設定は有効になりません。グループには、ユーザーとマシンを含めることができます。マシンレベルの設定は、関連するマシンがグループに属している場合に有効になります。ユーザーレベルの設定は、現在のユーザーがグループに属している場合に有効になります。

> ヒント:
>
> マシンレベルの設定をすぐに有効にするには、Citrix WEM エージェントホストサービスを再起動します。ユーザーレベルの設定をすぐに有効にするには、ユーザーがいったんログオフしてからログオンし直す必要があります。

グループポリシー設定

> 注:
>
> WEM エージェントがグループポリシー設定を適切に処理するには、Citrix WEM ユーザーログオンサービスが有効になっていることを確認します。

グループポリシー設定の処理を有効にします。グループポリシー設定を処理するために WEM を有効にするかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。無効にした場合:

- グループポリシー設定は構成できません。
- WEM では、グループポリシー設定がユーザーまたはユーザーグループに割り当てられている場合でも、グループポリシー設定は処理されません。

グループポリシーオブジェクトリスト

既存の GPO の一覧が表示されます。[検索] を使用して、名前または説明でリストをフィルタリングします。

- 更新。GPO の一覧を更新します。
- **[**インポート**]**。グループポリシー設定のインポートウィザードを開きます。このウィザードでは、グループポリシー設定を WEM にインポートできます。
- 編集。既存の GPO を編集できます。
- **[**削除**]**。選択した GPO を削除します。

グループポリシー設定のインポート

グループポリシー設定をインポートする前に、ドメイン Controller でグループポリシー設定をバックアップしてください。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. [グループポリシーの管理] ウィンドウで、バックアップする GPO を右クリックし、[バックアップ] を選択します。
3. [グループポリシーオブジェクトのバックアップ] ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。オプションで、バックアップに説明を与えることができます。
4. ［バックアップ］をクリックしてバックアップを開始し、［**OK**］をクリックします。
5. バックアップフォルダに移動し、zip ファイルに圧縮します。

> 注:
>
> WEM では、複数の GPO バックアップフォルダを含む zip ファイルのインポートもサポートしています。

グループポリシー設定をインポートするには、次の手順を実行します。

1. **WEM** サービスの［管理］タブのメニューにある［アップロード］を使用して、**GPO** の **zip** ファイルを **Citrix Cloud** のデフォルトフォルダにアップロードします。
2. [管理コンソール**] > [**アクション**] > [**グループポリシー設定] タブに移動し、[グループポリシー設定の処理を有効にする] を選択し、[インポート] をクリックしてインポートウィザードを開きます。
3. インポートウィザードの [インポートするファイル] ページで、[参照] をクリックし、リストから該当するファイルを選択します。ファイル名を入力し、[検索] をクリックしてファイルを検索することもできます。
   - 以前にインポートした **GPO** を上書きします。既存の GPO を上書きするかどうかを制御します。
4. [インポートの開始] をクリックして、インポートプロセスを開始します。
5. インポートが完了したら、[完了] をクリックします。インポートした GPO は、[グループポリシーの設定] タブに表示されます。

レジストリファイルからグループポリシー設定をインポートする

Windows レジストリエディターを使用してエクスポートしたレジストリ値を、管理および割り当て用の GPO に変換できます。レジストリエントリで使用できる「レジストリファイルのインポート」オプションに慣れている場合は、次の機能を使用できます。

- `HKEY_LOCAL_MACHINE`と`HKEY_CURRENT_USER`の両方でレジストリ値をインポートできます。
- `REG_BINARY`と`REG_MULTI_SZ`型のレジストリ値をインポートできます。
- .reg ファイルで定義したレジストリキーと値に関連付けられた削除操作の変換をサポートします。.reg ファイルを使用してレジストリキーと値を削除する方法については、「https://support.microsoft.com/en-us/topic/how-to-add-modify-or-delete-registry-subkeys-and-values-by-using-a-reg-file-9c7f37cf-a5e9-e1cd-c4fa-2a26218a1a23」を参照してください。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

開始する前に、次の点に注意してください。

- ZIP ファイルから設定をインポートする場合、ファイルには 1 つ以上のレジストリファイルが含まれることがあります。解凍したファイルのサイズが 30 M を超えないようにしてください。
- 各.reg ファイルは GPO に変換されます。変換された各 GPO は、一連のレジストリ設定として扱うことができます。
- 変換された各 GPO の名前は、対応する.reg ファイルの名前に基づいて生成されます。例：.reg ファイルの名前が`test1.reg`の場合、変換された GPO の名前は`test1`になります。
- 変換された GPO の説明は空です。それらの状態はデフォルトで有効 (チェックマークアイコン) です。

グループポリシー設定をインポートするには、次の手順を実行します。

1. 管理コンソールで、[アクション**] > [**グループポリシー設定] に移動し、[グループポリシー設定の処理を有効にする] を選択し、[インポート] の横にある下矢印をクリックして [レジストリファイルのインポート] を選択します。
2. 表示されるウィザードで、レジストリファイルの ZIP バックアップを参照します。
   - 既存の **GPO** を上書きします。競合が発生したときに既存の GPO を上書きするかどうかを制御します。
3. [インポートを開始] をクリックします。
4. インポートが完了したら、[完了] をクリックします。レジストリファイルから変換された GPO は、[グループポリシー設定**]** に表示されます。

グループポリシー設定の編集

一覧から GPO をダブルクリックすると、その設定の項目別ビューが表示されます。また、必要に応じて設定を編集します。

GPO を複製するには、GPO を右クリックし、メニューから [コピー] を選択します。[コピー] をクリックすると、クローンが自動的に作成されます。クローンはオリジナルの名前を継承し、サフィックス「-Copy」が付加されます。**[**編集**]** を使用して名前を変更できます。

[編集**]** をクリックすると、**[**** グループポリシーオブジェクトの編集 ******] ウィンドウが表示されます。

Name：GPO の一覧に表示される GPO の名前。

[説明**]**。GPO の一覧に表示される GPO に関する追加情報を指定できます。

レジストリ操作。GPO に含まれるレジストリ操作を表示します。

> 警告：
>
> レジストリベースの設定を誤って編集、追加、および削除すると、ユーザー環境で設定が有効にならなくなる可能性があります。

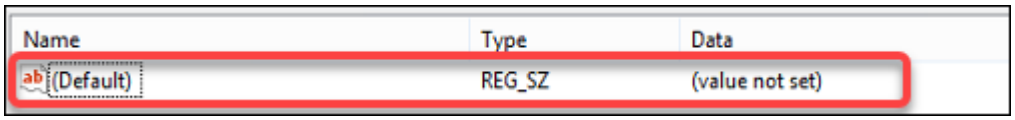
- 追加。レジストリキーを追加できます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

- **[編集]**。レジストリキーを編集できます。
- **[削除]**。レジストリキーを削除できます。

レジストリキーを追加するには、右側の [追加] をクリックします。次の設定が使用可能になります。

- オーダー。レジストリキーの展開順序を指定できます。
- 操作。レジストリキーのアクションのタイプを指定できます。
  - 値を設定します。レジストリキーの値を設定できます。
  - 値を削除します。レジストリキーの値を削除できます。
  - キーを作成します。ルートキーとサブパスの組み合わせで指定したキーを作成できます。
  - キーを削除します。レジストリキーの下にあるキーを削除できます。
  - すべての値を削除します。レジストリキーの下のすべての値を削除できます。
- ルートキー。サポートされている値: `HKEY_LOCAL_MACHINE` および `HKEY_CURRENT_USER`。
- サブパス。ルートキーを含まないレジストリキーのフルパス。たとえば、`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Windows`がレジストリキーのフルパスである場合、`Software\Microsoft\Windows`はサブパスです。
- 価値。レジストリ値の名前を指定できます。次の図全体で強調表示されている項目は、レジストリ値です。



- タイプ。値のデータ型を指定できます。
  - **REG_SZ**。このタイプは、人間が読めるテキスト値を表すために使用される標準文字列です。
  - **REG_EXPAND_SZ**。この型は、アプリケーションによって呼び出されたときに置換される変数を含む拡張可能なデータ文字列です。たとえば、次の値の場合、文字列「%SystemRoot%」は、オペレーティングシステム内のフォルダの実際の場所に置き換えられます。
  - **REG_BINARY**。あらゆる形式のバイナリデータ。
  - **REG_DWORD**。32 ビットの数値。この型はブール値によく使用されます。たとえば、「0」は無効を意味し、「1」は有効であることを意味します。
  - **REG_DWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の 32 ビット数値。
  - **REG_QWORD**。64 ビットの数値。
  - **REG_QWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の 64 ビット数値。
  - **REG_MULTI_SZ**。この型は、リストまたは複数の値を含む値を表すために使用される複数文字列です。各エントリはヌル文字で区切られます。
- データ。レジストリ値に対応するデータを入力できます。データ型が異なると、異なる形式で異なるデータを入力しなければならない場合があります。

変更が有効になるまでに時間がかかる場合があります。次の点に注意してください。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

- HKEY_LOCAL_MACHINEレジストリハイブに関連する変更は、**Citrix WEM** エージェントホストサービスが起動するか、指定した **SQL** 設定のリフレッシュ遅延がタイムアウトしたときに有効になります。
- HKEY_CURRENT_USERレジストリハイブに関連付けられた変更は、ユーザーがログオンしたときに有効になります。

グループポリシー設定のコンテキスト化

フィルタを使用して割り当てをコンテキスト化することで、グループポリシー設定を条件付きにすることができます。フィルタは、ルールと複数の条件で構成されます。WEM エージェントは、ルール内のすべての条件が実行時にユーザー環境で満たされた場合にのみ、割り当てられたグループポリシー設定を適用します。そうしないと、エージェントはフィルタを適用するときにこれらの設定をスキップします。

グループポリシー設定を条件付きにする一般的なワークフローは次のとおりです。

1. 管理コンソールで、[フィルタ] **>** [条件] に移動し、条件を定義します。条件を参照してください。

   > 重要:
   >
   > 使用可能なフィルタ条件の一覧については、「フィルタ条件」を参照してください。グループポリシー設定は、ユーザーとコンピューターの設定で構成されます。一部のフィルタ条件は、ユーザー設定にのみ適用されます。これらのフィルタ条件をマシン設定に適用すると、WEM エージェントはフィルタ条件を無視し、マシン設定を適用します。コンピュータ設定に適用されないフィルタ条件の一覧については、「マシン設定に適用できないフィルタ条件」を参照してください。

2. [フィルタ] **>** [ルール] に移動し、フィルタルールを定義します。ステップ 1 で定義した条件を、そのルールに含めることができます。ルールを参照してください。
3. [操作] **>** [グループポリシーの設定] に移動し、グループポリシー設定を構成します。
4. [管理コンソール] **>** [割り当て] **>** [アクションの割り当て] に移動し、以下を完了します。

   a) 設定を割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。

   b) アプリケーションを選択し、右矢印（>）をクリックして割り当てます。

   c)「フィルタの割り当て」ウィンドウで、ステップ 2 で定義したルールを選択し、「**OK**」をクリックします。設定が [使用可能] ペインから [割り当て済み] ペインに移動します。

   d) [割り当て済み] ペインで、設定の優先度を構成します。整数を入力して優先度を指定します。値が大きいほど、優先順位が高くなります。優先度の高い設定は後で処理され、競合や依存関係がある場合に有効になります。

マシン設定には適用されないフィルタ条件

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

フィルタ名	マシン設定に適用可能
クライアント名の一致	いいえ
クライアント IP アドレスの一致	いいえ
レジストリ値の一致	HKCU で始まるレジストリ値を設定する場合、コンピュータ設定に適用すると、レジストリ値の一致（Registry Value Match）フィルタは機能しません。
ユーザーの国一致	いいえ
ユーザー UI 言語の一致	いいえ
ユーザ SBC リソースタイプ	いいえ
Active Directory パスの一致	いいえ
Active Directory 属性の一致	いいえ
クライアント名が一致しません	いいえ
クライアント IP アドレスが一致しない	いいえ
一致するレジストリ値がありません	いいえ
ユーザーの国が一致しません	いいえ
ユーザー UI 言語が一致しません	いいえ
Active Directory パスが一致しません	いいえ
Active Directory 属性が一致しない	いいえ
クライアントのリモート OS の一致	いいえ
クライアントのリモート OS の一致なし	いいえ
Active Directory グループの一致	いいえ
Active Directory グループの一致がありません	いいえ
発行されたリソース名	いいえ

アプリケーション

June 1, 2023

アプリケーションショートカットの作成を制御します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

> ヒント：
>
> - Citrix Studio を使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe** をポイントする実行可能ファイルのパスを追加できます。**VUEMAppCmd.exe** は、Citrix Virtual Apps and Desktops 公開アプリケーションを起動する前に、Workspace Environment Management エージェントが環境の処理を完了することを保証します。詳しくは、「Citrix Studio を使用したアプリケーション設定の編集」を参照してください。
> - 動的トークンを使用して 、Workspace Environment Management アクションを拡張し、より強力にすることができます。

アプリケーション一覧

既存のアプリケーションリソースのリスト。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

アプリケーションを追加するには

1. コンテキストメニューの **[追加]** コマンドを使用します。
2. 「新規アプリケーション」ダイアログのタブに詳細を入力し、「**OK**」をクリックします。

フィールドとコントロール

一般

- **Name**：アプリケーションリストに表示されるアプリケーションショートカットの表示名です。
- **[説明]**。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。
- アプリケーションの種類。ショートカットが起動するアプリケーションの種類。インストール済みアプリケーション、ファイル**/**フォルダ、**URL**、または **StoreFront** ストアのいずれかです。選択内容に応じて、次の値が必要です。
  - コマンドライン。クライアントマシンが認識しているアプリケーションの実行可能ファイルへのパス。[参照] ボタンを使用すると、ローカルにインストールされた実行可能ファイルを参照できます。
  - 作業ディレクトリ。ショートカットの作業ディレクトリ。実行可能ファイルを参照すると、自動的に入力されます。
  - パラメーター。アプリケーションの起動パラメータ。
  - ターゲット。(ファイル/フォルダ) アプリケーションが開くターゲットファイルまたはフォルダの名前。
  - ショートカット **URL**。(URL) 追加するアプリケーションショートカットの URL。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

  - **URL** をストアします。（StoreFront ストア）ショートカットから開始するリソースを含む StoreFront ストアの URL です。
  - リソースを保管します。（StoreFront ストア）ショートカットから開始する StoreFront ストア上のリソースです。[参照] ボタンを使用すると、リソースを参照して選択できます。

> ヒント：
>
> StoreFront ストアに基づくアプリケーションを追加するには、有効な資格情報を指定する必要があります。**[**参照**]** を初めてクリックしてストアリソースを表示すると、ダイアログボックスが表示されます。このダイアログでは、Windows 向け Citrix Workspace アプリへのログオンに使用する資格情報の入力を求められます。その後、［リソースの保存］ウィンドウが開き、WEM 管理コンソールマシンで実行されている Windows 向け Citrix Workspace アプリによって取得された公開アプリケーションのリストが表示されます。

- **[** スタート**]** メニューの統合。[スタート] メニューでアプリケーションのショートカットを作成する場所を選択します。既定では、新しいショートカットは [プログラム] に作成されます。

オプション

- **[**アイコン**]** を選択します。アイコンファイルを参照し、アプリケーションのアイコンを選択できます。既定では、この設定ではアプリケーションの実行可能ファイルのアイコンが使用されますが、有効なアイコンはどれでも選択できます。アイコンは、テキストとしてデータベースに格納されます。
  - 高解像度アイコンのみ。選択ボックスに HD アイコンのみを表示します。
- アプリケーションの状態。アプリケーションのショートカットを有効にするかどうかを制御します。無効にすると、エージェントはユーザーに割り当てられていても処理しません。
- メンテナンスモード。この設定を有効にすると、ユーザーがアプリケーションのショートカットを実行できなくなります。ショートカットアイコンは、アイコンが使用できないことを示す警告記号を含むように変更され、ユーザーがアプリケーションを起動しようとしたときにアプリケーションが使用できないことを知らせる短いメッセージを受信します。これにより、アプリケーションのショートカット・リソースを無効にしたり削除したりすることなく、公開アプリケーションがメンテナンス中のシナリオをプロアクティブに管理できます。
- 表示名。ユーザーの環境に表示されるショートカットの名前。
- ホットキーユーザーがアプリケーションを起動するためのホットキーを指定できます。ホットキーは大文字と小文字が区別され、次の形式で入力します (例:Ctrl + Alt + S)。
- アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

詳細設定

- 自動自己回復機能を有効にします。選択すると、ユーザーが移動または削除した場合、エージェントは更新時にアプリケーション・ショートカットを自動的に再作成します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

- アイコンの位置を強制。ユーザーのデスクトップ上のアプリケーションショートカットの正確な場所を指定できます。値はピクセル単位です。
- ウィンドウのスタイル。アプリケーションをエンドポイントの最小化、標準、または最大化ウィンドウのどちらで開くかを制御します。
- セルフサービスに表示しない。セッションエージェントが UI モードで実行されているときに、エンドユーザーが使用できるステータスバーアイコンからアクセスできるセルフサービスインターフェイスからアプリケーションを非表示にします。これには、コンテキストメニューの「マイアプリケーション」アイコンリストと「アプリケーションの管理」フォームで非表示にすることが含まれます。
- ユーザーのお気に入りフォルダにショートカットを作成します。エンドユーザーの [お気に入り] フォルダにアプリケーションショートカットを作成します。

StoreFront ストアに基づくアプリケーションエントリを追加するには、有効な資格情報を指定する必要があります。これにより、WEM 管理コンソールマシンにインストールされた Windows 向け Citrix Workspace アプリが公開アプリケーションのリストを取得できます。

[スタート] メニュービュー

[スタート] メニューに、アプリケーションのショートカットリソースの場所のツリービューが表示されます。

更新。アプリケーションリストを更新します。

移動。ウィザードが開き、アプリケーションのショートカットの移動先を選択できます。

編集。アプリケーションエディションウィザードを開きます。

[削除]。選択したアプリケーションショートカットリソースを削除します。

Citrix Studio を使用したアプリケーション設定の編集

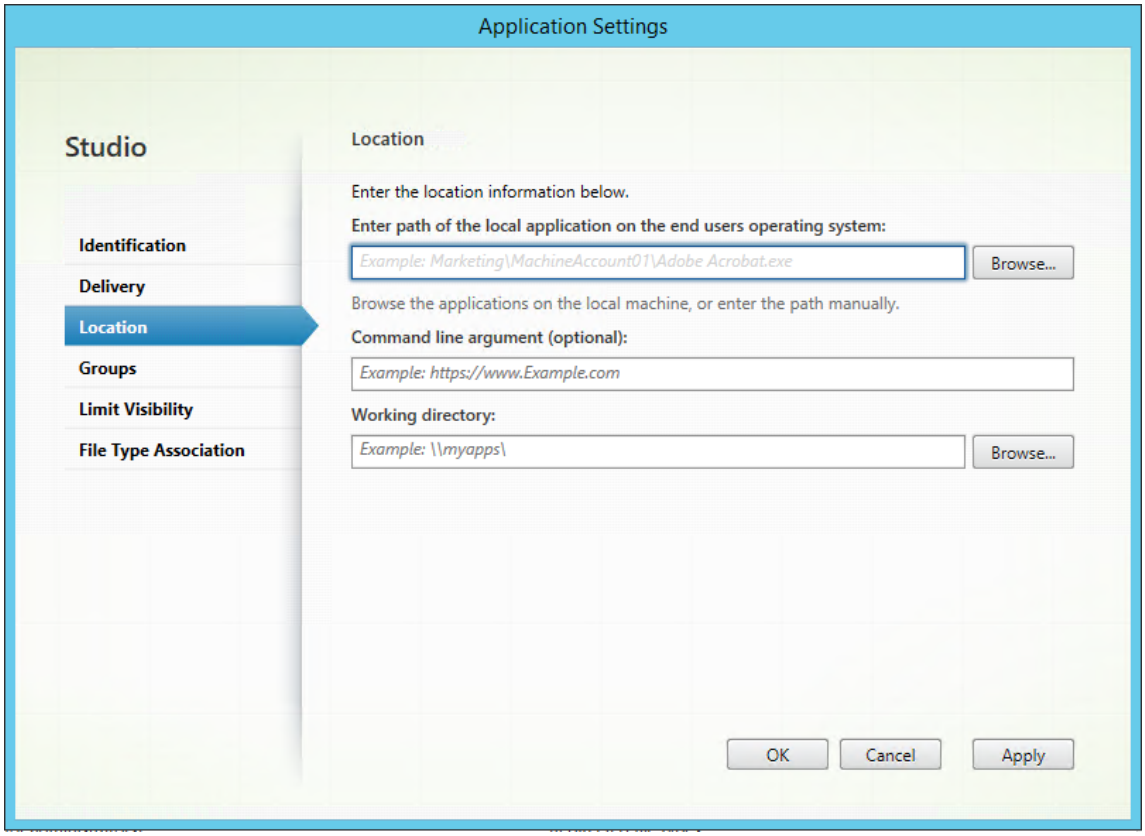
Workspace Environment Management (WEM) には、発生した問題のトラブルシューティングを行うクライアント側のツールが用意されています。VueMappCmd ツール（**VUEMAppCmd.exe**）を使用すると、Citrix Virtual Apps and Desktops の公開アプリケーションが起動する前に、WEM エージェントが環境の処理を完了します。このフォルダは、エージェントインストールフォルダ: `%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMAppCmd.exe`にあります。

> 注:
>
> 64 ビット OS の場合は、代わりに`%ProgramFiles(x86)%`を使用してください。

Citrix Studio を使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe** をポイントする実行可能ファイルのパスを追加できます。このためには、次の手順を実行します:

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

1. Citrix Studio の ［アプリケーション設定］ > ［場所］ページに移動します。



2. エンドユーザーオペレーティングシステム上のローカルアプリケーションのパスを入力します。
   - 次のように入力します。`%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMAppCmd.exe`。
3. コマンドライン引数を入力して、開くアプリケーションを指定します。
   - **VUEMAppCmd.exe** を使用して、起動するアプリケーションのフルパスを入力します。パスに空白が含まれている場合は、アプリケーションのコマンドラインを二重引用符で囲むようにしてください。
   - たとえば、**VUEMAppCmd.exe** から **iexplore.exe** を起動したいとします。これを行うには、次のように入力します。`"%ProgramFiles%\Internet Explorer\iexplore.exe"`。

プリンター

June 1, 2023

このタブは、プリンタのマッピングを制御します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

> ヒント:
>
> 動的トークンを使用すると 、Workspace Environment Management アクションを拡張して、アクションをより強力にすることができます。

ネットワークプリンタリスト

一意の ID を持つ既存のプリンタリソースのリスト。「検索」(**Find**) を使用すると、プリンタのリストを名前または ID でテキスト文字列に対してフィルタリングできます。リボンの [**[**ネットワークプリントサーバーのインポート**]](/ja-jp/workspace-environment-management/2303/user-interface-description/ribbon.html)** を使用して、プリンタをインポートできます。

プリンタを追加するには

1. [ネットワークプリンタリスト] タブで、[追加] をクリックするか、空白の領域を右クリックして、コンテキストメニューから [追加] を選択します。
2. ［新しいネットワークプリンタ］ ウィンドウで、必要な情報を入力し、［**OK**］ をクリックします。

フィールドとコントロール

Name: プリンター覧に表示されるプリンタの表示名です。

[説明**]**。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるプリンタへのパス。

プリンタの状態。プリンタを有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

外部認証情報。プリンタへの接続に使用する特定の資格情報を記述できます。

自己修復。エージェントが更新されるときに、ユーザーに対してプリンタを自動的に再作成するかどうかを切り替えます。

アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。[デバイスマッピングプリンタファイルを使用] で、XML プリンタリストファイルへの絶対パスとして [ターゲットパス] を指定します (XML プリンタリストの構成を参照)。エージェントが更新されると、この XML ファイルが解析され、プリンタがアクションキューに追加されます。

プリンタを読み込むには

1. リボンで、[ネットワークプリントサーバーのインポート] をクリックします。
2. ［ネットワークプリントサーバーからインポート］ ダイアログに詳細を入力し、［**OK**］ をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

フィールドとコントロール

プリントサーバー名。プリンターのインポート元となるプリントサーバーの名前を指定します。

代替資格情報を使用します。デフォルトでは、インポートでは、管理コンソールが現在実行されている ID を持つ Windows アカウントの資格情報が使用されます。プリントサーバーへの接続に別の資格情報を指定するには、このオプションを選択します。

ネットワーク ドライブ

June 1, 2023

ネットワークドライブのマッピングを制御します。

> ヒント:
>
> 動的トークンを使用すると 、Workspace Environment Management アクションを拡張して、アクションをより強力にすることができます。

ネットワークドライブリスト

既存のネットワークドライブのリスト。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

ネットワークドライブを追加するには

1. コンテキストメニューの **[追加]** コマンドを使用します。
2. ［新しいネットワークドライブ］ダイアログのタブに詳細を入力し、［**OK**］をクリックします。

フィールドとコントロール

Name: ネットワークドライブリストに表示されるドライブの表示名。

[説明]。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるネットワークドライブへのパス。

ネットワークドライブの状態。ネットワークドライブが有効か無効かを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

外部認証情報。ネットワークドライブへの接続に使用する特定の資格情報を記述できます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

自動自己回復機能を有効にします。エージェントの更新時にネットワークドライブを自動的に再作成するかどうかを切り替えます。

ホームドライブとして設定します。

アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。デフォルトは [ネットワークドライブのマッピング] です。

仮想ドライブ

June 1, 2023

仮想ドライブのマッピングを制御します。仮想ドライブは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマップする Windows 仮想ドライブまたは MS-DOS デバイス名です。

> ヒント**:**
>
> 動的トークンを使用すると 、Workspace Environment Management アクションを拡張して、アクションをより強力にすることができます。

仮想ドライブリスト

既存の仮想ドライブのリストを表示します。[検索] を使用して、名前または ID でリストをフィルタできます。

仮想ディスクを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. 管理コンソール **>** アクション **>** 仮想ドライブ **>** 仮想ドライブリスト] タブに移動し、[追加] をクリックします。または、空白領域を右クリックし、コンテキストメニューから [追加] を選択します。[新しい仮想ドライブ] ウィンドウが表示されます。

   a) [全般] タブで、必要な情報を入力し、仮想ドライブをホームドライブとして設定するかどうかを選択します。
   b)「**OK**」をクリックして変更を保存し、「新規仮想ドライブ」ウィンドウを終了します。

2. [管理コンソール**] > [**割り当て**] > [**アクションの割り当て] タブに移動します。

   a) 仮想ドライブを割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。
   b) 仮想ドライブを選択し、右矢印（>）をクリックして割り当てます。
   c)「フィルタとドライバ文字の割り当て」ウィンドウで、「常に真」を選択し、ドライバ文字を選択して「**OK**」をクリックします。仮想ドライブが [使用可能] ペインから [割り当て済み] ペインに移動します。

[詳細設定**] > [**構成**] > [**サービスオプション] タブの [**SQL** 設定の更新遅延] で指定した値によっては、割り当てが有効になるまでに時間がかかる場合があります。必要に応じて、割り当てを直ちに有効にするには、次の手順を実行します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

1. [管理コンソール] **>** [管理] **>** [エージェント] **>** [統計] タブに移動し、[更新] をクリックします。
2. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューから [ワークスペースエージェントのリフレッシュ] を選択します。

フィールドとコントロール

［一般］タブ　**Name**：仮想ドライブのリストに表示されるドライブの表示名。

[説明**]**。仮想ドライブに関する追加情報を指定できます。この情報は、編集ウィザードまたは作成ウィザードにのみ表示されます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決される仮想ドライブへのパスを入力します。

仮想ドライブの状態。仮想ドライブが有効か無効かを切り替えます。無効にすると、エージェントはユーザーに割り当てられていても処理しません。

ホームドライブとして設定します。ホームドライブとして設定するかどうかを選択できます。

[オプション**]** タブ　アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

レジストリエントリ

June 1, 2023

レジストリエントリの作成を制御します。

> ヒント**:**
>
> 動的トークンを使用すると 、Workspace Environment Management アクションを拡張して、アクションをより強力にすることができます。

レジストリ値リスト

既存のレジストリエントリのリスト。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

レジストリエントリを追加するには

1. コンテキストメニューの **[**追加**]** コマンドを使用します。
2.「新規レジストリ値」ダイアログのタブに詳細を入力し、「**OK**」をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

フィールドとコントロール

Name：レジストリエントリのリストに表示されるレジストリエントリの表示名。

[説明**]**。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

レジストリ値の状態。レジストリエントリを有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ターゲットパス。レジストリエントリが作成されるレジストリの場所。Workspace Environment Management では、現在のユーザーのレジストリエントリのみを作成できるため、%ComputerName%\ HKEY_CURRENT_USER を値の前に記述する必要はありません。これは自動的に行われます。

ターゲット名。レジストリ値の名前。レジストリに表示されます (たとえば、NontSecurity)。

ターゲットタイプ。作成されるレジストリエントリの種類。

ターゲット値。一度作成されたレジストリエントリの値 (たとえば、0 または C:\Program Files)

1 回実行してください。デフォルトでは、Workspace Environment Management は、エージェントが更新されるたびにレジストリ・エントリを作成します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment Management がレジストリエントリを 1 回だけ作成し、更新するたびにではなく、最初の更新時に作成します。これにより、エージェントの更新プロセスが高速化されます。特に、多数のレジストリエントリがユーザーに割り当てられている場合。

アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

レジストリファイルのインポート

レジストリファイルを割り当て用のレジストリエントリに変換できます。この機能には次の制限があります。

- `HKEY_CURRENT_USER`以下のレジストリ値のみがサポートされます。レジストリエントリ機能では、`HKEY_CURRENT_USER`でレジストリ設定のみを割り当てることができます。
- `REG_BINARY`および`REG_MULTI_SZ`型のレジストリ値はサポートされていません。

制限を回避するために、グループポリシー設定の [レジストリファイルのインポート] オプションを使用して、レジストリファイルを **WEM** にインポートすることをお勧めします。詳細については、「レジストリファイルからグループポリシー設定をインポートする」を参照してください。

レジストリファイルをインポートするには、次の操作を行います。

1. 管理コンソールで、[アクション**] > [**レジストリエントリ] に移動します。
2. リボンで、[レジストリファイルのインポート] をクリックします。
3. [レジストリファイルからインポート] ウィンドウで、レジストリファイルを参照します。
4. [スキャン] をクリックして、レジストリファイルのスキャンを開始します。スキャンが正常に完了すると、レジストリ設定の一覧が表示されます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

5. インポートするレジストリ設定を選択し、[選択項目のインポート] をクリックしてインポートプロセスを開始します。
6. [**OK**] をクリックして終了します。

フィールドとコントロール

レジストリファイル名。**.reg** ファイルに移動して [開く] をクリックすると、自動的に入力されます。**.reg** ファイルには、WEM にインポートするレジストリ設定が含まれています。**.reg** ファイルは、インポートするレジストリ設定のみが適用されるクリーンな環境から生成する必要があります。

スキャン。**.reg** ファイルをスキャンし、ファイルに含まれているレジストリ設定の一覧を表示します。

レジストリ値リスト。インポートする**.reg** ファイルに含まれているすべてのレジストリ値をリストします。

[インポートしたアイテム**]** を有効にします。無効にすると、新しくインポートされたレジストリキーは既定で無効になります。

インポートされたアイテム名の接頭辞。選択すると、このウィザードでインポートされたすべてのレジストリ項目の名前にプレフィックスが追加されます (たとえば、「XP Only」または「finance」)。これにより、レジストリエントリの識別と整理が容易になります。

> 注:
>
> ウィザードは、同じ名前のレジストリエントリをインポートできません。**.reg** ファイルに同じ名前のレジストリエントリが複数含まれている場合は ([レジストリ値リスト] に表示される)、インポートするエントリの 1 つを選択します。他のものをインポートする場合は、名前を変更します。

環境変数

June 1, 2023

環境変数の作成を制御します。

> ヒント動的トークンを使用すると
>
> 、Workspace Environment Management アクションを拡張してより強力にすることができます。

環境変数リスト

既存の環境変数のリスト。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

環境変数を追加するには

1. コンテキストメニューの **[追加]** コマンドを使用します。
2. 「新規環境変数」ダイアログのタブに詳細を入力し、「**OK**」をクリックします。

フィールドとコントロール

Name: 環境変数リストに表示される変数の表示名。

[説明]。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

環境変数の状態。環境変数が有効か無効かを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

変数名。環境変数の機能名。

変数値。環境変数の値。

アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

実行順序。

ポート

June 1, 2023

ポート機能を使用すると、クライアントの COM および LPT ポートのマッピングが可能になります。Citrix Studio ポリシーを使用して、COM ポートと LPT ポートの自動接続を有効にすることもできます。詳しくは、「ポートリダイレクトのポリシー設定」を参照してください。

ポート機能を使用して各ポートのマッピングを手動で制御する場合は、Citrix Studio でクライアント COM ポートリダイレクトポリシーまたはクライアント LPT ポートリダイレクトポリシーを有効にしてください。既定では、COM ポートリダイレクトおよび LPT ポートリダイレクトは禁止されています。

> ヒント**:**
>
> 動的トークンを使用すると 、Workspace Environment Management アクションを拡張して、アクションをより強力にすることができます。

ポートリスト

既存のポートのリスト。[検索] を使用して、名前または ID でリストをフィルタできます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

ポートを追加するには

1. コンテキストメニューから [追加] を選択します。
2.「新規ポート」ダイアログのタブに詳細を入力し、「**OK**」をクリックします。

フィールドとコントロール

Name: ポートリストに表示されるポートの表示名。

[説明**]**。エディション/作成ウィザードにのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ポートステート。ポートが有効か無効かを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ポート名。ポートの機能名。

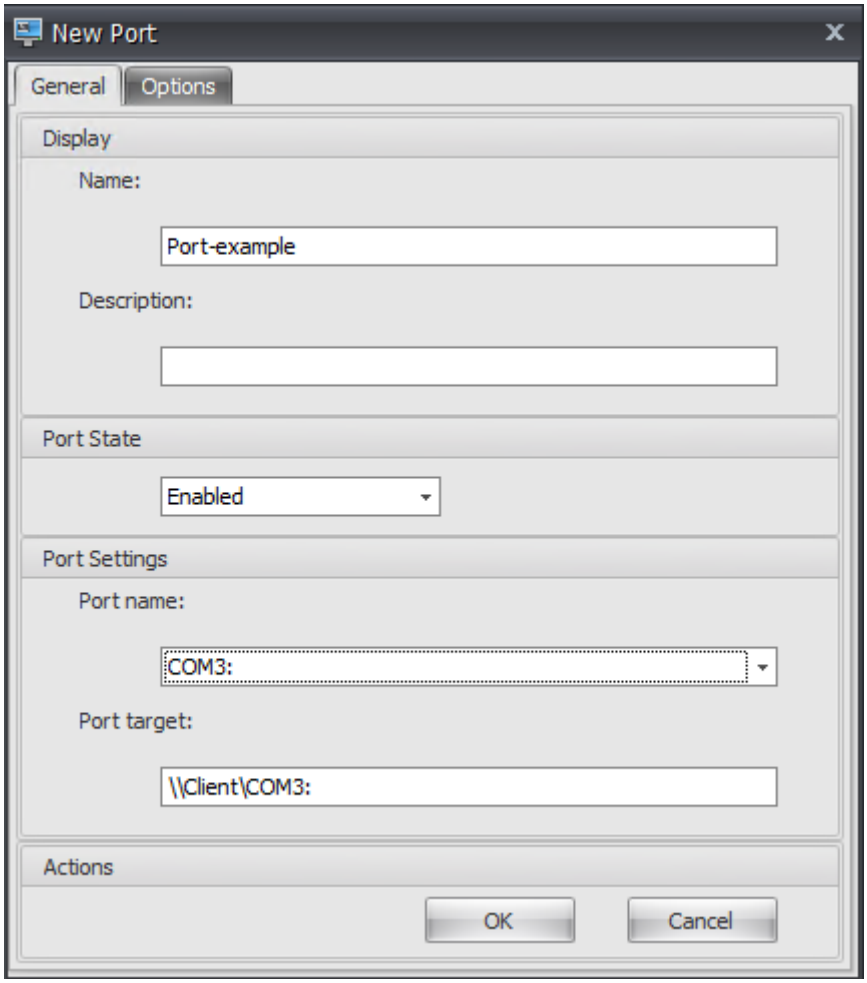
ポートターゲット。ターゲットポート。

［オプション］タブ　アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

たとえば、次のようにポート設定を構成できます。

- ポート名:「COM3:」を選択します。
- ポートターゲット: `\\Client\COM3:` を入力

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



INI ファイル

June 1, 2023

.ini ファイルの操作の作成を制御し、**.ini** ファイルを変更できます。

> ヒント:
>
> 動的トークンを使用すると 、Workspace Environment Management アクションを拡張して、アクションをより強力にすることができます。

ini ファイルの操作リスト

既存の ini ファイル操作のリスト。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

.ini ファイル操作を追加するには

1. コンテキストメニューの **[追加]** コマンドを使用します。
2. 「新規 **INI** ファイル操作」ダイアログのタブに詳細を入力し、「**OK**」をクリックします。

フィールドとコントロール

Name: [INI ファイル操作] リストに表示される**.ini** ファイル操作の表示名です。

[説明]。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

.ini ファイル操作の状態。.ini ファイルの操作を有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ターゲットパス。これは、ユーザーの環境で解決するときに変更される.ini ファイルの場所を指定します。

ターゲットセクション。この操作の対象となる.ini ファイルのセクションを指定します。存在しないセクションを指定すると、そのセクションが作成されます。

ターゲット値名。これは、追加される値の名前を指定します。

ターゲット値。これは、値自体を指定します。

1 回実行してください。デフォルトでは、Workspace Environment Management は、エージェントが更新されるたびに.ini ファイル操作を実行します。Workspace Environment Management は、更新のたびにではなく、一度だけ操作を実行するようにするには、このボックスをチェックします。これにより、エージェントの更新プロセスが高速化されます。特に、多数の.ini ファイル操作をユーザーに割り当てている場合は特にそうです。

アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

外部タスク

June 1, 2023

外部タスクの実行を制御します。外部タスクには、エージェント・ホストがそれらを実行する対応するプログラムを持っている限り、スクリプトおよびアプリケーションの実行が含まれます。一般的に使用されるスクリプトには、**.vbs** スクリプトと**.cmd** スクリプトが含まれます。

外部タスク機能を使用すると、外部タスクを実行するタイミングを指定できます。これにより、ユーザー環境をより効果的に管理できます。

> ヒント:
>
> 動的トークンを使用して 、Workspace Environment Management アクションを拡張し、より強力にすることができます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

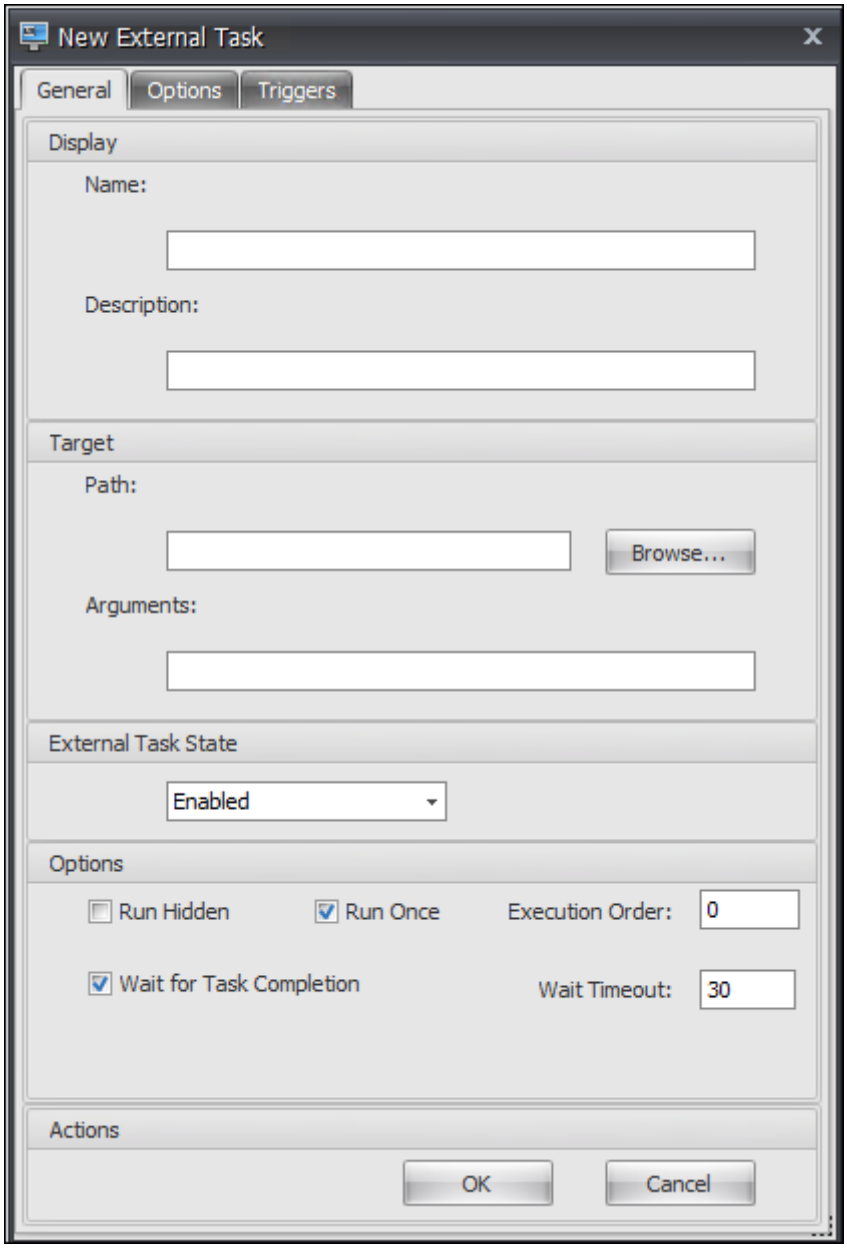
外部タスク・リスト

既存の外部タスクのリスト。[検索] を使用して、リストをフィルタできます。

外部タスクを追加するには

1. コンテキストメニューの **[追加]** コマンドを使用します。
2. 「新規外部タスク」ダイアログのタブに詳細を入力し、「**OK**」をクリックします。

フィールドとコントロール



© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

Name：外部タスクのリストに表示される外部タスクの表示名を指定できます。

[説明**]**。外部タスクに関する追加情報を指定できます。

パス。外部タスクへのパスを指定できます。パスはユーザー環境で解決されます。以下の点について確認してください：

- ここで指定したパスは、エージェントホストと一致しています。
- エージェント・ホストには、タスクを実行するための対応するプログラムがあります。

引数。起動パラメーターまたは引数を指定できます。文字列を入力できます。文字列には、ターゲットスクリプトまたはアプリケーションに渡す引数が含まれています。[パス] フィールドと [引数] フィールドの使用例については、「外部タスクの例」を参照してください。

外部タスクの状態。外部タスクを有効にするか無効にするかを制御します。無効にすると、タスクがユーザーに割り当てられている場合でも、エージェントはタスクを処理しません。

[非表示**]** を実行します。選択すると、タスクはバックグラウンドで実行され、ユーザーには表示されません。

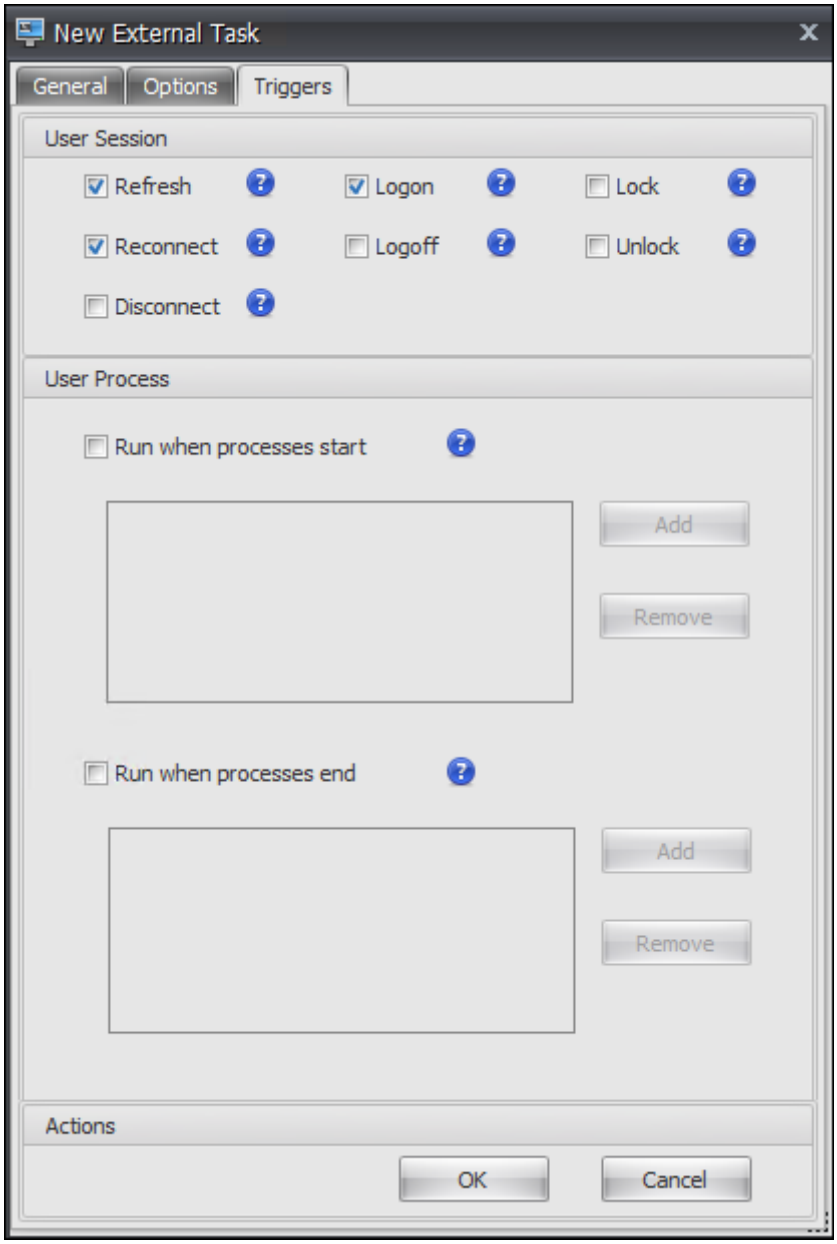
1 回実行してください。選択した場合、[**Triggers**] タブで選択したオプションや、エージェントが再起動するかどうかに関係なく、WEM はタスクを 1 回だけ実行します。デフォルトではこのオプションが選択されています。

実行順序。各タスクの実行順序を指定できます。このオプションは、複数のタスクがユーザーに割り当てられており、一部のタスクが他のタスクに依存して正常に実行されている場合に便利です。デフォルトでは、値は 0 です。実行順序の値が 0 (ゼロ) のタスクが最初に実行され、次に値 1 のタスク、次に値 2 のタスクが実行されます。

タスク完了を待ちます。エージェントがタスクの完了を待機する時間を指定できます。デフォルトでは、[待機タイムアウト] の値は 30 秒です。

アクションタイプ。外部タスクがどのようなアクションであるかを記述します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



ユーザーセッショントリガー。この機能を使用すると、次のセッションアクティビティを外部タスクのトリガーとして設定できます。

- 更新。ユーザーがエージェントを更新するときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
- 再接続。エージェントが実行されているマシンにユーザーが再接続したときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。WEM エージェントが物理 Windows デバイスにインストールされている場合、このオプションは適用されません。
- ログオン。ユーザーのログオン時に外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

- ログオフ。ユーザーがログオフするときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。Citrix ユーザーログオンサービスが実行されていない限り、このオプションは機能しません。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- 切断。エージェントが実行されているマシンからユーザーが切断したときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- **[**ロック]。エージェントが実行されているマシンをユーザーがロックしたときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- ロック解除。エージェントが実行されているマシンをユーザーがロック解除したときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

切断、ロック、ロック解除のオプションを使用する場合は、次の制約を考慮してください。

- これらのオプションの実装は Windows イベントに基づきます。環境によっては、これらのオプションが期待どおりに機能しないことがあります。たとえば、Windows 10 または Windows 11 のシングルセッション VDA で実行されているデスクトップでは、切断オプションは機能しません。代わりに lock オプションを使用してください。(このシナリオでは、受け取るアクションは「ロック」です。)
- これらのオプションは UI エージェントとともに使用することをお勧めします。2 つの理由:
  - CMD エージェントでオプションを使用すると、対応するイベントが発生するたびにエージェントがユーザー環境で起動し、外部タスクが実行されるかどうかを確認します。
  - 同時実行タスクシナリオでは、CMD エージェントが最適に動作しない場合があります。

ユーザープロセストリガー。この機能を使用すると、ユーザープロセスを外部タスクのトリガーとして設定できます。この機能を使用すると、特定のプロセスが実行されている場合にのみリソースを提供し、プロセスの終了時にそれらのリソースを取り消す外部タスクを定義できます。プロセスを外部タスクのトリガーとして使用すると、ログオン時またはログオフ時に外部タスクを処理する場合に比べて、ユーザー環境をより正確に管理できます。

- この機能を使用する前に、次の前提条件が満たされていることを確認してください。
  - WEM エージェントが起動し、UI モードで実行されます。
  - 指定されたプロセスは、ログオンユーザーと同じユーザーセッションで実行されます。
  - 構成された外部タスクを最新の状態に保つには、[詳細設定**] > [**構成**] > [**詳細オプション] タブで [自動更新を有効にする] を選択してください。
- プロセスの開始時に実行します。指定したプロセスの開始時に外部タスクを実行するかどうかを制御します。
- プロセスが終了したときに実行します。指定したプロセスの終了時に外部タスクを実行するかどうかを制御します。

トラブルシューティング

この機能を有効にすると、WEM エージェントは、ユーザが初めてログオフしたときに`Citrix WEM Agent Logoff.log`という名前のログファイルを作成します。ログファイルは、ユーザーのプロファイルルートフォルダ

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

ーにあります。WEM エージェントは、ユーザーがログオフするたびに情報をログファイルに書き込みます。この情報は、外部タスクに関連する問題の監視とトラブルシューティングに役立ちます。

外部タスクの例

スクリプト（PowerShell スクリプトなど）の場合:

- フォルダパスもスクリプト名にも空白文字が含まれていない場合は、次のようにします。
  - [パス] フィールドに、次のように入力します: `C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
  - [引数] フィールドに、次のように入力します: `C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

  または、[パス] フィールドにスクリプトファイルへのパスを直接入力することもできます。例: `C:\<folder path>\<script name>.ps1`。[引数] フィールドで、必要に応じて引数を指定します。ただし、スクリプトファイルを実行するか、別のプログラムで開くかは、ユーザー環境で構成されたファイルタイプの関連付けによって異なります。ファイルタイプの関連付けの詳細については、「ファイルの関連付け」を参照してください。

- フォルダパスまたはスクリプト名に空白文字が含まれている場合は、次の操作を行います。
  - [パス] フィールドに、次のように入力します: `C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
  - [引数] フィールドに、次のように入力します: `-file C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

アプリケーション (iexplore.exe など) の場合:

- [パス] フィールドに、次のように入力します: `C:\Program Files\"Internet Explorer"\iexplore.exe`。
- [引数] フィールドに、Web サイトの URL を入力して開きます: `https://docs.citrix.com/`。

ファイル システム操作

June 1, 2023

ユーザーの環境へのフォルダとファイルのコピーを制御します。

> ヒント:
>
> 動的トークンを使用すると、Workspace Environment Management アクションを拡張して、アクションをより強力にすることができます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

ファイル・システム・オペレーション・リスト

既存のファイルとフォルダの操作のリスト。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

ファイル・システム・オペレーションを追加するには

1. コンテキストメニューの **[追加]** コマンドを使用します。
2. 「新規ファイルシステムオペレーション」ダイアログのタブに詳細を入力し、「**OK**」をクリックします。

フィールドとコントロール

Name: リストに表示されるファイルまたはフォルダ操作の表示名です。

[説明]。リソースに関する追加情報を指定できます。このフィールドは、編集ウィザードまたは作成ウィザードにのみ表示されます。

ファイルシステムの動作状態。ファイルシステムの操作を有効にするか無効にするかを制御します。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ソースパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダへのパス。

ターゲットパス。コピーするコピー元のファイルまたはフォルダーのコピー先のパス。

既存の場合はターゲットを上書きします。ファイルまたはフォルダの操作で、ターゲットの場所にある同じ名前の既存のファイルまたはフォルダを上書きするかどうかを制御します。オフにすると、同じ名前のファイルまたはフォルダがコピー先の場所に既に存在する場合、影響を受けるファイルはコピーされません。

1 回実行してください。デフォルトでは、Workspace Environment Management は、エージェントが更新されるたびにファイルシステム操作を実行します。Workspace Environment Management で、更新のたびにではなく、1 回だけ操作を実行するようにするには、このオプションを選択します。これにより、エージェントのリフレッシュ・プロセスが高速化されます。特に、多数のファイル・システム操作をユーザーに割り当てている場合は特にそうです。

アクションタイプ。このファイルまたはフォルダのアクションの種類について説明します。コピー、削除、移動、名前の変更、またはシンボリックリンク操作。シンボリックリンクを作成するには、Windows でシンボリックリンクの作成を許可する`SeCreateSymbolicLinkPrivilege`権限をユーザーに付与する必要があります。

実行順序。操作の実行順序を決定し、特定の操作を他の操作よりも先に実行できるようにします。実行順序の値が 0 (ゼロ) の操作が最初に実行され、次に値が 1 の操作、次に値が 2 の操作、というように実行されます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

ユーザー **DSN**

June 1, 2023

ユーザー DSN の作成を制御します。

> ヒント**:**
>
> 動的トークンを使用すると 、Workspace Environment Management アクションを拡張して、アクションをより強力にすることができます。

ユーザー **DSN** リスト

既存のユーザー DSN のリスト。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

ユーザー **DSN** を追加するには

1. コンテキストメニューの **[**追加**]** コマンドを使用します。
2. 「新規ユーザー **DSN** 」ダイアログのタブに詳細を入力し、「**OK**」をクリックします。

フィールドとコントロール

Name: ユーザー DSN リストに表示されるユーザー DSN の表示名。

[説明**]**。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ユーザー **DSN** の状態。ユーザー DSN が有効か無効かを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

DSN 名。ユーザー DSN の機能名。

ドライバー。DSN ドライバです。現時点では、SQL サーバーの DSN のみがサポートされています。

サーバー名。ユーザー DSN が接続する SQL サーバーの名前。

データベース名。ユーザー DSN が接続する SQL データベースの名前。

特定の認証情報を使用して接続します。サーバー/データベースへの接続に使用する資格情報を指定できます。

1 回実行してください。デフォルトでは、Workspace Environment Management は、エージェントが更新されるたびにユーザー DSN を作成します。Workspace Environment Management では、更新のたびにユーザー DSN を作成するのではなく、1 回だけ作成する場合は、このチェックボックスをオンにします。これにより、エージェントの更新プロセスが高速化されます。特に、多数の DSN がユーザーに割り当てられている場合は特にそうです。

アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

ファイルの関連付け

June 1, 2023

> 重要:
>
> 構成するファイルの種類関連付けは、自動的に既定の関連付けになります。ただし、該当するファイルを開くと、「このファイルを開く方法しますか?」ウィンドウが表示されても、ファイルを開くアプリケーションを選択するように求めるメッセージが表示されます。「**OK**」をクリックしてウィンドウを閉じます。同じようなウィンドウを今後表示したくない場合は、次の操作を行います。グループポリシーエディターを開き、「新しいアプリケーションがインストールされました」という通知ポリシーを有効にします ([コンピューターの構成] **>** [管理用テンプレート] **>** [**Windows** コンポーネント] **>** [ファイルエクスプローラー])。

ユーザー環境でのファイルタイプの関連付けの作成を制御します。

> ヒント:
>
> 動的トークンを使用して 、Workspace Environment Management アクションを拡張し、より強力にすることができます。

ファイルの関連付けリスト

既存のファイルの関連付けのリスト。[検索] を使用して、名前または ID でリストをフィルタできます。

ファイルの関連付けを追加するには

1. コンテキストメニューの **[**追加**]** コマンドを使用します。
2. 「新規ファイル関連付け」ダイアログのタブに詳細を入力し、「**OK**」をクリックします。

Name: ファイルの関連付けリストに表示されるファイルの関連付けの表示名です。

[説明**]**。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ファイル関連付けの状態。ファイルの関連付けを [有効] または [無効] のどちらにするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ファイル拡張子です。このファイルの種類の関連付けに使用される拡張子。リストからファイル名拡張子を選択すると、**ProgID** フィールドが自動的に入力されます（管理コンソールが実行されているマシンにファイルタイプが存在する場合)。拡張機能を直接入力することもできます。ただし、ブラウザの関連付けの場合は、拡張子を直接入力する必要があります。詳細については、「ブラウザの関連付け」を参照してください。

ProgID。アプリケーション (COM) に関連付けられたプログラム識別子。この値は、リストからファイル拡張子を選択すると、自動的に設定されます。ProgID を直接入力することもできます。インストールされているアプリケーションの ProgID を検出するには、OLE/COM オブジェクトビューア (oleview.exe) を使用して、オブジェクトクラ

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

ス/ OLE 1.0 オブジェクトを確認します。ProgID の詳細については、「プログラム識別子 (ProgID)」を参照してください。

操作。アクションタイプ (開く、編集、印刷) を選択できます。

ターゲットアプリケーション。このファイル名拡張子で使用する実行可能ファイルを指定できます。実行可能ファイルのフルパスを入力します。たとえば、UltraEdit テキストエディタの場合: `C:\Program Files\IDM Computer Solutions\UltraEdit\uedit64.exe`

コマンド。実行可能ファイルに関連付けるアクションタイプを指定できます。例:

- 開くアクションの場合は、“%1”と入力します。
- 印刷アクションの場合は、`/p"%1"`と入力します。

デフォルトアクションとして設定します。関連付けが、そのファイル名拡張子の既定として設定されているかどうかを切り替えます。

[上書き**]**。このファイルの関連付けが、指定した拡張子の既存の関連付けを上書きするかどうかを切り替えます。

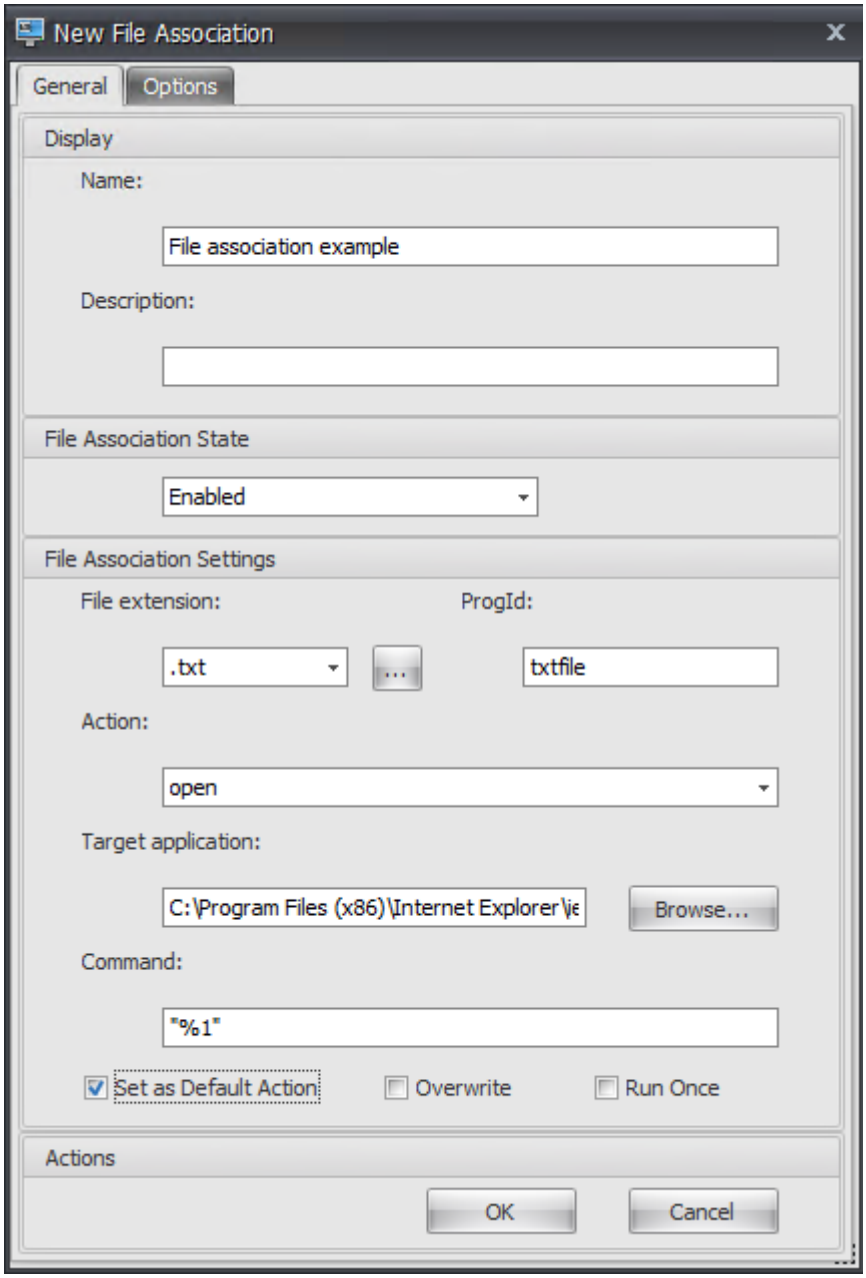
1 回実行してください。デフォルトでは、Workspace Environment Management (WEM) は、エージェントが更新されるたびにファイルの関連付けを作成します。このオプションを選択すると、更新するたびではなく、1 回だけファイルの関連付けが作成されます。これにより、エージェントの更新プロセスが高速化されます。特に、多くのファイルの関連付けがユーザーに割り当てられている場合。

アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

たとえば、テキスト (.txt) ファイルの新しいファイルタイプの関連付けを追加して、ユーザーが選択したプログラム (ここでは iexplore.exe) でテキストファイルを自動的に開くには、次の手順を実行します。

1. 管理コンソール **>** アクション **>** ファイル関連付け **>** ファイルの関連付けリスト] タブで、[追加] をクリックします。
2. 「新規ファイル関連付け」ウィンドウに情報を入力し、「**OK**」をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



- ファイル関連付けの状態。[有効] をクリックします。
- ファイル拡張子。ファイル名拡張子を入力します。この例では、.txt と入力します。
- 操作。[開く] を選択します。
- ターゲットアプリケーション。[参照] をクリックして、該当する実行可能ファイル (.exe ファイル) に移動します。この例では、C:\Program ファイル (x86)\ Internet Explorer フォルダにある iexplore.exe を参照します。
- コマンド。「%1」と入力し、%1 を二重引用符で囲むようにしてください。
- [既定のアクションとして設定] を選択します。

3. [管理コンソール] **>** [割り当て] **>** [アクションの割り当て] タブに移動します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

4. アクションを割り当てるユーザーまたはユーザー・グループをダブルクリックします。
5. [管理コンソール**] > [**管理**] > [**エージェント**] > [**統計] タブに移動し、[更新] をクリックします。
6. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューから [ワークスペースエージェントのリフレッシュ] を選択します。
7. エージェントが実行されているマシン（ユーザー環境）に移動し、作成されたファイルタイプの関連付けが機能することを確認します。

この例では、エンドユーザー環境で拡張子.txt のファイルをダブルクリックすると、そのファイルは自動的に Internet Explorer で開きます。

ヒント

ブラウザーの関連付け

WEM は、次のブラウザーの関連付けの作成をサポートしています。

- Google Chrome
- Firefox
- オペラ
- Internet Explorer (IE)
- Microsoft Edge
- Microsoft Edge Chromium

ブラウザーの関連付けを作成するときは、次の点に注意してください。

- [ファイル拡張子] フィールドに、`http`または`https`と入力します。
- [**ProgID**] フィールドに、選択内容に基づいて次の (大文字と小文字が区別されます) を入力します。
  - Google Chrome の場合`ChromeHTML`
  - Firefox の場合`firefox`
  - Opera の場合`OperaStable`
  - Internet Explorer (IE)`IE`
  - Microsoft Edge 用`edge`
  - Microsoft Edge Chromium の場合`edge`または`MSEdgeHTM`

プログラム識別子 **(ProgID)**

「アクション」、「ターゲットアプリケーション」、「コマンド」の各フィールドに入力する必要はなくなりました。正しい **ProgID** を提供できる限り、フィールドは空のままにしておくことができます。一般的なアプリケーションの ProgID のリストを以下に示します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

- Acrobat Reader DC: `AcroExch.Document.DC`
- Opera ブラウザ: `OperaStable`
- Google Chrome ブラウザ: `ChromeHTML`
- Internet Explorer: `htmlfile`
- Wordpad: `textfile`
- メモ帳: `txtfile`
- Microsoft Word 2016: `Word.Document.12`
- Microsoft PowerPoint 2016: `PowerPoint.Show.12`
- Microsoft Excel 2016: `Excel.Sheet.12`
- Microsoft Visio 2016: `Visio.Drawing.15`
- Microsoft Publisher 2016: `Publisher.Document.16`

ただし、次の場合は、フィールド ([アクション]、[ターゲットアプリケーション]、および [コマンド]) を入力する必要があります。

- 正しい **ProgID** を指定することはできません。
- ターゲットアプリケーション (UltraEdit テキストエディターなど) は、インストール中にレジストリに独自の ProgID を登録しません。

フィルター

June 1, 2023

フィルタには、ユーザーがアクションを使用可能にする (アクションを割り当てる) ためのルールと条件が含まれています。ユーザーにアクションを割り当てる前に、ルールと条件を設定します。

規則

ルールは複数の条件で構成されます。ルールを使用して、アクションがユーザーに割り当てられるタイミングを定義します。

フィルタ規則リスト

既存のルールのリスト。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

フィルタルールを追加するには

1. コンテキストメニューの **[追加]** コマンドを使用します。
2. [新しいフィルタルール] ダイアログに詳細を入力します。
3. このルールで構成する条件を [使用可能] リストから [構成済み] リストに移動します。
4. [**OK**] をクリックします。

フィールドとコントロール

Name: ルールリストに表示されるルールの表示名。

[説明]。このフィールドはエディション/作成ウィザードにのみ表示され、ルールに関する追加情報を指定できます。

フィルタルールの状態。ルールが有効か無効かを切り替えます。無効にすると、エージェントは、割り当てられている場合でも、このルールを使用してアクションを処理しません。

使用可能な条件。これらは、ルールに追加できるフィルタ条件です。注。**DateTime** フィルタは、次の形式で結果を期待します。`YYYY/MM/DD HH:mm`

複数の値はセミコロン (;) で区切ることができ、範囲はハイフンで区切ることができます。同じ日付に 2 回の範囲を指定する場合、日付は範囲の両端に含める必要があります。たとえば、1969/12/31 09:00-1969/12/31 17:00

設定済みの条件。これらは、すでにルールに追加されている条件です。

> 注:
>
> これらの条件は **AND** ステートメントであり、**OR** ステートメントではありません。複数の条件を追加する場合、フィルタがトリガーされたと見なされるためには、それらの条件がすべてトリガーされる必要があります。

条件

条件は、エージェントがユーザーにリソースを割り当てる状況を設定できる特定のトリガーです。

フィルタ条件リスト

既存の条件のリスト。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

フィルタ条件を追加するには

1. コンテキストメニューの **[追加]** コマンドを使用します。
2. 「新規フィルタ条件」ダイアログのタブに詳細を入力し、「**OK**」をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

フィールドとコントロール

Name：条件リストおよびルールの作成/編集ウィザードに表示される条件の表示名。

[説明]。このフィールドはエディション/作成ウィザードにのみ表示され、条件に関する追加情報を指定できます。

フィルタ条件状態。フィルタを有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ルール作成/編集ウィザードに表示されません。

フィルタ条件タイプ。使用するフィルタ条件タイプのタイプ。フィルター条件を参照してください。注:[常に真] 条件を使用するルールは、常にトリガーされます。

設定。これらは、個々の条件の特定の設定です。フィルター条件を参照してください。

> 注:
>
> IP アドレスを入力するときは、個々のアドレスまたは範囲を指定できます。
>
> 範囲を指定する場合は、両方の境界をフルで指定する必要があります。IP 範囲境界を区切るには、ダッシュ文字（**-**）を使用します（たとえば、**192.168.10.1-192.168.10.5**）。セミコロン (**;**) を使用して、複数の範囲またはアドレスを区切ります。たとえば、**192.168.10.1-192.168.10.5; 192.168.10.8; 192.168.10.17** は、**.1-.5** および**.8-.10** の範囲と個々のアドレス ****.17**** を含む有効な値です。

Assignments

June 1, 2023

> ヒント:
>
> ユーザーにアクションを割り当てる前に、次の手順を所定の順序で実行します。
>
> - ユーザーを構成するには、「Active Directory オブジェクト内のユーザー 」を参照してください。
> - 条件を定義します。条件を参照してください。
> - フィルタルールを定義します。ルールを参照してください。
> - ここで説明するアクションを設定します。

アサインメントを使用して、ユーザーがアクションを使用できるようにします。これにより、ユーザーのログオンスクリプトの一部を置き換えることができます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

アクション割り当て

ユーザー

これは、構成済みのユーザーとグループのリストです (「Active Directory オブジェクト内のユーザー 」を参照)。ユーザーまたはグループをダブルクリックして、割り当てメニューを設定します。[検索] を使用して、名前または ID でリストをフィルタリングします。

> ヒント:
>
> Active Directory のすべてのユーザーに対するアクションの割り当てを簡素化するには、「Everyone」の既定のグループを使用してアクションを割り当てます。[すべてのユーザー] の既定のグループに割り当てたアクションは、個々のユーザーの [****** アクションモデリングウィザード] の [結果アクション **] タブに表示されません。たとえば、action1 を「Everyone」のデフォルトグループに割り当てた後、action1 が [結果のアクション] タブに表示されないことがあります。

Assignments

選択したユーザーまたはグループにアクションを割り当てることができます。[検索] を使用して、名前または ID でリストをフィルタリングします。

使用できます。このユーザーまたはグループに割り当てることができるアクションが表示されます。

アクションをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして、アクションを割り当てるか割り当て解除します。アクションを割り当てると、コンテキスト化するルールを選択するよう求められます。

割り当て済み。このユーザーまたはグループに既に割り当てられているアクションを表示します。個々のアクションを展開して構成できます (アプリケーションのショートカットの場所、既定のプリンタ、ドライブ文字など)。

ユーザー/グループにアクションを割り当てるには

1. [ユーザー] リストで、ユーザーまたはグループをダブルクリックします。これにより、[割り当て] リストにデータが入力されます。
2. [使用可能] リストで、アクションを選択し、右矢印 (**) ボタンをクリックします。
3. 「フィルタの割り当て」ダイアログで、****** フィルタルールを選択し ** 、「**OK**」をクリックします。
4. 「割り当て」(Assigned) リストで、「有効化」(**Enable**) および「無効」(Disable) コンテキストアクションを使用して、割り当ての動作を微調整できます。

> 注:
>
> [スタートメニューに固定] オプションが機能するようにするには、アプリケーションのショートカットがスタートメニューフォルダにあることを確認してください。よくわからない場合は、[スタートメニューの作成] オプションも有効にしてください。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

たとえば、メモ帳を起動するアクションを割り当てるとします。割り当て済みリストでは、オプション「自動開始」が提供され、デフォルトで「無効」に設定されています。[有効にする] オプションを使用して自動起動を有効にすると、ユーザーが公開デスクトップセッションを起動すると、メモ帳（VDA 上のローカルメモ帳）が自動的に起動します（デスクトップのロードが完了すると、ローカルメモ帳が自動的に起動します）。

モデリングウィザード

アクションモデリングウィザードには、特定のユーザーに対する結果アクションのみが表示されます (グループでは機能しません)。

フィールドとコントロール

アクションモデリングターゲットユーザー。モデル化するユーザーのアカウント名。

結果アクション。ユーザーまたはユーザーが属するグループに割り当てられたアクション。

ユーザーグループ。ユーザーが属するグループ。

システム最適化

June 1, 2023

Workspace Environment Management システムの最適化は、次のもので構成されます。

- CPU 管理
- メモリ管理
- I/O 管理
- 高速ログオフ
- Citrix Optimizer

これらの設定は、エージェントホストのリソース使用量を減らすように設計されています。これらのリソースは、解放されたリソースが他のアプリケーションで使用できるようにするのに役立ちます。これにより、同じサーバー上でより多くのユーザーをサポートすることで、ユーザーの密度が向上します。

システム最適化設定はマシンベースで、すべてのユーザーセッションに適用されますが、プロセスの最適化はユーザー中心です。つまり、プロセスがユーザー A のセッションで CPU Spike Protection をトリガーすると、そのイベントはユーザー A に対してのみ記録されます。ユーザー B が同じプロセスを開始すると、プロセス最適化の動作は、ユーザー B のセッションのプロセス・トリガーによってのみ決定されます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

CPU 管理

June 1, 2023

これらの設定により、CPU 使用率を最適化できます。

CPU 管理設定

プロセスはすべてのコアで実行でき、CPU を必要なだけ使い果たすことができます。Workspace Environment Management (WEM) の [**CPU** 管理設定] では、個々のプロセスが使用できる CPU キャパシティを制限できます。CPU スパイク保護は、全体的な CPU 使用量を減らすようには設計されていません。これは、CPU 使用率を過剰に消費するプロセスによるユーザーエクスペリエンスへの影響を軽減するように設計されています。

CPU スパイク保護を有効にすると、プロセスが指定したしきい値に達すると、WEM はプロセスの優先度を一定時間自動的に下げます。その後、新しいアプリケーションが起動されると、優先順位の低いプロセスよりも優先順位が高く、システムはスムーズに動作し続けます。

CPU スパイク保護は、クイック「スナップショット」で各プロセスを検証します。プロセスの平均負荷が、指定したサンプル時間に対して指定された使用制限を超えると、その優先度はすぐに低下します。指定した時間が経過すると、プロセスの CPU 優先度は前の値に戻ります。プロセスは「スロットル」されません。**CPU** クランピングとは異なり、優先順位のみが下がります。

CPU スパイク保護は、個々のプロセスの少なくとも 1 つのインスタンスがしきい値を超えるまでトリガーされません。つまり、CPU の合計消費量が指定されたしきい値を超えた場合でも、少なくとも 1 つのプロセスインスタンスがしきい値を超えない限り、CPU スパイク保護はトリガーされません。しかし、そのプロセスインスタンスが CPU スパイク保護をトリガーすると、「インテリジェントな CPU 最適化を有効にする」オプションを有効にすると、同じプロセスの新しいインスタンスが (CPU) 最適化されます。

特定のプロセスが CPU スパイク保護をトリガーするたびに、イベントはエージェントのローカルデータベースに記録されます。エージェントは、各ユーザーのトリガーイベントを個別に記録します。つまり、user1 の特定のプロセスの CPU 最適化は、user2 の同じプロセスの動作には影響しません。

たとえば、Internet Explorer が CPU の 50～60% を消費することがある場合には、CPU スパイク保護を使用して、VDA のパフォーマンスを脅かすような iexplore.exe インスタンスのみをターゲットにすることができます。（対照的に、CPU クランプはすべてのプロセスに適用されます。）

サンプル時間を試して、同じ VDA にログオンしている他のユーザーに影響を与えない環境に最適な値を決定することをお勧めします。

CPU スパイク保護

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

> 注:
>
> - 以下の設定の「CPU 使用率」は、物理マシンまたは仮想マシンの「論理プロセッサ」数に基づきます。CPU の各コアは、Windows と同じ方法で、論理プロセッサと見なされます。たとえば、1 つの 6 コア CPU を搭載した物理マシンは、12 個の論理プロセッサを搭載していると見なされます (ハイパースレッドテクノロジーにより、コアが 2 倍になります)。8 個の CPU を搭載し、それぞれ 12 個のコアを持つ物理マシンには、96 個の論理プロセッサがあります。2 つの 4 コア CPU で構成された VM には、8 個の論理プロセッサがあります。
> - 同じことが仮想マシンにも当てはまります。たとえば、8 個の CPU を持つ物理マシンがあり、それぞれに 12 個のコア（96 個の論理プロセッサ）があり、4 つのマルチセッション OS VDA 仮想マシンをサポートしているとします。各仮想マシンは、2 つの 4 コア CPU（8 つの論理プロセッサ）で構成されます。仮想マシンで CPU スパイク保護をトリガーするプロセスを制限するには、そのコアの半分を使用するには、[**CPU** コア使用量の制限] を 48 (物理マシンの論理プロセッサの半分) ではなく 4 (仮想マシンの論理プロセッサの半分) に設定します。

CPU スパイク保護を有効にします。一定期間（[サンプル時間の制限（Limit Sample Time）] フィールドで指定)、一定期間の CPU 使用率の指定パーセンテージを超えた場合（[アイドル優先時間（Idle Priority Time）] フィールドで指定)、プロセスの CPU 優先度を一定期間下げます。

- **CPU** スパイクを自動防ぐ。CPU を過負荷にするプロセスの CPU 優先度を自動的に下げるには、このオプションを使用します。このオプションは、論理プロセッサ (CPU コア) の数に基づいて CPU スパイク保護をトリガーするしきい値を自動的に計算します。たとえば、コアが 4 つあるとします。このオプションを有効にすると、全体の CPU 使用率が 23% を超えると、CPU リソース全体の 15% 以上を消費するプロセスの CPU 優先順位が自動的に低下します。同様に、8 コアの場合、全体の CPU 使用率が 11% を超えると、CPU リソースの 8% 以上を消費するプロセスの CPU 優先順位が自動的に低下します。
- **CPU** スパイク保護をカスタマイズします。CPU スパイク保護の設定をカスタマイズできます。
  - **CPU** 使用量の制限。CPU スパイク保護をトリガーするためにプロセスインスタンスが到達する必要がある CPU 使用率の割合。この制限は、サーバ内のすべての論理プロセッサでグローバルであり、インスタンスごとに決定されます。同じプロセスの複数のインスタンスでは、CPU スパイク保護トリガーを決定するときに、CPU 使用率の割合は加算されません。プロセスインスタンスがこの制限に達しない場合、CPU スパイク保護はトリガーされません。たとえば、サーバー VDA で、複数の同時セッションで、多数の iexplore.exe インスタンスがあるとします。各インスタンスは、一定期間中約 35% の CPU 使用率でピークに達しているため、累積的に、iexplore.exe は CPU 使用率の一貫して高い割合を消費しています。ただし、CPU 使用率の制限を 35% 以下に設定しない限り、CPU スパイク保護はトリガーされません。
  - サンプル時間を制限します。プロセスが CPU プライオリティを下げる前に CPU 使用率の制限を超える必要がある時間。
  - アイドルプライオリティ時間。プロセスの CPU プライオリティが低下する時間の長さ。この時間が経過すると、優先順位は次のいずれかに戻ります。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

  * [CPU の優先度] タブでプロセスの優先順位が指定されておらず、[インテリジェント **CPU 最適化を有効にする **] オプションが選択されていない場合のデフォルトレベル (標準)。
  * [インテリジェントな **CPU** 最適化を有効にする] オプションが選択されているかどうかにかかわらず、[**CPU** の優先度] タブでプロセスの優先順位が指定されている場合に、指定したレベル。
  * プロセスの動作に応じてランダムなレベル。このケースは、[**CPU** 優先度**]** タブでプロセスの優先順位が指定されておらず、[インテリジェント **CPU** 最適化を有効にする] オプションが選択されている場合に発生します。プロセスが CPU スパイク保護をトリガーする頻度が高いほど、CPU の優先度は低くなります。

CPU コア使用量の制限を有効にします。CPU スパイク保護をトリガーするプロセスを、マシン上の指定された数の論理プロセッサに制限します。1 ～X の範囲の整数を入力します。X はコアの総数です。X より大きい整数を入力すると、WEM は分離されたプロセスの最大消費量を既定で X に制限します。

- **CPU** コア使用量を制限します。CPU スパイク保護をトリガーするプロセスが制限される論理プロセッサの数を指定します。VM の場合、入力する値によって、基盤となる物理ハードウェアではなく、VM 内の論理プロセッサの数にプロセスが制限されます。

インテリジェントな **CPU** 最適化を有効にします。有効にすると、エージェントは CPU スパイク保護をトリガーするプロセスの CPU 優先度をインテリジェントに最適化します。CPU スパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正しく動作するプロセスよりも起動時の CPU 優先度が徐々に低くなります。WEM は、次のシステムプロセスに対して CPU 最適化を実行しません。

- Taskmgr
- System Idle Process
- システム
- Svchost
- LSASS
- Wininit
- services
- csrss
- audiodg
- MsMpEng
- NisSrv
- mscorsvw
- VMWareResolutionset

インテリジェントな **I/O** 最適化を有効にします。有効にすると、エージェントは CPU スパイク保護をトリガーするプロセスのプロセス I/O 優先度をインテリジェントに最適化します。CPU スパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正しく動作するプロセスよりも起動時の I/O 優先度が徐々に低くなります。

指定したプロセスを除外する。デフォルトでは、WEM CPU 管理は、最も一般的な Citrix および Windows コアサービスプロセスのすべてを除外します。ただし、このオプションを使用して、CPU **** スパイク保護の実行名による

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

除外リストからプロセスを追加または削除できます ** (例:notepad.exe)。通常、ウイルス対策プロセスは除外されます。

> ヒント:
>
> - セッションでディスク I/O を引き継ぐアンチウイルススキャンを停止するには、アンチウイルスプロセスの静的な I/O 優先度を [低] に設定することもできます。I/O 管理を参照してください。
> - プロセスが CPU スパイク保護をトリガーし、プロセスの CPU 優先度が下がると、WEM はプロセスの CPU 優先度が下がるたびに警告を記録します。イベントログの [アプリケーションとサービスログ] の [Norskale Agent Service] で、[プロセスのプロセス制限スレッドを初期化中] を探します。

CPU プライオリティ

これらの設定は、プロセスがリソースと競合している場合に有効になります。これにより、特定のプロセスの CPU 優先度レベルを最適化できるため、CPU プロセッサ時間に対して競合しているプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こさないようになります。プロセスが互いに競合する場合、優先順位の低いプロセスは、優先順位の高い他のプロセスの後に処理されます。したがって、CPU 全体の消費量の大きなシェアを消費する可能性は低くなります。

ここで設定するプロセスの優先順位は、プロセス内のすべてのスレッドの「基本優先順位」を確立します。スレッドの実際の「現在の」優先順位は高くなる可能性があります（ただし、ベースよりも低いことはありません）。コンピューター上で多数のプロセスが実行されている場合、プロセッサ時間は CPU の優先度レベルに基づいてそれらの間で共有されます。プロセスの CPU 優先度レベルが高いほど、プロセッサ時間が割り当てられます。

> 注:
>
> 特定のプロセスで CPU の優先度を低く設定した場合、全体の CPU 消費量は必ずしも減少しません。CPU 使用率の割合に影響する他のプロセス（CPU プライオリティが高い）がある可能性があります。

[プロセスの優先度**]** を有効にします。オンにすると、プロセスの CPU プライオリティを手動で設定できます。

プロセスを追加するには

1. [追加] をクリックし、[プロセス **CPU** 優先度の追加] ダイアログボックスに詳細を入力します。
2. [**OK**] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
3. [**Apply**] をクリックして設定を適用します。ここで設定したプロセス CPU の優先順位は、エージェントが新しい設定を受け取り、プロセスが再起動されたときに有効になります。

   プロセス名。拡張子のないプロセスの実行可能ファイル名です。たとえば、Windows エクスプローラー (explorer.exe) の場合は、「エクスプローラー」と入力します。

   CPU プライオリティ。プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度。プロセスの優先度レベルが高いほど、プロセッサ時間が長くなります。[リアルタイム]、[高]、[通常以上]、[通常以下]、[低] から選択します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

プロセスを編集するには

プロセスを選択し、[**Edit**] をクリックします。

プロセスを削除するには

プロセスを選択し、[**Remove**] をクリックします。

CPU アフィニティ

プロセスアフィニティを有効にします。有効にすると、プロセスで使用する「論理プロセッサ」の数を定義できます。たとえば、VDA で起動されるメモ帳のすべてのインスタンスを、定義されたコア数に制限できます。

CPU クランプ

CPU クランプにより、CPU の処理能力の、指定した割合を超えるプロセスが使用されるのを防ぐことができます。WEM は、設定した指定された CPU パーセンテージに達したときに、そのプロセスを「スロットル」（または「クランプ」）します。これにより、プロセスが大量の CPU を消費するのを防ぐことができます。

> 注:
>
> - CPU クランプは、演算費用のかかるブルートフォースアプローチです。面倒なプロセスの CPU 使用率を人為的に低く抑えるには、静的 CPU 優先順位と CPU アフィニティをそのようなプロセスに割り当てると同時に、CPU スパイク保護を使用する方がよいでしょう。CPU クランプは、リソース管理では悪く悪名高いが、優先順位を落とすことができないプロセスを制御するために最もよく予約されています。
> - CPU の処理能力のパーセンテージをプロセスに適用し、後で同じプロセスに異なる割合を設定したら、[**Agent Host Settings]** を選択して変更を有効にします。

設定したクランピングパーセンテージは、サーバ内の個々の CPU の総電力に適用されます。サーバに含まれる個々のコアには適用されません。（つまり、クアッドコア CPU の 10% は、1 つのコアの 10% ではなく、CPU 全体の 10% です）。

プロセスクランプを有効にします。プロセスクランピングを有効にします。

追加。実行可能名 (notepad.exe など) でプロセスを追加します。

[削除]。強調表示されたプロセスをクランプリストから削除します。

編集。特定のプロセスに入力された値を編集します。

> ヒント:
>
> - WEM がプロセスをクランプしているとき、WEM クライアントが初期化するウォッチリストにそのプロセスを追加します。これを表示すると、プロセスがクランプされていることを確認できます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

> - また、CPU クランプが機能していることを確認するには、プロセスモニターを見て、CPU 消費量がクランプ率を上回らないことを確認します。

メモリ管理

June 1, 2023

これらの設定により、Workspace Environment Management (WEM) を通じてアプリケーションのメモリ使用量を最適化できます。

メモリ管理

これらの設定が有効になっている場合、WEM は、安定性を失うことなく、プロセスが使用しているメモリ量とプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。WEM は、その違いを過剰なメモリと見なします。プロセスがアイドル状態になると、WEM はプロセスが消費する余分なメモリをページファイルに解放し、その後の起動のためにプロセスを最適化します。通常、アプリケーションはタスクバーに最小化されるとアイドル状態になります。

タスクバーからアプリケーションを復元すると、最初は最適化された状態で実行されますが、必要に応じて追加のメモリを消費し続けることができます。

同様に、WEM はユーザーがデスクトップセッション中に使用するすべてのアプリケーションを最適化します。複数のユーザーセッションに複数のプロセスがある場合、解放されたすべてのメモリは他のプロセスで使用できます。この動作により、同じサーバー上でより多くのユーザーをサポートできるようになり、ユーザー密度が高まります。

アイドル状態のプロセスのメモリ使用量を最適化します。指定された時間アイドル状態が続いたプロセスに、アイドル状態がなくなるまで余分なメモリを解放するように強制します。

アイドルサンプル時間 **(**分**)**。プロセスがアイドル状態とみなされ、その後に余分なメモリを強制的に解放するまでの時間を指定できます。この間、WEM は、安定性を失うことなく、プロセスが使用しているメモリ量と、プロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。デフォルト値は 120 分です。

アイドル状態の制限 **(**パーセント**)**。CPU 使用率のパーセンテージを指定して、この値を下回るとプロセスがアイドル状態とみなされます。デフォルトは 1% です。5% を超える値は使用しないことをお勧めします。そうしないと、アクティブに使用されているプロセスがアイドルと誤解され、そのメモリが解放される可能性があります。

[使用可能なメモリの合計が **(MB)** を超えた場合は最適化しない**]**。WEM がアイドル状態のアプリケーションのメモリ使用量を最適化するしきい値制限を指定できます。

メモリ使用量の最適化からプロセスを除外する。メモリ使用量の最適化からプロセスを除外できます。プロセス名 (notepad.exe など) を指定します。

WEM は、次のシステムプロセスのアプリケーションメモリ使用量を最適化しません。

- `rdpshell`

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

- wfshell
- rdpclip
- wmiprvse
- dllhost
- audiodg
- msdtc
- mscorsvw
- spoolsv
- smss
- winlogon
- svchost
- taskmgr
- System Idle Process
- System
- LSASS
- wininit
- msiexec
- services
- csrss
- MsMpEng
- NisSrv
- Memory Compression

メモリ使用量の制限

特定のプロセスに対するメモリ使用量の制限を有効にします。プロセスが消費できるメモリの上限を設定して、プロセスのメモリ使用量を制限できます。

> 警告:
>
> 特定のプロセスにメモリ使用量の制限を適用すると、システムの応答が遅くなるなど、意図しない影響が生じることがあります。

- 追加。メモリ使用量の制限を適用するプロセスを追加できます。
- **[**削除**]**。アイテムを削除できます。
- 編集。アイテムを編集できます。
- ダイナミックリミット。指定したプロセスに動的制限を適用できます。この設定は、指定したプロセスに割り当てられるメモリ量を動的に制限します。適用すると、使用可能なメモリに応じてメモリ使用量の制限が適用されます。そのため、指定したプロセスが消費するメモリが、指定した量を超える可能性があります。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

- 静的制限。指定したプロセスに静的制限を適用できます。この設定では、指定したプロセスに割り当てられるメモリ量が常に制限されます。適用すると、使用可能なメモリ量に関係なく、プロセスが指定したメモリ量を超えるメモリを消費しないように制限します。その結果、指定されたプロセスが消費するメモリは、指定された量に制限されます。

プロセスを追加するには:

1. **[**管理コンソール**] > [**システム最適化**] > [**メモリ管理**] > [**メモリ使用量の制限] タブで [追加] をクリックします
2. 「プロセスの追加」ウィンドウで、追加するプロセスの名前（notepad.exe など）を入力し、メモリ使用量の制限を構成し、ドロップダウンメニューから制限モードを選択して、「**OK**」をクリックします。

アイテムを編集するには、アイテムを選択して「編集」(**Edit**) をクリックします。

項目を削除するには、項目を選択して [削除] をクリックします。

項目に動的制限を適用するには、項目を選択して「動的制限」(**Dynamic Limit**) をクリックします。

項目に静的制限を適用するには、項目を選択して [静的制限] をクリックします。

I/O 管理

June 1, 2023

これらの設定により、特定のプロセスの I/O 優先度を最適化できます。これにより、ディスクおよびネットワーク I/O アクセスで競合しているプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こさないようにします。たとえば、I/O 管理設定を使用して、ディスク帯域幅が消費されるアプリケーションを抑制できます。

ここで設定するプロセスの優先順位は、プロセス内のすべてのスレッドの「基本優先順位」を確立します。スレッドの実際の「現在の」優先順位は高くなる可能性があります（ただし、ベースよりも低いことはありません）。一般に、Windows では、優先順位の低いスレッドよりも先に優先順位の高いスレッドにアクセスできます。

入出力優先度

[プロセス **I/O** 優先度**]** を有効にします。プロセス I/O 優先度の手動設定を有効にします。

I/O 優先度リストにプロセスを追加するには

1. [追加] をクリックし、[プロセス **I/O** 優先度の追加] ダイアログに詳細を入力します。
2. [**OK**] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
3. [**Apply**] をクリックして設定を適用します。ここで設定したプロセス I/O の優先順位は、エージェントが新しい設定を受け取り、プロセスが次に再起動されたときに有効になります。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

プロセス名。拡張子のないプロセスの実行可能ファイル名です。たとえば、Windows エクスプローラー (explorer.exe) の場合は、「エクスプローラー」と入力します。

I/O プライオリティ。プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度。プロセスの I/O 優先順位が高いほど、スレッドの I/O アクセスが早くなります。高、標準、低、非常に低いから選択します。

プロセス **I/O** 優先度項目を編集するには

プロセス名を選択し、[編集] をクリックします。

I/O 優先度リストからプロセスを削除するには

プロセス名を選択し、[削除] をクリックします。

高速ログオフ

June 1, 2023

高速ログオフは、リモートセッションへの HDX 接続をすぐに終了し、セッションがすぐに終了したような印象を与えます。ただし、セッション自体は、VDA のバックグラウンドでセッションログオフフェーズまで継続されます。

> 注:
>
> 高速ログオフは、Citrix Virtual Apps と RDS リソースのみをサポートします。

設定

高速ログオフを有効にします。この構成セットのすべてのユーザに対して高速ログオフを有効にします。ユーザーはすぐにログアウトされますが、セッションのログオフタスクはバックグラウンドで続行されます。

特定のグループを除外します。特定のユーザーグループを高速ログオフから除外できます。

Citrix Optimizer

June 1, 2023

Citrix Optimizer はユーザー環境を最適化してパフォーマンスを向上させます。ユーザー環境のクイックスキャンを実行し、テンプレートベースの最適化の推奨事項を適用します。ユーザー環境を最適化するには、次の 2 つの方法があります。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

- 組み込みのテンプレートを使用して最適化を実行します。そのためには、オペレーティングシステムに適用可能なテンプレートを選択します。
- または、特定の最適化を使用してカスタマイズした独自のテンプレートを作成し、Workspace Environment Management (WEM) にテンプレートを追加します。

カスタマイズ可能なテンプレートを取得するには、次のいずれかの方法を使用します。

- スタンドアロンの Citrix Optimizer が提供するテンプレートビルダー機能を使用します。スタンドアロンの Citrix Optimizer をhttps://support.citrix.com/article/CTX224676でダウンロードします。テンプレートビルダー機能を使用すると、独自のカスタムテンプレートを作成して WEM にアップロードできます。
- エージェントホスト（WEM エージェントがインストールされているマシン）で、`<C:\Program Files (x86)>\Citrix\Workspace Environment Management Agent\Citrix Optimizer\Templates`フォルダに移動し、デフォルトのテンプレートファイルを選択して、便利なフォルダにコピーします。仕様を反映するようにテンプレートファイルをカスタマイズし、カスタムテンプレートを WEM にアップロードします。

設定

Citrix Optimizer ザーを有効にします。Citrix Optimizer を有効または無効にするかどうかを制御します。

毎週実行してください。選択すると、WEM は毎週最適化を実行します。[毎週実行] が選択されていない場合、WEM は次のように動作します。

- テンプレートを WEM に初めて追加すると、WEM は対応する最適化を実行します。後でそのテンプレートを変更しない限り、WEM は最適化を 1 回だけ実行します。変更には、OS に異なるテンプレートを適用したり、[**Available**] ペインと [構成済み] ペイン間で最適化エントリを移動したりすることが含まれます。
- テンプレートに変更を加えるたびに、WEM は最適化を 1 回実行します。

> 注:
>
> 非永続的な VDI 環境では、WEM は同じ動作に従います。マシンを再起動すると、環境に対するすべての変更が失われます。Citrix Optimizer の場合、WEM はマシンが再起動するたびに最適化を実行します。

使用するテンプレートを自動的に選択します。使用するテンプレートが不明な場合は、このオプションを使用して、各 OS に対して最も一致するテンプレートを WEM で選択します。

- プレフィックスで始まるテンプレートの自動選択を有効にします。このオプションは、異なる名前の形式を持つカスタムテンプレートを使用できる場合に使用します。プレフィックスのコンマ区切りリストを入力します。カスタムテンプレートは次の名前の形式に従います。

  - `prefix_<os version>_<os build>`
  - `prefix_Server_<os version>_<os build>`

[**Citrix Optimizer**] タブには、システムの最適化を実行するために使用できるテンプレートのリストが表示されます。[アクション] セクションには、使用可能なアクションが表示されます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

- 追加。カスタムテンプレートを追加できます。
- **[**削除**]**。既存のカスタムテンプレートを削除できます。組み込みテンプレートは削除できません。
- 編集。既存のテンプレートを編集できます。
- プレビュー。選択したテンプレートに含まれる最適化エントリの項目別ビューを表示できます。

カスタム・テンプレートを追加するには、次の手順に従います。

1. **[**** 管理コンソール**] > [**システム最適化**] > [Citrix Optimizer] > [Citrix Optimizer**] タブで、[追加] をクリックします。**

2.「新規カスタムテンプレート」ウィンドウで、「参照」をクリックして該当するテンプレートを選択し、リストから該当する OS を選択し、テンプレートに含まれるグループを構成して、「**OK**」をクリックします。

> 重要:
>
> - Citrix Optimizer では、カスタムテンプレートのエクスポートはサポートされていません。カスタムテンプレートの追加後は、ローカルコピーを保持します。

テンプレートを編集するには、該当するテンプレートを選択し、[編集] をクリックします。

テンプレートを削除するには、該当するテンプレートを選択し、[削除] をクリックします。

テンプレートの詳細を表示するには、該当するテンプレートを選択し、[プレビュー] をクリックします。

フィールドとコントロール

テンプレート名。選択したテンプレートの表示名です。

適用可能な **OS**。オペレーティングシステムのリスト。テンプレートを適用するオペレーティングシステムを 1 つ以上選択します。一覧に表示されない Windows 10 OS に適用可能なカスタムテンプレートを追加できます。ビルド番号を入力して、これらの OS を追加します。OS はセミコロン（;）で区切ってください。たとえば、2001; 2004。

> 重要:
>
> - 同じ OS に適用できるテンプレートは 1 つだけです。
> - 現在、Windows 11 をターゲットとするカスタムテンプレートはサポートされていません。

グループ。[使用可能] ペインには、グループ化された最適化エントリのリストが表示されます。エントリはカテゴリ別にグループ化されます。グループをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックしてグループを移動します。

状態。テンプレートを有効状態と無効状態の間で切り替えます。無効にすると、エージェントはテンプレートを処理せず、WEM はテンプレートに関連付けられた最適化を実行しません。

Citrix Optimizer 設定への変更は、［詳細設定］**>**［構成］**>**［サービスオプション］タブの［**SQL** 設定の更新遅延］オプションで指定した値によっては、反映されるまでに時間がかかります。

変更をすぐに有効にするには、[管理**] > [**エージェント**] > [**統計] タブのコンテキストメニューに移動し、[**Citrix Optimizer** の処理] を選択します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

> ヒント：
>
> - 新しい変更がすぐに有効にならなくなる可能性があります。［**Citrix Optimizer** の処理］を選択する前に、［エージェントホスト設定の更新］を選択することをお勧めします。

マルチセッションの最適化

June 1, 2023

マルチセッション OS マシンは、1 台のマシンから複数のセッションを実行し、アプリケーションとデスクトップをユーザーに配信します。切断されたセッションはアクティブなままになり、そのアプリケーションは引き続き実行されます。切断されたセッションは、同じマシン上で動作する接続されたデスクトップおよびアプリケーションに必要なリソースを消費する可能性があります。これらの設定により、切断されたセッションを持つマルチセッション OS マシンを最適化し、接続セッションでのユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。

設定

マルチセッション最適化を有効にします。有効にすると、切断されたセッションが存在するマルチセッション OS マシンが最適化されます。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。このオプションは、切断されたセッションが消費できるリソースの数を制限することで、接続セッションのユーザーエクスペリエンスを向上させます。セッションが 1 分間切断されたままになった後、WEM エージェントは CPU と、セッションに関連付けられたプロセスまたはアプリケーションの I/O 優先順位を下げます。エージェントは、セッションが消費できるメモリ・リソースの量に制限を課します。ユーザーがセッションに再接続すると、WEM は優先順位を復元し、制限を解除します。

指定したグループを除外する。マルチセッションの最適化から除外するグループを指定できます。少なくとも 1 つのグループを指定してください

指定したプロセスを除外する。マルチセッションの最適化から除外するプロセスを指定できます。除外するプロセスの名前を入力します。少なくとも 1 つのプロセスを指定してください。

ポリシーとプロファイル

June 1, 2023

これらの設定では、ユーザー GPO を置き換え、ユーザープロファイルを構成できます。

- 環境設定
- Microsoft USV の設定
- Citrix Profile Management 設定

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

環境設定

June 1, 2023

これらのオプションは、ユーザーの環境設定を変更します。一部のオプションはログオン時に処理されますが、一部のオプションはエージェント更新機能を使用してセッションでリフレッシュできます。

スタートメニュー

これらのオプションは、ユーザーの [スタート] メニューを変更します。

プロセス環境設定。このチェックボックスは、エージェントが環境設定を処理するかどうかを切り替えます。オフにすると、環境設定は処理されません。

管理者を除外します。有効にすると、エージェントが起動されても、管理者に対して環境設定は処理されません。

ユーザインタフェース**:[**スタート**]** メニューこれらの設定は、エージェントによって無効にするスタートメニュー機能を制御します。

> 重要:
>
> Windows 7 以外のオペレーティングシステムでは、[ユーザーインターフェイス**:** スタート] メニューのオプションが機能しない場合があります。ただし、[システムクロックを非表示にする] と [コンピュータの電源をオフにする] 以外のオプションが機能しない場合があります。

ユーザーインターフェイス**:** 外観。これらの設定により、ユーザーの Windows テーマとデスクトップをカスタマイズできます。リソースへのパスは、ユーザーの環境からアクセスするときに入力する必要があります。

デスクトップ

ユーザーインターフェース**:** デスクトップ。これらの設定は、エージェントによって無効にするデスクトップ要素を制御します。

ユーザーインターフェイス**:** エッジ **UI**。これらの設定では、Windows 8.x Edge ユーザーインターフェイスの側面を無効にできます。

Windows エクスプローラー

これらの設定は、エージェントによって無効化される Windows エクスプローラの機能を制御します。

ユーザーインターフェイス**:** エクスプローラー。これらのオプションを使用すると、**regedit** または **cmd** へのアクセスを無効にしたり、Windows エクスプローラで特定の要素を非表示にしたりできます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

エクスプローラから指定したドライブを非表示にします。有効にすると、リストされたドライブはユーザーの [マイコンピュータ] メニューから非表示になります。直接参照すると、引き続きアクセスできます。

エクスプローラから指定したドライブを制限します。有効にすると、リストされたドライブはブロックされます。ユーザーもアプリケーションもアクセスできません。

[コントロールパネル]

[コントロールパネル] を非表示にします。このオプションは、ユーザー環境を保護するためにデフォルトで有効になっています。無効にすると、ユーザーは自分の Windows コントロールパネルにアクセスできます。

指定したコントロールパネルアプレットのみを表示します。有効にすると、ここにリストされているコントロールパネル以外のすべてのアプレットがユーザーに表示されなくなります。その他のアプレットは、正規名を使用して追加されます。

指定したコントロールパネルアプレットを非表示にします。有効にすると、リストされているコントロールパネルアプレットだけが非表示になります。その他のアプレットは、正規名を使用して追加されます。

一般的なコントロールパネルのアプレットとその正規名を参照してください 。

既知のフォルダ管理

指定した既知のフォルダを無効にします。プロファイルの作成時に、指定したユーザープロファイルの既知のフォルダーを作成しないようにします。

SBC/HVD チューニング

SBC/HVD（セッションベースのコンピューティング/ホスト仮想デスクトップ）チューニングを使用すると、Citrix Virtual Apps and Desktops で実行されているセッションのパフォーマンスを最適化できます。パフォーマンスを向上させるように設計されていますが、一部のオプションを使用すると、ユーザーエクスペリエンスが若干低下する可能性があります。

ユーザー環境**:** 高度なチューニング。これらのオプションを使用すると、SBC/HVD 環境でのパフォーマンスを最適化できます。

[ウィンドウ全体をドラッグ] を無効にします。最大化されたウィンドウのドラッグを無効にします。

スムーズスクロールを無効にします。ページをブラウズしている間、スムーズなスクロール効果を無効にします。

カーソルの点滅を無効にします。カーソルのちらつき効果を無効にします。

minAnimate を無効にします。ウィンドウを最小化または最大化するときにアニメーション効果を無効にします。

AutoEndTasks を有効にします。タスクがタイムアウトした後、自動的に終了します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

WaittokillApp タイムアウト。アプリケーションを終了するためのタイムアウト値（ミリ秒単位)。デフォルト値は 20,000 ミリ秒です。

カーソルの点滅率を設定します。カーソルの点滅率を変更します。

[メニューの表示遅延**]** を設定します。ログオン後にメニューが表示されるまでの遅延 (ミリ秒単位) を指定します。

インタラクティブディレイを設定します。サブメニューが表示されるまでの遅延（ミリ秒単位）を指定します。

Microsoft USV の設定

June 1, 2023

これらの設定により、Microsoft ユーザー状態の仮想化 (USV) を最適化できます。

ローミングプロファイルの構成

これらの設定により、Workspace Environment Management と Microsoft 移動プロファイルとの統合を構成できます。

ユーザー状態の仮想化構成を処理します。エージェントが USV 設定を処理するかどうかを制御します。無効にすると、USV 設定は処理されません。

管理者を除外します。有効にすると、設定した USV 設定は管理者には適用されません。このオプションを使用するときは、次の点を考慮してください。

- [ローミングプロファイル設定] タブと [ローミングプロファイルの詳細設定**]** タブの設定はマシンレベルであり、オプションが有効になっているかどうかに関係なく適用されます。
- [フォルダリダイレクト**]** タブの設定はユーザーレベルです。このオプションは、設定を管理者に適用するかどうかを制御します。

Windows ローミングプロファイルのパスを設定します。Windows プロファイルへのパスを指定できます。

RDS ローミングプロファイルのパスを設定します。RDS ローミングプロファイルへのパスを指定できます。

RDS ホームドライブパスを設定します。RDS ホームドライブへのパスと、ユーザー環境に表示されるドライブ文字を指定できます。

ローミングプロファイルの詳細設定

ローミングプロファイルの詳細最適化オプションは次のとおりです。

フォルダーの除外の有効化。有効にすると、一覧表示されたフォルダーはユーザーの移動プロファイルに含まれません。これにより、ユーザーが移動プロファイルの一部として保持する必要のない大量のデータが含まれていることが

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

わかっている特定のフォルダを除外できます。この一覧には、既定の Windows 7 の除外が設定されており、代わりに既定の Windows XP の除外が設定されています。

ローミングプロファイルのキャッシュされたコピーを削除します。有効にすると、エージェントは移動プロファイルのキャッシュされたコピーを削除します。

管理者セキュリティグループをローミングユーザープロファイルに追加します。有効にすると、Administrators グループが移動ユーザープロファイルの所有者として追加されます。

移動プロファイルフォルダーのユーザー所有権を確認しないでください。有効にすると、エージェントは、ユーザーが移動プロファイルフォルダを所有しているかどうかを確認してから操作を行いません。

低速なネットワーク接続を検出しない。有効にすると、接続速度の検出はスキップされます。

リモートユーザプロファイルを待ちます。有効の場合、エージェントはリモートユーザプロファイルが完全にダウンロードされるのを待ってから、設定を処理します。

プロファイルのクリーンアップ。**[**プロファイルクレンザー**]** ウィザードが開き、既存のプロファイルを削除できます。

既存のプロファイルを削除するには、[参照] をクリックしてユーザープロファイルが保存されているフォルダーに移動し、[プロファイルフォルダーのスキャン] をクリックし、[プロファイルクレンザー] ウィンドウでクリーンアップするプロファイルフォルダーを選択します。その後、**[**プロファイルのクリーンアップ**]** をクリックしてクリーンアップを開始します。

プロファイルをクレンジング。このボタンは、[フォルダの除外] 設定に従って選択したプロファイルを消去します。

プロファイルフォルダをスキャン。指定した再帰設定で指定したフォルダをスキャンしてユーザープロファイルを検索し、見つかったすべてのプロファイルを表示します。

プロファイルルートフォルダー。ユーザープロファイルのルートフォルダ。必要に応じて、このフォルダを参照することもできます。

再帰性を検索します。ユーザープロファイル検索が通過する再帰のレベルを制御します。

フォルダーのリダイレクト

プロセスフォルダリダイレクトの設定。このチェックボックスは、エージェントがフォルダーのリダイレクトを処理するかどうかを切り替えます。クリアすると、フォルダのリダイレクトは処理されません。ユーザーのフォルダーをリダイレクトするかどうか、およびリダイレクト先を制御するオプションを選択します。

ローカルリダイレクトフォルダを削除します。有効にすると、エージェントはリダイレクト対象として選択されたフォルダーのローカルコピーを削除します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

Citrix Profile Management 設定

September 6, 2023

> 注:
>
> 一部のオプションは、特定のバージョンの Profile Management でのみ機能します。詳細については、Profile Management ドキュメントを参照してください。

Workspace Environment Management（WEM）は、現在のバージョンの Citrix Profile Management の機能と操作をサポートします。WEM 管理コンソールでは、［**Citrix Profile Management** の設定］（[ポリシーとプロファイル]）で、現在のバージョンの Citrix Profile Management のすべての設定を構成できます。

WEM を使用して CitrixProfile Management 機能を構成することに加えて、Active Directory GPO、Citrix Studio ポリシー、または VDA 上の.ini ファイルを使用できます。同じ方法を一貫して使用することをお勧めします。

Citrix Profile Management の主な設定

基本設定を適用して、Profile Management の使用を開始します。基本設定には、処理済みグループ、除外グループ、ユーザーストアなどが含まれます。

Profile Management 構成を有効にします。有効にすると、設定を構成して適用できます。このオプションを有効にすると、ユーザー環境に Profile Management 関連のレジストリが作成されます。このオプションは、コンソールで構成した Profile Management 設定を WEM がエージェントにデプロイするかどうかを制御します。無効にすると、Profile Management の設定はいずれもエージェントに展開されません。

Profile Management を有効にします。エージェントマシンで Profile Management サービスを有効にするかどうかを制御します。無効にすると、Profile Management サービスは機能しません。

Profile Management を完全に無効にして、エージェントに既に展開されている設定が処理されないようにしたい場合があります。目標を達成するには、次の操作を行います。

1. 「**Profile Management** を有効にする」チェックボックスをオフにして、変更が自動的に適用されるのを待つか、変更を手動で適用してすぐに有効にします。

   > 注:
   >
   > [詳細設定] の [**SQL** 設定の更新遅延] で指定した値によっては、変更が有効になるまでに時間がかかります。変更をすぐに有効にするには、エージェントホストの設定を更新してから、関連するすべてのエージェントの Profile Management 設定をリセットします。「管理」を参照してください。

2. 変更が有効になったら、「**Profile Management** 構成を有効にする」チェックボックスをオフにします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

処理されたグループを設定します。Profile Management で処理するグループを指定できます。指定したグループのみ Profile management 設定が処理されます。空白のままにすると、すべてのグループが処理されます。

除外グループを設定します。Profile Management から除外するグループを指定できます。

ローカル管理者のログオンを処理します。有効にすると、Profile Management のローカル管理者ログオンは管理者以外のログオンと同様に扱われます。

ユーザーストアへのパスを設定します。ユーザストアフォルダへのパスを指定できます。

ユーザーストアを移行します。ユーザー設定 (レジストリの変更と同期されたファイル) を保存したフォルダへのパスを指定できます。以前に使用したユーザーストアのパスを入力します。このオプションは、[ユーザーストアへのパスを設定] オプションとともに使用します。

アクティブなライトバックを有効にします。有効にすると、ユーザーのセッション中にプロファイルがユーザーストアに書き戻され、データが失われるのを防ぎます。

アクティブなライトバックレジストリを有効にします。有効にすると、ユーザーのセッション中にレジストリエントリがユーザーストアに書き戻され、データが失われるのを防ぎます。

オフラインプロファイルサポートを有効にします。有効にすると、プロファイルは接続されていない間で使用するためにローカルにキャッシュされます。

プロファイルコンテナ設定

これらのオプションは、Profile Management プロファイルコンテナの設定を制御します。

プロファイルコンテナを有効にします。有効にすると、Profile Management はリストされたフォルダーをネットワーク上に保存されているプロファイルディスクにマップするため、フォルダーのコピーをローカルプロファイルに保存する必要がなくなります。プロファイルコンテナに含めるフォルダを少なくとも 1 つ指定します。

プロファイルコンテナのフォルダ除外を有効にします。有効にすると、Profile Management は一覧表示されたフォルダをプロファイルコンテナから除外します。プロファイルコンテナから除外するフォルダを少なくとも 1 つ指定します。

プロファイルコンテナのフォルダ内包を有効にします。有効にすると、Profile Management は、親フォルダーが除外されたときに、一覧表示されたフォルダーをプロファイルコンテナーに保持します。この一覧のフォルダーは、除外されたフォルダーのサブフォルダーである必要があります。つまり、このオプションを [プロファイルコンテナのフォルダ除外を有効にする] オプションと組み合わせて使用する必要があります。プロファイルコンテナに含めるフォルダを少なくとも 1 つ指定します。

プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にします。有効にすると、各ローカルプロファイルは、プロファイルコンテナのローカルキャッシュとして機能します。プロファイルストリーミングが使用中の場合は、ローカルにキャッシュされたファイルがオンデマンドで作成されます。それ以外の場合は、ユーザーのログオン時に作成されます。この設定を使用するには、ユーザープロファイル全体をプロファイルコンテナに入れます。この設定は、Citrix Profile Management プロファイルコンテナにのみ適用されます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

プロファイル処理

これらの設定は、Profile Management プロファイルの処理を制御します。

ログオフ時にローカルキャッシュプロファイルを削除します。有効にすると、ユーザーがログオフしたときにローカルにキャッシュされたプロファイルが削除されます。

キャッシュされたプロファイルを削除する前に遅延を設定します。キャッシュされたプロファイルがログオフ時に削除されるまでの間隔 (秒単位) を指定できます。

既存のプロファイルの移行を有効にします。有効にすると、ログオン時に既存の Windows プロファイルが Profile Management に移行されます。

既存のアプリケーションプロファイルの自動移行。有効にすると、既存のアプリケーションプロファイルが自動的に移行されます。Profile Management は、ユーザーのログオン時にユーザーストアにユーザープロファイルがない場合、移行を実行します。

ローカルプロファイルの競合処理を有効にします。Profile Management と Windows プロファイルが競合するケースを Citrix Workspace Environment Management が処理する方法を構成します。

テンプレートプロファイルを有効にします。有効にすると、指定された場所にあるテンプレートプロファイルが使用されます。

テンプレートプロファイルは、ローカルプロファイルを上書きします。有効にすると、テンプレートプロファイルがローカルプロファイルに上書きされます。

テンプレートプロファイルは、ローミングプロファイルを上書きします。有効にすると、テンプレートプロファイルが移動プロファイルよりも優先されます。

すべてのログオンの **Citrix** 固定プロファイルとして使用されるテンプレートプロファイル。有効にすると、テンプレートプロファイルが他のすべてのプロファイルよりも優先されます。

詳細設定

これらのオプションは、Profile management の詳細設定を制御します。

ロックされたファイルにアクセスするときの再試行回数を設定します。Agent がロックされたファイルへのアクセスを再試行する回数を設定します。

MFT キャッシュファイルのディレクトリを設定します。MFT キャッシュファイルディレクトリを指定できます。このオプションは廃止され、将来削除される予定です。

アプリケーションプロファイラを有効にします。有効にすると、アプリケーションベースのプロファイル処理を定義します。定義ファイルで定義された設定のみが同期されます。定義ファイルの作成の詳細については、「定義ファイルを作成する」を参照してください。

ログオフ時にインターネット **Cookie** ファイルを処理します。有効にすると、古い Cookie はログオフ時に削除されます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

リダイレクトされたフォルダを削除します。有効にすると、リダイレクトされたフォルダーのローカルコピーを削除します。

自動構成を無効にします。有効の場合、ダイナミック設定は無効になります。

問題が発生した場合は、ユーザーをログオフします。有効にすると、問題が発生した場合、ユーザーは一時プロファイルに切り替わらずにログオフされます。

カスタマーエクスペリエンス向上プログラム。有効にすると、Profile Management はカスタマーエクスペリエンス向上プログラム（CEIP）を使用して、匿名の統計および使用状況情報を収集することで、Citrix 製品の品質とパフォーマンスを向上させます。CEIP について詳しくは、『Citrix カスタマーエクスペリエンス向上プログラム（CEIP）について』を参照してください。

Microsoft Outlook ユーザーの検索インデックスのローミングを有効にします。有効にすると、ユーザー固有の Microsoft Outlook オフラインフォルダファイル (*.ost) と Microsoft 検索データベースがユーザープロファイルとともに移動されます。これにより、Microsoft Outlook でメールを検索するときのユーザーエクスペリエンスが向上します。

- **Outlook** 検索インデックスデータベース—バックアップと復元。有効にすると、Profile Management は検索インデックスデータベースの最新の正常なコピーのバックアップを自動的に保存します。破損がある場合、Profile Management はそのコピーに戻ります。その結果、検索インデックスデータベースが破損したときに、手動でデータベースを再インデックスを作成する必要がなくなりました。
- **Outlook** 検索データローミングの同時セッションサポートを有効にします。同時セッションでネイティブの Outlook 検索エクスペリエンスを提供します。有効にすると、各同時セッションで個別の Outlook OST ファイルが使用されます。
  - **Outlook OST** ファイルを格納するための **VHDX** ディスクの最大数。Outlook OST ファイルを保存する VHDX ディスクの最大数を指定できます。指定しない場合、Outlook OST ファイルの保存に使用できる VHDX ディスクは 2 つだけです (ディスクごとに 1 つのファイル)。さらにセッションが開始されると、Outlook OST ファイルはローカルユーザープロファイルに保存されます。サポートされる値は 1 ～10 です。

プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にします。有効にすると、Profile Management は、FSLogix プロファイルコンテナと Citrix Profile Management プロファイルコンテナの両方のマルチセッションシナリオの変更を保存します。同じユーザーが異なるマシンで複数のセッションを起動した場合、各セッションで行われた変更は同期され、ユーザーのプロファイルコンテナディスクに保存されます。

ユーザーストアをレプリケートします。有効にすると、Profile Management は、[ユーザーストアへのパスを設定] オプションで指定されたパスに加えて、ログオンおよびログオフのたびに複数のパスにユーザーストアを複製します。セッション中に変更されたファイルおよびフォルダをユーザーストアに同期させるには、アクティブライトバックを有効にします。このオプションを有効にすると、システム I/O が増加し、ログオフが延長される可能性があります。

VHDX ファイルのストレージパスをカスタマイズします。VHDX ファイルを保存する別のパスを指定できます。デフォルトでは、VHDX ファイルはユーザーストアに保存されます。VHDX ファイルを使用するポリシーには、プロファ

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

イルコンテナ、Outlook の検索インデックスローミング、およびフォルダーミラーリングの高速化が含まれます。有効にすると、ポリシーが異なる VHDX ファイルがストレージパスの下の異なるフォルダに保存されます。

OneDrive コンテナを有効にします。有効にすると、Profile Management は VHDX ディスクにフォルダーを保存することにより、ユーザーと共に OneDrive フォルダーをローミングします。ディスクはログオン時に接続され、ログオフ時には切り離されます。

ログ設定

これらのオプションは、Profile Management ログを制御します。

[ログ作成**]** を有効にします。Profile Management 操作のログを有効/無効にします。

ログ設定を構成します。ログに含めるイベントの種類を指定できます。

ログファイルの最大サイズを設定します。ログファイルの最大サイズをバイト単位で指定できます。

[パス**]** を **[**ログファイル**]** に設定します。ログファイルが作成される場所を指定できます。

レジストリ

これらのオプションは、Profile Management のレジストリ設定を制御します。

NTUSER.DAT バックアップ。選択すると、Profile Management は、NTUSER.DAT ファイルの最後に正常なバックアップを保持します。Profile Management は破損を検出すると、最新の正常なバックアップコピーを使用してプロファイルを回復します。

[既定の除外リスト**]** を有効にします。ユーザーのプロファイルに同期されない HKCU ハイブのレジストリキーのデフォルトのリスト。選択すると、この一覧で選択されているレジストリ設定が Profile Management プロファイルから強制的に除外されます。

レジストリ除外を有効にします。この一覧のレジストリ設定は、Profile Management プロファイルから強制的に除外されます。

レジストリインクルージョンを有効にします。この一覧のレジストリ設定は、Profile Management プロファイルに強制的に含まれます。

ファイルシステム

これらのオプションは、Profile Management のファイルシステムの除外を制御します。

ログオン除外チェックを有効にします。有効にすると、ユーザーストアのプロファイルに除外されたファイルやフォルダーが含まれている場合に、ユーザーがログオンしたときに Profile Management が行う処理を構成します。(無効の場合、既定の動作は [除外されたファイルまたはフォルダーを同期する] になります)。リストから次のビヘイビアーのいずれかを選択できます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

除外されたファイルまたはフォルダを同期します (既定)。Profile Management は、ユーザーがログオンしたときに、これらの除外されたファイルまたはフォルダーをユーザーストアからローカルプロファイルに同期します。

除外されたファイルまたはフォルダーを無視。Profile Management は、ユーザーがログオンするときに、ユーザーストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを無視します。

除外されたファイルまたはフォルダを削除します。Profile Management は、ユーザーがログオンすると、ユーザーストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを削除します。

[既定の除外リスト**-**ディレクトリ**]** を有効にします。同期時に無視されるディレクトリのデフォルトの一覧。選択すると、この一覧で選択されているフォルダーが Profile Management の同期から除外されます。

[ファイルの除外**]** を有効にします。有効にすると、一覧表示されたファイルはユーザーの Profile Management プロファイルに含まれません。これにより、ユーザーが Profile Management プロファイルの一部として保持する必要のない大量のデータが含まれていることがわかっている特定のフォルダを除外できます。この一覧には、既定の Windows 7 の除外が設定されており、代わりに既定の Windows XP の除外が設定されています。

フォルダーの除外の有効化。有効にすると、一覧表示されたフォルダーはユーザーの Profile Management プロファイルに含まれません。これにより、ユーザーが Profile Management プロファイルの一部として保持する必要のない大量のデータが含まれていることがわかっている特定のフォルダを除外できます。この一覧には、既定の Windows 7 の除外が設定されており、代わりに既定の Windows XP の除外が設定されています。

プロファイルのクリーンアップ。**[**プロファイルクレンザー**]** ウィザードが開き、既存のプロファイルを削除できます。

既存のプロファイルを削除するには、「ブラウズ」をクリックしてユーザープロファイルが保存されているフォルダーに移動し、「プロファイルフォルダーをスキャン」をクリックして、プロファイルクレンザーウィンドウでクリーンアップするプロファイルフォルダーを選択します。その後、**[**プロファイルのクリーンアップ**]** をクリックしてクリーンアップを開始します。

プロファイルをクレンジング。フォルダの除外設定に従って、選択したプロファイルをクリーンアップします。

プロファイルフォルダをスキャン。指定した再帰設定で指定したフォルダをスキャンしてユーザープロファイルを検索し、見つかったすべてのプロファイルを表示します。

プロファイルルートフォルダー。ユーザープロファイルのルートフォルダ。必要に応じて、このフォルダを参照することもできます。

再帰性を検索します。ユーザープロファイル検索が通過する再帰のレベルを制御します。

同期

これらのオプションは、Profile Management の同期設定を制御します。

ディレクトリ同期を有効にします。有効にすると、リストされたフォルダはユーザーストアと同期されます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

ファイル同期を有効にします。有効にすると、リストされたファイルはユーザーストアと同期され、ユーザーは常に最新のバージョンのファイルを入手できます。複数のセッションでファイルが変更された場合、最新のファイルはユーザーストアに保持されます。

フォルダのミラーリングの有効化。有効にすると、一覧表示されたフォルダはログオフ時にユーザーストアにミラーリングされます。これにより、ユーザーストアに格納されているミラーフォルダ内のファイルとサブフォルダがローカルバージョンと同じになります。フォルダのミラーリングについて詳しく、以下を参照してください。

- ミラーリングされたフォルダー内のファイルは、変更されたかどうかにかかわらず、セッションのログオフ時に常にユーザーストアに保存されているファイルを上書きします。
- ミラーフォルダーのローカルバージョンと比較して、ユーザーストアに余分なファイルまたはサブフォルダーが存在する場合、それらの余分なファイルやサブフォルダーは、セッションログオフ時にユーザーストアから削除されます。

大容量ファイルの処理を有効にします。有効にすると、大きなファイルがユーザーストアにリダイレクトされるため、ネットワーク経由でこれらのファイルを同期する必要がなくなります。

> 注:
>
> 一部のアプリケーションでは、ファイルに同時にアクセスすることはできません。大きなファイルの処理ポリシーを定義する場合、アプリケーションの動作を考慮することを Citrix ではお勧めします。

ストリーム配信ユーザープロファイル

これらのオプションは、ストリーム配信ユーザープロファイルの設定を制御します。

プロファイルストリーミングを有効にします。無効にすると、このセクションの設定は処理されません。

フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にします。有効にすると、フォルダがアクセスされたときにのみフェッチされます。この設定により、ユーザーのログオン中にすべてのフォルダを移動する必要がなくなり、帯域幅が節約され、ファイルの同期にかかる時間が短縮されます。

保留エリアのプロファイルストリーミングを有効にします。有効にすると、保留領域のファイルは、要求された場合にのみローカルプロファイルにフェッチされます。これにより、同時セッションシナリオでの最適なログオンエクスペリエンスが保証されます。待機領域は、プロファイルストリーミングが有効になっている間、プロファイルの整合性を確保するために使用されます。同時セッションで変更されたプロファイルファイルとフォルダーを一時的に保存します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。保留領域内のすべてのファイルとフォルダは、ログオン時にローカルプロファイルにフェッチされます。

常にキャッシュ。有効にすると、指定したサイズ (MB 単位) 以上のファイルが常にキャッシュされます。

保留中のエリアロックファイルのタイムアウトを設定する：サーバーが応答しなくなったときにユーザーストアがロックされたままになった場合に、指定された時間後に保留領域からユーザーストアに書き戻されるように、ファイルを解放します。

ストリーム配信ユーザープロファイルグループを設定します。このリストは、ストリーム配信されたプロファイルを使用するユーザーグループを決定します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

プロファイルストリーミング除外リスト-ディレクトリを有効にします。選択すると、Profile Management はこのリスト内のフォルダをストリーム配信せず、ユーザーのログオン時にすべてのフォルダがユーザーストアからローカルコンピュータにすぐにフェッチされます。

ファイル重複排除

これらのオプションは、Profile Management のファイル重複排除設定を制御します。

さまざまなユーザープロファイルに同じファイルが存在する可能性があります。これらのファイルをユーザーストアから分離して一元的に保存すると、重複を避けることでストレージスペースを節約できます。ユーザーストアをホストするサーバー上の共有ストアに含めるファイルを指定できます。ファイル名をユーザープロファイルからの相対パスで指定します。

ファイルインクルージョンを有効にします。有効にすると、Profile Management は共有ストアを自動的に生成します。次に、指定されたファイルは、ユーザーストアの各ユーザープロファイルではなく、共有ストアに一元的に格納されます。これにより、ファイルの重複を避けることでユーザーストアへの負荷が軽減され、ストレージコストが削減されます。

[ファイルの除外] を有効にします。有効にすると、Profile Management は指定されたファイルを共有ストアから除外します。このオプションは、「ファイルインクルージョンを有効にする」オプションと一緒に使用する必要があります。共有ストアから除外するファイルを少なくとも 1 つ指定してください。

クロスプラットフォーム設定

これらのオプションは、クロスプラットフォームの設定を制御します。

クロスプラットフォーム設定を有効にします。無効にすると、このセクションの設定は処理されません。

クロスプラットフォーム設定グループを設定します。クロスプラットフォームプロファイルを使用するユーザーグループを指定できます。

クロスプラットフォーム定義へのパスを設定します。クロスプラットフォーム定義ファイルへのパスを指定できます。

クロスプラットフォーム設定ストアへのパスを設定します。クロスプラットフォーム設定ストアへのパスを指定できます。

クロスプラットフォーム設定を作成するためのソースを有効にします。クロスプラットフォーム設定のソースプラットフォームを有効にします。

セキュリティ

June 1, 2023

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

これらの設定により、Workspace Environment Management 内のユーザー・アクティビティを制御できます。

アプリケーションのセキュリティ

> 重要:
>
> ユーザーが実行できるアプリケーションを制御するには、Windows AppLocker インターフェイスまたは Workspace Environment Management を使用します。これらのアプローチはいつでも切り替えることができますが、両方のアプローチを同時に使用しないことをお勧めします。

これらの設定では、ルールを定義することで、ユーザーの実行を許可するアプリケーションを制御できます。この機能は Windows AppLocker に似ています。

Workspace Environment Management を使用して Windows AppLocker ルールを管理する場合、エージェントは、エージェントホストの [アプリケーションセキュリティ] タブのルールを Windows AppLocker ルールに処理 (変換) します。エージェント処理ルールを停止すると、これらのルールは構成セットに保持され、AppLocker は、エージェントによって処理された最後の命令セットを使用して実行を継続します。

アプリケーションのセキュリティ

このタブには、現在の Workspace Environment Management 構成セットのアプリケーションセキュリティルールが一覧表示されます。「検索」(**Find**) を使用すると、テキスト文字列に基づいてリストをフィルタリングできます。

「セキュリティ」タブで最上位の項目「アプリケーションセキュリティ」を選択すると、次のオプションを使用してルール処理を有効または無効にすることができます。

- アプリケーションセキュリティルールを処理する。選択すると、［**Application Security** ］タブのコントロールが有効になり、エージェントは現在の構成セット内のルールを処理し、エージェント・ホスト上の AppLocker ルールに変換されます。選択しない場合、[アプリケーションセキュリティ] タブのコントロールは無効になり、エージェントはルールを AppLocker ルールに処理しません。この場合、AppLocker の規則は更新されません。

  > 注:
  >
  > このオプションは、Workspace Environment Management 管理コンソールが Windows 7 SP1 または Windows Server 2008 R2 SP1 (またはそれ以前のバージョン) にインストールされている場合は使用できません。

- **DLL** ルールを処理する。選択すると、エージェントは現在の構成セットの DLL ルールをエージェントホスト上の AppLocker DLL ルールで処理します。このオプションは、[アプリケーションセキュリティルールの処理] を選択した場合にのみ使用できます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

> 重要：
>
> DLL ルールを使用する場合は、許可されたすべてのアプリで使用される各 DLL に対して「許可」アクセス許可を持つ DLL ルールを作成する必要があります。
>
> 注意：
>
> DLL ルールを使用すると、ユーザーのパフォーマンスが低下する可能性があります。これは、AppLocker が実行を許可される前に、アプリがロードする各 DLL をチェックするために発生します。

- [上書き] および [マージ] の設定では、エージェントがアプリケーションセキュリティルールを処理する方法を指定できます。
  - **[**上書き**]**。既存のルールを上書きできます。選択すると、最後に処理されたルールは、以前に処理されたルールを上書きします。このモードは、シングルセッションマシンにのみ適用することをお勧めします。
  - マージ。ルールを既存のルールとマージできます。競合が発生すると、最後に処理されたルールは、以前に処理されたルールを上書きします。マージ中にルール適用設定を変更する必要がある場合は、上書きモードを使用してください。マージモードでは古い値が異なっていても保持されるためです。

ルール・コレクション

ルールは AppLocker ルールコレクションに属します。各コレクション名は、(12) など、そのコレクションに含まれるルールの数を示します。コレクション名をクリックして、規則リストを次のいずれかのコレクションにフィルタします。

- 実行可能なルール。アプリケーションに関連付けられている拡張子が.exe および.com のファイルを含むルール。
- **Windows** の規則。クライアントコンピュータおよびサーバーへのファイルのインストールを制御するインストーラのファイル形式 (.msi、.msp、.mst) を含むルール。
- スクリプトルール。.ps1、.bat、.cmd、.vbs、.js 形式のファイルを含むルール
- パッケージルール。パッケージアプリを含むルール。ユニバーサル Windows アプリとも呼ばれます。パッケージアプリでは、アプリパッケージ内のすべてのファイルが同じ ID を共有します。したがって、1 つのルールでアプリ全体を制御できます。Workspace Environment Management は、パッケージ化されたアプリケーションの発行元規則のみをサポートします。
- **DLL** のルール。.dll、.ocx の形式のファイルを含むルール

ルール一覧をコレクションにフィルター処理する場合、**[**ルールの適用**]** オプションを使用して、AppLocker がエージェントホスト上のコレクション内のすべてのルールを適用する方法を制御できます。次のルール適用値を使用できます。

オフ (デフォルト)。ルールが作成され、「オフ」に設定されます。つまり、ルールは適用されません。

オン。ルールが作成され、「強制」に設定されます。これは、エージェント・ホスト上でアクティブであることを意味します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

監査。ルールが作成され、「audit」に設定されます。これは、エージェントホスト上で非アクティブ状態にあることを意味します。ユーザーが AppLocker ルールに違反するアプリを実行すると、そのアプリの実行が許可され、アプリに関する情報が AppLocker イベントログに追加されます。

AppLocker ルールをインポートするには

AppLocker からエクスポートされたルールを [Workspace Environment Management] にインポートできます。インポートされた Windows AppLocker 設定は、[セキュリティ] タブの既存のルールに追加されます。無効なアプリケーションセキュリティルールは自動的に削除され、レポートダイアログに一覧表示されます。

1. リボンで、[**AppLocker** ルールのインポート] をクリックします。
2. AppLocker からエクスポートされた XML ファイルを参照して、AppLocker ルールを含めます。
3. **[**インポート**]** をクリックします。

ルールが [アプリケーションセキュリティのルール] リストに追加されます。

ルールを追加するには

1. サイドバーでルールコレクション名を選択します。たとえば、実行可能ルールを追加するには、「実行可能ルール」コレクションを選択します。
2. **[**ルールの追加**]** をクリックします。
3. [表示**]** セクションで、次の詳細を入力します。
   - **Name**：ルールリストに表示されるルールの表示名。
   - **[**説明**]**。リソースに関する追加情報（オプション）。
4. [タイプ] セクションで、次のオプションをクリックします。
   - パス。ルールはファイルパスまたはフォルダパスに一致します。
   - パブリッシャー。ルールは、選択したパブリッシャと一致します。
   - ハッシュ。ルールは特定のハッシュコードに一致します。
5. [アクセス許可] セクションで、****** このルールでアプリケーションの実行を許可または拒否するかどうかをクリックします ****** 。
6. このルールをユーザーまたはユーザーグループに割り当てるには、[割り当て] ペインで、このルールを割り当てるユーザーまたはグループを選択します。[割り当て済み] 列には、割り当てられたユーザーまたはグループの [チェック] アイコンが表示されます。

   > ヒント：
   >
   > - 通常の Windows の選択修飾キーを使用して複数の選択を行うか、**[**すべて選択**]** を使用してすべての行を選択できます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

> - ユーザーは「Workspace Environment Management ユーザー」リストにすでに存在している必要があります。
> - ルールの作成後にルールを割り当てることができます。

7. ［次へ］をクリックします。
8. 選択したルールタイプに応じて、ルールが一致する基準を指定します。
   - パス。ルールを一致させるファイルパスまたはフォルダパスを指定します。フォルダを選択すると、ルールはそのフォルダ内および下のすべてのファイルに一致します。
   - パブリッシャー。ルールの参照として使用する署名付き参照ファイルを指定し、[公開者情報] スライダを使用してプロパティの一致レベルを調整します。
   - ハッシュ。ハッシュを作成するファイルまたはフォルダを指定します。ルールはファイルのハッシュコードと一致します。
9. ［次へ］をクリックします。
10. 必要な例外を追加します（オプション）。[例外の追加] で、例外タイプを選択し、[追加] をクリックします。(必要に応じて、****** 例外を編集および削除できます ******)。
11. ルールを保存するには、[**Create**] をクリックします。

ユーザーにルールを割り当てるには

リストから 1 つまたは複数のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューの [編集] をクリックします。エディタで、ルールを割り当てるユーザーおよびユーザー・グループを含む行を選択し、「**OK**」をクリックします。**[**すべて選択**]** を使用して、選択したルールをすべてのユーザーから割り当て解除することもできます。

注：複数のルールを選択して「編集」をクリックすると、それらのルールに対するルール割り当ての変更が、選択したすべてのユーザーおよびユーザー・グループに適用されます。つまり、既存のルールの割り当ては、それらのルール間でマージされます。

既定のルールを追加するには

[既定の規則の追加] をクリックします。AppLocker の既定のルールのセットがリストに追加されます。

ルールを編集するには

リストから 1 つまたは複数のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューの [編集] をクリックします。エディタが表示され、選択した内容に適用される設定を調整できます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

ルールを削除するには

リストから 1 つまたは複数のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューの [削除] をクリックします。

アプリケーションセキュリティルールをバックアップするには

現在の構成セット内のすべてのアプリケーション・セキュリティ・ルールをバックアップできます。ルールはすべて単一の XML ファイルとしてエクスポートされます。**[**復元**]** を使用すると、規則を任意の構成セットに復元できます。リボンで、[バックアップ] をクリックし、[セキュリティ設定] を選択します。

アプリケーションセキュリティルールを復元するには

Workspace Environment Management backup コマンドで作成した XML ファイルからアプリケーション・セキュリティ・ルールを復元できます。リストアプロセスでは、現在の構成セット内のルールが、バックアップ内のルールに置き換えられます。[セキュリティ] タブに切り替えたり、[セキュリティ] タブを更新すると、無効なアプリケーションセキュリティ規則が検出されます。無効なルールは自動的に削除され、レポートダイアログに表示されます。レポートダイアログはエクスポートできます。

リストアプロセス中に、現在の構成セット内のユーザーおよびユーザーグループにルール割り当てを復元するかどうかを選択できます。再割り当ては、バックアップされたユーザ/グループが現在の構成セット/アクティブディレクトリに存在する場合のみ成功します。一致しないルールは復元されますが、割り当てられていないままです。復元後、CSV 形式でエクスポートできるレポートダイアログに一覧表示されます。

1. リボンの [復元] をクリックして、復元ウィザードを起動します。

2. [セキュリティ設定] を選択し、[次へ] を 2 回クリックします。

3.**[**フォルダから復元**]** で、バックアップファイルが保存されているフォルダーを参照します。

4.**[AppLocker** の規則の設定**]** を選択し、**[**次へ**]** をクリックします。

5. ルールの割り当てを復元するかどうかを確認します。

はい。規則を復元し、現在の構成セット内の同じユーザーとユーザーグループに再割り当てします。

いいえ。ルールを復元し、割り当てられていないままにします。

6. 復元を開始するには、**[**設定の復元**]** をクリックします。

プロセス管理

これらの設定により、特定のプロセスを許可リストまたは禁止リストに追加できます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

プロセス管理

プロセス管理を有効にする。許可リストまたはブロックリストの処理を有効にするかどうかを切り替えます。無効にすると、「ブラックリストを処理」タブと「ホワイトリストを処理 **」タブの設定は考慮されません。

> 注:
>
> このオプションは、セッションエージェントがユーザーのセッションで実行されている場合にのみ機能します。これを行うには、メイン構成エージェントの設定を使用して、ユーザー/セッションの種類に応じて起動するエージェントの起動オプション（** ログオン時/再接続時/管理者用）を設定し、** エージェントの種類を「UI」に設定します。これらのオプションについては、「詳細設定」を参照してください。

プロセスブロックリスト

これらの設定により、特定のプロセスを禁止リストに追加できます。

プロセスのブラックリストを有効にする。禁止リスト上のプロセスの処理を有効にします。実行可能名 (cmd.exe など) を使用してプロセスを追加する必要があります。

ローカル管理者を除外する。ローカル管理者アカウントを除外します。

指定したグループを除外する。特定のユーザーグループを除外できます。

プロセス許可リスト

これらの設定により、特定のプロセスを許可リストに追加できます。プロセスブロックリストとプロセス許可リストは相互に排他的です。

プロセスのホワイトリストを有効にする。許可リストにあるプロセスの処理を有効にします。実行可能名 (cmd.exe など) を使用してプロセスを追加する必要があります。注**:[**プロセスホワイトリストを有効にする**]** を有効にすると、許可リストにないすべてのプロセスが自動的にブロックリストに追加されます。

ローカル管理者を除外する。ローカル管理者アカウントを除外します (すべてのプロセスを実行できます)。

指定したグループを除外する。特定のユーザーグループを除外できます (すべてのプロセスを実行できます)。

権限昇格

> 注:
>
> この機能は Citrix 仮想アプリには適用されません。

特権昇格機能を使用すると、管理者以外のユーザーの権限を、一部の実行可能ファイルに必要な管理者レベルに昇格できます。その結果、ユーザーは Administrators グループのメンバーであるかのようにこれらの実行可能ファイルを起動できます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

権限昇格

[セキュリティ] で [権限の昇格] ウィンドウを選択すると、次のオプションが表示されます。

- 特権昇格の設定を処理します。特権昇格機能を有効にするかどうかを制御します。選択すると、エージェントが特権昇格の設定を処理し、[権限の昇格] タブの他のオプションが使用可能になります。
- **Windows Server OS** には適用しないでください。Windows Server オペレーティングシステムに特権の昇格設定を適用するかどうかを制御します。選択すると、ユーザーに割り当てられたルールは Windows Server マシンでは機能しません。デフォルトではこのオプションが選択されています。
- **RunasInvoker** を強制する。現在の Windows アカウントですべての実行可能ファイルを強制的に実行するかどうかを制御します。選択すると、管理者として実行可能ファイルを実行するようユーザーに求められません。

このタブには、設定したルールの完全なリストも表示されます。[実行可能ルール] または [**Windows** インストーラー規則] をクリックして、ルール一覧を特定のルールタイプにフィルタリングします。[検索] を使用して、リストをフィルタできます。[割り当て済み] 列には、割り当てられたユーザーまたはユーザーグループのチェックマークアイコンが表示されます。

サポートされているルール

実行可能ルールと Windows インストーラールの 2 種類のルールを使用して、特権の昇格を適用できます。

- 実行可能なルール。アプリケーションに関連付けられた拡張子が.exe および.com のファイルを含むルール。
- **Windows** インストーラー規則。アプリケーションに関連付けられたインストーラーファイル with.msi および.msp 拡張子を含むルール。Windows インストーラールールを追加するときは、次のシナリオに注意してください。
  - 権限昇格は、Microsoft の msiexec.exe にのみ適用されます。`.msi`および`.msp` Windows インストーラーファイルの展開に使用するツールが msiexec.exe であることを確認します。
  - プロセスが指定された Windows インストーラー規則と一致し、その親プロセスが指定された実行可能規則と一致するとします。指定した実行可能ルールで［子プロセスに適用］設定を有効にしない限り、プロセスは昇格された権限を取得できません。

[実行可能ルール] タブまたは [**Windows** インストーラの規則] タブをクリックすると、[アクション] セクションに次のアクションが表示されます。

- 編集。既存の実行可能ルールを編集できます。
- **[**削除**]**。既存の実行可能ルールを削除できます。
- ルールを追加します。実行可能なルールを追加できます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

ルールを追加するには

1. [実行可能ルール] または [**Windows** インストーラの規則] に移動し、[ルールの追加] をクリックします。**[** ルールの追加] ウィンドウが表示されます。
2. [表示**]** セクションで、次のように入力します。
   - **Name**：ルールの表示名を入力します。名前が [ルール] リストに表示されます。
   - **[**説明**]**。ルールに関する追加情報を入力します。
3. [タイプ] セクションで、オプションを選択します。
   - パス。ルールはファイルパスに一致します。
   - パブリッシャー。ルールは、選択したパブリッシャと一致します。
   - ハッシュ。ルールは特定のハッシュコードに一致します。
4. [設定**]** セクションで、必要に応じて次のように構成します。
   - 子プロセスに適用。選択すると、実行ファイルが起動するすべての子プロセスにルールが適用されます。権限昇格をより詳細なレベルで管理するには、次のオプションを使用します。
     - 同じフォルダ内の実行可能ファイルにのみ適用します。選択すると、同じフォルダを共有する実行可能ファイルにのみルールが適用されます。
     - 署名付き実行可能ファイルにのみ適用します。選択すると、署名された実行可能ファイルにのみルールが適用されます。
     - 同じパブリッシャの実行可能ファイルにのみ適用します。選択した場合、同じパブリッシャ情報を共有する実行可能ファイルにのみルールを適用します。この設定は、ユニバーサル Windows プラットフォーム (UWP) アプリでは使用できません。

     > 注：
     >
     > Windows のインストールルールを追加すると、[子プロセスに適用] 設定がデフォルトで有効になり、編集できません。

   - **[** 開始時刻**]**。エージェントがルールの適用を開始する時間を指定できます。時刻形式は HH: MM です。時刻は、エージェントのタイムゾーンに基づきます。
   - 終了時刻。エージェントがルールの適用を停止する時間を指定できます。時刻形式は HH: MM です。指定された時間以降、エージェントはルールを適用しなくなります。時刻は、エージェントのタイムゾーンに基づきます。
   - **[**パラメータを追加**]**。指定したパラメータに一致する実行可能ファイルに権限昇格を制限できます。パラメータは一致基準として機能します。指定したパラメータが正しいことを確認します。この機能の使用方法の例については、「パラメータで実行される実行可能ファイル」を参照してください。このフィールドが空の場合、または空白のみが含まれている場合、エージェントはパラメータで実行されているかどうかにかかわらず、関連する実行可能ファイルに権限昇格を適用します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

- 正規表現を有効にします。正規表現を使用して基準をさらに拡張するかどうかを制御できます。

5. [割り当て] セクションで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択します。すべてのユーザーおよびユーザー・グループにルールを割り当てる場合は、[Select **All]** を選択します。

> ヒント：
>
> - 通常の Windows の選択修飾キーを使用して、複数の選択を行うことができます。
> - ユーザまたはユーザグループは、[管理**] > [**ユーザ] タブに表示されるリストに既に存在している必要があります。
> - ルールは、後で (ルールの作成後) に割り当てることができます。

6. ［次へ］をクリックします。

7. 次のいずれかの操作を行います。前のページで選択したルールタイプに応じて、異なるアクションが必要になります。

> 重要：
>
> WEM には **AppinFoViewer** という名前のツールが用意されており、実行ファイルから発行元、パス、ハッシュなどの情報を取得できます。このツールは、管理コンソールで設定するアプリケーションに関連する情報を提供したい場合に便利です。たとえば、このツールを使用して、アプリケーションのセキュリティ機能を使用するときに、アプリケーションから関連情報を抽出できます。このツールは、エージェントのインストールフォルダにあります。

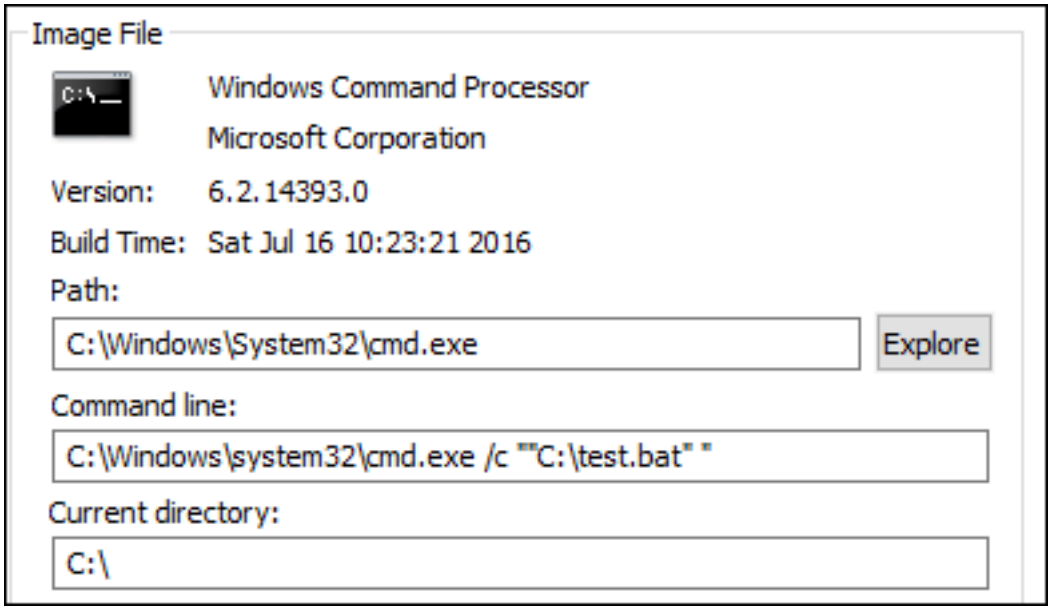
   - パス。ルールを適用するファイルまたはフォルダのパスを入力します。WEM エージェントは、実行可能ファイルのパスに従って、
     実行ファイルにルールを適用します。
   - 発行元。[発行元]、[製品名]、[ファイル名]、[****** ファイルバージョン **] の各フィールドに入力します。フィールドを空白のままにすることはできませんが、代わりにアスタリスク (*) を入力することはできます。WEM エージェントは、パブリッシャ情報に従ってルールを適用します。適用すると、ユーザーは同じ発行者情報を共有する実行可能ファイルを実行できます。
   - ハッシュ。[追加] をクリックして、ハッシュを追加します。**[** ハッシュの追加] ウィンドウで、ファイル名とハッシュ値を入力します。**AppinFoViewer** ツールを使用して、選択したファイルまたはフォルダーからハッシュを作成できます。WEM エージェントは、指定した同じ実行可能ファイルにルールを適用します。その結果、ユーザーは、指定された実行可能ファイルと同じ実行可能ファイルを実行できます。

8. [**Create**] をクリックしてルールを保存し、ウィンドウを終了します。

パラメータで実行されている実行可能ファイル　指定したパラメータに一致する実行可能ファイルに権限昇格を制限できます。パラメータは一致基準として機能します。実行可能ファイルで使用可能なパラメータを表示するには、プロセスエクスプローラーやプロセスモニターなどのツールを使用します。これらのツールに表示されるパラメータを適用します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

実行可能ファイルのパスに従って、実行ファイル (cmd.exe など) にルールを適用するとします。権限昇格を`test.bat`にのみ適用したい。プロセスエクスプローラを使用してパラメータを取得できます。



[パラメータを追加] フィールドに、次のように入力できます。

- `/c ""C:\test.bat""`

次に、[パス] フィールドに次のように入力します。

- `C:\Windows\System32\cmd.exe`

この場合は、指定したユーザーの権限を、`test.bat`に対してのみ管理者レベルに昇格します。

ユーザーにルールを割り当てるには　リストから 1 つまたは複数のルールを選択し、[アクション] セクションの [編集] をクリックします。「ルールの編集」ウィンドウで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザー・グループを選択し、「**OK**」をクリックします。

ルールを削除するには　リストから 1 つまたは複数のルールを選択し、[アクション] セクションの [削除] をクリックします。

特権昇格ルールをバックアップするには　現在の構成セット内のすべての権限昇格ルールをバックアップできます。すべてのルールは、単一の XML ファイルとしてエクスポートされます。**[**復元**]** を使用すると、規則を任意の構成セットに復元できます。

バックアップを完了するには、リボンにある [バックアップ] ウィザードを使用します。バックアップウィザードの使用方法の詳細については、「リボン」を参照してください。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

特権昇格ルールを復元するには　Workspace Environment Management バックアップウィザードを使用してエクスポートされた XML ファイルから特権昇格ルールを復元できます。リストアプロセスでは、現在の構成セット内のルールが、バックアップ内のルールに置き換えられます。[セキュリティ **] > [**権限の昇格] ウィンドウに切り替えたり、更新すると、無効な特権昇格ルールが検出されます。無効なルールは自動的に削除され、エクスポートできるレポートに表示されます。復元ウィザードの使用方法の詳細については、「リボン」を参照してください。

自己昇格

自己昇格を使用すると、事前に正確な実行可能ファイルを提供しなくても、特定のユーザーの権限昇格を自動化できます。これらのユーザーは、該当するファイルを右クリックして、コンテキストメニューで [管理者権限で実行する] を選択するだけで、任意のファイルの自己昇格を要求できます。その後、昇格の理由を尋ねるプロンプトが表示されます。WEM エージェントは理由を検証しません。昇格の理由は、監査目的でデータベースに保存されます。条件が満たされると、昇格が適用され、ファイルは管理者権限で正常に実行されます。

また、この機能により、ニーズに最適なソリューションを柔軟に選択できます。ユーザーに自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成したり、ユーザーが自己昇格できないようにするファイルの禁止リストを作成したりできます。

自己昇格は、`.exe`、`.msi`、`.bat`、`.cmd`、`.ps1`および`.vbs`の形式のファイルに適用されます。

> 注:
>
> デフォルトでは、一部のファイルの実行には特定のアプリケーションが使用されます。たとえば、cmd.exe は.cmd ファイルの実行に使用され、powershell.exe は.ps1 ファイルの実行に使用されます。これらのシナリオでは、デフォルトの動作を変更できません。

[セキュリティ **] > [**自己昇格] を選択すると、次のオプションが表示されます。

- 自己昇格を有効にします。自己昇格機能を有効にするかどうかを制御します。次のオプションを選択します。
  - エージェントが自己昇格設定を処理できるようにします。
  - [自己昇格] タブの他のオプションを使用可能にします。
  - ユーザーがファイルを右クリックしたときに、コンテキストメニューで **[**管理者権限で実行する] オプションを使用可能にします。その結果、ユーザーは [自己昇格] タブで指定した条件に一致するファイルの自己昇格を要求できます。
- 権限。ユーザーに自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成したり、ユーザーが自己昇格できないようにするファイルの禁止リストを作成できます。
  - 許可。ユーザーに自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成します。
  - 拒否。ユーザーが自己昇格できないようにするファイルのブロックリストを作成します。
- 次の操作を実行できます。
  - 編集。既存の条件を編集できます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

  - **[**削除**]**。既存の条件を削除できます。
  - 追加。条件を追加できます。パス、選択した発行元、または特定のハッシュコードに基づいて条件を作成できます。

- 設定。エージェントが自己昇格を適用する方法を制御する追加設定を構成できます。

  - 子プロセスに適用。選択すると、ファイルが開始するすべての子プロセスに自己昇格条件を適用します。
  - **[** 開始時刻**]**。エージェントが自己昇格の条件を適用し始める時間を指定できます。時刻形式は HH: MM です。時刻は、エージェントのタイムゾーンに基づきます。
  - 終了時刻。エージェントが自己昇格条件の適用を停止する時間を指定できます。時刻形式は HH: MM です。指定された時間以降、エージェントは条件を適用しなくなります。時刻は、エージェントのタイムゾーンに基づきます。

- **[**割り当て**]**。自己昇格条件を該当するユーザーまたはユーザーグループに割り当てることができます。条件をすべてのユーザーおよびユーザーグループに割り当てるには、[すべて選択**]** をクリックするか、**[**** 全員**]** を選択します。****[**すべて選択（**Select** All）] チェックボックスは、選択を解除してユーザとユーザグループを再選択する場合に便利です。

権限昇格アクティビティの監査

WEM では、特権の昇格に関連する監査アクティビティがサポートされています。詳細については、「ユーザーアクティビティの監査」を参照してください。

プロセス階層制御

プロセス階層制御機能は、特定の子プロセスを親プロセスから親子シナリオで開始できるかどうかを制御します。ルールを作成するには、親プロセスを定義し、その子プロセスの許可リストまたは禁止リストを指定します。この機能を使用する前に、このセクション全体を確認してください。

> 注:
>
> - この機能は Citrix 仮想アプリにのみ適用されます。

ルールの仕組みを理解するには、次の点に注意してください。

- プロセスには、1 つのルールだけが適用されます。同じプロセスに複数のルールを定義する場合は、優先度が最も高いルールのみが適用されます。
- 定義したルールは、元の親子階層だけに制限されるのではなく、その階層の各レベルにも適用されます。親プロセスに適用可能なルールは、ルールの優先順位に関係なく、子プロセスに適用されるルールよりも優先されます。たとえば、次の 2 つのルールを定義します。

  - ルール 1: CMD を開くことができません。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

  - ルール 2: メモ帳は CMD を開くことができます。

  2 つのルールでは、ルールの優先順位に関係なく、最初に Word を開き、Word からメモ帳を開くことによって、メモ帳から CMD を開くことはできません。

この機能は、特定のプロセスベースの親子関係に基づいて動作します。シナリオで親子関係を視覚化するには、プロセスエクスプローラーツールのプロセスツリー機能を使用します。プロセスエクスプローラの詳細については、https://docs.microsoft.com/en-us/sysinternals/downloads/procmonを参照してください。

潜在的な問題を回避するために、Citrix Studio で **VUEMAppCmd.exe** を指す実行可能ファイルのパスを追加することをお勧めします。**VUEMAppCmd.exe** は、公開アプリケーションが起動する前に WEM エージェントが設定の処理を終了することを保証します。Citrix Studio で、次の手順を完了します。

1. [アプリケーション] で、アプリケーションを選択し、操作ウィンドウで [プロパティ] をクリックして、[場所] ページに移動します。
2. エンドユーザーオペレーティングシステム上のローカルアプリケーションのパスを入力します。
   - [実行可能ファイルへのパス] フィールドに、<%Programfiles%>\ Citrix\ Workspace Environment Management エージェント\ VUEMAppCmd.exe を入力します。
3. コマンドライン引数を入力して、開くアプリケーションを指定します。
   - [コマンドライン引数] フィールドに、**VUEMAppCmd.exe** を使用して起動するアプリケーションへのフルパスを入力します。パスに空白が含まれている場合は、アプリケーションのコマンドラインを二重引用符で囲むようにしてください。
   - たとえば、**VUEMAppCmd.exe** から iexplore.exe を起動したいとします。これを行うには、次のように入力します。`%ProgramFiles(x86)%\"Internet Explorer"\iexplore.exe`。

注意事項

機能を機能させるには、各エージェントマシンで **AppInfoViewer** ツールを使用して機能を有効にする必要があります。(このツールは、エージェントのインストールフォルダにあります。) このツールを使用して機能を有効または無効にするたびに、マシンを再起動する必要があります。この機能を有効にすると、エージェントをアップグレードまたはアンインストールした後、エージェントマシンを再起動する必要があります。

プロセス階層制御機能が有効になっていることを確認するには、エージェントマシンでレジストリエディタを開きます。次のレジストリエントリが存在する場合、この機能が有効になります。

- 32 ビット OS
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEMHook`
- 64 ビット OS

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`

前提条件

この機能を使用するには、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- Citrix 仮想アプリケーションの展開。
- エージェントは、Windows 10 または Windows Server 上で実行されています。
- インプレースアップグレードまたは新規インストール後に、エージェントホストが再起動されました。

プロセス階層制御

「セキュリティ」で「プロセス階層制御」を選択すると、次のオプションが表示されます。

- プロセス階層制御を使用可能にします。プロセス階層制御機能を有効にするかどうかを制御します。選択すると、「プロセス階層制御」**(Process Hierarchy Control**) タブの他のオプションが使用可能になり、そこで構成された設定が有効になります。この機能は、Citrix 仮想アプリケーションの展開でのみ使用できます。
- コンテキストメニューから **[**プログラムから開く**]** を非表示にします。Windows の右クリックメニューから [プログラムから開く] オプションを表示または非表示にするかどうかを制御します。有効にすると、メニューオプションはインターフェイスに表示されません。無効にすると、オプションが表示され、ユーザーはこれを使用してプロセスを開始できます。プロセス階層制御機能は、「プログラムから開く」オプションを使用して開始されたプロセスには適用されません。現在のアプリケーション階層とは無関係なシステムサービスを通じてアプリケーションがプロセスを開始しないようにするには、この設定を有効にすることをお勧めします。

「プロセス階層制御」(Process Hierarchy Control) タブには、構成したルールの完全なリストも表示されます。[検索] を使用して、リストをフィルタできます。[割り当て済み] 列には、割り当てられたユーザーまたはユーザーグループのチェックマークアイコンが表示されます。

「アクション」セクションには、次のアクションが表示されます。

- 編集。ルールを編集できます。
- **[**削除**]**。ルールを削除できます。
- ルールを追加します。ルールを追加できます。

ルールを追加するには

1. 「プロセス階層制御」に移動し、「ルールの追加」をクリックします。**[** ルールの追加] ウィンドウが表示されます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

2. [表示] セクションで、次のように入力します。

   - **Name**：ルールの表示名を入力します。名前が [ルール] リストに表示されます。
   - **[**説明**]**。ルールに関する追加情報を入力します。

3. [タイプ] セクションで、オプションを選択します。

   - パス。ルールはファイルパスに一致します。
   - パブリッシャー。ルールは、選択したパブリッシャと一致します。
   - ハッシュ。ルールは特定のハッシュコードに一致します。

4. [モード] セクションで、次のいずれかのオプションを選択します。

   - ブロックリストに子プロセスを追加。選択すると、親プロセスの規則を構成した後、適用可能な子プロセスのブロックリストを定義できます。ブロックリストでは、指定したプロセスの実行のみが禁止され、他のプロセスの実行が許可されます。
   - 許可リストに子プロセスを追加します。選択すると、親プロセスのルールを構成した後、適用可能な子プロセスの許可リストを定義できます。許可リストでは、指定したプロセスの実行のみが許可され、他のプロセスの実行が禁止されます。

   > 注：
   >
   > プロセスには、1 つのルールだけが適用されます。同じプロセスに複数のルールを定義すると、ルールは優先順位に従って適用されます。

5. [優先度] セクションで、ルールの優先度を設定します。優先度を設定するときは、次の点を考慮してください。優先度によって、設定したルールが処理される順序が決まります。値が大きいほど、優先順位が高くなります。整数を入力します。競合がある場合は、優先度の高いルールが優先されます。

6. [割り当て] セクションで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択します。すべてのユーザーおよびユーザー・グループにルールを割り当てる場合は、[Select **All]** を選択します。

   > 注：
   >
   > - 通常の Windows 選択キーを使用して、複数の選択を行うことができます。
   > - ユーザまたはユーザグループは、[管理**] > [**ユーザ] タブに表示されるリストに既に存在している必要があります。
   > - ルールは、後で (ルールの作成後) に割り当てることができます。

7. [次へ] をクリックします。

8. 親プロセスのルールを構成するには、次のいずれかの操作を行います。前のページで選択したルールタイプに応じて、必要なアクションが異なります。

   - パス。ルールを一致させるファイルパスまたはフォルダパスを指定します。フォルダパスを指定すると、ルールはそのフォルダ内のすべてのファイルとサブフォルダに適用されます。WEM エージェントは、

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

実行可能ファイルのパスに従って実行可能ファイルにルールを適用します。パスの一致を示すためにアスタリスク (*) のみを入力することはお勧めしません。これを行うと、意図しないパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。

- パブリッシャー。ルールの参照として使用する署名付き参照ファイルを指定します。[Publisher Info] スライダを使用して、プロパティの一致レベルを調整します。スライダーを上または下に移動して、ルールの具体性を下げたり下げたりします。スライダーを [任意の発行者] の位置に移動すると、ルールはすべての署名済みファイルに適用されます。WEM エージェントは、発行元情報に従って、親プロセスにルールを適用します。適用すると、ユーザーは同じ発行者情報を共有する実行可能ファイルを実行できます。必要に応じて、[カスタム値を使用して情報をカスタマイズする] を選択できます。
- ハッシュ。ハッシュを作成するファイルまたはフォルダを指定します。ルールはファイルのハッシュコードと一致します。WEM エージェントは、指定した同じ実行可能ファイルにルールを適用します。その結果、ユーザーは、指定された実行可能ファイルと同じ実行可能ファイルを実行できます。

9. [次へ] をクリックして、子プロセス設定を構成します。
10. 適用可能な子プロセスの許可リストまたはブロックリストを定義するには、次のいずれかの操作を行います。

    a) メニューからルールタイプを選択し、[追加] をクリックします。[子プロセス] ウィンドウが表示されます。
    b) [子プロセス] ウィンドウで、必要に応じて設定を構成します。「子プロセス」(Child Process) ウィンドウのユーザー・インタフェースは、選択した規則タイプによって異なります。子プロセスでは、パス、発行元、およびハッシュの規則の種類を使用できます。
    c)「**OK**」をクリックして「ルールの追加」ウィンドウに戻ります。子プロセスを追加するか、[**Create**] をクリックしてルールを保存してウィンドウを終了できます。

ユーザーにルールを割り当てるには　一覧から 1 つのルールを選択し、[アクション] セクションの [編集] をクリックします。「ルールの編集」ウィンドウで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザー・グループを選択し、「**OK**」をクリックします。

ルールを削除するには　リストから 1 つまたは複数のルールを選択し、[アクション] セクションの [削除] をクリックします。

ルールをバックアップするには　現在の構成セット内のすべてのプロセス階層制御ルールをバックアップできます。すべてのルールは、単一の XML ファイルとしてエクスポートされます。**[**復元**]** を使用すると、規則を任意の構成セットに復元できます。

バックアップを完了するには、リボンにある [バックアップ] ウィザードを使用します。バックアップウィザードの使用方法の詳細については、「リボン」を参照してください。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

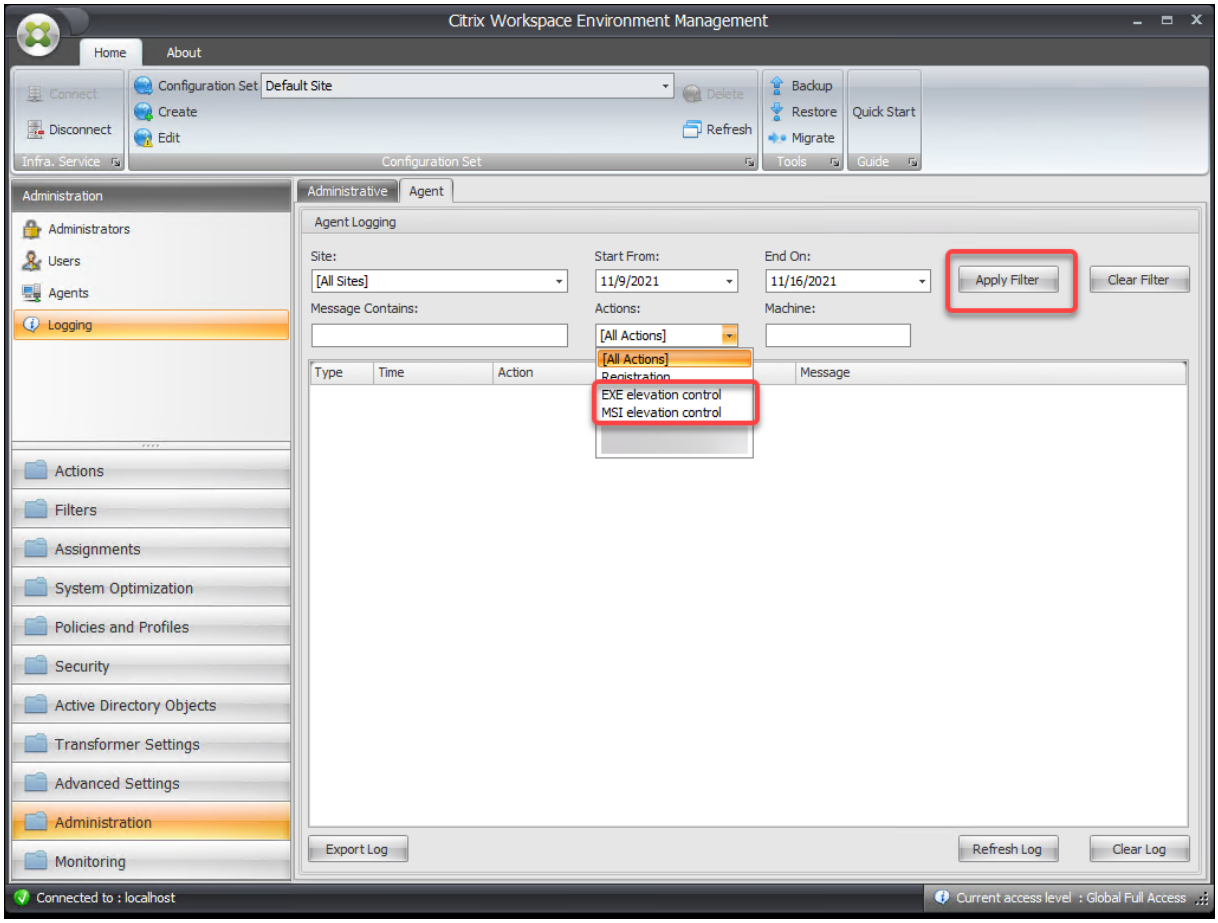
ルールを復元するには　[Workspace Environment Management] バックアップウィザードを使用してエクスポートされた XML ファイルからプロセス階層制御ルールを復元できます。リストアプロセスでは、現在の構成セット内のルールが、バックアップ内のルールに置き換えられます。[セキュリティ **] > [**プロセス階層コントロール] ペインに切り替えたり、更新したりすると、無効なルールはすべて削除され、エクスポート可能なレポートに一覧表示されます。復元ウィザードの使用方法の詳細については、「リボン」を参照してください。

プロセス階層制御アクティビティの監査

WEM では、プロセス階層制御に関連する監査アクティビティがサポートされています。詳細については、「ユーザーアクティビティの監査」を参照してください。

ユーザー・アクティビティの監査

WEM では、権限昇格およびプロセス階層制御に関連する監査アクティビティがサポートされています。監査を表示するには、[管理**] > [**ログ**] > [**エージェント] タブに移動します。タブで、ログ設定を構成し、[アクション] フィールドで [**ElevationControl]**、**[**** 自己昇格]、または ProcessHierarchyControl** を選択し、[フィルターの適用] をクリックしてログを特定のアクティビティに絞り込みます。特権の昇格またはプロセス階層制御の履歴全体を表示できます。



© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

Active Directory オブジェクト

June 1, 2023

これらのページを使用して、Workspace Environment Management (WEM) で管理するユーザー、コンピューター、グループ、および組織単位を指定します。

> 注:
>
> ユーザー、コンピューター、グループ、および OU を WEM に追加して、エージェントがそれらを管理できるようにします。

ユーザー

既存のユーザーとグループのリスト。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

ユーザーを追加するには

1. コンテキストメニューから [追加] を選択します。
2. Windows の［ユーザーの選択］ダイアログにユーザー名またはグループ名を入力し、［**OK**］をクリックします。

Name: ユーザーまたはグループの名前。

[説明**]**。[項目を編集] ダイアログにのみ表示されます。ユーザーまたはグループに関する追加情報を指定できます。

アイテムの優先順位。異なるグループとユーザーアカウント間の優先度を設定できます。優先度によって、割り当てたアクションが処理される順序が決まります。整数を入力して優先度を指定します。値が大きいほど、優先順位が高くなります。競合が発生した場合（たとえば、同じドライブ文字で異なるネットワークドライブをマッピングする場合）、優先度の高いグループまたはユーザーアカウントが優先されます。

> 重要:
>
> グループポリシー設定を割り当てる場合、ここで構成した優先度は機能しません。優先度を設定するには、管理コンソール **>** **[**割り当て**]** を使用します。詳細については、「グループポリシー設定のコンテキスト化」を参照してください。

アイテムの状態。ユーザーまたはグループを有効にするか無効にするかを選択できます。無効にすると、アクションを割り当てることができません。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

複数のユーザーを追加するには

1. コンテキストメニューから [追加] を選択します。
2. テキストボックスに複数のユーザーまたはグループ名を追加し、セミコロンで区切って、「**OK**」をクリックします。

マシン

現在のサイト (構成セット) に追加されたコンピュータのリスト。Workspace Environment Management によって管理されるのは、ここにリストされているコンピュータだけです。これらのコンピュータ上のエージェントがインフラストラクチャサーバーに登録されると、構成セットに必要なマシン依存の設定が送信されます。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

> ヒント：
>
> これらのマシン上のエージェントがインフラストラクチャサーバに正しく登録されているかどうかを確認するには、[管理] セクションの [エージェント] を参照してください。

コンピューターまたはコンピューターグループを現在の構成セットに追加するには

1. [オブジェクトの追加] コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
2. ［コンピュータまたはグループの選択］ダイアログで、コンピュータまたはコンピュータグループを選択し、［**OK**］をクリックします。

組織単位内のコンピュータを構成セットに追加するには

1. [**OU** を追加] コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
2. ［組織単位］ダイアログで、組織単位を選択し、［**OK**］をクリックします。

コンピューター、コンピューターグループ、または **OU** の詳細を編集するには

1. リスト内の項目を選択します。
2. **[**編集] コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
3. ［アイテムの編集］ダイアログで、次の詳細（読み取り専用ではない）のいずれかを選択し、［**OK**］をクリックします。

名前 *****。コンピューター、コンピューターグループ、または OU 名。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

識別名 *****。選択したコンピューターまたはコンピューターグループの識別名 (DN)。このフィールドでは、異なる OU が同じ名前を持つ場合に、異なる OU を区別できます。

[説明**]**。コンピューター、コンピューターグループ、または OU に関する追加情報。

タイプ *****。選択したタイプ (コンピュータ、グループ、または組織単位)

アイテムの状態。コンピュータ、コンピュータグループ、または OU の状態 (有効または無効)。無効にすると、コンピュータ、コンピュータグループ、または OU はアクションを割り当てることはできません。

アイテムの優先順位。これにより、異なるグループとユーザーアカウント間の優先順位を設定できます。優先度によって、割り当てたアクションが処理される順序が決まります。値が大きいほど、優先順位が高くなります。整数を入力します。競合が発生した場合（たとえば、同じドライブ文字で異なるネットワークドライブをマッピングする場合)、優先度の高いグループまたはユーザーアカウントが優先されます。

* Active Directory からレポートされる読み取り専用詳細。

詳細設定

Active Directory 検索タイムアウト

Active Directory 動作を設定します。

- **Active Directory** 検索タイムアウト。Active Directory 検索が終了するまでのタイムアウトをミリ秒単位で指定します。デフォルト値は 1000 です。検索が完了する前のタイムアウトを避けるため、500 以上の値を使用することをお勧めします。

バインドされていないエージェントサイト設定

バインドされていないエージェントに設定を適用するかどうかを制御します。バインドされていないエージェントとは、どの構成セットにもバインドされていないエージェントです。

次の設定は WEM デプロイ全体に適用されます。どの構成セット (サイト) にも関連付けられていません。設定を有効にしたら、「Unbound Agents」構成セットに移動し、そこで設定を行います。これにより、バインドされていないエージェントの動作を制御できます。

- バインドされていないエージェントに設定を適用します。**Active Directory** オブジェクトにまだ追加していないエージェントに、「バインドされていないエージェント」構成セットの設定を適用できます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

トランスフォーマーの設定

June 1, 2023

これらのオプションを使用すると、トランスフォーマー機能を設定できます。Transformer を使用すると、エージェントは Web ランチャーまたはアプリケーションランチャーとして接続し、構成されたリモートデスクトップインターフェイスにユーザーをリダイレクトできます。トランスフォーマーでは、完全に復元可能な「キオスク」モードを使用して、Windows PC を高性能シンクライアントに変換します。

一般

一般設定

これらの設定は、Transformer の外観と基本設定を制御します。

トランスフォーマーを有効にします。有効にすると、このサイトに接続されているエージェントホストが自動的にキオスクモードになります。キオスクモードでは、Agent Host は Web ランチャーまたはアプリケーションランチャーになり、構成済みのリモートデスクトップインターフェイスにユーザーをリダイレクトします。ユーザー環境はロックダウンされ、ユーザーはエージェントとの対話のみ許可されます。このオプションを無効にすると、[一般] ページまたは [詳細設定] ページの設定は処理されません。

ウェブインターフェイス **URL**。この URL は、ユーザーの仮想デスクトップの Web フロントエンドとして使用されます。これは、Citrix Virtual Apps または Citrix Virtual Desktops 環境のアクセス URL です。

カスタムタイトル。有効にすると、Workspace Environment Management エージェントのキオスクウィンドウにカスタムのタイトルバーが表示されます。

ウィンドウモードを有効にします。有効にすると、Workspace Environment Management エージェントのキオスクはウィンドウモードで起動します。ユーザーはまだ Windows 環境からロックアウトされています。

言語選択を許可する。有効にすると、Transformer インターフェイスの言語を選択できます。

ナビゲーションボタンを表示する。有効にすると、[Agent] キオスクウィンドウに [進む]、[戻る]、および [ホーム] の Web ナビゲーションボタンが表示されます。「ホーム」は、上記で定義したウェブインターフェース URL にユーザーを送り返します。

時計を表示します。有効にすると、トランスフォーマー UI にクロックが表示されます。

12 時間時計を表示します。有効にすると、12 時間時計 (AM/PM) が表示されます。デフォルトでは、トランスフォーマークロックは 24 時間クロックです。

アプリケーションパネルを有効にします。有効にすると、Workspace Environment Management で割り当てられたユーザーのアプリケーションを含むパネルが表示されます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

アプリケーションパネルを自動非表示にします。有効にすると、アプリケーションパネルは使用されていないときに自動的に非表示になります。

ロック解除パスワードを変更します。**Ctrl+Alt+U** を押してユーザーの環境のロックを解除するために使用できるパスワードを指定できます。これは、管理者およびサポートエージェントが制限なくユーザー環境のトラブルシューティングを実行できるように設計されています。

サイト設定

サイトリストを有効にする。有効にすると、キオスクインターフェイスに URL のリストが追加されます。

ツール設定

ツールリストを有効にする。有効にすると、ツールのリストがキオスクインターフェイスに追加されます。

詳細設定

プロセスランチャー

これらのオプションを使用すると、Web インターフェイスを表示するのではなく、Workspace Environment Management エージェントキオスクモードをプロセスランチャーに変換できます。

プロセスランチャーを有効にします。有効にすると、Workspace Environment Management エージェントがプロセス・ランチャー・モードになります。プロセスランチャーモードでは、Workspace Environment Management エージェントは、[プロセスコマンドライン] で指定されたプロセスを起動します。終了すると、プロセスが再起動されます。

コマンドラインを処理します。特定のプロセスのコマンドラインを入力できます (たとえば、RDP 接続を起動するための mstsc.exe へのパス)。

引数を処理します。上記のコマンドラインに任意の引数を指定できます (たとえば、mstsc.exe の場合は、接続先のマシンの IP アドレス)。

VMware View 最後のユーザー名をクリアします。有効にすると、VMware デスクトップセッションを起動したときに、ログオン画面上の以前のユーザーのユーザー名がクリアされます。

VMware View モードを有効にします。有効にすると、プロセスランチャーがユーザーのマシン上で実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを VMware View モードで監視し、それらがすべて閉じているときにセッション終了オプションを実行できるようになります。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

Microsoft RDS モードを有効にします。有効にすると、プロセスランチャーが Microsoft リモートデスクトップサービス (RDS) モードでユーザーのマシンで実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを監視し、それらがすべて閉じているときにセッション終了オプションを実行できるようになります。

Citrix モードを有効にします。有効にすると、プロセスランチャーが Citrix モードでユーザーのマシン上で実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを監視し、それらがすべて閉じられたときにセッション終了オプションを実行できるようになります。

詳細設定と管理設定

ブラウザレンダリングを修正しました。有効にすると、エージェントホストマシンに現在インストールされている Internet Explorer (IE) のバージョンと互換性のあるブラウザモードでキオスクウィンドウが強制的に実行されます。デフォルトでは、キオスクウィンドウは IE7 互換モードで実行されます。

ログオフ画面のリダイレクト。有効にすると、ログオフページに表示されるたびに、ユーザーがログオンページに自動的にリダイレクトされます。

スクリプトエラーを抑制します。有効にすると、発生したスクリプトエラーを抑制します。

SSL サイトを修正しました。有効にすると、SSL 警告を完全に非表示にします。

Citrix セッション中にキオスクを非表示にする。有効にすると、ユーザーが Citrix セッションに接続している間、Citrix Workspace Environment Management Agent のキオスクが非表示になります。

常に管理メニューを表示します。有効にすると、キオスクの管理メニューが常に表示されます。これにより、すべてのユーザーがキオスクの管理メニューにアクセスできます。

タスクバーとスタートボタンを非表示にします。有効にすると、ユーザーのタスクバーとスタートメニューが非表示になります。そうしないと、ユーザーは引き続き自分のデスクトップにアクセスできます。

Alt-Tab をロックします。有効にすると、alt tab コマンドが無視され、ユーザーがエージェントから切り替わるのを防ぎます。

Z オーダーを修正しました。有効にすると、キオスクのインターフェイスに「非表示」ボタンが追加され、キオスクをバックグラウンドにプッシュできるようになります。

Citrix Desktop Viewer をロックします。有効にすると、デスクトップビューアをロックダウンモードに切り替えます。これは、Windows デスクトップロック用 Citrix Workspace アプリがインストールされている場合に発生するロックダウンに相当します。これにより、ローカルアプリケーションとの統合が向上します。このオプションは、次の条件がすべて満たされている場合にのみ機能します。

- エージェント・ホストにログオンしているユーザーは、管理者グループのメンバーではありません。
- [一般設定] タブの [トランスフォーマーを有効にする] オプションが有効になります。
- [**** ログオン**/**ログオフと電源設定**]** タブの **[**自動ログオンモードを有効にする ****] オプションが有効になります。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

[表示設定を非表示]: 有効にすると、トランスフォーマの UI の [設定**]** の下の **[**表示] が非表示になります。

キーボード設定を非表示にします。有効にすると、トランスフォーマー UI の [設定**]** の下の **[**キーボード] が非表示になります。

マウス設定を非表示にします。有効にすると、トランスフォーマー UI の [設定**]** の **[**マウス] を非表示にします。

音量設定を非表示にします。有効にすると、トランスフォーマー UI の [設定**]** の **[**音量] を非表示にします。

クライアントの詳細を非表示にします。有効にすると、Transformer UI の感嘆符アイコンの下にクライアントの詳細が非表示になります。クライアントの詳細から、バージョン番号などの情報が表示されます。

プログレスバーを無効にします。有効にすると、埋め込まれた Web ブラウザの進行状況バーが非表示になります。

Windows バージョンを非表示にします。有効にすると、トランスフォーマー UI の感嘆符アイコンの下に **Windows** バージョンを非表示にします。

ホームボタンを隠す。有効にすると、トランスフォーマー UI のメニューのホームアイコンが非表示になります。

プリンタの設定を非表示にします。有効にすると、Transformer UI のメニューのプリンタアイコンが非表示になります。ユーザーは Transformer UI でプリンタを管理できません。

事前起動レシーバー。有効にすると、Citrix Workspace アプリが起動し、読み込まれるまで待ってからキオスクモードのウィンドウが表示されます。

ロック解除を無効にします。有効にすると、**Ctrl+Alt+U** のロック解除ショートカットを使用してエージェントをロック解除することはできません。

ログオフオプションを非表示にします。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下の [ログオフ] が非表示になります。

再起動オプションを非表示にします。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下の [再起動] が非表示になります。

シャットダウンオプションを非表示にします。有効にすると、トランスフォーマー **UI** のシャットダウンアイコンの下にシャットダウンが非表示になります。

最後の言語を無視します。トランスフォーマー UI は複数の言語をサポートしています。[一般**]** ペインで、**[**言語選択を許可] オプションが有効になっている場合、ユーザーは Transformer UI の言語を選択できます。エージェントは、このオプションが有効になるまで、選択した言語を記憶します。

ログオン**/**ログオフと電源設定

自動ログオンモードを有効にします。有効にすると、ユーザーは Windows ログオン画面をバイパスして、エージェントによってデスクトップ環境に自動的にログオンします。

Web ポータルをログオフするセッションが起動されたとき。有効にすると、ユーザーのデスクトップセッションが開始されると、[一般設定] ページで指定された Web フロントエンドがログオフされます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

セッション終了オプション。ユーザーがセッションを終了したときに、エージェントが実行している環境に対して実行するアクションを指定できます。

指定した時間にシャットダウンします。有効にすると、エージェントは、指定されたローカル時刻に実行されている環境を自動的にシャットダウンします。

アイドル時にシャットダウンします。有効にすると、エージェントは、アイドル状態（ユーザー入力なし）の実行後、指定した時間だけエージェントが実行されている環境を自動的にシャットダウンします。

バッテリーの状態を確認しないでください。Transformer のユースケースでは、エージェントはバッテリのステータスをチェックし、バッテリが少なくなっている場合にユーザーに警告します。有効の場合、エージェントはこのチェックを実行しません。

詳細設定

June 1, 2023

これらの設定は、エージェントがアクションを処理する方法とタイミングを変更します。

構成

これらのオプションは、基本的なエージェントの動作を制御します。

メイン構成

エージェントアクション。これらの設定は、[アクション] タブで構成されたアクションをエージェントが処理するかどうかを決定します 。これらの設定は、ログオン時および更新（自動更新または手動更新）（ユーザーまたは管理者が起動）時に適用されます。

アプリケーションを処理します。選択すると、エージェントはアプリケーションのアクションを処理します。

プリンタを処理します。選択すると、エージェントはプリンタのアクションを処理します。

ネットワークドライブを処理します。選択すると、エージェントはネットワークドライブのアクションを処理します。

仮想ドライブを処理します。選択すると、エージェントは仮想ドライブのアクションを処理します。(仮想ドライブは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマップする Windows 仮想ドライブまたは MS-DOS デバイス名です)。

レジストリ値を処理します。選択すると、エージェントはレジストリエントリアクションを処理します。

プロセス環境変数。選択すると、エージェントは環境変数のアクションを処理します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

プロセスポート。選択すると、エージェントはポートのアクションを処理します。

INI ファイル操作を処理します。選択すると、エージェントは.ini ファイルのアクションを処理します。

外部タスクの処理。選択すると、エージェントは外部タスクアクションを処理します。

ファイルシステムオペレーションを処理する。選択すると、エージェントはファイル・システムの操作アクションを処理します。

ファイルの関連付けを処理します。選択すると、エージェントはファイル関連付けアクションを処理します。

ユーザー **DSN** を処理します。選択すると、エージェントはユーザー DSN アクションを処理します。

エージェントサービスアクション。これらの設定は、エンドポイントでのエージェントサービスの動作を制御します。

ログオン時にエージェントを起動します。エージェントをログオン時に実行するかどうかを制御します。

再接続時にエージェントを起動します。エージェントが実行されているマシンにユーザーが再接続したときにエージェントを実行するかどうかを制御します。

管理者向けエージェントを起動します。ユーザーが管理者の場合にエージェントを実行するかどうかを制御します。

エージェントタイプ。エージェントと対話するときに、ユーザーにユーザーインターフェイス (UI) またはコマンドラインプロンプト (CMD) のどちらが表示されるかを制御します。

(仮想**)** デスクトップ互換性を有効にします。エージェントが実行されているデスクトップと互換性があることを確認します。この設定は、ユーザーがセッションにログオンしたときにエージェントを起動するために必要です。物理デスクトップまたは VDI デスクトップにユーザーがいる場合は、このオプションを選択します。

公開アプリケーションで **CMD** エージェントのみを実行します。有効にすると、エージェントは公開アプリケーションで UI モードではなく CMD モードで起動します。CMD モードでは、エージェントのスプラッシュ画面ではなくコマンドプロンプトが表示されます。

クリーンアップアクション

このタブに表示されるオプションは、エージェントが更新されたときにショートカットやその他の項目（ネットワークドライブとプリンタ）を削除するかどうかを制御します。ユーザーまたはユーザーグループにアクションを割り当てると、ショートカットやアイテムの作成も制御できます。そのためには、[割り当て] > [アクション割り当て] **>** **[**アクション割り当て**]** タブの **[**** 割り当て済み] ペインでアクションのオプションを設定します ** 。Workspace Environment Management では、次のオプションが特定の優先度に従って処理されます

1. [クリーンアップ操作] タブに表示されるオプション
2. **[**割り当て済み**]** ペインで割り当てられたアクションに対して構成されたオプション

たとえば、**[**割り当て**]** ペインで割り当てられたアプリケーションの **[**** デスクトップの作成] オプションを有効にしていて、デスクトップにアプリケーションのショートカットがすでに作成されているとします。** [クリーンアップ

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

操作] タブの [デスクトップショートカットの削除] オプションを有効にしていても、エージェントが更新されてもショートカットはデスクトップ上に残ります。

起動時にショートカットの削除。エージェントは、更新時に、選択したタイプのすべてのショートカットを削除します。

起動時にネットワークドライブを削除します。有効にすると、エージェントは更新されるたびにすべてのネットワーク・ドライブを削除します。

起動時にネットワークプリンタを削除します。有効にすると、エージェントは更新されるたびにすべてのネットワークプリンタを削除します。

自動作成されたプリンタを保持します。有効にすると、エージェントは自動作成されたプリンタを削除しません。

特定のプリンタを保持します。有効にすると、エージェントはこのリスト内のプリンタを削除しません。

エージェントオプション

これらのオプションは、エージェントの設定を制御します。

エージェントロギングを有効にします。エージェントログファイルを有効にします。

ログファイル。ログファイルの場所。デフォルトでは、これはログインしたユーザーのプロファイルルートです。

デバッグモード。これにより、エージェントの詳細なログ記録が有効になります。

オフラインモードを有効にします。無効にすると、インフラストラクチャサービスへの接続に失敗しても、エージェントはキャッシュにフォールバックしません。

オンラインでもキャッシュを使用する。有効にすると、エージェントは常にキャッシュから設定とアクションを読み取ります（エージェントのサービスが循環するたびに構築されます）。

キャッシュを使用してアクション処理を加速します。有効にすると、エージェントはインフラストラクチャサービスからではなく、エージェントローカルキャッシュから関連する設定を取得してアクションを処理します。そうすることで、アクションの処理が高速化されます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。以前の動作に戻す場合は、このオプションを無効にします。

> 重要：
>
> - エージェントのローカルキャッシュは、インフラストラクチャサービスと定期的に同期されます。したがって、[エージェントキャッシュの更新の遅延] オプション（[詳細設定] **>** [構成] **>** [サービスオプション] タブ）で指定した値に応じて、アクション設定の変更が有効になるまでに時間がかかります。
> - 遅延を減らすには、低い値を指定します。変更をすぐに有効にするには、[管理] **>** [エージェント] **>** [統計] タブに移動し、該当するエージェントを右クリックして、コンテキストメニューで [キャッシュの更新] を選択します。

環境設定を更新。有効にすると、エージェントが更新されると、エージェントはユーザー環境設定の更新をトリガーします。環境設定の詳細については、環境設定を参照してください。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

システム設定を更新する。有効にすると、エージェントが更新されると、エージェントは Windows システム設定（Windows エクスプローラやコントロールパネルなど）の更新をトリガーします。

環境設定が変更されたときに更新します。有効にすると、環境設定が変更されると、エージェントはエンドポイントで Windows の更新をトリガーします。

デスクトップをリフレッシュ。有効にすると、エージェントの更新が発生すると、エージェントはデスクトップ設定の更新をトリガーします。デスクトップ設定の詳細については、「デスクトップ」を参照してください。

外観をリフレッシュ。有効にすると、エージェントが更新されると、エージェントは Windows テーマとデスクトップの壁紙のリフレッシュをトリガーします。

非同期プリンタ処理。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理が完了するのを待たずにプリンターを非同期で処理します。

非同期ネットワークドライブ処理。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理が完了するのを待たずにネットワークドライブを非同期で処理します。

初期環境クリーンアップ。有効にすると、エージェントは最初のログオン時にユーザー環境をクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。

- ユーザーネットワークプリンタ。
  - [クリーンアップ操作] タブの [自動作成されたプリンタを保持] が有効になっている場合、エージェントは自動作成されたプリンタを削除しません。
  - [クリーンアップ操作] タブの [特定のプリンタを保持] が有効になっている場合、エージェントは一覧で指定されたプリンタを削除しません。
- ホームドライブであるネットワークドライブを除くすべてのネットワークドライブ。
- デスクトップ以外のすべてのショートカット、[スタート] メニュー、[クイック起動]、[スタート] ボタン-コンテキストメニューショートカット。
- すべてのタスクバーと [スタート] メニューのショートカットが固定されています。

初期デスクトップ **UI** クリーンアップ。有効にすると、エージェントは最初のログオン時にセッションデスクトップをクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。

- デスクトップ以外のすべてのショートカット、[スタート] メニュー、[クイック起動]、[スタート] ボタン-コンテキストメニューショートカット。
- すべてのタスクバーと [スタート] メニューのショートカットが固定されています。

アプリケーションの存在を確認します。有効にすると、エージェントは、ユーザーがサインインするマシンにアプリケーションが存在することを確認しない限り、ショートカットを作成しません。

[アプリケーション変数**]** を展開します。有効にすると、変数はデフォルトで展開されます（エージェントが変数に遭遇したときの通常の動作については、環境変数を参照 ）。

クロスドメインユーザーグループ検索を有効にします。有効にすると、エージェントはすべての Active Directory ドメイン内のユーザー・グループに照会します。注: これは非常に時間のかかるプロセスで、必要な場合にのみ選択する必要があります。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

ブローカーサービスのタイムアウト。エージェントがインフラストラクチャサービスへの接続に失敗したときに、エージェントが自身のキャッシュに切り替わるタイムアウト値。デフォルト値は 15000 ミリ秒です。

ディレクトリサービスのタイムアウト。エージェントホスト・マシン上のディレクトリ・サービスのタイムアウト値。その後、エージェントはユーザー・グループの関連付けの独自の内部キャッシュを使用します。デフォルト値は 15000 ミリ秒です。

ネットワークリソースタイムアウト。ネットワーク・リソース（ネットワーク上にあるネットワーク・ドライブまたはファイル/フォルダ・リソース）を解決するためのタイムアウト値。この値を過ぎると、エージェントはアクションが失敗したと判断します。デフォルト値は 500 ミリ秒です。

エージェントの最大並列度。エージェントが使用できるスレッドの最大数。デフォルト値は 0 (プロセッサで物理的に許可されている数のスレッド)、1 はシングルスレッド、2 はデュアルスレッド、というように同様です。通常、この値は変更する必要はありません。

通知を有効にします。有効にすると、インフラストラクチャサービスへの接続が失われたり復元されたりすると、エージェントはエージェントホストに通知メッセージを表示します。低品質のネットワーク接続では、このオプションを有効にしないことをお勧めします。そうしないと、接続状態変更通知がエンドポイント（エージェントホスト）で頻繁に表示される場合があります。

詳細オプション

エージェントアクションの実行を強制します。これらの設定が有効になっている場合、変更が行われていない場合でも、エージェント・ホストは常にこれらのアクションを更新します。

未割り当てアクションを元に戻す。これらの設定が有効になっている場合、エージェント・ホストは次回の更新時に未割り当てのアクションをすべて削除します。

自動リフレッシュ。有効にすると、エージェント・ホストは自動的に更新されます。デフォルトでは、更新の遅延は 30 分です。

再接続アクション

再接続でのアクション処理。これらの設定は、ユーザー環境への再接続時にエージェントホストが処理するアクションを制御します。

高度な処理

フィルタ処理の適用。これらのオプションを有効にすると、エージェント・ホストは更新のたびにフィルタを再処理します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

サービスオプション

これらの設定は、Agent Host サービスを構成します。

エージェントキャッシュの更新遅延。この設定項目では、Citrix WEM エージェントホストサービスがキャッシュの更新を待機する時間を制御します。更新では、キャッシュと WEM サービスデータベースとの同期が維持されます。デフォルトは 30 分です。

SQL 設定のリフレッシュ遅延。この設定項目では、Citrix WEM エージェントホストサービスが SQL 接続の設定を更新するまで待機する時間を制御します。デフォルトは 15 分です。

エージェントの追加起動遅延。この設定では、Citrix WEM エージェントホストサービスがエージェントホスト実行可能ファイルの起動を待つ時間を制御します。

> ヒント：
>
> エージェント・ホストで最初に必要な作業を完了させるシナリオでは、エージェント・アプリケーション・ランチャー（VUEMAppCmd.exe）の待機時間を指定できます。VUEMAppCmd.exe は Citrix Virtual Apps and Desktops 公開アプリケーションが起動される前に、エージェントホストが環境の処理を完了することを確認します。待機時間を指定するには、[エージェントホスト構成] グループポリシーの vueMappCmd 追加同期遅延設定を構成します。詳細については、「WEM エージェントのインストールと構成」を参照してください。

デバッグモードを有効にします。これにより、このサイトに接続しているすべてのエージェントホストの詳細ログが有効になります。

ie4uinit チェックをバイパスします。デフォルトでは、Citrix WEM エージェントホストサービスは、エージェントホスト実行可能ファイルを起動する前に、ie4uinit の実行を待機します。この設定では、エージェントホストサービスが ie4uinit を待たないように強制します。

エージェント起動の除外。有効にすると、指定したユーザーグループに属するユーザーに対して Citrix WEM エージェントホストが起動されません。

コンソール設定

禁止されたドライブ。このリストに追加されたドライブ文字は、ドライブリソースを割り当てるときにドライブ文字の選択から除外されます。

割り当てプロセスでのドライブ文字の再利用を許可します。有効にすると、アサインで使用されているドライブ文字は、他のアサインでも使用できます。

StoreFront

このタブを使用して、StoreFront ストアを Workspace Environment Management に追加します。次に、[アクション] **>** [アプリケーション] **>** [アプリケーションリスト] タブに移動して、これらのストアで使用可能なアプリケーションを追加できます。これにより、公開アプリケーションをアプリケーションのショートカットとしてエンド

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

ポイントに割り当てることができます。詳細については、「アプリケーション」を参照してください。トランスフォーマー（キオスク）モードでは、割り当てられた StoreFront アプリケーションアクションが［アプリケーション］タブに表示されます。StoreFront アの詳細については、StoreFront のドキュメントを参照してください。

ストアを追加するには

1. ［追加］をクリックします。
2. ［ストアの追加］ダイアログに詳細を入力し、［**OK**］をクリックします。ストアが構成セットに保存されます。

URL をストアします。Workspace Environment Management を使用してリソースにアクセスするストアの URL。URL は http [s]: //hostname [: port] の形式で指定する必要があります。hostname はストアの完全修飾ドメイン名で、port はプロトコルのデフォルトポートが使用できない場合にストアとの通信に使用されるポートです。

> 重要：
>
> - 使用するストア URL は、外部ネットワークから直接アクセスできる必要があり、NetScaler ADC などのソリューションの背後に存在してはいけません。
> - この機能は、多要素認証を使用する StoreFront では機能しません。

[説明]。ストアを説明するオプションのテキスト。

ストアを編集するには　リスト内のストアを選択し、[編集] をクリックして、ストアの URL または説明を変更します。

ストアを削除するには　リストからストアを選択し、[削除] をクリックして、構成セットからストアを削除します。

変更を適用するには　[**Apply**] をクリックして、ストア設定をエージェントにすぐに適用します。

エージェントスイッチ

このタブに表示されるオプションを使用すると、オンプレミスエージェントからサービスエージェントに切り替えることができます。

> 重要：
>
> エージェントスイッチは構成セットレベルで動作します。実行するスイッチ操作は、構成セット内のエージェントだけに影響します。

サービスエージェントに切り替えます。有効にすると、エージェントはオンプレミスエージェントからサービスエージェントに切り替わります。その後、エージェントが接続する Citrix Cloud Connector を指定できます。これは、既存のオンプレミス展開を WEM サービスに移行する場合に便利です。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

> 警告:
>
> オンプレミスの展開を WEM サービスに移動する場合にのみ、このオプションを有効にします。WEM 管理コンソールでは、この移動を元に戻すことはできません。

Citrix Cloud Connector を構成します。Cloud Connector の FQDN または IP アドレスを入力して、Citrix Cloud Connector を構成できます。[追加] をクリックして、一度に 1 つの Cloud Connector を追加します。高いサービスの可用性を確保するために、各リソースの場所に少なくとも 2 つの Cloud Connector をインストールすることをお勧めします。したがって、少なくとも 2 つの Citrix Cloud Connector を構成する必要があります。

Citrix Cloud Connector の構成をスキップします。グループポリシーを使用して Citrix Cloud Connector を構成する場合は、このオプションを選択します。

> 重要:
>
> [詳細設定] **>** [構成] **>** [サービスオプション] タブで構成した **[SQL 設定の更新遅延] 設定によっては、エージェントスイッチの設定が有効になるまでに時間がかかる場合があります ** 。

オンプレミスエージェントからサービスエージェントに切り替えた後、エージェントが WEM サービスへの接続に失敗し、ロールバックが必要になることがあります。これを行うには、AgentConfigurationUtility.exe コマンドラインを使用します。たとえば、次のようにします。

- `<WEM agent installation folder path>AgentConfigurationUtility.exe switch -o --server <server name> --agentport <port number> --syncport <port number>`
- `<WEM agent installation folder path>AgentConfigurationUtility.exe switch -o --server <server name>`
- `<WEM agent installation folder path>AgentConfigurationUtility.exe switch --usegpo -o`

UI エージェントのパーソナライズ

これらのオプションを使用すると、UI モードでエージェントのルックアンドフィールをパーソナライズできます。これらのオプションは、ユーザー環境での UI エージェントの表示方法を決定します。

> 注:
>
> これらのオプションは、UI モードのエージェントにのみ適用されます。CMD モードのエージェントには適用されません。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

UI エージェントオプション

これらの設定では、ユーザー環境でのセッションエージェント（UI モードのみ）の外観をカスタマイズできます。

カスタム背景イメージパス。指定すると、エージェントの起動または更新時に、Citrix Workspace Environment Management のロゴの代わりにカスタムスプラッシュ画面が表示されます。イメージは、ユーザー環境からアクセス可能である必要があります。400*200 px の.bmp ファイルを使用することをお勧めします。

円の色を読み込んでいます。ロードする円の色をカスタム背景に合わせて修正できます。

テキストラベルの色。ロードするテキストの色をカスタム背景に合わせて修正できます。

UI エージェントスキン。UI エージェントから開くダイアログに使用する、構成済みのスキンを選択できます。たとえば、[アプリケーションの管理] ダイアログや [プリンタの管理] ダイアログなどです。注: この設定では、スプラッシュ画面は変更されません。

エージェントのスプラッシュ画面を非表示にします。有効にすると、エージェントがロード中またはリフレッシュ中のスプラッシュ画面が非表示になります。この設定は、エージェントが初めて更新されるときには有効になりません。

公開アプリケーションでエージェントアイコンを非表示にします。有効にすると、公開アプリケーションにはエージェントアイコンが表示されません。

公開アプリケーションでエージェントのスプラッシュ画面を非表示にします。有効にすると、エージェントが実行されている公開アプリケーションのエージェントのスプラッシュ画面が非表示になります。

管理者だけがエージェントを閉じることができます。有効にすると、管理者だけがエージェントを終了できます。その結果、管理者以外のエンドポイントでは [エージェント] メニューの [終了] オプションが無効になります。

ユーザーによるプリンタの管理を許可します。有効にすると、エンドポイントのユーザーがエージェントメニューの [プリンタの管理] オプションを使用できます。このオプションをクリックすると、[プリンタの管理] ダイアログが開き、既定のプリンタを構成したり、印刷環境設定を変更できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

ユーザーがアプリケーションの管理を許可する。有効にすると、エンドポイントのユーザーがエージェントメニューの [アプリケーションの管理] オプションを使用できます。ユーザーは、オプションをクリックして [アプリケーションの管理] ダイアログを開き、次のオプションを構成できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

- デスクトップ。アプリケーションのショートカットをデスクトップに追加します。
- **[**スタート**]** メニュー。[スタート] メニューフォルダにアプリケーションショートカットを作成します。
- **QuickLaunch**。アプリケーションをクイック起動ツールバーに追加します。
- タスクバー **(P)**。タスクバーにアプリケーションショートカットを作成します。
- スタートメニュー **(P)**。アプリケーションを [スタート] メニューに固定します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

> 注:
>
> 自己修復モードで作成したショートカットは、このメニューでは削除できません。
> クイック起動オプションは、Windows XP および Windows Vista でのみ使用できます。

管理者がエージェントを閉じないようにする。有効にすると、管理者はエージェントを終了できません。

[アプリケーションショートカット**]** を有効にします。有効にすると、エージェントメニューに [マイアプリケーション] オプションを表示するかどうかを制御します。ユーザーは [マイアプリケーション**]** メニューからアプリケーションを実行できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

管理更新フィードバックを無効にします。このオプションを有効にすると、管理者が管理コンソールを使用してエージェントを強制的に更新しても、ユーザー環境に通知は表示されません。

ユーザーにアクションのリセットを許可します。エージェントメニューに [アクションのリセット] オプションを表示するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。[アクションのリセット ****]** オプションを使用すると、現在のユーザーが自分の環境でリセットするアクションを指定できます。ユーザーが **[**** アクションのリセット] を選択すると、[アクションのリセット] ダイアログが表示されます。ダイアログでは、リセットする内容を細かく制御できます。ユーザーは該当するアクションを選択し、[リセット] をクリックします。この操作を行うと、対応するアクション関連のレジストリエントリが消去されます。

> 注:
>
> - エージェントメニューでは、常に [更新] と [バージョン情報] の 2 つのオプションを使用できます。[**Refresh**] オプションを使用すると、WEM エージェント設定の即時更新がトリガーされます。その結果、管理コンソールで設定した設定はただちに有効になります。[**About**] オプションを選択すると、使用中のエージェントに関するバージョンの詳細を表示するダイアログが開きます。

ヘルプデスクオプション

これらのオプションは、エンドポイントのユーザーが利用できるヘルプデスク機能を制御します。

ヘルプリンクアクション。エンドポイントのユーザが [ヘルプ] オプションを使用できるかどうか、およびユーザがクリックしたときの動作を制御します。ユーザーがヘルプを求めることができる Web サイトのリンクを入力します。

カスタムリンクアクション。エージェントメニューに [サポート] オプションを表示するかどうか、およびユーザーがクリックしたときの動作を制御します。ユーザーがサポート関連情報にアクセスできる Web サイトのリンクを入力します。

スクリーンキャプチャを有効にします。エージェントメニューに [キャプチャ] オプションを表示するかどうかを制御します。ユーザーは、オプションを使用して画面キャプチャツールを開くことができます。このツールには、次のオプションがあります。

- 新しいキャプチャ。ユーザー環境でのエラーのスクリーンショットを撮ります。
- 保存。スクリーンショットを保存します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

- サポートに送る。スクリーンショットをサポートスタッフに送信します。

[サポートに送信] オプションを有効にします。スクリーンキャプチャツールで [サポートに送信] オプションを表示するかどうかを制御します。有効にすると、ユーザーはオプションを使用してスクリーンショットとログファイルを指定した形式で指定したサポート電子メールアドレスに直接送信できます。この設定には、正常に構成された電子メールクライアントが必要です。

カスタム件名。有効にすると、画面キャプチャツールがサポート電子メールの送信に使用する電子メールの件名テンプレートを指定できます。

メールテンプレート。スクリーンキャプチャツールがサポート電子メールの送信に使用する電子メールコンテンツテンプレートを指定できます。このフィールドは空にできません。

> 注:
>
> メールテンプレートで使用できるハッシュタグの一覧については、「動的トークン」を参照してください。
> **# #UserScreenCaptureComment ##** ハッシュタグが電子メールテンプレートに含まれている場合にのみ、コメントを入力するオプションが表示されます。

SMTP を使用して電子メールを送信します。有効にすると、は MAPI ではなく SMTP を使用してサポート電子メールを送信します。

SMTP をテストします。上記のように SMTP 設定をテストし、それらが正しいことを確認します。

省電力

指定した時刻にシャットダウンします。有効にすると、エージェントは指定した時刻に実行されているマシンを自動的にシャットダウンできます。時刻は、エージェントのタイムゾーンに基づきます。

アイドル時にシャットダウンします。有効にすると、指定した時間だけマシンがアイドル状態（ユーザー入力なし）になった後に、エージェントが実行されているマシンを自動的にシャットダウンできます。

管理

June 1, 2023

[管理] ペインは、次の項目で構成されています。

- 管理者。Workspace Environment Management 管理者 (ユーザーまたはグループ) を定義し、管理コンソールを使用して構成セットにアクセスする権限を付与できます。
- **[ユーザー]**。ユーザ統計を表示できます。
- エージェント。エージェント統計を表示し、キャッシュのリフレッシュ、設定のリセット、統計のアップロードなどの管理タスクを実行できます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

- ロギング。Workspace Environment Management アクティビティを表示できます。ログを使用して、次のことができます。
  - 構成変更の履歴を確認して問題の診断およびトラブルシューティングを行う。
  - 変更管理の補助および構成の追跡を行う。
  - 管理アクティビティをレポートします。

管理者

これらのオプションを使用すると、Workspace Environment Management の管理者 (ユーザーまたはグループ) を定義し、管理コンソールを使用して構成セットにアクセスする権限を付与できます。

構成済みの管理者リスト

権限レベルを示す構成された管理者のリスト（フルアクセス、読み取り専用、または詳細アクセス、以下の詳細を参照)。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

管理者を追加するには

1. コンテキストメニューの **[**追加**]** コマンドを使用します。
2. 「ユーザーまたはグループの選択」ダイアログに詳細を入力し、「**OK**」をクリックします。

Name: 現在編集中のユーザーまたはグループの名前。

[説明**]**。ユーザーまたはグループに関する追加情報。

グローバルアドミニストレータ。選択したユーザー/グループがグローバル管理者であることを指定する場合に選択します。選択したユーザ/グループがサイト管理者であることを指定するには、選択を解除します。グローバル管理者は、すべてのサイト（構成セット）に権限が適用されます。サイト管理者は、サイトごとに権限を構成できます。

権限。これにより、選択したユーザー/グループに対する次のいずれかのアクセスレベルを指定できます。注: 管理者は、アクセス権のある設定のみを表示できます。

フルアクセス管理者は、指定したサイト (構成セット) のあらゆる側面を完全に制御できます。Workspace Environment Management 管理者を追加/削除できるのは、フルアクセス権を持つグローバル管理者のみです。[管理] タブを表示できるのは、グローバルフルアクセス管理者とグローバル読み取り専用管理者のみです。

読み取り専用管理者はコンソール全体を表示できますが、設定を変更することはできません。[管理] タブを表示できるのは、グローバルフルアクセス管理者とグローバル読み取り専用管理者のみです。

詳細アクセスは、管理者が次の権限セットを 1 つ以上持っていることを示します。

アクション作成者は、アクションを作成および管理できます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

アクションマネージャは、アクションを作成、管理、および割り当てることができます。アクションを編集または削除することはできません。

フィルタマネージャは、条件とルールを作成および管理できます。割り当てられたアプリケーションで使用中のルールは、フィルタ・マネージャで編集または削除することはできません。

割り当てマネージャは、ユーザーまたはグループにリソースを割り当てることができます。

システムユーティリティマネージャは、システムユーティリティの設定 (CPU、RAM、およびプロセス管理) を管理できます。

ポリシーおよびプロファイルマネージャは、ポリシーとプロファイルの設定を管理できます。

設定済みユーザマネージャは、設定されたユーザリストからユーザまたはグループを追加、編集、および削除できます。アクションが割り当てられたユーザーまたはグループは、設定済みユーザーマネージャーでは編集または削除できません。

トランスフォーママネージャは、トランスフォーマーの設定を管理できます。

詳細設定マネージャは、詳細設定 (操作処理の有効化または無効化、クリーンアップ操作など) を管理できます。

セキュリティマネージャは、[セキュリティ] タブのすべてのコントロールにアクセスできます。

状態。これは、選択したユーザー/グループを有効または無効にするかどうかを制御します。無効にすると、ユーザー/グループは Workspace Environment Management 管理者と見なされず、管理コンソールを使用できなくなります。

タイプ。このフィールドは読み取り専用で、選択したエンティティがユーザーまたはグループのどちらであるかを示します。

グローバルアドミニストレータがクリアされると、次のコントロールが有効になります。

サイト名。このインフラストラクチャサービスが接続されているデータベースに属するすべての Workspace Environment Management サイト (構成セット)。

[有効]。指定した Workspace Environment Management サイト (構成セット) に対してこの管理者を有効にする場合に選択します。無効にすると、ユーザー/グループはそのサイトの管理者と見なされず、アクセスできなくなります。

権限。このインフラストラクチャサービスにアタッチされている Workspace Environment Management サイト (構成セット) ごとに、選択したユーザー/グループの権限レベルを選択します。

ユーザー

このページには、Workspace Environment Management 配置に関する統計が表示されます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

統計

このページには、エージェント・ホストがデータベースに接続しているユーザーのサマリーが表示されます。

ユーザーサマリー。現在のサイト (構成セット) とすべてのサイト (構成セット) の両方について、Workspace Environment Management ライセンスを予約したユーザーの合計数が表示されます。また、過去 24 時間および先月の新規ユーザー数も表示されます。

ユーザー履歴。これにより、現在のサイト（構成セット）に関連付けられたすべてのユーザーの接続情報が表示されます。これには、最後の接続時刻、最後に接続したマシンの名前、セッションエージェントのタイプ（UI または CMD）とバージョンが含まれます。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

エージェント

このページには、Workspace Environment Management 展開内のエージェントに関する統計が表示されます。

統計

このページには、Workspace Environment Management データベースに記録された Workspace Environment Management エージェントのサマリーが表示されます。

エージェントの概要。現在の構成セットとすべての構成セットの両方について、Workspace Environment Management ライセンスを予約したエージェントの総数が表示されます。また、過去 24 時間および先月に追加されたエージェントも報告します。

エージェント履歴。構成セットに登録されているすべてのエージェントの接続情報（最終接続時刻、前回接続したデバイスの名前、エージェントのバージョンなど）を表示します。[検索] を使用して、名前または ID でリストをフィルタできます。

「同期の状態」列では、次のアイコンは、エージェントキャッシュと Workspace Environment Management データベースとの前回の同期の結果を示します。

- 成功 (チェックマークアイコン)。前回の同期が成功し、同期の結果が管理コンソールに報告されたことを示します。
- 不明 (疑問符アイコン)。同期が進行中、同期がまだ開始されていない、または同期の結果が管理コンソールに報告されていないことを示します。
- 失敗 (X アイコン)。前回の同期が失敗したことを示します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

[**Profile Management** の健全性ステータス] 列では、展開内の Profile Management のヘルスステータスを表示できます。

Profile Management の健全性ステータスは、エージェントホストで自動ステータスチェックを実行し、Profile Management が最適に構成されているかどうかを判断します。これらのチェックの結果を表示して、各エージェントホストの出力ファイルから特定の問題を特定できます（%systemroot%\temp\UpmConfigCheckOutput.xml）。機能は、毎日、または WEM エージェントホストサービスが起動するたびにステータスチェックを実行します。ステータスチェックを手動で実行するには、管理コンソールで選択したエージェントを右クリックし、コンテキストメニューの [**Profile Management** 構成チェックの更新] を選択します。各ステータスチェックは、ステータスを返します。最新のステータスを表示するには、[更新] をクリックします。**Profile Management** の健全性ステータス列のアイコンには、Profile Management のヘルスステータスに関する一般的な情報が表示されます。

- 良好 (チェックマークアイコン) Profile Management が良好な状態であることを示します。
- 警告 (三角形の感嘆符アイコン)。Profile Management の最適でない状態について通知します。最適でない設定は、展開環境での Profile Management のユーザーエクスペリエンスに影響する可能性があります。このステータスは、必ずしもユーザー側でのアクションを必要としません。
- エラー (X アイコン) Profile Management が正しく構成されていないため、Profile Management が正しく機能しないことを示します。
- 使用不可 (疑問符アイコン)。Profile Management が見つからない、または有効になっていない場合に表示されます。

ステータスチェックに経験が反映されない場合や、発生している問題が検出されない場合は、Citrix テクニカルサポートに連絡してください。

「最近接続しました」列の次のアイコンは、エージェントが一定の間隔内に統計を Workspace Environment Management データベースにアップロードしたことを示します。エージェントはオンラインです。空白の列フィールドは、エージェントがオフラインであることを示します。

- オンライン (チェックマークアイコン)

期限切れのレコードをクリアします。Workspace Environment Management データベースから期限切れのレコードを削除できます。ユーザーの最終ログオン時間が 24 時間以上前の場合、対応するレコードは期限切れになります。

エージェントを更新するには　エージェントを更新すると、インフラストラクチャサーバーと通信します。インフラストラクチャサーバは、Workspace Environment Management データベースを使用してエージェントホスト ID を検証します。

1. [更新] をクリックして、エージェントのリストを更新します。
2. コンテキストメニューで、[ワークスペースエージェントを更新] を選択します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

コンテキストメニューのオプション

キャッシュをリフレッシュ。エージェントローカルキャッシュ (WEM 構成データベースのエージェント側のレプリカ) の更新をトリガーします。キャッシュを更新すると、エージェントローカルキャッシュがインフラストラクチャサービスと同期されます。

エージェントホストの設定を更新します。エージェントサービス設定を適用します。これらの設定には、詳細設定、最適化設定、トランスフォーマー設定、およびユーザー割り当て以外の設定が含まれます。

ワークスペースエージェントをリフレッシュします。ユーザーが割り当てたアクションを WEM エージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンタ、アプリケーションなどがあります。

> 重要:
>
> - [ワークスペースエージェントのリフレッシュ] オプションは、自動的に起動される (エンドユーザーまたはスクリプトを使用して起動しない) UI モードのエージェントでのみ機能します。このオプションは、CMD モードのエージェントでは機能しません。
> - すべての設定をリフレッシュできるわけではありません。一部の設定 (環境設定、グループポリシー設定など) は、起動時またはログオン時にのみ適用されます。

統計情報をアップロードします。統計情報をインフラストラクチャサービスにアップロードします。

Profile Management 設定をリセットします。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。Profile Management 設定がエージェントに適用されていない場合は、[**Profile Management** 設定のリセット] をクリックします。このオプションを使用できるようにするには、[更新] をクリックする必要がある場合があります。

> 注:
>
> WEM 管理コンソールから［**Profile Management** 設定のリセット］を構成した後に設定がエージェントに適用されない場合は、CTX219086 で回避策を参照してください 。

Microsoft USV 設定をリセットします。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。Microsoft USV 設定がエージェントに適用されていない場合は、[**Microsoft Usv** 設定のリセット] をクリックし、[更新] をクリックします。

Profile Management 構成チェックのリフレッシュ。エージェントホストのステータスチェックを実行して、Profile Management が最適に構成されているかどうかを判断します。

レコードの削除。データベースからエージェントレコードを削除できるようにします。エージェントがまだアクティブな場合、このオプションはグレー表示されます。

アクションのリセット。適用可能なマシン上のすべてのアクション関連のレジストリエントリを消去することによって、割り当てたすべてのアクションをリセットできます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

Citrix Optimizer を処理します。設定をエージェントに適用し、Citrix Optimizer の設定に対する変更がすぐに有効になります。

登録

このページには、データベースに記録された Workspace Environment Management エージェントの登録ステータスが表示されます。

> 重要:
>
> エージェントは、1 つの構成セットでのみ登録する必要があります。

次の情報が報告されます。

マシン名。エージェントが実行されているコンピュータの名前。

状態。エージェント・ホスト・コンピュータ上のエージェントの登録ステータス。アイコンと次の説明で示され、登録の成功または失敗に関する詳細が示されます。

エージェントはどのサイトにもバインドされていません。エージェントがどのサイト (構成セット) にもバインドされていないため、インフラストラクチャサーバーはこのエージェントのサイト (構成セット) を解決できません。

エージェントは **1** つのサイトにバインドされています。インフラストラクチャサーバーは、必要なマシン依存の設定を、そのサイト (構成セット) のエージェントに送信しています。

エージェントは複数のサイトにバインドされています。エージェントが複数のサイト (構成セット) にバインドされているため、インフラストラクチャサーバーはこのエージェントのサイト (構成セット) を解決できません。

登録エラーを解決するには　どちらか

- Active Directory 階層 (コンピューター、コンピューターグループ、および OU 間の関係) を編集する

または

- 管理コンソールの [Active Directory オブジェクト] セクションの [Workspace Environment Management] 階層を編集して、コンピュータが 1 つのサイト (構成セット) にのみバインドされるようにします。

これらの変更を行った後、インフラストラクチャサーバでエージェントを更新します 。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

ログ

行政機関

このタブには、データベースの [Workspace Environment Management] 設定に加えられたすべての変更のリストが表示されます。デフォルトでは、ログを手動で更新するまで、ログは入力されません。

フィルタリングオプション。これらのオプションを使用すると、サイト (構成セット) と日付範囲でログをフィルタリングできます。

ログのエクスポート。ログイン XLS 形式をエクスポートします。

ログのリフレッシュ。ログを更新します。

ログをクリアします。すべての構成セットのログをクリアします。これは元に戻すことはできません。ログをクリアすると、新しいログに 1 つのイベントが追加されます。このオプションは、グローバルフルアクセス管理者のみが使用できます。

エージェント

このタブには、Workspace Environment Management エージェントに加えられたすべての変更が一覧表示されます。[**Refresh**] をクリックするまで、ログは入力されません。

フィルタリングオプション。これらのオプションを使用すると、サイト (構成セット) と日付範囲でログをフィルタリングできます。

ログのエクスポート。ログイン XLS 形式をエクスポートします。

ログのリフレッシュ。ログを更新します。

ログをクリアします。すべての構成セットのログをクリアします。これは元に戻すことはできません。ログをクリアすると、新しいログに 1 つのイベントが追加されます。このオプションは、グローバルフルアクセス管理者のみが使用できます。

監視

July 4, 2023

これらのページには、詳細なユーザーログインレポートとマシン起動レポートが含まれます。すべてのレポートをさまざまな形式でエクスポートできます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

デイリーレポート

デイリーログインレポート。このサイトに接続しているすべてのユーザーのログイン時間の日次サマリー。カテゴリをダブルクリックすると、各デバイスの各ユーザーの個々のログオン時間を示す詳細ビューが表示されます。

デイリーブートレポート。このサイトに接続されているすべてのデバイスでの起動時間の毎日のサマリー。カテゴリをダブルクリックすると、各デバイスの個別の起動時間を示す詳細ビューが表示されます。

ユーザートレンド

ログイントレンドレポート。このレポートには、選択した期間における各日の全体的なログイン傾向が表示されます。各日の各カテゴリをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

ブートトレンドレポート。このレポートには、選択した期間における各日の全体的なブート傾向が表示されます。各日の各カテゴリをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

デバイスタイプ。このレポートには、このサイトに接続している各オペレーティングシステムのデバイスの数が 1 日単位で表示されます。各デバイスタイプをダブルクリックすると、詳細が表示されます。

ユーザーとデバイスのレポート

ユーザーレポート。このレポートでは、選択した期間における単一ユーザーのログイン傾向を表示できます。各データポイントをダブルクリックして、詳細ビューを表示できます。

デバイスレポート。このレポートでは、選択した期間における単一デバイスのブート傾向を表示できます。各データポイントをダブルクリックして、詳細ビューを表示できます。

プロファイルコンテナに関するインサイト

この機能は、Profile Management および FsLogix のプロファイルコンテナを監視します。プロファイルコンテナの基本的な使用状況データ、プロファイルコンテナを使用するセッションのステータス、検出された問題などに関する洞察を提供します。

この機能を使用して、プロファイルコンテナのスペース使用状況を把握し、プロファイルコンテナの動作を妨げる問題を特定します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

まとめ

2 つのドーナツチャートが含まれています:

- 使用済み領域。左側のグラフは、指定した期間におけるプロファイルコンテナの領域使用量を示しています。
- セッションステータス。右側のグラフには、指定した期間におけるプロファイルコンテナを使用したセッションが表示されます。

期間（過去 6 日間など）を指定したら、［更新］をクリックしてグラフの更新をトリガーします。

使用領域が **(GB)** を超える場合は高。しきい値を超えると、プロファイルコンテナのスペース使用量を高い値として扱うことができます。正の整数を入力します。

使用領域が **(GB)** 未満の場合、低。しきい値を下回って、プロファイルコンテナのスペース使用量を低値として扱うことができます。正の整数を入力します。

> 注:
>
> - 上限しきい値は、下限しきい値よりも大きくする必要があります。
> - 上限しきい値および下限しきい値を指定したら、［更新］をクリックして、［使用領域］グラフの更新をトリガーします。
> - 上限しきい値および下限しきい値を指定した後、その間の領域使用量はデフォルトで [中（**Medium**）] になります。

コンテナステータスのプロファイル

指定した期間におけるプロファイルコンテナのステータスレコードのリストを表示します。期間 (たとえば、過去 6 日間) を指定したら、[更新] ボタンをクリックしてレコードをフィルタします。

選択したレコードが関係するコンテナのデータの収集をトリガーできます。これにより、ユーザーのコンテナステータスが最新の状態になります。そのためには、ステータスレコードを右クリックし、[**Refresh**] を選択します。更新操作により、一連のタスクが実行されます。まず、関連するエージェント・ホストにタスクがただちに送信されます。エージェントはタスクを受信し、コンテナがエージェント・ホストで使用中の場合、ステータス関連のデータを収集します。その後、収集されたデータで最新のアタッチレコードが更新されます。ステータスが更新されるまでしばらく時間がかかる場合があります。最新のレコードを表示するには、[**Refresh**] ボタンをクリックします。

[**Status**] 列には、ステータスコードとエラーコードに関する情報が表示されます。エラーコードの詳細については、の Microsoft のドキュメントを参照してください https://docs.microsoft.com/en-us/fslogix/fslogix-error-codes-reference。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

構成

レポートオプション

これらのオプションを使用すると、レポート期間と稼働日を制御できます。また、**** 最小ブート時間とログイン時間 ** （秒）を指定することもできます。この値を下回るとレポートされません。

CMD および UI モードのエージェント

June 1, 2023

Workspace Environment Management エージェントは、CMD モードと UI モードで実行できます。

ログオン時にエージェントを実行するように構成すると、CMD モードまたは UI モードのどちらで起動するかを制御できます。これを行うには、[管理コンソール] **>** [詳細設定] **>** [構成] **>** [メイン構成] タブにある [エージェントタイプ] 設定を使用します。詳しくは、「詳細設定」を参照してください。

ログオン時にエージェントを自動的に実行するように構成しない場合、管理者 (管理者またはエンドユーザー) は、エージェントマシン上で CMD モードまたは UI モードでエージェントを起動できます。そのためには、エージェントのインストールフォルダに移動し、次の 2 つの.exe ファイルを特定します。

- **VUEMCmdAgent.exe**。エージェントを CMD モードで実行できます。
- **VUEMUIAgent.exe**。エージェントを UI モードで実行できます。

CMD モードと UI モードの違い

CMD モードでは、次の考慮事項に注意してください。

- ログオン時に自動的に実行されている場合、CMD モードではコマンドプロンプトが表示されます。CMD モードは起動後に自動的に終了します。
- CMD モードでは、起動時にユーザーが割り当てたアクションがエージェントに適用されます。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンタ、アプリケーションなどがあります。
- 現在、CMD モードではコマンドライン操作はサポートされていません。

UI モードでは、次の考慮事項に注意してください。

- ログオン時に自動的に実行されると、UI モードにエージェントのスプラッシュ画面が表示されます。
- UI モードでは次のオプションを表示できます。
  - マイアプリケーション。自分に割り当てられているアプリケーションを表示できます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

- 画面のキャプチャ。スクリーンキャプチャツールを開くことができます。このオプションを使用するには、[管理コンソール**] > [**詳細設定**] > [UI Agent** パーソナライズ**] > [**ヘルプデスクオプション] タブで [スクリーンキャプチャを有効にする] を有効にする必要があります。詳細については、「ヘルプデスクオプション」を参照してください。
- アクションのリセット。[アクションのリセット] ツールを開いて、環境内でリセットするアクションを指定できます。

このオプションを使用するには、[管理コンソール**] > [**詳細設定**] > [UI Agent Personalization] > [UI Agent** オプション] タブで [ユーザーがアクションのリセットを許可] を有効にする必要があります。詳細については、UI Agent オプションを参照してください。

- アプリケーションを管理します。[アプリケーションの管理] ツールを開いて、アプリケーションを管理できます。

このオプションを使用するには、[****** 管理コンソール**] > [**詳細設定**] > [UI Agent Personalization] > [UI Agent** オプション] タブで [ユーザーにアプリケーションの管理を許可 **] を有効にする必要があります。詳細については、UI Agent オプションを参照してください。

- プリンタの管理。[プリンタの管理] ツールを開いて、既定のプリンタを構成したり、印刷設定を変更したりできます。

このオプションを使用するには、[****** 管理コンソール**] > [**詳細設定**] > [UI** エージェントの個人設定**] > [UI** エージェントオプション] タブで [プリンタの管理をユーザーに許可する **] を有効にする必要があります。詳細については、UI Agent オプションを参照してください。

- 更新。エージェントを更新し、ユーザーが割り当てたアクションをエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンタ、アプリケーションなどがあります。
- [ヘルプ]。ヘルプを求めることができる Web サイトを開くことができます。

このオプションを使用するには、[管理コンソール**] > [**詳細設定**] > [UI Agent** の個人設定**] > [**ヘルプデスクオプション**]** タブで **[**** ヘルプリンクアクション **] を指定する必要があります。詳細については、「ヘルプデスクオプション」を参照してください。

- について。エージェントのバージョンに関する情報を表示します。
- 出口。エージェントを閉じることができます。

アクションをリセットしてアプリケーションとプリンタを管理するには、エージェントを UI モードで使用しなくても、次のツール (エージェントのインストールフォルダにあります) を直接使用できます。

- **ResetActionsUtil.exe**。[アクションのリセット] ツールを開くことができます。
- **AppsMgmtUtil.exe**。[アプリケーションの管理] ツールを開くことができます。
- **PrnsMgmtUtil.exe**。[プリンタの管理] ツールを開くことができます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

CMD モードと UI モードの主な違いは次のとおりです。

- CMD エージェントは設定を適用して終了します。特定の時点（ログオンや再接続など）で CMD エージェントを起動するように WEM エージェントサービス（Citrix WEM エージェントホストサービスまたは Citrix WEM ユーザーログオンサービス）を構成できます。必要に応じて、管理者は CMD エージェントを手動で呼び出すことができます。
- UI エージェントは実行され続けます。Citrix WEM エージェントホストサービスは UI エージェントを開始または停止します。UI エージェントは、エンドユーザーにセルフサービスオプションを提供します。管理者は UI エージェントを手動で起動しないことをお勧めします。

> 注:
>
> CMD エージェントと UI エージェントを 1 つのセッションで同時に実行することはできません。

共通コントロールパネルアプレット

June 1, 2023

Windows では、次のコントロールパネルアプレットが一般的です。

アプレット名	標準名
アクションセンター	Microsoft.ActionCenter
管理ツール	Microsoft.AdministrativeTools
自動再生	Microsoft.AutoPlay
生体認証デバイス	Microsoft.BiometricDevices
BitLocker ドライブ暗号化	Microsoft.BitLockerDriveEncryption
カラーマネジメント	Microsoft.ColorManagement
資格情報マネージャ	Microsoft.CredentialManager
日時	Microsoft.DateAndTime
既定のプログラム	Microsoft.DefaultPrograms
Device Manager	Microsoft.DeviceManager
デバイスとプリンタ	Microsoft.DevicesAndPrinters
表示	Microsoft.Display
簡単操作センター	Microsoft.EaseOfAccessCenter

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

家族の安全性	Microsoft.ParentalControls
ファイル履歴	Microsoft.FileHistory
[フォルダオプション]	Microsoft.FolderOptions
フォント	Microsoft.Fonts
ホームグループ	Microsoft.HomeGroup
インデックス作成オプション	Microsoft.IndexingOptions
赤外線通信	Microsoft.Infrared
インターネットオプション	Microsoft.InternetOptions
iSCSI イニシエーター	Microsoft.iSCSIInitiator
iSNS サーバ	Microsoft.iSNSServer
キーボード	Microsoft.Keyboard
言語	Microsoft.Language
ロケーション設定	Microsoft.LocationSettings
マウス	Microsoft.Mouse
MPIO 構成	Microsoft.MPIOConfiguration
ネットワークと共有センター	Microsoft.NetworkAndSharingCenter
通知領域のアイコン	Microsoft.NotificationAreaIcons
ペンとタッチ	Microsoft.PenAndTouch
個人設定	Microsoft.Personalization
電話とモデム	Microsoft.PhoneAndModem
電源オプション	Microsoft.PowerOptions
プログラムと機能	Microsoft.ProgramsAndFeatures
リカバリ	Microsoft.Recovery
リージョン	Microsoft.RegionAndLanguage
RemoteApp とデスクトップ接続	Microsoft.RemoteAppAndDesktopConnections
サウンド	Microsoft.Sound
音声認識	Microsoft.SpeechRecognition
ストレージスペース	Microsoft.StorageSpaces
Sync Center	Microsoft.SyncCenter

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

システム	Microsoft.System
タブレット PC の設定	Microsoft.TabletPCSettings
タスクバーとナビゲーション	Microsoft.Taskbar
トラブルシューティング	Microsoft.Troubleshooting
TSapp インストール	Microsoft.TSAppInstall
ユーザー・アカウント	Microsoft.UserAccounts
Windows いつでもアップグレード可能	Microsoft.WindowsAnytimeUpgrade
Windows Defender	Microsoft.WindowsDefender
Windows ファイアウォール	Microsoft.WindowsFirewall
Windows モビリティセンター	Microsoft.MobilityCenter
Windows To Go	Microsoft.PortableWorkspaceCreator
Windows Update	Microsoft.WindowsUpdate
ワークフォルダ	Microsoft.WorkFolders

動的トークン

June 1, 2023

動的トークンは、Workspace Environment Management の任意のアクションで使用して 、より強力にすることができます。

動的トークンは次のフィールドで使用できます。

- アプリケーション
  - アプリケーションタイプとしてインストールアプリケーションを使用する場合: コマンドライン、作業ディレクトリ、およびパラメータ
  - [ファイル/フォルダ] をアプリケーションタイプとして: ターゲット
  - アプリケーションタイプに **URL** を指定した場合: ショートカット **URL**
  - アイコンファイル
- プリンター
  - ターゲットパス

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

- ネットワークドライブ
  - **** ターゲットパスと表示名 ****
- 仮想ドライブ
  - ターゲットパス
- レジストリー
  - ターゲットパス、ターゲット名、ターゲット値

> 注:
>
> ターゲット値フィールドは環境変数の展開をサポートしていません。環境変数を使用すると、期待どおりに動作しません。

- 環境変数
  - 変数値
- ポート
  - ポートターゲット
- INI ファイル
  - ターゲットパス、ターゲットセクション、ターゲット値名、ターゲット値

> 注:
>
> ターゲットセクション、ターゲット値名、ターゲット値フィールドは、環境変数の展開をサポートしていません。環境変数を使用すると、期待どおりに動作しません。

- 外部タスク
  - **** パスと引数 ****
- ファイルシステムの操作
  - **** ソースパスとターゲットパス ****
- 特定のフィルター条件
  - 例: 条件タイプとして **Active Directory** 属性の一致がある場合: テスト済みの **Active Directory** 属性と照合結果 ****

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

> 注:
>
> フィルター条件でサポートされるフィールドの一覧については、「フィルター条件のサポートマトリックス」を参照してください。

文字列演算

場合によっては、ドライブのマッピングやアプリケーションを起動するために、スクリプト内の文字列を操作する必要があります。Workspace Environment Management エージェントは、次の文字列操作を受け付けます。

モーダル	説明	例
#Left(string,length)#	左側の指定された文字数を返します。	#Left(abcdef,2)#はabを返す
#Right(string,length)#	右側の指定された文字数を返します。	#Right(abcdef,2)#はefを返す
#Truncate(string,length)#	文字列の長さが指定された長さ以下の場合は、文字列全体を返します。文字列の長さが指定された長さより大きい場合は、左側の指定された文字数を返します。	#Truncate(abcdef,3)#はabcを返す
&Trim(string)&	文字列の先頭と末尾の空白をすべて削除します。	&Trim(a b c)&はa b cを返す
&RemoveSpaces(string)&	文字列の空白をすべて削除します。	&RemoveSpaces(a b c)&はabcを返す
&Expand(string)&	文字列に% で囲まれた環境変数が含まれている場合は、変数を展開します。	&Expand(%userprofile%\destop)&はC:\Users\Jill\desktopを返す
$Split(string,[splitter],index)$	[] で囲まれたスプリッターに基づいて文字列を部分文字列に分割し、インデックス付きの部分文字列を返します。	$Split(abc-def-hij,[-],2)$はhijを返す
#Mid(string,startindex)#	文字列内の指定されたインデックスから開始し、その後に続くすべての文字を返します。	#Mid(abcdef,2)#はcdefを返す
!Mid(string,startindex,length)!	文字列内の指定されたインデックスから開始し、指定された文字数を返します。	!Mid(abcdef,1,2)!はbcを返す

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

モーダル	説明	例
! サブストリング (文字列、開始インデックス、長さ)!	文字列内の指定されたインデックスから開始し、指定された文字数を返します。	!Substring(abcdef,1,2)!はbcを返す
#Mod(string,length)#	文字列を長さで割り、余りを返します。文字列は整数に変換できなければなりません。	#Mod(7,3)#は1を返す

> 注:
>
> - 文字列操作は、ハッシュタグと Active Directory 属性でもサポートされています。たとえば、#Left([ADAttribute:NAME],2)#は現在のドメインユーザーの名前属性AdministratorはAdを返し、$Split(##ClientIPAddress##,[\.],2)$は157を返します。
> - !Mid(string,startindex,length)!および!Substring(string,startindex,length)!操作は常に最後に実行されます。

ハッシュタグ

ハッシュタグは、Workspace Environment Management 項目の処理で広く使用されている置換機能です。次の例は、ハッシュタグの使用方法を示しています。

.ini ファイルに書き込むには、.ini** ファイルのパスで**%USERNAME%** を使用すると、Workspace Environment Management によって処理され、最終ディレクトリが展開されます。ただし、**Workspace Environment Management ** が.ini** 自体に書き込む値の評価は、より複雑です。%USERName% を文字通り書き込んだり、拡張された値を書き込んだりすることができます。

柔軟性を高めるために、# #UserName ## はハッシュタグとして存在するため、値として**%USERName%** を使用して文字通り書き込み、**##UserName ## は展開された値を書き込みます。

例については、次の表を参照してください。

モーダル	説明	例
#UserName	展開された環境変数「%username%」を返します	ジル
#UserProfile	展開された環境変数「%userprofile%」を返します	C:\Users\Jill
#FullUserName	Active Directory 内のユーザーのフルネームを返します	ジル・チョウ

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

モーダル	説明	例
#UserInitials	Active Directory リのユーザー名のイニシャルを返します	JC
#UserAppData	特別フォルダーの実際のパスを返します-RoamingAppData	C:\Users\Jill\AppData\Roaming
#UserPersonal	特殊フォルダーの実際のパスを返す-ドキュメント	C:\Users\Jill\Documents
#UserDocuments	特殊フォルダーの実際のパスを返す-ドキュメント	C:\Users\Jill\Documents
#UserDesktop	特殊フォルダーの実際のパスを返す-デスクトップ	C:\Users\Jill\Desktop
#UserFavorites	特殊フォルダーの実際のパスを返す-お気に入り	C:\Users\Jill\Favorites
#UserTemplates	特殊フォルダーの実際のパスを返す-テンプレート	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\W
#UserStartMenu	特殊フォルダーの実際のパスを返す-StartMenu	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\W メニュー
#UserStartMenuPrograms	特殊フォルダーの実際のパスを返す-プログラム	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\W メニュー\ プログラム
#UserLocalAppData	スペシャルフォルダーの実際のパスを返します-LocalAppData	C:\Users\Jill\AppData\Local
#UserMusic	スペシャルフォルダーの実際のパスを返す-Music	C:\Users\Jill\Music
#UserPictures	特殊フォルダーの実際のパスを返す-写真	C:\Users\Jill\Pictures
#UserVideos	特殊フォルダーの実際のパスを返す-ビデオ	C:\Users\Jill\Videos
#UserDownloads	特殊フォルダーの実際のパスを返す-ダウンロード	C:\Users\Jill\Downloads
#UserLinks	特殊フォルダーの実際のパスを返す-リンク	C:\Users\Jill\Links
#UserContacts	特殊フォルダーの実際のパスを返す-連絡先	C:\Users\Jill\Contacts

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

モーダル	説明	例
#UserSearches	特殊フォルダーの実際のパスを返す-SavedSearches	C:\Users\Jill\Searches
#commonprograms	特殊フォルダーの実際のパスを返す-CommonPrograms	C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Start メニュー\ プログラム
#ComputerName	マシンの名前を返します	WIN10EN-LR3B66L
#ClientName	クライアントマシンの名前を返す	W2K16ST-5IS28JP
#ClientIPAddress	クライアントマシンの IP アドレスを返す	153.138
#IpAddress	マシンの IP アドレスを返す	153.213
#ADSite	マシンがメンバーになっている Active Directory サイトを返します。	NKG
#DefaultRegValue	-	常に文字列。空
#UserLDAPPath	現在のユーザーの識別名を返します	CN= ジル・チョウ、OU= ユーザーアカウント、OU= アジア太平洋地域、DC= シトリット、DC= ネット
#VUEMAgentFolder	エージェントフォルダを返します	C:\Program Files (x86)\ Citrix\ Workspace Environment Management エージェント
#RDSSessionID	リモートデスクトップセッション ID を返します	2
#RDSSessionName	リモートデスクトップセッション名を返します	RDP-Tcp#72
#ClientRemoteOS	仮想デスクトップへの接続に使用されたマシンのオペレーティングシステムを返します	Windows
#ClientOSInfos	マシンの OS 情報を返す	Windows 10 Enterprise 64 ビット

ハッシュタグ **# #UserScreenCaptureComment ##** は、製品の特定の部分で使用するために実装されています。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

このタグは、[詳細設定**] > [**UI** エージェントのパーソナライズ]** > [ヘルプデスクオプション] の [メールテンプレート] に含めることができます。このコメントを含めると、エージェント画面キャプチャユーティリティの画面キャプチャの下にあるコメントフィールドがユーザーに表示されます。コメントは、電子メールテンプレートにタグを配置した場所のサポート電子メールに含まれます。

Active Directory 属性

Active Directory 属性を操作するために、WEM は **[ADAttribute: attrName]** 値を関連する Active Directory 属性に置き換えます。[adAttribute: attrName] は、すべての Active Directory 属性の動的トークンです。指定された属性の値をチェックする関連フィルタがあります。

ユーザーの組織単位 (OU) 構造の場合、WEM は **[userParentOU: Level]** 値を関連する Active Directory の OU 名に置き換えます。Active Directory パスは Active Directory 内の完全なユーザーパス (LDAP) であり、[userParentOU: level] はそのサブセットです。

たとえば、ユーザーが属する OU のネットワークドライブを構築するとします。ネットワークドライブパスにある動的トークン [userParentoU: Level] を使用すると、ユーザーの OU を動的に解決できます。動的トークンを使用するには、次の 2 つの方法があります。

- [UserParentOU: Level] 動的トークンをネットワークドライブパスで直接使用します。たとえば、次のパスを使用できます: `\\Server\Share\[UserParentOU:0]\`。
- OU という名前の環境変数を設定し、その値を [userParentOU: 0] に設定します。その後、ドライブを`\\Server\Share\\%OU%\`としてマッピングできます。

> 注:
>
> - 数字の「0」を、OU 構造で到達させたいレベルに対応する数字に置き換えることができます。
> - パスに変数を追加できます。これを行うには、OU レイアウトに一致するフォルダ構造が正確であることを確認します。

また、Active Directory 属性を使用してフィルタ処理を行うこともできます。[管理**] > [**フィルタ**] > [**条件**] > [**フィルタ条件リスト] タブで、[追加] をクリックした後、[新しいフィルタ条件] ウィンドウを開くことができます。[新しいフィルタ条件] ウィンドウには、Active Directory 属性に関連付けられた次の 4 つのフィルタ条件タイプが表示されます。

- Active Directory 属性の一致
- Active Directory グループの一致
- Active Directory パスの一致
- Active Directory サイトの一致

Active Directory 属性の一致の場合、ダイナミックトークンは [ADAttribute: attrName] です。
Active Directory グループ一致に使用できる動的トークンはありません。これは、条件の種類がグループメンバシップの確認に使用されるためです。
Active Directory パス一致の場合、完全な LDAP パスの動的トークンは # #UserLDAPPath ## です。
Active Directory サイト一致の場合、動的トークンは # #ADSite ## です。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

例については、次の表を参照してください。

モーダル	説明	例
[広告属性: 属性名]	ドメインユーザーの指定された属性を返します	[ADAttribute:name] はAdministratorを返す
[プリンタ属性: プリンタ名\ | 属性名]	指定されたドメインプリンターの指定された属性を返します	[プリンタ属性: プリンタ 1\ | 名前] はプリンタ 1 を返します
[ユーザーの親ユーザー: レベル]	現在のユーザーの親 OU の指定されたレベルを返します	CN=Jill Chou,OU=User Accounts,OU=APAC,DC=citrite,DC=netの[UserParentOU:1]はAPACを返す

レジストリー

レジストリを操作するには、WEM は[RegistryValue:<Registry path>]値を関連するレジストリ値に置き換えます。たとえば、次の値を指定できます。

- [レジストリ値:HKEY_LOCAL_MACHINE\ SYSTEM\ CurrentControlSet\ 制御\ Norskale\ エージェントホスト\ AgentLocation]

XML ファイル

XML ファイルを操作するために、WEM は XML ファイル内の特定のタグ値で[GetXmlValue:<XML path> | <tag name>]値を置き換えます。XML パスには、実際のパスまたはパスに解決される環境変数を指定できます。環境変数は% で囲む必要があります。たとえば、次の値を指定できます。

- [getXMLValue: C:\citrix\test.xml | 要約] または
- [getXMLValue: %xmlpath%| 概要]

INI ファイル

.ini ファイルを操作するには、WEM は[GetIniValue:<INI path> | <section name in the .ini file> | <key name in the .ini.file>]をキー値に置き換えます。INI パスには、実際のパスまたはパスに解決される環境変数を指定できます。環境変数は% で囲む必要があります。たとえば、次の値を指定できます。

- [GetIniValue:C:\citrix\test.ini|PLD_POOL_LIC_NODE_0_0|LicExpTime] または
- [GetIniValue:%inipath%|PLD_POOL_LIC_NODE_0_0|LicExpTime]

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

追加情報

フィルター条件のサポートマトリックス

次の表は、テスト値またはマッチング結果が動的トークンをサポートするすべての条件タイプを示しています。

コンディションタイプ	テスト値	マッチング結果
コンピュータ名の一致	-	はい
クライアント名の一致	-	はい
環境変数の一致	いいえ	はい
レジストリ値の一致	はい	はい
WMI クエリ結果マッチ	-	はい
XenApp ファームの名前マッチ	-	はい
XenApp ゾーン名マッチ	-	はい
XenDesktop ファーム名マッチ	-	はい
XenDesktop デスクトップのグループ名マッチ	-	はい
Active Directory 属性の一致	はい	はい
名前または値がリスト内にある	はい	はい
一致するコンピュータ名がありません	-	はい
クライアント名が一致しません	-	はい
環境変数の一致なし	いいえ	はい
一致するレジストリ値がありません	はい	はい
WMI クエリ結果の一致がありません	-	はい
XenApp ファーム名が一致しない	-	はい
XenApp のゾーン名が一致しない	-	はい
XenDesktop ファーム名が一致しない	-	はい
XenDesktop デスクトップのグループ名が一致しない	-	はい
Active Directory 属性が一致しない	はい	はい
名前または値がリストにありません	はい	はい
動的値の一致	はい	はい

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

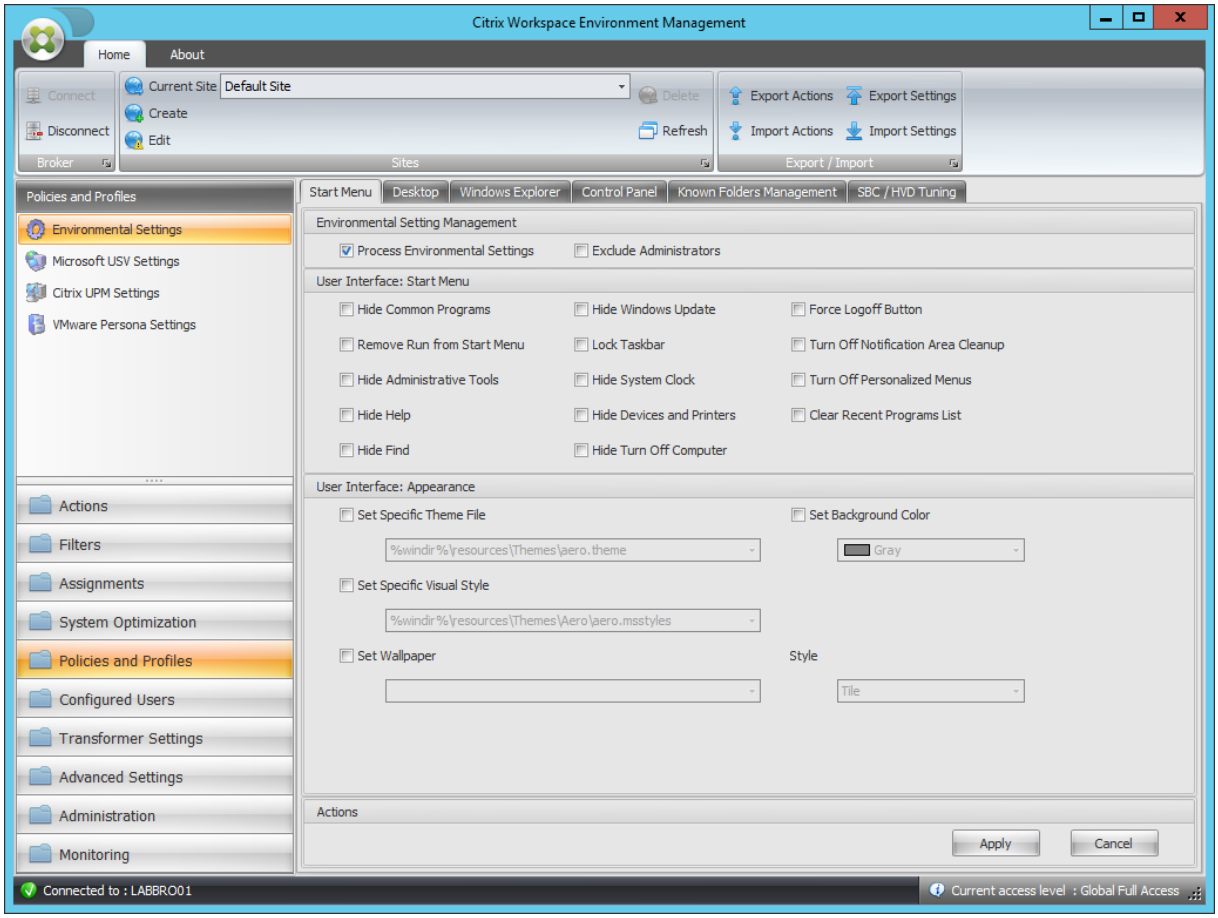
コンディションタイプ	テスト値	マッチング結果
動的値の一致なし	はい	はい
ファイルのバージョン一致	はい	はい
一致するファイルバージョンがありません	はい	はい
発行されたリソース名	-	はい
名前がリスト内にある	はい	はい
名前がリストにありません	はい	はい
ファイル/フォルダが存在します	-	はい
ファイル/フォルダが存在しません	-	はい

環境設定のレジストリ値

June 1, 2023

この資料では、Workspace Environment Management の [環境設定] に関連付けられているレジストリ値について説明します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



共通プログラムを非表示にする

親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	NoCommonGroups
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

[スタート] メニューから [実行] を削除する

親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	NoRUN
値のタイプ	DWORD

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

[スタート] メニューから [実行] を削除する	
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

管理ツールを隠す	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\
値名	Start_AdminToolsRoot
値のタイプ	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

ヘルプを非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	NoSMHelp
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

検索を非表示	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	NoFind
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

検索を非表示	
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

Windows の更新プログラムを非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	NoWindowsUpdate
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

タスクバーをロック	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	LockTaskbar
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

システムクロックを非表示	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	HideClock
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

デバイスとプリンタを非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\
値名	Start_ShowPrinters
値のタイプ	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

コンピュータの電源をオフにする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	NoClose
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

[強制ログオフ] ボタン	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	ForceStartMenuLogoff
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

通知領域のクリーンアップをオフにする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	NoAutoTrayNotify

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

通知領域のクリーンアップをオフにする	
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

パーソナライズされたメニューをオフにする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	Intellimenus
値のタイプ	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理中	ログオン時のサービス

[最近使用したプログラム] リストをクリア	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	ClearRecentProgForNewUserInStartMenu
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

特定のテーマファイルを設定	
親キー	HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Personalization
値名	ThemeFile
値のタイプ	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

特定のテーマファイルを設定	
無効な値	値が存在しない
処理中	ログオン時のサービス

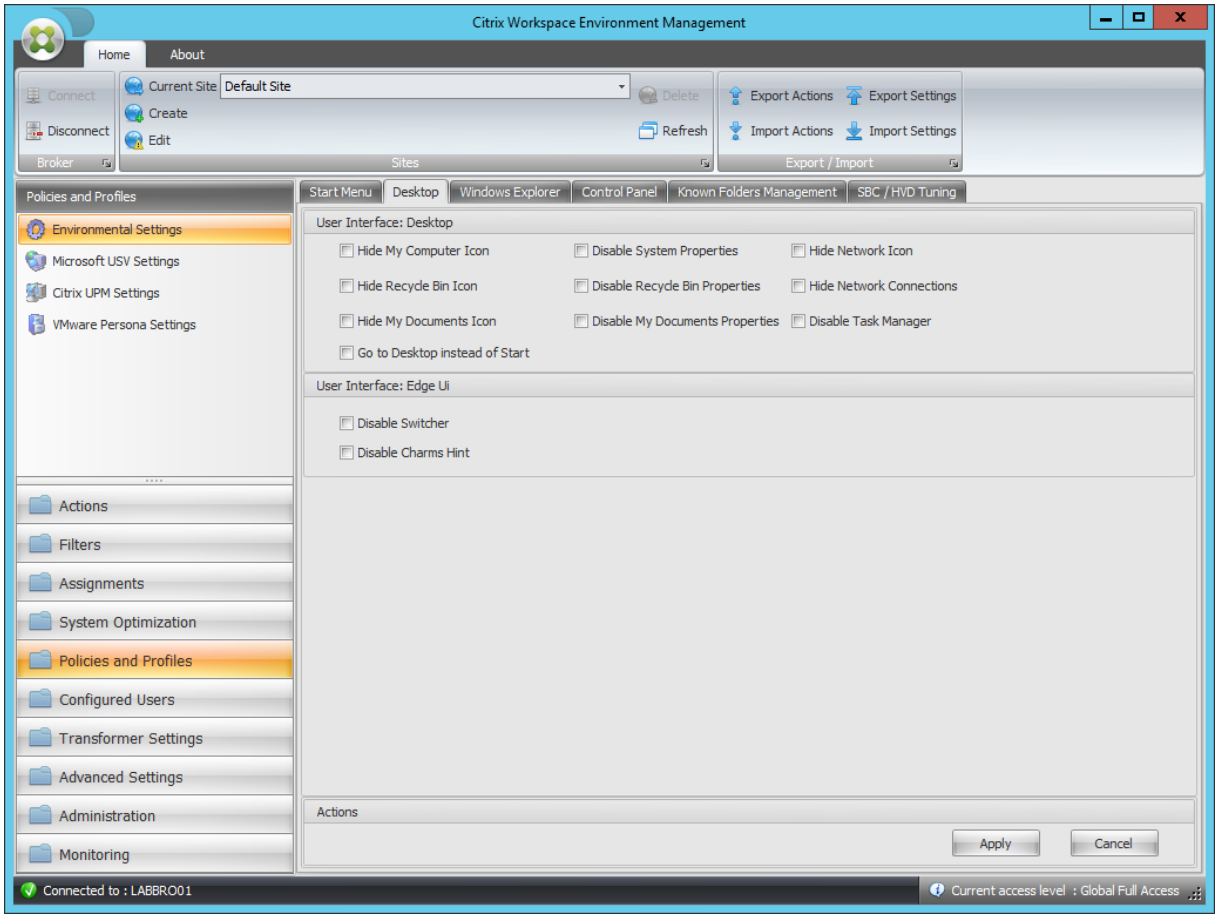
背景色の設定	
親キー	HKCU\Control Panel\Colors
値名	バックグラウンド
値のタイプ	REG_SZ
有効な値	設定済みカラー (R G B)
無効な値	値が存在しない、または以前に構成された値の場合は 0 0 0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

特定の表示スタイルを設定	
親キー	HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Personalization
値名	SetVisualStyle
値のタイプ	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値が存在しない
処理中	ログオン時のサービス

壁紙を設定	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	壁紙
値のタイプ	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値が存在しない
処理中	ログオン時のサービス

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

壁紙を設定	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	WallpaperStyle
値のタイプ	REG_SZ
有効な値	スタイルの値に依存
無効な値	値が存在しない
処理中	ログオン時のサービス
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	TileWallpaper
値のタイプ	REG_SZ
有効な値	スタイルの値に依存
無効な値	値が存在しない
処理中	ログオン時のサービス



© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

[マイコンピュータ] アイコンを非表示にする

親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	{20D04FE0-3AEA-1069-A2D8-08002B30309D}
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

ごみ箱アイコンを非表示にする

親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	{645FF040-5081-101B-9F08-00AA002F954E}
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

[マイドキュメント] アイコンを非表示にする

親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	{450D8FBA-AD25-11D0-98A8-0800361B1103}
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

[スタート] ではなく [デスクトップ] に移動します。

親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\
値名	AtLogon を開く

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

[スタート] ではなく [デスクトップ] に移動します。	
値のタイプ	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理中	ログオン時のサービス

システムプロパティを無効にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	NoPropertiesMyComputer
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

ごみ箱のプロパティを無効にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	NoPropertiesRecycleBin
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

マイドキュメントプロパティの無効化	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	NoPropertiesMyDocuments
値のタイプ	DWORD
有効な値	1

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

マイドキュメントプロパティの無効化	
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

ネットワークアイコンを非表示	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	{F02C1A0D-BE21-4350-88B0-7367FC96EF3C}
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

ネットワーク接続を非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	NoNetworkConnections
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

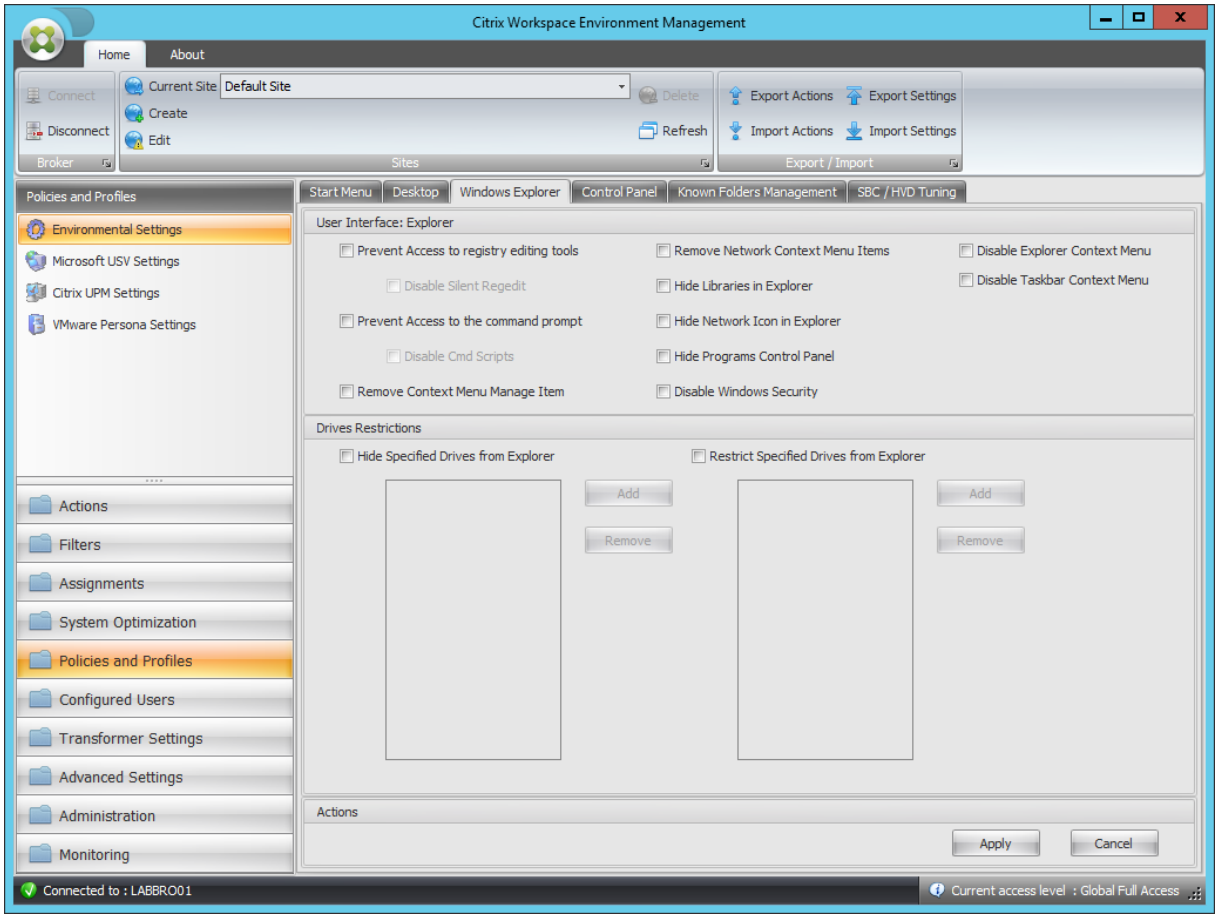
タスクマネージャを無効にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	DisableTaskMgr
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

スイッチャを無効にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Immersiv
値名	DisableTLcorner
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

チャームヒントを無効にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Immersiv
値名	DisableCharmsHint
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



レジストリ編集ツールへのアクセスを禁止する	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\S
値名	DisableRegistryTools
値のタイプ	DWORD
有効な値	サイレント正規表現を無効化しますか?2:1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

コマンドプロンプトへのアクセスを禁止する	
親キー	HKCU\Software\Policies\System
値名	DisableCMD
値のタイプ	DWORD

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

コマンドプロンプトへのアクセスを禁止する	
有効な値	サイレントコマンドスクリプトを無効にする 2:1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

コンテキストメニューを削除 [アイテムを管理]	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	NoManageMyComputerVerb
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

ネットワークコンテキストメニュー項目の削除	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	NoNetworkConnections
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

エクスプローラでライブラリを非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	{031E4825-7B94-4dc3-B131-E946B44C8DD5}
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

エクスプローラでライブラリを非表示にする	
処理中	ログオン時のサービス

エクスプローラでネットワークアイコンを非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	{F02C1A0D-BE21-4350-88B0-7367FC96EF3C}
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

コントロールパネルを非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	NoProgramsCPL
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

Windows セキュリティを無効にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	NoNtSecurity
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

エクスプローラのコンテキストメニューを無効にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	NoViewContextMenu
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

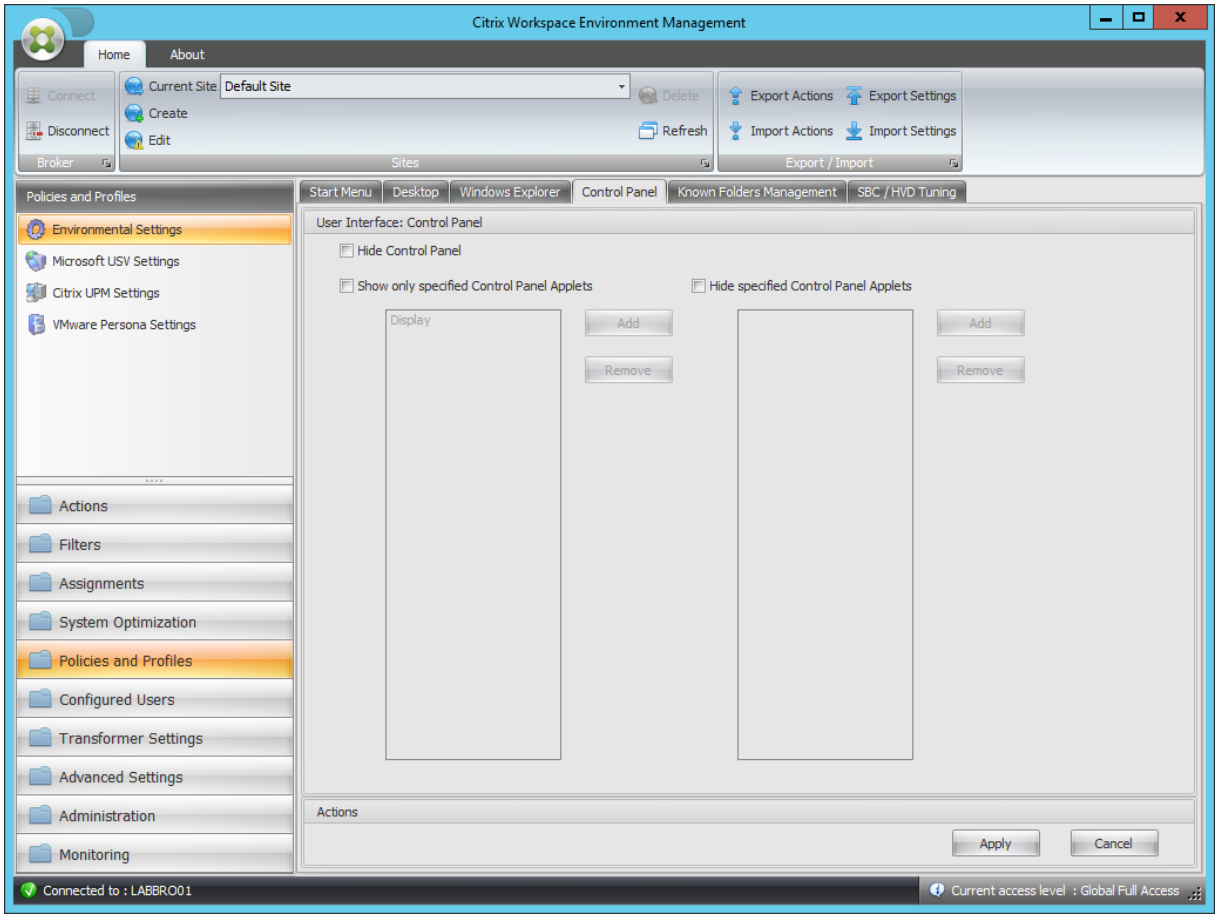
タスクバーのコンテキストメニューを無効にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	NoTrayContextMenu
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

エクスプローラから指定されたドライブを非表示	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	NoDrives
値のタイプ	DWORD
有効な値	値は、選択したドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値を削除する必要があります)
処理中	ログオン時のサービス

エクスプローラから指定されたドライブを制限する	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	NoViewOnDrive

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

エクスプローラから指定されたドライブを制限する	
値のタイプ	DWORD
有効な値	値は、選択したドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値を削除する必要があります)
処理中	ログオン時のサービス



コントロールパネルを非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	NoControlPanel
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

コントロールパネルを非表示にする

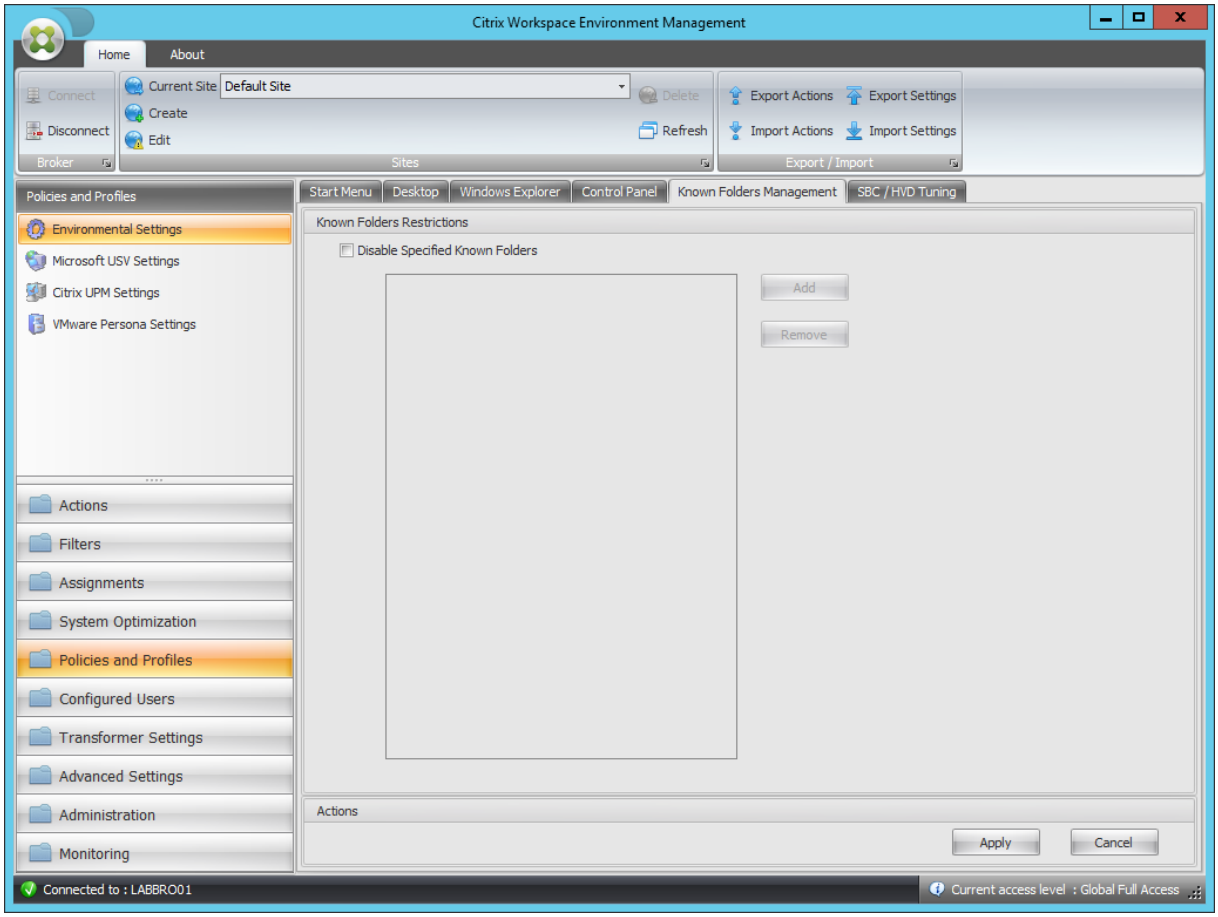
指定したコントロールパネルのアプレットのみを表示する	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	RestrictCpl
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

許可される各アプレットについて	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\ RestrictCpl
値名	アプレットインデックス (1 から始まり、自動的にインクリメント)
値のタイプ	REG_SZ
有効な値	AppletName
無効な値	NULL/削除済み
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

指定したコントロールパネルアプレットを非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\
値名	DisallowCpl
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

許可されていないアプレットごとに	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\ DisallowCpl
値名	アプレットインデックス (1 から始まり、自動的にインクリメント)
値のタイプ	REG_SZ
有効な値	AppletName
無効な値	NULL/削除済み
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス



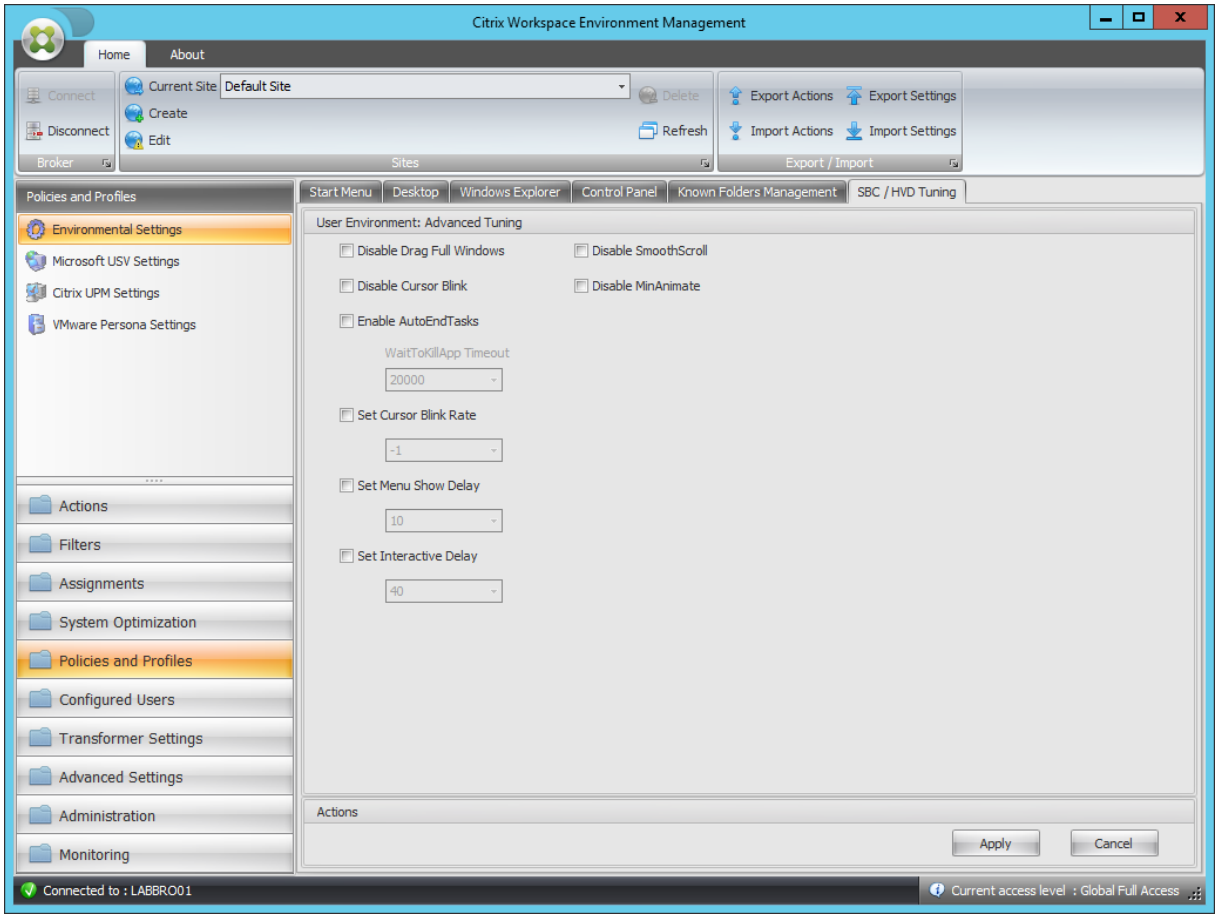
指定した既知のフォルダを無効にする	
親キー	HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Explorer
値名	DisableKnownFolders

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

指定した既知のフォルダを無効にする	
値のタイプ	DWORD
有効な値	値は、選択したドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値を削除する必要があります)
処理中	ログオン時のサービス

無効になっているフォルダごとに	
親キー	HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Explorer\DisableKnownFolders
値名	無効なフォルダ名
値のタイプ	REG_SZ
有効な値	無効なフォルダ名
無効な値	NULL/削除済み
処理中	ログオン時のサービス

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



[ウィンドウ全体をドラッグ] を無効にする	
親キー	HKCU\Control Panel\Desktop
値名	DragFullWindows
値のタイプ	REG_SZ
有効な値	0
無効な値	1
処理中	ログオン時のサービス

カーソルの点滅を無効にする	
親キー	HKCU\Control Panel\Desktop
値名	DisableCursorBlink
値のタイプ	DWORD

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

カーソルの点滅を無効にする	
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

オートエンドタスクを有効にする	
親キー	HKCU\Control Panel\Desktop
値名	AutoEndTasks
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

WaitToKillApp Timeout	
親キー	HKCU\Control Panel\Desktop
値名	WaitToKillAppTimeout
値のタイプ	DWORD
有効な値	構成された値
無効な値	20000 (10 進数)
処理中	ログオン時のサービス

カーソルの点滅率を設定	
親キー	HKCU\Control Panel\Desktop
値名	CursorBlinkRate
値のタイプ	DWORD
有効な値	構成された値
無効な値	500 (10 進数)

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

カーソルの点滅率を設定	
処理中	ログオン時のサービス

[設定] メニュー表示遅延	
親キー	HKCU\Control Panel\Desktop
値名	MenuShowDelay
値のタイプ	DWORD
有効な値	構成された値
無効な値	400 (10 進数)
処理中	ログオン時のサービス

インタラクティブ遅延の設定	
親キー	HKCU\Control Panel\Desktop
値名	InteractiveDelay
値のタイプ	DWORD
有効な値	構成された値
無効な値	NULL/削除済み
処理中	ログオン時のサービス

スムーズスクロールを無効にする	
親キー	HKCU\Control Panel\Desktop
値名	SmoothScroll
値のタイプ	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理中	ログオン時のサービス

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

最小アニメーションを無効にする	
親キー	HKCU\Control Panel\Desktop
値名	MinAnimate
値のタイプ	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理中	ログオン時のサービス

フィルター条件

June 1, 2023

Workspace Environment Management には、エージェントがユーザーにリソースを割り当てる状況を構成するために使用する次のフィルタ条件が含まれています。管理コンソールでのこれらの条件の使用について詳しくは、「フィルタ」を参照してください。

次のフィルタ条件を使用する場合は、次の 2 つのシナリオに注意してください。

- エージェントがシングルセッション OS またはマルチセッション OS にインストールされている場合は、次の手順を実行します。
  - 「クライアント」とは、エージェントホストに接続しているクライアントデバイスを指します。
  - 「コンピュータ」と「クライアントリモート」は、エージェントホストを指します。
- エージェントが物理エンドポイントにインストールされている場合、条件名に「client」を含む条件は適用されません。

条件名	**Always True**
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	-
予想される構文	-
戻り値	True.

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

条件名	コンピュータ名の一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。
予想される構文	シングルネームテスト: コンピュータ名複数のテスト (OR): Computername1; Computername2 ワイルドカード (倍数でも動作): ComputerName*
戻り値	現在のコンピュータ名がテストされた値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	クライアント名の一致
期待値のタイプ	-
期待値のタイプ	文字列。
予想される構文	単一名テスト: クライアント名複数のテスト (OR): クライアント名 1; クライアント名 2 ワイルドカード (複数でも動作): ClientName*
戻り値	現在のクライアント名がテストされた値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	**IP** アドレスの一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	IP アドレス。
予想される構文	シングルネームテスト:IPaddress 複数のテスト (OR): ipaddress1; ipaddress2 ワイルドカード (倍数でも動作): IPaddress* 範囲 (倍数でも動作): ipaddress1-ipaddress2
戻り値	現在のコンピュータの IP アドレスがテストされた値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	クライアント **IP** アドレスの一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	IP アドレス。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

条件名	クライアント **IP** アドレスの一致
予想される構文	シングルネームテスト:clientipAddress 複数のテスト (OR): clientipAddress1; clientipAddress2 ワイルドカード (倍数でも動作): clientipAddress* 範囲 (倍数でも動作): ipaddress1-ipaddress2
戻り値	現在のクライアント IP アドレスがテストされた値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	**Active Directory** サイトの一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	テストする Active Directory サイトの正確な名前。
予想される構文	Active Directory サイト名。
戻り値	指定したサイトが現在のサイトと一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	スケジュール設定
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	曜日 (例: 月曜日)。
予想される構文	単一名テスト:DayOfWeek 複数のテスト (OR): DayOfWeek1; DayOfWeek2
戻り値	今日がテストされた値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	環境変数の一致
期待値のタイプ	文字列。テストされた変数の名前。
期待される結果タイプ	文字列。テストされた変数の期待値。
予想される構文	単一名テスト: 値 NULL ではないテスト:?
戻り値	環境変数が存在し、値が一致する場合は true、そうでない場合は false。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

条件名	レジストリ値の一致
期待値のタイプ	文字列。テストするレジストリ値の完全なパスと名前。例: レジストリキー **HKCU** ソフトウェア**\ Citrix\ TestValueName**
期待される結果タイプ	文字列。テストされたレジストリエントリの期待値。
予想される構文	単一名テスト: 値 NULL ではないテスト:?
戻り値	レジストリ値が存在し、値が一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	**WMI** クエリ結果の一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。
予想される構文	有効な WMI クエリです。詳しくは、https://docs.microsoft.com/en-us/windows/win32/wmisdk/querying-with-wqlを参照してください。
戻り値	クエリが成功し、結果がある場合は true、そうでない場合は false。

条件名	ユーザーの国一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。
予想される構文	2 文字の ISO 言語名。
戻り値	ユーザーの ISO 言語名が指定された値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	ユーザー **UI** 言語の一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。2 文字の ISO 言語名。例 FR
予想される構文	2 文字の ISO 言語名。例 FR
戻り値	ユーザー UI の ISO 言語名が指定した値に一致する場合は true、一致しない場合は false。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

条件名	ユーザ **SBC** リソースタイプ
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	リストから選択します。
予想される構文	-
戻り値	ユーザーコンテキスト (公開デスクトップまたはアプリケーション) が選択した値と一致する場合は true、それ以外の場合は false。

条件名	**OS** プラットフォームのタイプ
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
予想される構文	-
戻り値	マシンプラットフォームのタイプ（x64 または x86）が選択された値に一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	接続状態
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
予想される構文	-
戻り値	接続状態 (オンラインまたはオフライン) が選択された値と一致する場合は true、一致しない場合は false。

条件名	**Citrix Virtual Apps** のバージョンの一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。Citrix Virtual Apps バージョン例:6.5
予想される構文	-
戻り値	バージョンが選択した値に一致する場合は true、一致しない場合は false。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

条件名	**Citrix Virtual Apps** ファーム名の一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。Citrix Virtual Apps ファーム名（バージョン 6.5 まで）。例: ファーム。
予想される構文	-
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	**Citrix Virtual Apps** ゾーン名の一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。Citrix Virtual Apps ゾーン名（バージョン 6.5 まで）。例: ゾーン
予想される構文	-
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	**Citrix Virtual Desktops** ファーム名の一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。Citrix Virtual Desktops ファーム名（バージョン 5 まで）。例: ファーム。
予想される構文	-
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	**Citrix Virtual Desktops** デスクトップグループ名の一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。Citrix Virtual Desktops デスクトップグループの例：グループ
予想される構文	-
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

条件名	**Citrix Provisioning** イメージモード
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
予想される構文	-
戻り値	現在の Citrix Provisioning イメージモードが選択した値と一致する場合は true、一致しない場合は false。

条件名	クライアント **OS**
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
予想される構文	-
戻り値	現在のクライアントオペレーティングシステムが選択した値と一致する場合は true、一致しない場合は false。

条件名	**Active Directory** パスの一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。テストされた Active Directory パスの名前。
予想される構文	単一名テスト: 厳密な LDAP パス一致ワイルドカードテスト:ou=users* 複数のエントリ: セミコロン (;) で区切ったエントリ
戻り値	属性が存在し、値が一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	**Active Directory** 属性の一致
期待値のタイプ	文字列。テストされた Active Directory 属性の名前。
期待される結果タイプ	文字列。テストされた Active Directory 属性の期待値。
予想される構文	単一値テスト: 値複数の値エントリ: セミコロン (;) で区切ったエントリを null でないかどうかをテスト:?
戻り値	属性が存在し、値が一致する場合は true、そうでない場合は false。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

条件名	名前または値がリスト内にある
期待値のタイプ	文字列。インテグリティリストマネージャユーティリティによって生成される XML リストのフルファイルパス。
期待される結果タイプ	文字列。リスト内で検索する名前/値の期待値。
予想される構文	文字列
戻り値	指定されたリストの名前と値のペアに入力値が見つかった場合は True、それ以外の場合は false。

条件名	一致するコンピュータ名がありません
負の条件行動	**ComputerName Match** を実行し、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「**ComputerName Match** 」の条件を参照してください。

条件名	クライアント名が一致しません
負の条件行動	ClientName Match を実行し、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「クライアント名の一致」の条件を参照してください。

条件名	**IP** アドレスが一致しない
負の条件行動	IP アドレスマッチを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「条件 **IP** アドレス一致」を参照してください。

条件名	クライアント **IP** アドレスが一致しない
負の条件行動	クライアント IP アドレスマッチを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「クライアント **IP** アドレス一致」の条件を参照してください。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

条件名	一致する **Active Directory** サイトがありません
負の条件行動	Active Directory サイトの一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「**Active Directory** サイトの一致」を参照してください。

条件名	環境変数の一致なし
負の条件行動	環境変数マッチを実行し、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件環境変数の一致を参照してください。

条件名	一致するレジストリ値がありません
負の条件行動	レジストリ値の一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「条件レジストリ値の一致」を参照してください。

条件名	**WMI** クエリ結果の一致がありません
負の条件行動	WMI クエリ結果 Match を実行し、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **WMI** クエリ結果の一致を参照してください。

条件名	ユーザーの国が一致しません
負の条件行動	ユーザー国一致を実行し、逆の結果を返します（false の場合は true、true の場合は false）。詳細については、条件ユーザーの国一致を参照してください。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

条件名	ユーザー **UI** 言語が一致しません
負の条件行動	ユーザー UI 言語一致を実行し、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件「ユーザー **UI** 言語マッチ」を参照してください。

条件名	**Citrix Virtual Apps** のバージョンが一致しません
負の条件行動	Citrix Virtual Apps のバージョンマッチを実行し、逆の結果を返します（false の場合は true、true の場合は false）。詳細については、**Citrix Virtual Apps** バージョン一致の条件を参照してください。

条件名	**Citrix Virtual Apps** ファーム名が一致しない
負の条件行動	Citrix Virtual Apps ファーム名の一致を実行し、逆の結果を返します（false の場合は true、true の場合は false）。詳細については、「**Citrix Virtual Apps** ファーム名の一致」を参照してください。

条件名	**Citrix Virtual Apps** ゾーン名が一致しない
負の条件行動	Citrix Virtual Apps ゾーン名の一致を実行し、逆の結果を返します（false の場合は true、true の場合は false）。詳細については、「**Citrix Virtual Apps** ゾーン名の一致」を参照してください。

条件名	**Citrix Virtual Desktops** ファーム名が一致しない
負の条件行動	Citrix Virtual Desktops ファーム名の一致を実行し、逆の結果を返します（false の場合は true、true の場合は false）。詳細については、「**Citrix Virtual Desktops** ファームの名前の一致」を参照してください。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

条件名	**Citrix Virtual Desktops** グループ名が一致しない
負の条件行動	Citrix Virtual Desktops デスクトップグループ名の一致を実行し、逆の結果を返します（false の場合は true、true の場合は false）。詳細については、**Citrix Virtual Desktops** デスクトップグループ名の一致の条件を参照してください。

条件名	**Active Directory** パスが一致しません
負の条件行動	Active Directory パス一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「**Active Directory** パス一致」の条件を参照してください。

条件名	**Active Directory** 属性が一致しない
負の条件行動	アクティブ属性パスマッチを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件アクティブ属性パス一致を参照してください。

条件名	名前または値がリストにありません
負の条件行動	名前または値がリストにあり、逆の結果を返します（偽の場合は true、真の場合は false）。詳細については、条件の名前または値がリストにあるを参照してください。

条件名	クライアントのリモート **OS** の一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
予想される構文	-
戻り値	現在のリモートクライアントオペレーティングシステムが選択した値と一致する場合は true、一致しない場合は false。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

条件名	クライアントのリモート **OS** の一致なし
負の条件行動	クライアントリモート OS のマッチを実行し、逆の結果を返します（false の場合は true、true の場合は false）。詳細については、「クライアントリモート **OS** の一致」の条件を参照してください。

条件名	動的値の一致
期待値のタイプ	文字列。環境変数または動的トークンを使用する任意の動的式。
期待される結果タイプ	文字列。テストされた式の期待値。
予想される構文	単一名テスト: 値 NULL ではないテスト:?
戻り値	動的式の結果値が存在し、値が一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	動的値の一致なし
負の条件行動	動的値の一致を実行し、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件の動的値一致を参照してください。

条件名	トランスモード状態
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
予想される構文	-
戻り値	現在のトランスフォーマーの状態が選択値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	クライアント **OS** の一致なし
負の条件行動	クライアント OS のマッチを実行し、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件「クライアント **OS** マッチ」を参照してください。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

条件名	**Active Directory** グループの一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。
予想される構文	シングルネームテスト: グループ NetBIOS 名 (ドメイン\ グループ名) 複数のテスト (OR): グループ名 1; グループ名 2
戻り値	現在のユーザーグループのいずれかがテストされた値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	**Active Directory** グループの一致がありません
負の条件行動	Active Directory グループマッチを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「**Active Directory** グループの一致」の条件を参照してください。

条件名	ファイルのバージョン一致
期待値のタイプ	文字列。テストするファイルのフルパスと名前。 例: **C:\Test\TestFile.dll**
期待される結果タイプ	文字列。テストされたファイルの期待されるファイルのバージョン値。
予想される構文	単一名テスト: 値 NULL ではないテスト:?
戻り値	レジストリ値が存在し、値が一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	一致するファイルバージョンがありません
負の条件行動	ファイルバージョンマッチを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件ファイルバージョン一致を参照してください。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

条件名	ネットワーク接続状態
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
予想される構文	-
戻り値	現在のネットワーク接続状態が選択された値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

> 重要:
>
> 公開リソース名をフィルタ条件タイプとして使用する前に、次の点に注意してください。公開リソースが公開アプリケーションの場合は、[一致結果] フィールドにアプリケーションのブラウザ名を入力します。公開リソースが公開デスクトップの場合は、[一致結果] フィールドにデスクトップの公開名を入力します。

条件名	発行されたリソース名
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。公開リソースの名前（Citrix Virtual Apps/Citrix Virtual Desktops/RDS）。
予想される構文	単一名テスト: 公開リソース名複数のテスト (OR): Name1; Name2 ワイルドカードテスト: 名前 *
戻り値	現在発行されているリソース名がテストされた値と一致する場合は true、それ以外の場合は false。

条件名	名前がリスト内にある
期待値のタイプ	文字列。インテグリティリストマネージャユーティリティによって生成される XML リストのフルファイルパス。
期待される結果タイプ	文字列。リスト内で検索する名前の期待値。
予想される構文	文字列
戻り値	指定されたリストの名前と値のペアで名前が一致する場合は true、そうでない場合は false。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

条件名	名前がリストにありません
負の条件行動	Runs Name はリストにあり、反対の結果を返します（false の場合は true、true の場合は false）。詳細については、条件の名前がリストに載っているを参照してください。

条件名	ファイル/フォルダが存在します
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	文字列。
予想される構文	テストするファイル・システム・エントリー（ファイルまたはフォルダ）のフル・パス。
戻り値	指定されたファイル・システム・エントリが存在する場合は true、存在しない場合は false。

条件名	ファイル/フォルダが存在しません
負の条件行動	ファイル/フォルダが存在し、逆の結果を返します（false の場合は true、true の場合は false）。詳細については、「ファイル/フォルダが存在する」を参照してください。

条件名	日時一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	日付時刻を文字列として指定します。テストする日付/時刻。
予想される構文	単一の日付:2016/01/2016 日付範囲:2016/01/2016-08-01 複数のエントリ:entry1;entry2 範囲と単一の日付を混在させることができます
戻り値	実行日時が指定されたエントリのいずれかに一致する場合は true、そうでない場合は false。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

条件名	日時一致なし
負の条件行動	DateTime Match を実行し、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **DateTime Match** を参照してください。

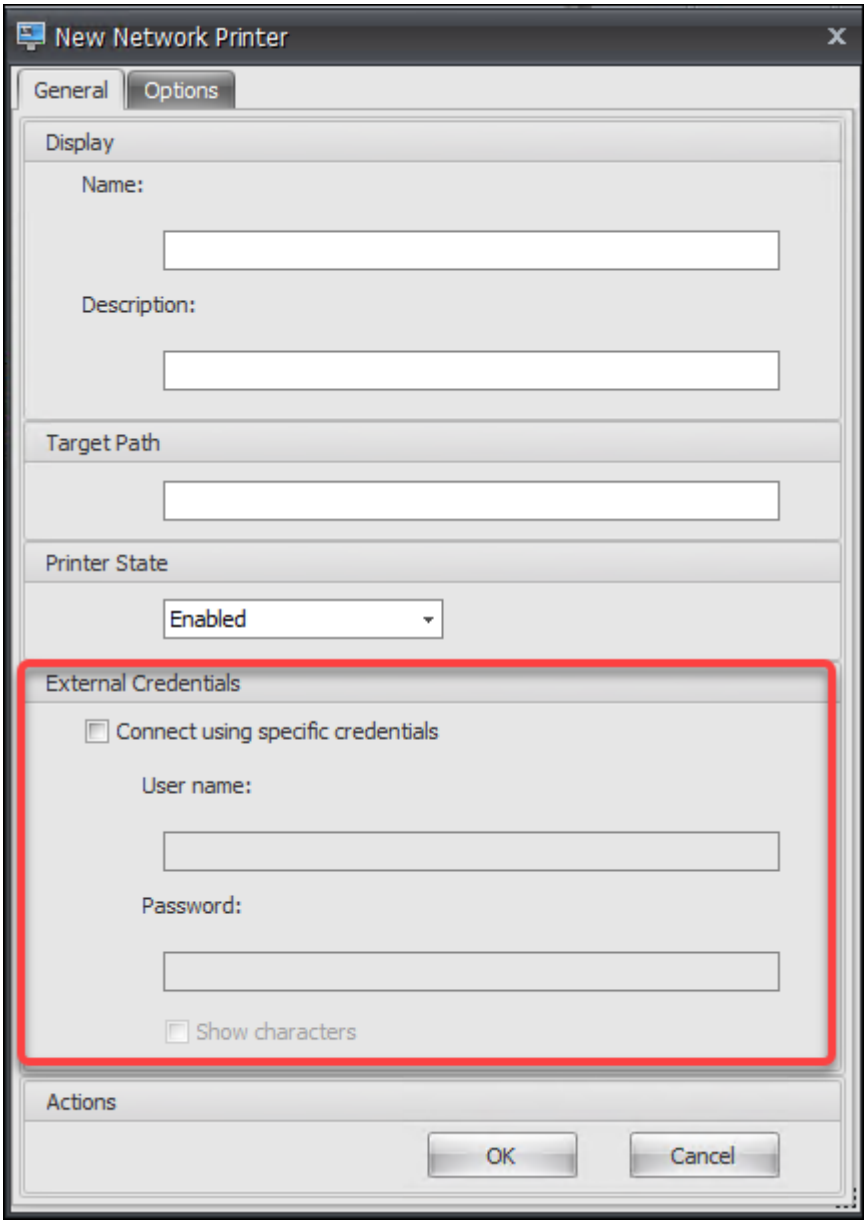
FIPS サポート

June 1, 2023

Workspace Environment Management (WEM) は FIPS 環境で実行できます。WEM の次の設定は FIPS に関連しています。

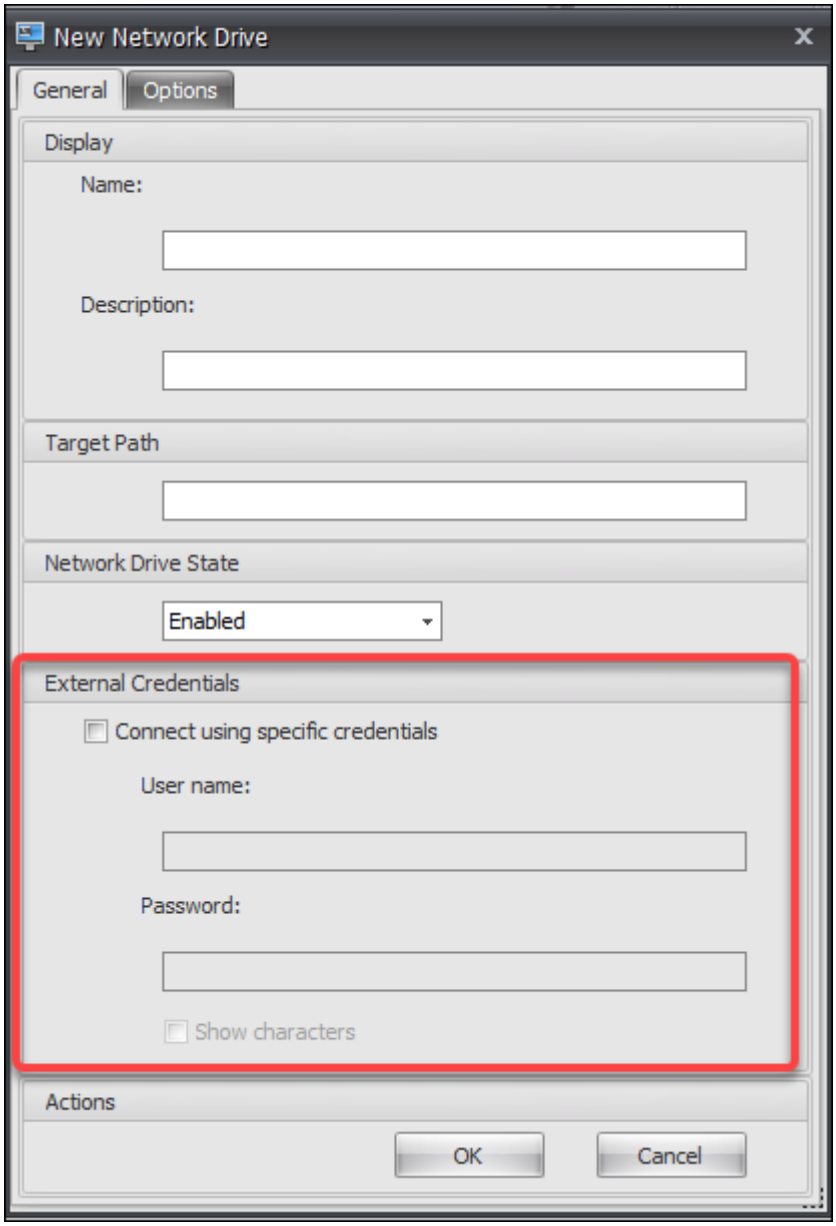
- 管理コンソール **>** アクション **>** プリンタの資格情報:

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



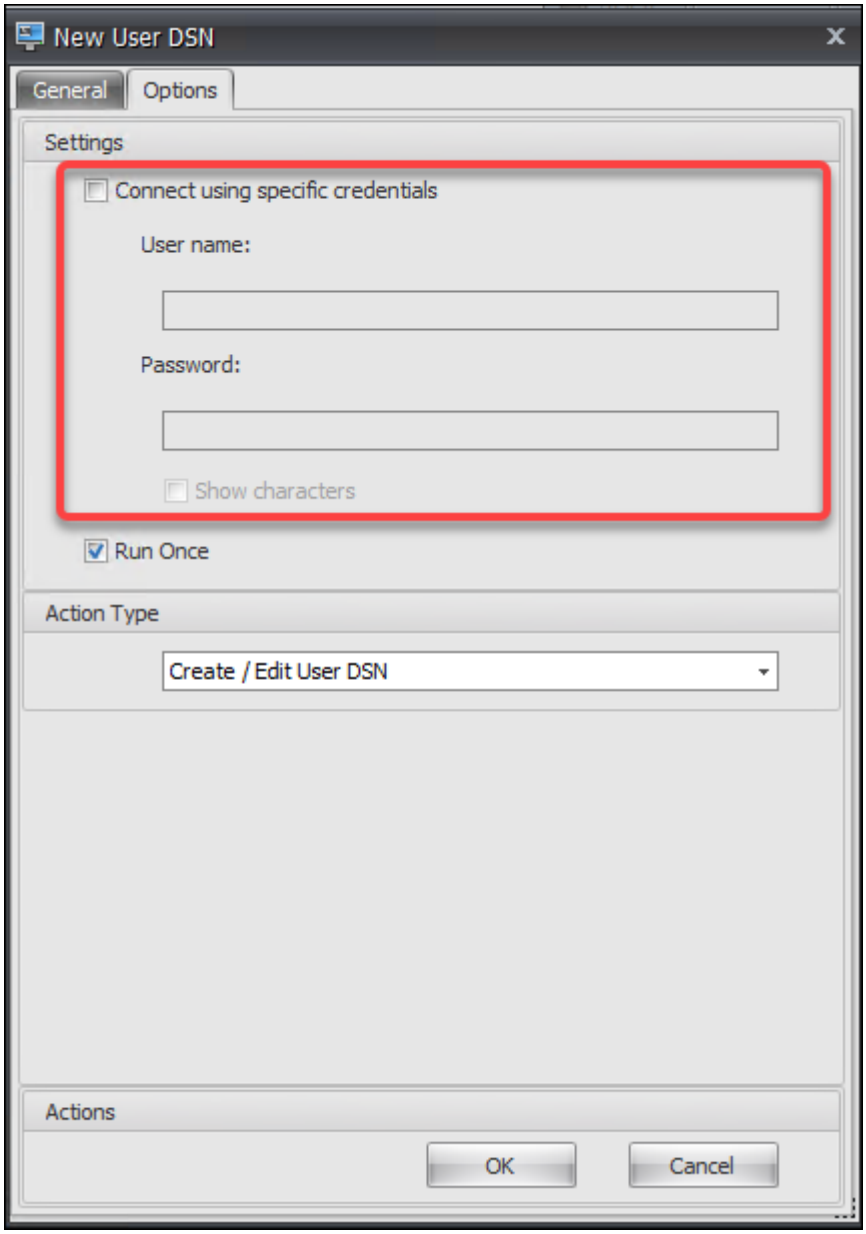
- 管理コンソール **>** アクション **>** ネットワークドライブでのネットワークドライブの認証情報:

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

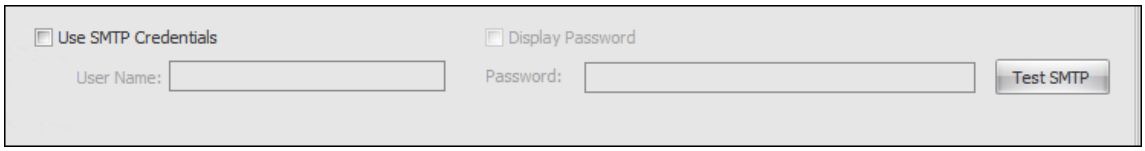


- 管理コンソール **>** アクション **>** ユーザー **DSN** のユーザー **DSN** 資格情報:

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

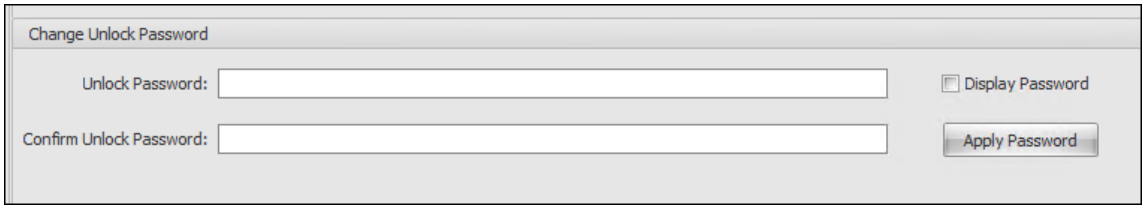


- 管理コンソールの **SMTP** 認証情報 **>** 詳細設定 **> UI** エージェントのパーソナライゼーション **>** ヘルプデスクオプション:

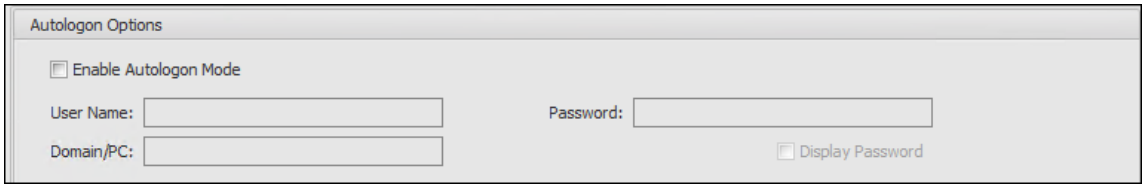


- 管理コンソール **>** トランスフォーマー設定 **>** 一般 **>** 一般設定でパスワード設定のロックを解除します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



- 管理コンソール **>** トランスフォーマー設定 **>** 詳細設定 **>** ログオン/ログオフ **&** 電源設定の自動ログオン資格情報:



FIPS 環境で WEM を実行する場合は、次の考慮事項に注意してください。

- 次のアイテムが WEM 2003 以前の環境からエクスポートされた場合、WEM 環境に復元することはできません。
  - アクション (プリンタ、ネットワークドライブ、ユーザー DSN) およびそれらのアクションを含むアクショングループ
  - 設定 (エージェント構成設定およびトランスフォーマー設定)
  - 構成セット

アップグレードに関する考慮事項

WEM を FIPS モードで実行する場合は、WEM インフラストラクチャサービスおよび管理コンソールをアップグレードする前に、次の考慮事項に注意してください。

- ご使用の環境で *WEM 2006* 以降を実行している場合は、まず 2109 にアップグレードしてから FIPS モードに切り替えるか、または逆の方法で切り替えることができます。
- 環境で *WEM 2003* 以前を実行している場合は、まず 2109 にアップグレードしてから FIPS モードに切り替える必要があります。

エージェントに関する考慮事項

FIPS 環境で WEM エージェントを実行するには、エージェントのバージョンが *2006* 以降であることを確認します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

NetScaler ADC による負荷分散

June 1, 2023

この資料では、すべてのアクティブな負荷分散構成で 2 つ以上のインフラストラクチャサーバーを含む Workspace Environment Management (WEM) サーバーグループの展開について説明します。ここでは、WEM 管理コンソールと WEM エージェントからの着信要求の負荷分散を行うように NetScaler ADC アプライアンスを構成する方法について詳しく説明します。

NetScaler ADC では、次の WEM ポートでリッスンできます。

- 管理ポート（デフォルトは 8284）
- エージェント・サービス・ポート（デフォルトは 8286）
- キャッシュされたデータ同期ポート（デフォルトは 8288）

2 つのインフラストラクチャサーバー (インフラストラクチャサーバー 1 とインフラストラクチャサーバー 2) を含む WEM サーバーグループを展開するとします。次の手順を実行します：

1. NetScaler ADC 管理 GUI にログオンし、［構成］をクリックします。
2. [トラフィック管理**] > [**負荷分散**] > [**サーバー**] > [**追加] に移動し、[追加] をクリックしてインフラストラクチャサーバー 1 を追加します。この手順を繰り返して、インフラストラクチャサーバ 2 を追加します。
3. [トラフィック管理**] > [**負荷分散**] > [**サービスグループ] に移動し、[追加] をクリックして管理コンソールサービスのサービスグループを作成します。
   - プロトコル。［**TCP**］を選択します。
   - キャッシュタイプ。[サーバー] を選択します。
4. [負荷分散サービスグループ] ページで、[サービスグループメンバーなし] をクリックします。
5. [サービスグループメンバーの作成] ページで、[サーバーベース] を選択し、右矢印をクリックして、[インフラストラクチャサーバー 1] を選択します。インフラストラクチャサーバ 2 に対して手順 3 ～5 を繰り返します。
   - ポート。たとえば、管理コンソールに「8284」と入力します。
6. 手順 3 ～5 に従って、エージェントサービスとキャッシュ同期サービスのサービスグループを作成します。
   - ポート。エージェントサービスポートには、8286 と入力します。キャッシュされたデータ同期ポートには、「8288」と入力します。
7. [トラフィック管理**] > [**負荷分散**] > [**仮想サーバー] に移動し、[追加] をクリックして管理コンソールサービスの仮想サーバーを追加します。
   - プロトコル。［**TCP**］を選択します。
   - **IP** アドレスタイプ。[**IP** アドレス] を選択します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

- **IP** アドレス。仮想 IP を入力します。詳しくは、「NetScaler ADC が所有する IP アドレスの構成」を参照してください。
- ポート。たとえば、管理コンソールに「8284」と入力します。

8. [負荷分散仮想サーバーサービスグループバインドなし] をクリックします。
9. [サービスグループのバインド] ページで、右矢印をクリックし、対応するサービスグループを選択し、[バインド] をクリックします。
10. エージェントサービスポートとキャッシュデータ同期ポートでリッスンする仮想サーバーを作成するには、手順 7 ～9 を実行します。

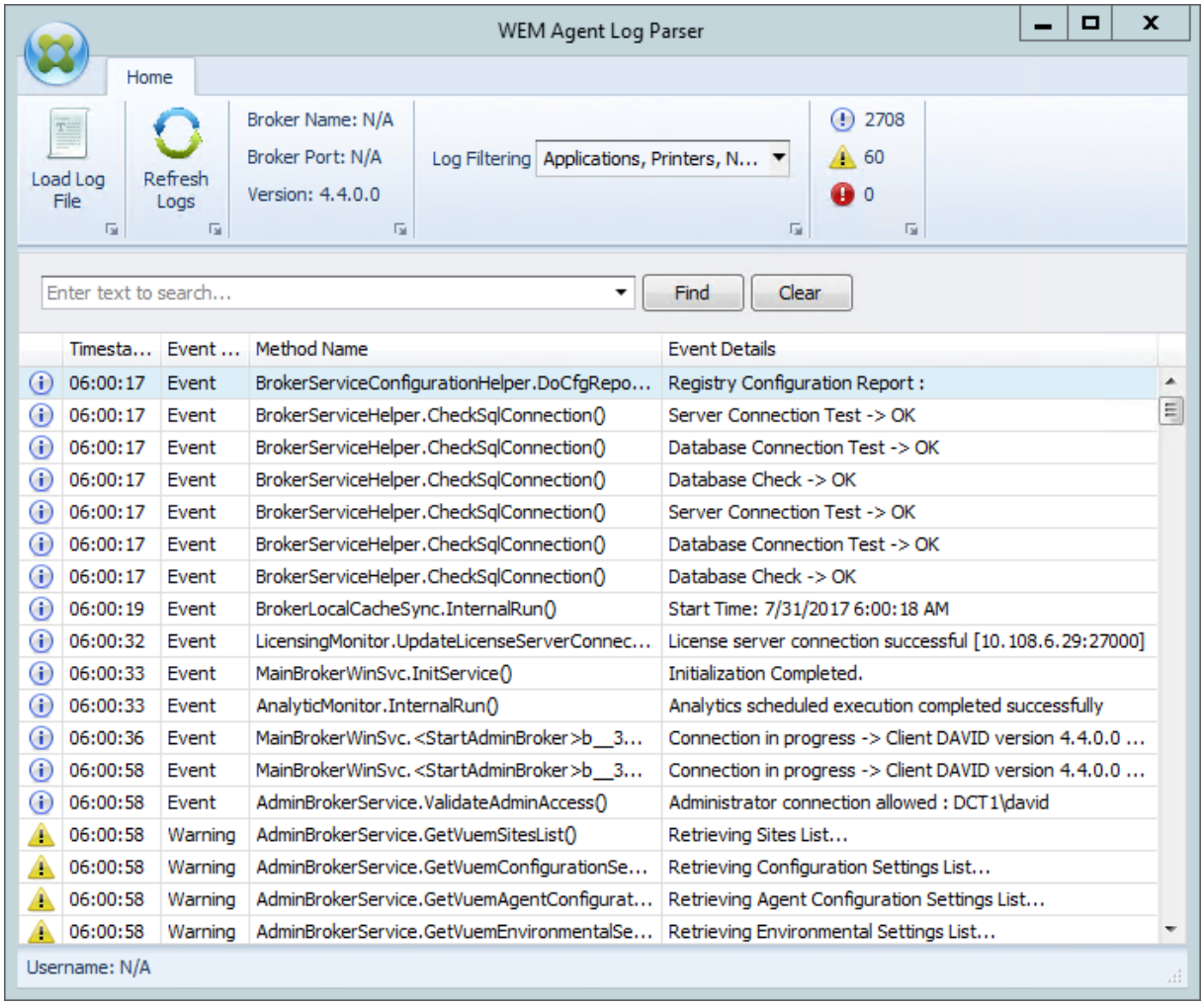
    - ポート。エージェントサービスポートには、8286 と入力します。キャッシュされたデータ同期ポートには、「8288」と入力します。

ログパーサー

June 1, 2023

Workspace Environment Management には、エージェントのインストール・ディレクトリにあるログ・パーサー・アプリケーションが含まれています。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



WEM エージェントログパーサーを使用すると、Workspace Environment Management エージェントログファイルを開くことができ、検索およびフィルター処理が可能です。パーサーは、イベント、警告、および例外の合計数を要約します (リボンの右上)。また、ログファイル (最初に接続したインフラストラクチャサービスの名前とポート、エージェントのバージョンとユーザー名) の詳細も表示されます。

ポート情報

June 1, 2023

Workspace Environment Management では、次のポートを使用します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

接続元	接続先	種類	ポート	詳細
インフラストラクチャ・サービス	エージェントホスト	TCP	49752	「エージェントポート」です。インフラストラクチャサービスから命令を受信するエージェントホストのリスニングポート。
管理コンソール	インフラストラクチャ・サービス	TCP	8284	「管理ポート」です。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポート。
エージェント	インフラストラクチャ・サービス	TCP	8286	「エージェントサービスポート」エージェントがインフラストラクチャ・サーバに接続するポート。
エージェントキャッシュの同期プロセス	インフラストラクチャ・サービス	TCP	8288	「キャッシュされたデータ同期ポート」。Workspace Environment Management 1912 以降に適用可能。Workspace Environment Management 1909 以前のキャッシュ同期ポートを置き換えます。エージェントキャッシュの同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続して、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期させるポート。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

接続元	接続先	種類	ポート	詳細
インフラストラクチャ・サービス	Citrix ライセンスサーバー	TCP	27000	「Citrix ライセンスサーバーのポート」。Citrix License Server がリッスンしているポート、およびインフラストラクチャサービスがライセンスを検証するために接続するポート。
インフラストラクチャ・サービス	Citrix ライセンスサーバー	TCP	7279	Citrix ライセンスサーバーの専用コンポーネント（デーモン）がライセンスを検証するために使用するポート。
監視サービス	インフラストラクチャ・サービス	TCP	8287	「WEM 監視ポート」。監視サービスによって使用されるインフラストラクチャサーバーのリスニングポート。

ログファイルの表示

June 1, 2023

Workspace Environment Management (WEM) に関連するログを収集して表示できます。ログは、Citrix テクニカルサポートに連絡して支援を受けるときに問題を自分でトラブルシューティングしたり、ログを提供したりするために使用します。次の項目に関連するログを収集できます。

- WEM エージェント
- WEM インフラストラクチャサービス
- WEM 管理コンソール
- WEM データベース

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

エージェントに関連するログ

WEM エージェントに関連するログを収集できます。WEM エージェントがインストールされているマシンで収集できるログは次のとおりです。

- **WEM** エージェントログ
  - **Citrix WEM** エージェント **Init.log**。CMD または UI モードのエージェントに関する問題のトラブルシューティングを行う初期化ログ。ログは、ログオン時または更新時に作成されます。エージェントが起動できない場合は、このログファイルを表示してエラーの詳細を確認します。エラーは例外として表示されます。デフォルトでは、このログファイルはユーザーのプロファイルフォルダ (%userprofile%) に作成されます。
  - **Citrix WEM Agent.log**。CMD または UI モードでエージェントに関する問題のトラブルシューティングを行うプライマリログ。ログには、エージェントが処理した命令がリストされます。アクションが現在のユーザーに割り当てられない場合は、このログファイルを表示してエラーの詳細を確認します。エラーは例外として表示されます。デフォルトでは、このログファイルはユーザーのプロファイルフォルダ (%userprofile%) に作成されます。デフォルトを変更するには、[管理コンソール**] > [**詳細設定**] > [**構成**] > [**エージェントオプション] の順に選択し、[エージェントログの有効化] 設定を構成します。詳細を表示するには、[エージェントオプション] タブで [デバッグモード] を有効にします。または、次のレジストリキーを設定してロギングを有効にすることもできます。

    Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\Agent Host

    名前:AgentDebugModeLocalOverride

    種類：DWORD

    値：0

    値を 1 に設定してログファイルを有効にし、無効にするには 0 に設定します。変更を有効にするには、Citrix WEM エージェントホストサービスを再起動します。デフォルトでは、ログは無効になっています。

    > 注意：
    >
    > レジストリエディターの使用を誤ると、深刻な問題が発生する可能性があり、オペレーティングシステムの再インストールが必要になる場合もあります。レジストリエディターの誤用による障害に対して、Citrix では一切責任を負いません。レジストリエディターは、お客様の責任と判断の範囲でご使用ください。また、レジストリファイルのバックアップを作成してから、レジストリを編集してください。

  - **Citrix WEM** エージェントホストサービス **Debug.log**。Citrix WEM エージェントホストサービスの問題のトラブルシューティングを行うログ。デフォルトでは、このログファイルは%`PROGRAMFILES(X86)`%\`Citrix\Workspace Environment Management Agent`にあります。ロ

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

ギングを有効にするには、[管理コンソール] **>** [詳細設定] **>** [構成] **>** [サービスオプション] タブで、**** 関連する構成セットのデバッグモードを有効にしてください ** 。または、次のレジストリキーを設定してロギングを有効にすることもできます。

Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\Agent Host

名前:AgentServiceDebugModeLocalOverride

種類：DWORD

値：0

値を 1 に設定してログファイルを有効にし、無効にするには 0 に設定します。変更を有効にするには、Citrix WEM エージェントホストサービスを再起動します。デフォルトでは、ログは無効になっています。

> 注意：
>
> レジストリエディターの使用を誤ると、深刻な問題が発生する可能性があり、オペレーティングシステムの再インストールが必要になる場合もあります。レジストリエディターの誤用による障害に対して、Citrix では一切責任を負いません。レジストリエディターは、お客様の責任と判断の範囲でご使用ください。また、レジストリファイルのバックアップを作成してから、レジストリを編集してください。

- **Windows** イベントログ。Windows イベントログに書き込まれる情報。[イベントビューア] **>** [アプリケーションとサービスログ] **>** [**WEM** エージェントサービス] ペインでログを表示します。
- **Windows** コミュニケーション財団 **(WCF)** トレースします。WEM エージェントと WEM インフラストラクチャサービス間の通信に関連する問題が発生したときに役立つログ。ロギングを有効にするには、WCF トレースを有効にする必要があります。詳細については、「Windows 通信基盤のトレース」を参照してください。

インフラストラクチャサービスに関連するログ

WEM インフラストラクチャサービスに関連するログを収集できます。WEM インフラストラクチャサービスがインストールされているマシンで収集できるログには、次のものがあります。

- **Windows** イベントログ。Windows イベントログに書き込まれる情報。[イベントビューア] **>** [アプリケーションとサービスログ] **>** [**Norskale Broker Service**] ペインでログを表示します。
- **Citrix WEM** インフラストラクチャサービス **Debug.log**。Citrix WEM インフラストラクチャサービス（Norskale Broker Service.exe）に関する問題のトラブルシューティングを行うログ。デフォルトでは、このログファイルは`%PROGRAMFILES(X86)%\ Norskale\Norskale Infrastructure Services`にあります。このログファイルを有効にするには、次の手順に従ってデバッグモードを有効にします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

1. [スタート] メニューから **WEM** インフラストラクチャサービス構成ユーティリティを開きます。
2. [詳細設定] タブで、[デバッグモードを有効にする] を選択します。
3. [設定の保存] をクリックし、[はい] をクリックして、サービスを開始して変更を適用します。
4. **WEM** インフラストラクチャサービス構成ユーティリティウィンドウを閉じます。

- **WCF** トレース。WEM インフラストラクチャサービスに関連する通信の問題が発生したときに役立つログです。ロギングを有効にするには、WCF トレースを有効にする必要があります。詳細については、「Windows 通信基盤のトレース」を参照してください。

管理コンソールに関連するログ

WEM 管理コンソールに関連するログを収集できます。管理コンソールがインストールされているマシンで収集できるログは次のとおりです。

- **Citrix WEM** コンソール **Trace.log**。WEM 管理コンソールの問題をトラブルシューティングするためのログ。デフォルトでは、このログファイルはユーザーのプロファイルフォルダ (%userprofile%) に作成されます。ロギングを有効にするには、次の手順に従ってデバッグモードを有効にします。

  1. [スタート] メニューから **WEM** 管理コンソールを開き、[接続] をクリックします。
  2.「新規インフラストラクチャサーバ接続」ウィンドウで情報を確認し、「接続」をクリックします。
  3. [バージョン情報] タブで、[オプション] をクリックし、[デバッグモードを有効にする] を選択します。
  4. [適用] をクリックして変更を適用します。

- **WCF** トレース。WEM 管理コンソールと WEM データベース間の通信に関連する問題が発生したときに役立つログ。ロギングを有効にするには、WCF トレースを有効にする必要があります。詳細については、「Windows 通信基盤のトレース」を参照してください。

WEM データベースに関連するログ

WEM データベースに関連するログを収集できます。ログは、WEM データベース管理ユーティリティを使用してデータベースを作成またはアップグレードするときに作成されます。詳細については、次のログファイルを参照してください。

- **Citrix WEM** データベース管理ユーティリティのデバッグ **Log.log**。WEM データベースに関する問題のトラブルシューティングを行うログ。このログファイルはデフォルトで作成され、`C:\Program Files (x86)\Norskale\Norskale Infrastructure Services`にあります。

Windows コミュニケーション財団のトレース

Windows コミュニケーション財団 (WCF) トレースを表示して、次の問題のトラブルシューティングに役立ちます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

- エージェントとインフラストラクチャサービス間の通信
- WEM インフラストラクチャサービスに関連する通信
- WEM 管理コンソールに関連する通信

エージェントとインフラストラクチャサービス間の通信のトラブルシューティング

WEM エージェントが WEM インフラストラクチャサービスと正しく通信しない場合は、VUEMUIAgent.exe サービスの WCF トレースを表示できます。WCF トレースを有効にするには、次の手順を実行します。

1. WEM エージェントマシンにログオンします。
2. タスクバーのエージェントアイコンを右クリックし、[終了] を選択してエージェントを閉じます。
3. `%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Agent` で vueMuiagent.exe.config ファイルを見つけて、ファイルのバックアップコピーを作成します。
4. メモ帳またはワードパッドでファイルを開き、`<configuration>`と`</configSections>`マーカーの間のセクションに次のスニペットを挿入します。
5. ファイルを保存します。

```
<system.diagnostics>
    <sources>
            <source name="System.ServiceModel"
                    switchValue="Information, ActivityTracing"
                    propagateActivity="true">
            <listeners>
            <add name="traceListener"
                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"
                initializeData= "c:\trace\vuemUIAgent-Traces.
                    svclog" />
            </listeners>
        </source>
    </sources>
</system.diagnostics>
```

6. エージェントマシンで、C ドライブ (C:\Trace) に「Trace」というルートフォルダを作成します。フォルダがすでに存在する場合は、この手順をスキップします。
7. 発生した問題を再現し、VUEMUIAgent.exe プロセスを終了します。
8. `C:\Trace`の`vuemUIAgent-Traces.svclog`という名前のログファイルを表示します。

Citrix.wem.Agent.service.exe サービスの WCF トレースを表示することもできます。次の手順を実行します:

1. WEM エージェントマシンにログオンします。
2. タスクバーのエージェントアイコンを右クリックし、[終了] を選択してエージェントを閉じます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

3. Citrix WEM エージェントホストサービスを終了します。
4. %PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Agent で Citrix.wem.Agent.service.exe.config ファイルを見つけて、ファイルのバックアップコピーを作成します。
5. メモ帳またはワードパッドでファイルを開き、</configSections>マーカーの直後の 4 行目から始まる次のスニペットをファイルに挿入します。
6. ファイルを保存します。

```
<system.diagnostics>
    <sources>
            <source name="System.ServiceModel"
                    switchValue="Information, ActivityTracing"
                    propagateActivity="true">
            <listeners>
            <add name="traceListener"
                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"
                initializeData= "c:\trace\NorskaleAgentHostService
                    -Traces.svclog" />
            </listeners>
        </source>
    </sources>
</system.diagnostics>
```

7. エージェントマシンで、C ドライブ (C:\Trace) に「Trace」というルートフォルダを作成します。フォルダがすでに存在する場合は、この手順をスキップします。
8. Citrix WEM エージェントホストサービスという Windows サービスを開始し、発生した問題を再現します。
9. C:\TraceのNorskaleAgentHostService-Traces.svclogという名前のログファイルを表示します。

WEM インフラストラクチャサービスに関連する通信のトラブルシューティング

WEM インフラストラクチャサービスに関連する通信の問題が発生した場合は、Norskale Broker サービスの WCF トレースを表示できます。WCF トレースを有効にするには、次の手順を実行します。

1. WEM インフラストラクチャサービスがインストールされているマシンにログオンします。
2. Norskale インフラストラクチャサービスを終了します。
3. %PROGRAMFILES(X86)%\Norskale\Norskale Infrastructure Servicesで Norskale Broker Service.exe.config ファイルを探し、ファイルのバックアップコピーを作成します。
4. メモ帳またはワードパッドでファイルを開き、<configuration>マーカーの直後の 3 行目から始まる次のスニペットをファイルに挿入します。

```
<system.diagnostics>
```

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

```
2       <sources>
3               <source name="System.ServiceModel"
4                       switchValue="Information, ActivityTracing"
5                       propagateActivity="true">
6               <listeners>
7               <add name="traceListener"
8                   type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"
9                   initializeData= "c:\trace\
                       NorskaleInfrastructureBrokerService-Traces.
                       svclog" />
10              </listeners>
11          </source>
12      </sources>
13  </system.diagnostics>
```

5. ファイルを保存します。
6. WEM インフラストラクチャサービスマシンで、C ドライブ (C:\Trace) に「Trace」というルートフォルダを作成します。フォルダがすでに存在する場合は、この手順をスキップします。
7. Norskale インフラストラクチャサービスを開始し、発生した問題を再現します。
8. `C:\Trace`の`NorskaleInfrastructureBrokerService-Traces.svclog`という名前のログファイルを表示します。

WEM 管理コンソールと **WEM** データベース間の通信のトラブルシューティング

WEM 管理コンソールと WEM データベース間の通信に関連する問題が発生した場合は、Norskale 管理 Console.exe サービスの WCF トレースを表示できます。WCF トレースを有効にするには、次の手順を実行します。

1. WEM 管理コンソールマシンにログオンします。
2. WEM 管理コンソールを閉じます。
3. `%PROGRAMFILES(X86)%\Norskale\Norskale Administration Console`で Norskale 管理コンソール.exe.config ファイルを見つけて、ファイルのバックアップコピーを作成します。
4. メモ帳またはワードパッドでファイルを開き、`<configuration>` マーカーの直後の 3 行目から次のスニペットをファイルに追加します。

```
1   <system.diagnostics>
2       <sources>
3               <source name="System.ServiceModel"
4                       switchValue="Information, ActivityTracing"
5                       propagateActivity="true">
6               <listeners>
7               <add name="traceListener"
8                   type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"
9                   initializeData= "c:\trace\WEMConsole-Traces.svclog
                       " />
10              </listeners>
```

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

```
11          </source>
12      </sources>
13  </system.diagnostics>
```

5. ファイルを保存します。
6. 管理コンソールマシンで、C ドライブ (C:\Trace) に「Trace」という名前のルートフォルダーを作成します。フォルダがすでに存在する場合は、この手順をスキップします。
7. WEM 管理コンソールを開き、発生した問題を再現します。
8. `C:\Trace`の`WEMConsole-Traces.svclog`という名前のログファイルを表示します。

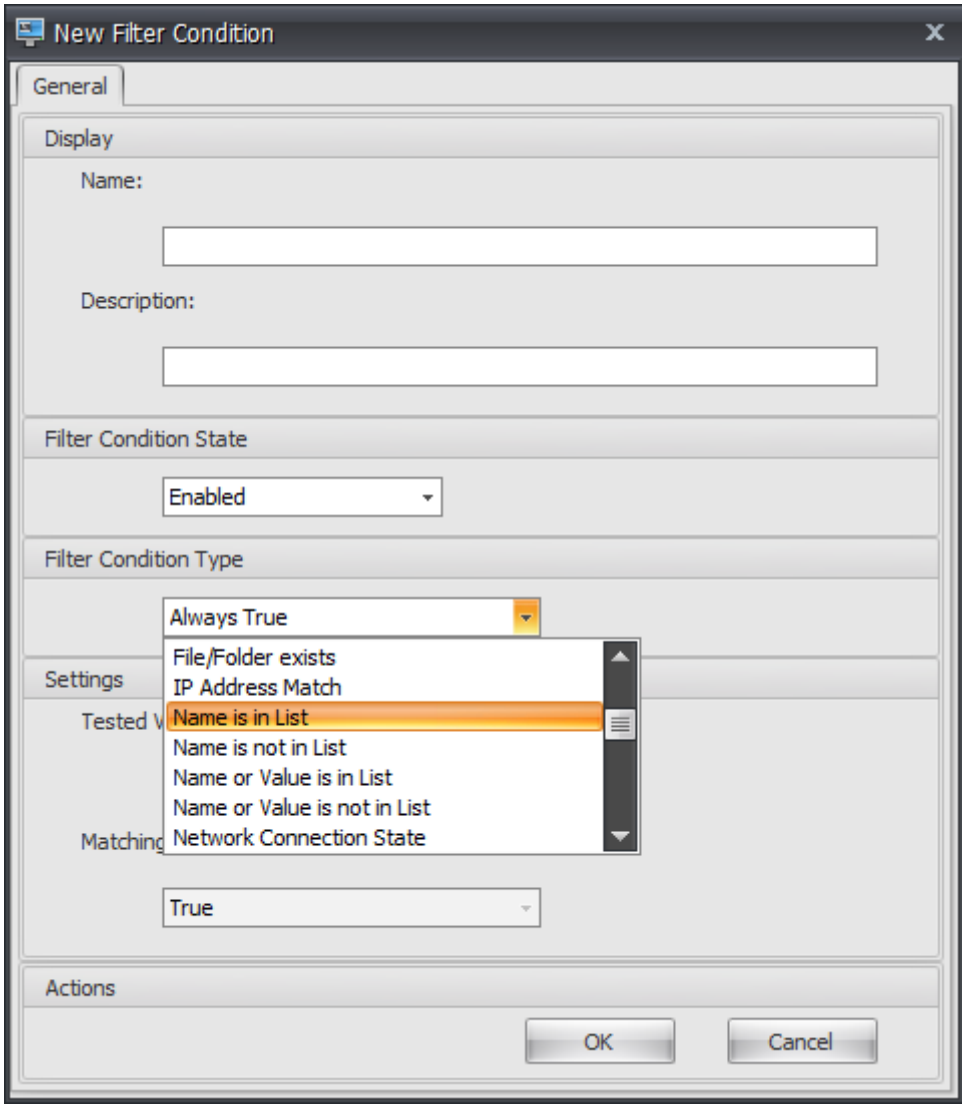
WEM 整合性条件リストマネージャー

June 1, 2023

WEM 整合性条件リストマネージャは、フィルタ処理のために XML ファイルを作成するのに役立つ強力なツールです。このツールは、次のフィルタ条件タイプで使用されます。[名前がリストにありません]、**[**名前がリストにない**]**、**[**名前または値がリストにありません**]**、**[**名前**]** または **[**値**]** がリストにありません。管理コンソールでのこれらの条件の使用について詳しくは、「フィルタ」を参照してください。

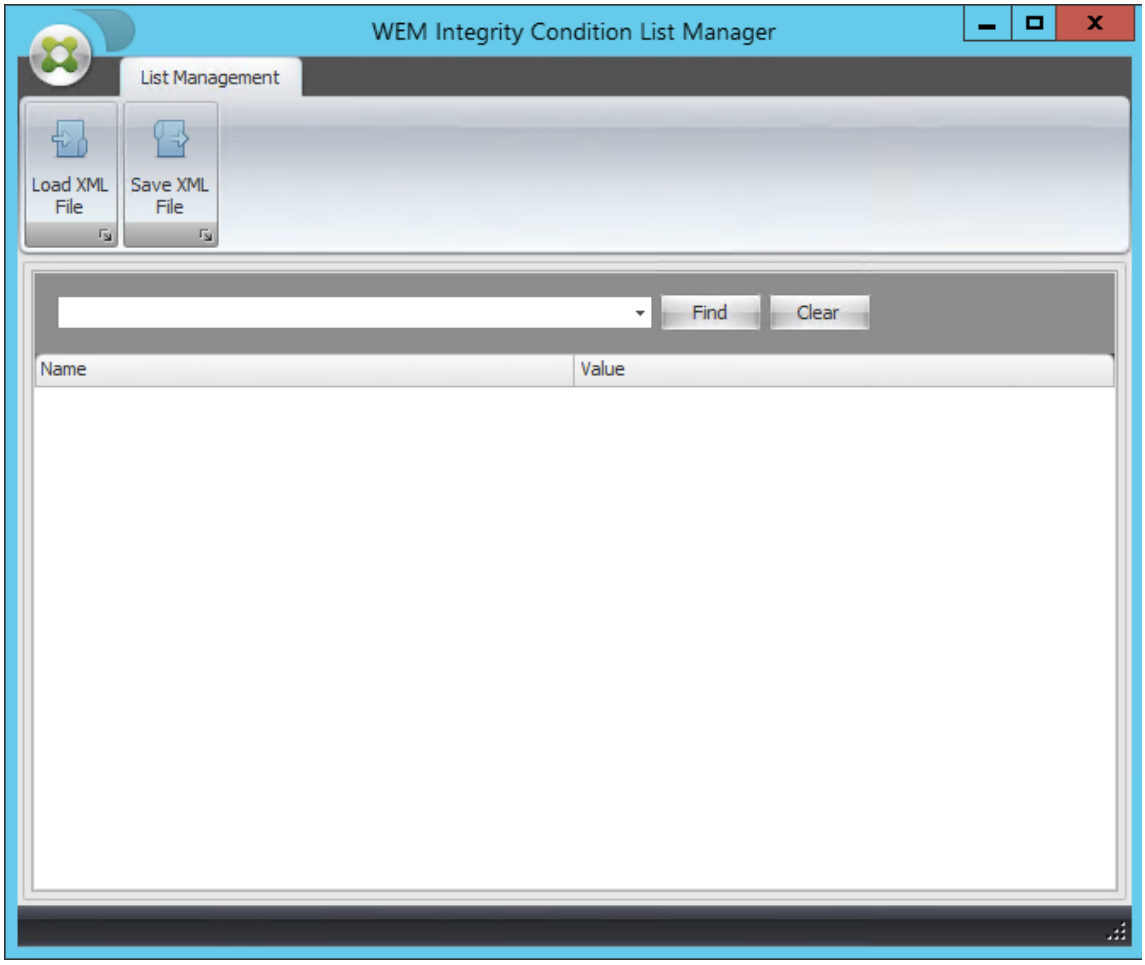
この資料では、WEM 整合性条件リストマネージャーを使用して、フィルタリング目的の XML ファイルを作成する方法について説明します。たとえば、WEM 整合性条件リストマネージャを [リストに名前] とともに使用して、アクションをフィルタリングするとします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



1. WEM 整合性条件リストマネージャを開きます。

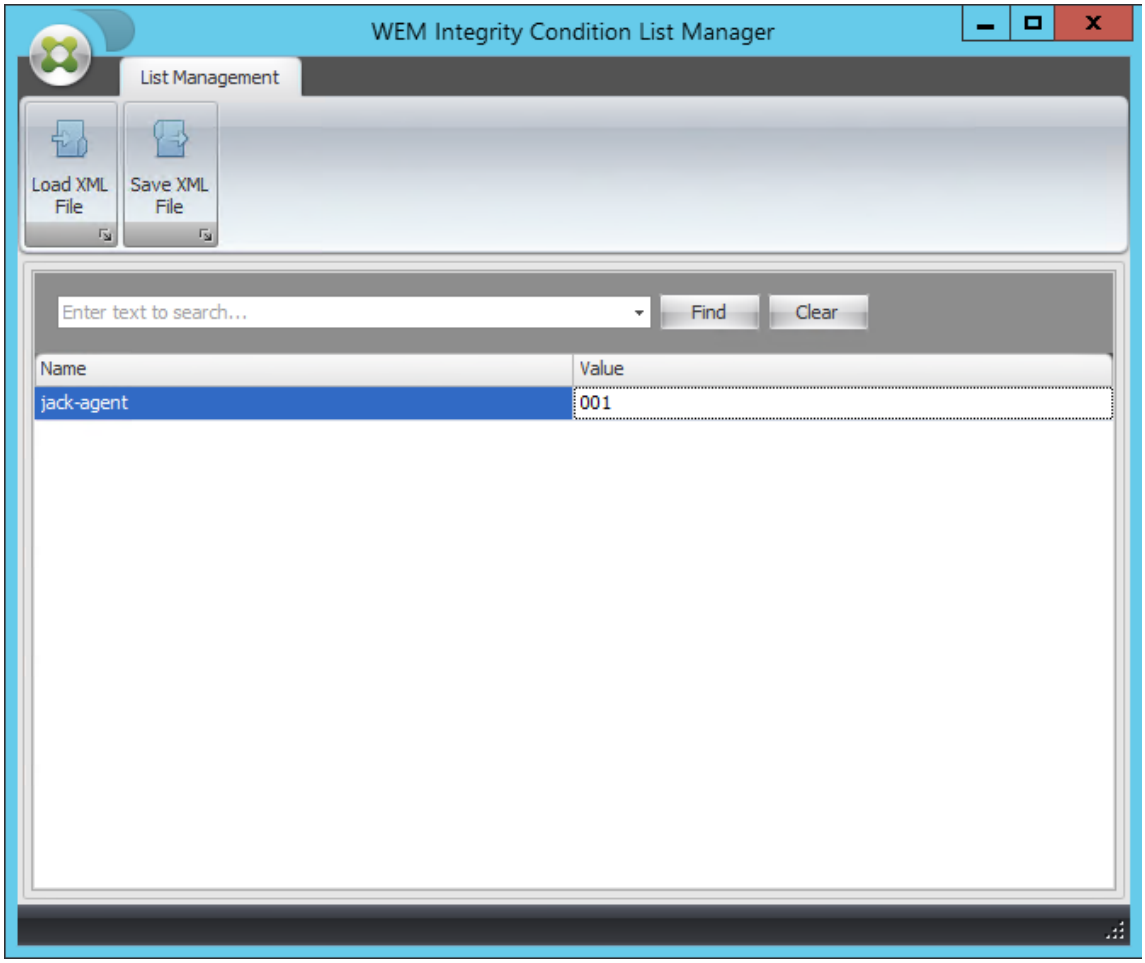
© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



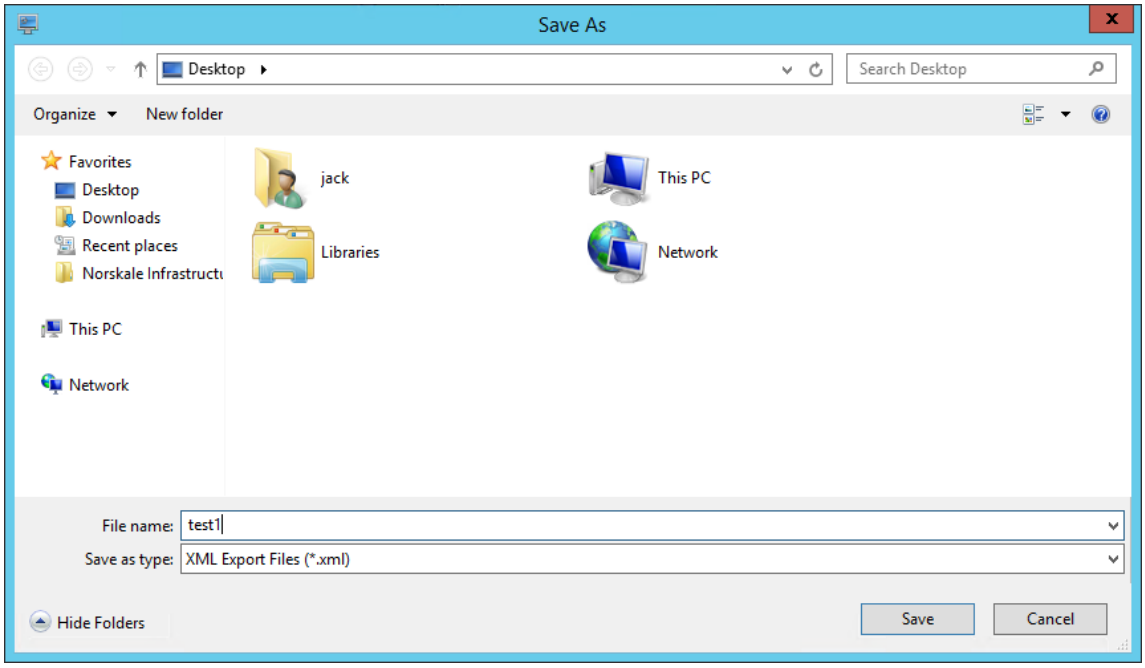
2. 空白領域を右クリックし、コンテキストメニューから [追加] を選択します。
3. [名前] フィールドに名前を入力します。

> 注:
>
> WEM エージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）の名前を入力します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

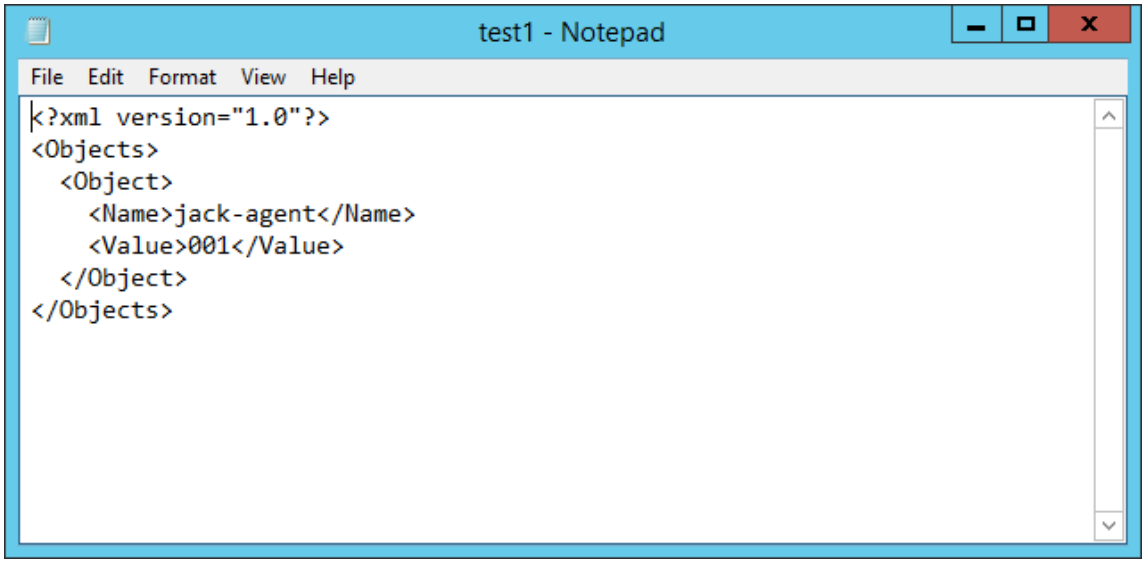


4. [**XML** ファイルの保存] をクリックし、目的のフォルダーを参照して、[保存] をクリックします。



© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

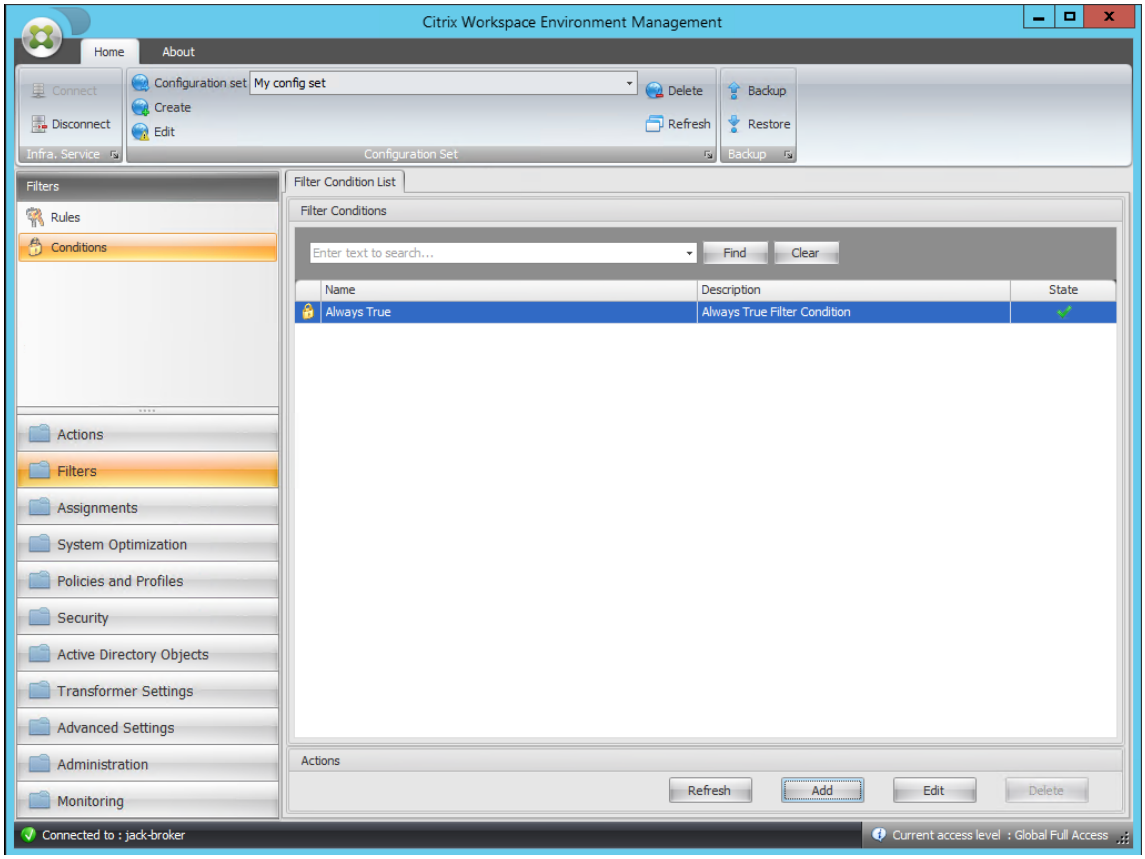
5. 保存された XML ファイルを開き、指定した情報が正しく保存されたことを確認します。



6. 保存した XML ファイルをエージェントホスト上のフォルダにコピーします。

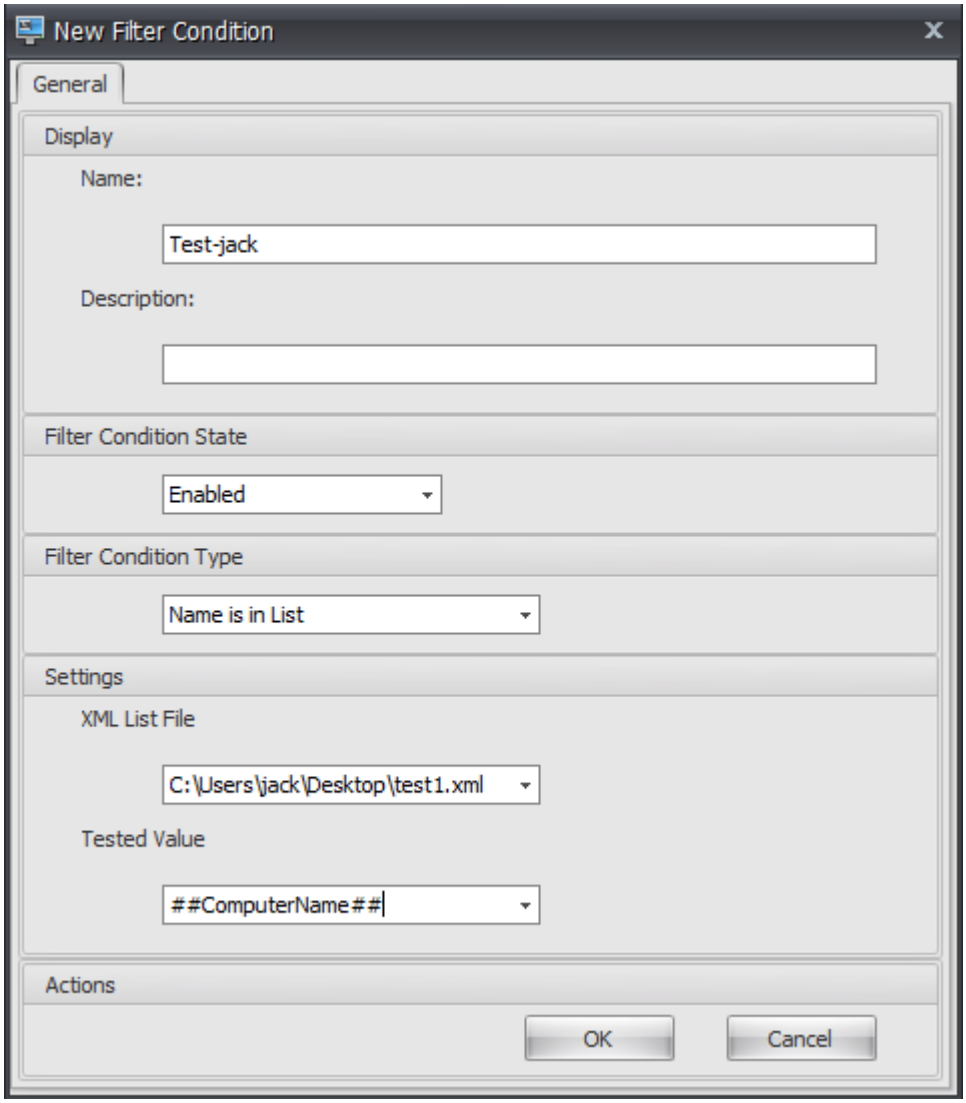
> 注:
>
> この機能は、管理コンソールマシンに XML ファイルを保存すると機能しません。

7. [管理コンソール] **>** [フィルタ] **>** [条件] **>** [フィルタ条件リスト] タブに移動し、[追加] をクリックします。



© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

8. 情報を入力し、「**OK**」をクリックします。

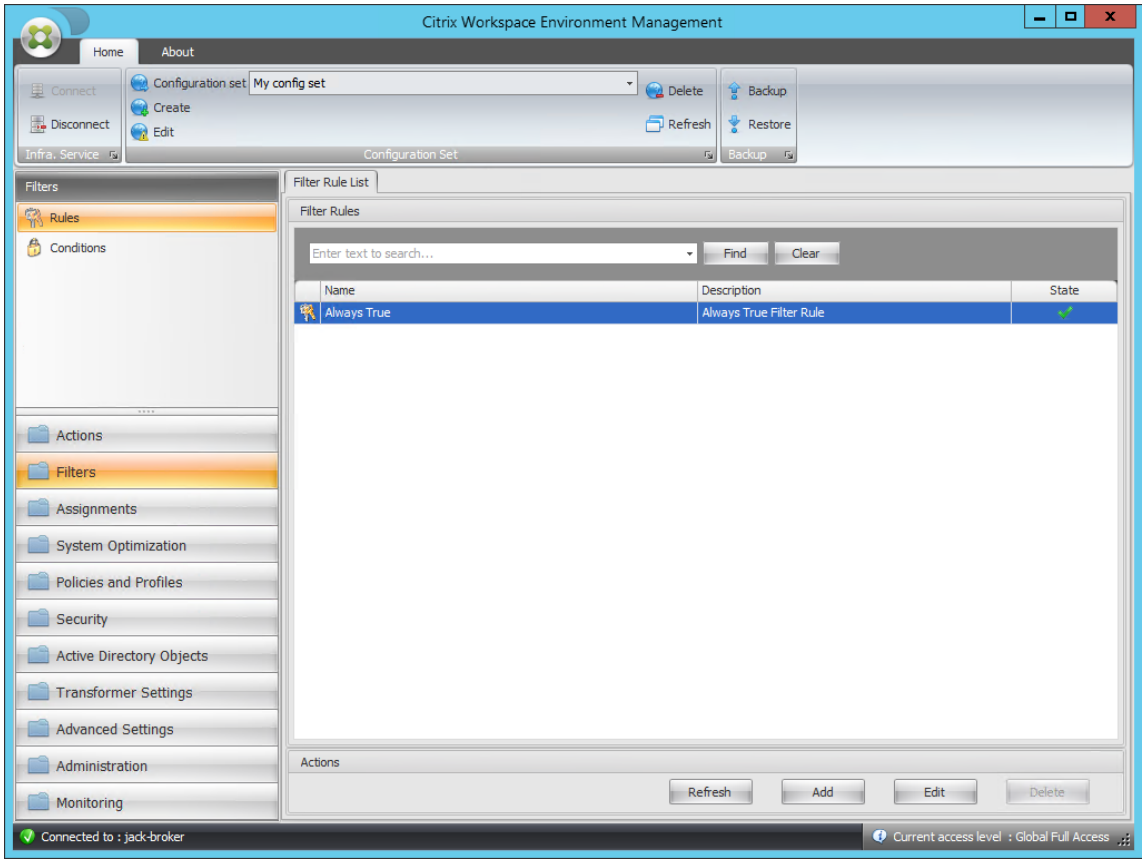


注:

- フィルタ条件タイプ。[名前がリストにいます] を選択します。
- **XML** リストファイル:C:\\ Users\ <user1\ >\\ デスクトップ\\ test1.xml（エージェントホスト上のファイルアドレス）
- テストされた値。WEM 整合性条件リストマネージャの [名前] フィールドに入力した名前に対応する動的トークンを入力します。この例では、エージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）の名前を入力しました。したがって、動的トークン「##ComputerName##.」動的トークンの使用の詳細については、動的トークンを参照してください。

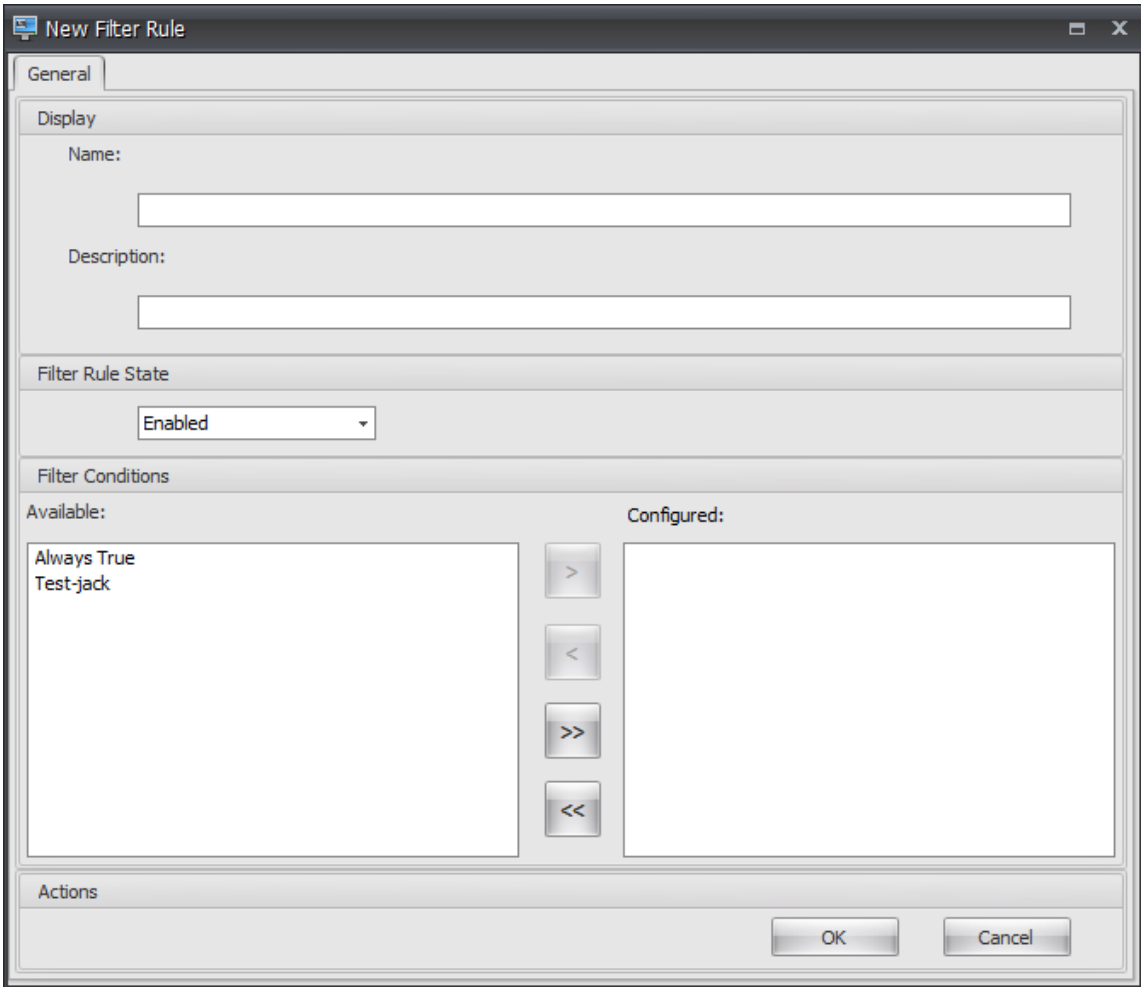
9. [管理コンソール] **>** [フィルタ] **>** [ルール] **>** [フィルタ規則リスト] タブに移動し、[追加] をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



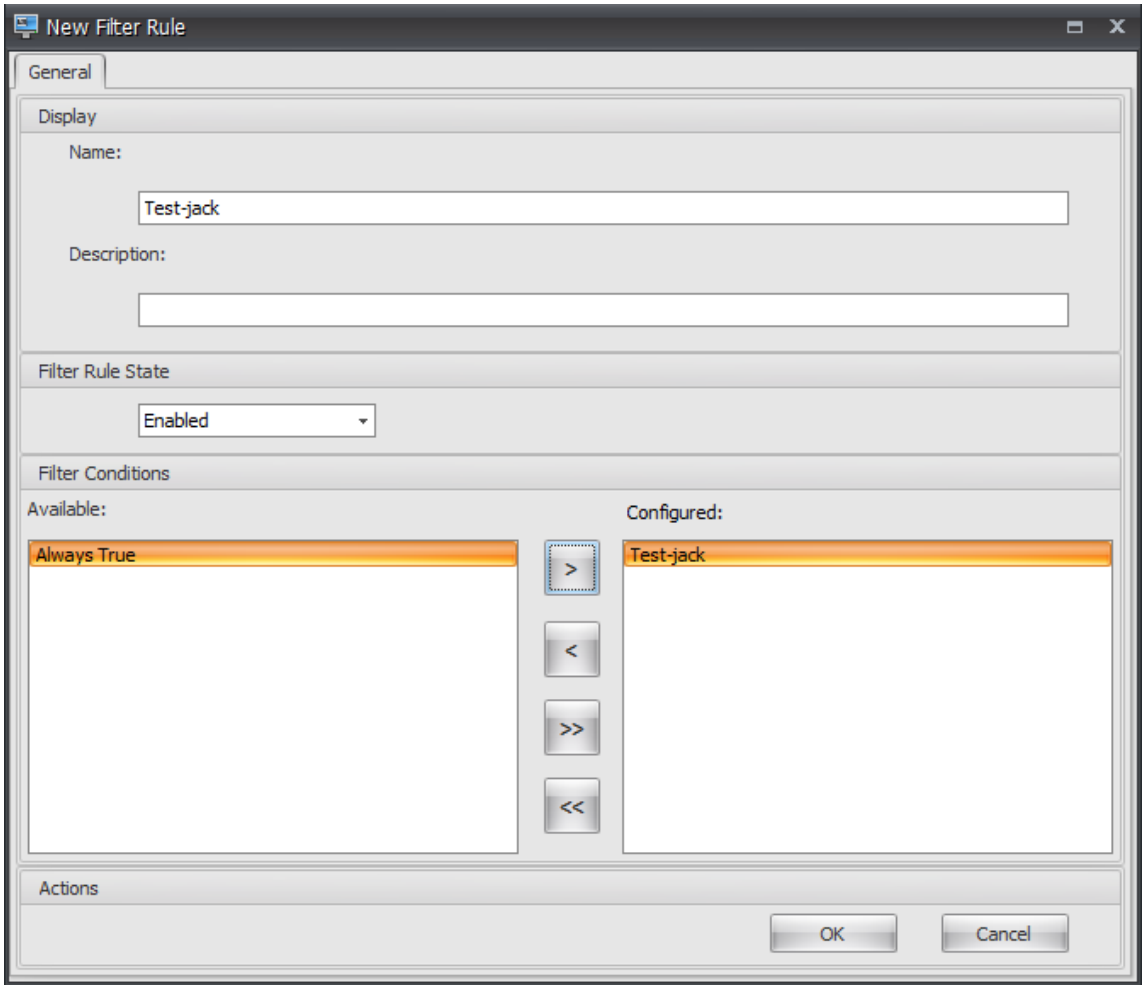
10. [名前] フィールドにフィルタ名を入力します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



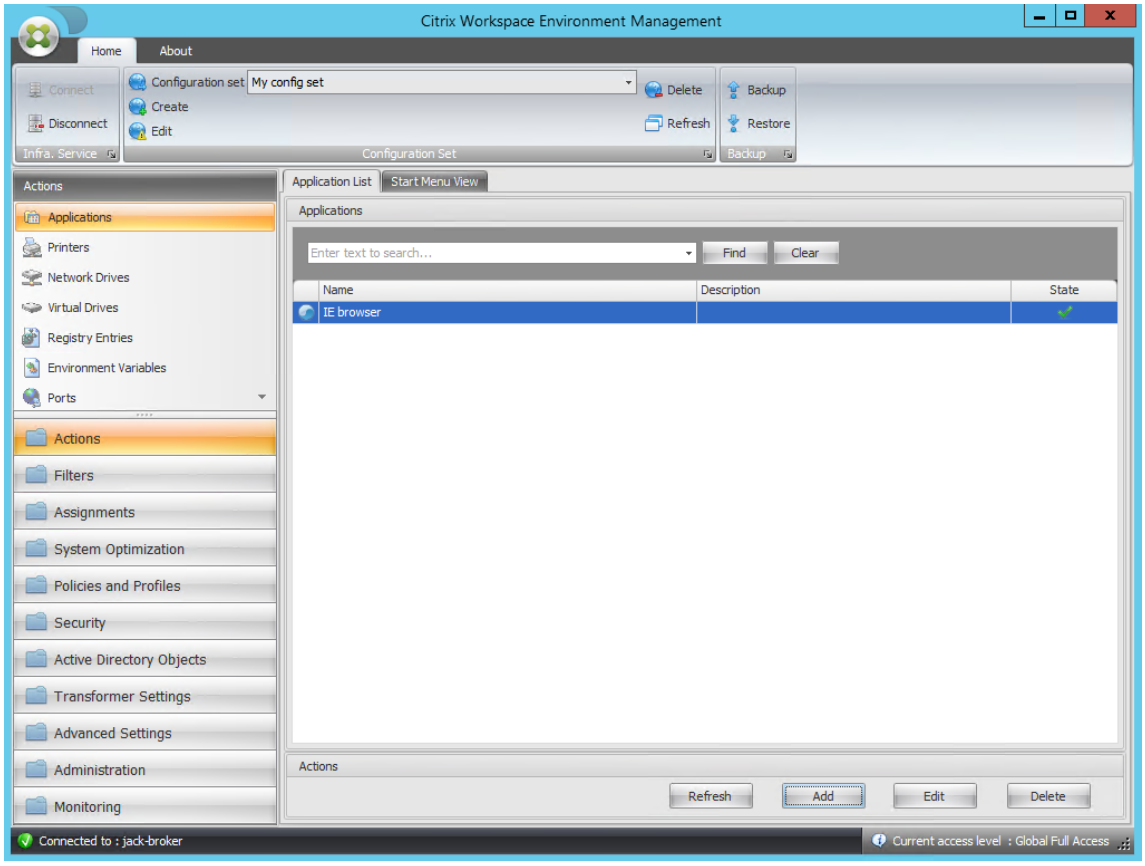
11. 構成済みの条件を［使用可能］ペインから［構成済み］ペインに移動し、［**OK**］をクリックします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



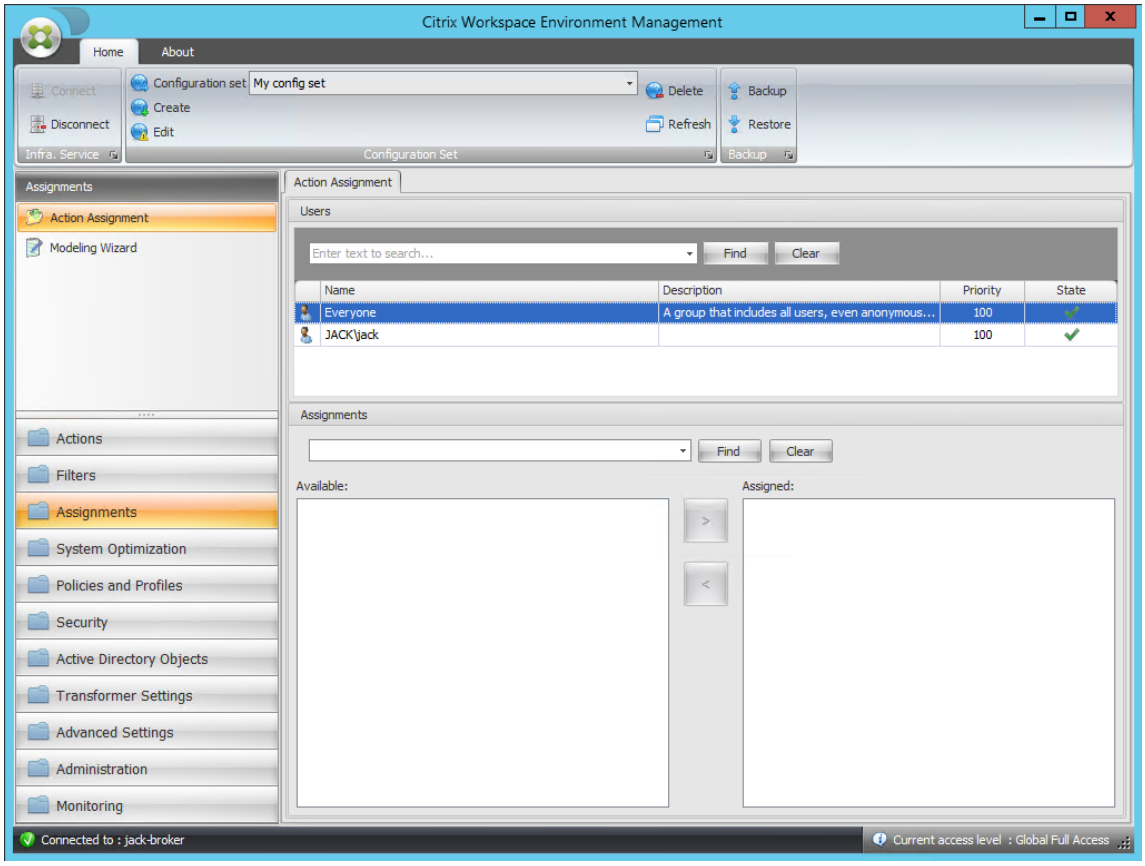
12. [管理コンソール] **>** [アクション] **>** [アプリケーション] **>** [アプリケーションリスト] タブに移動し、アプリケーションを追加します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



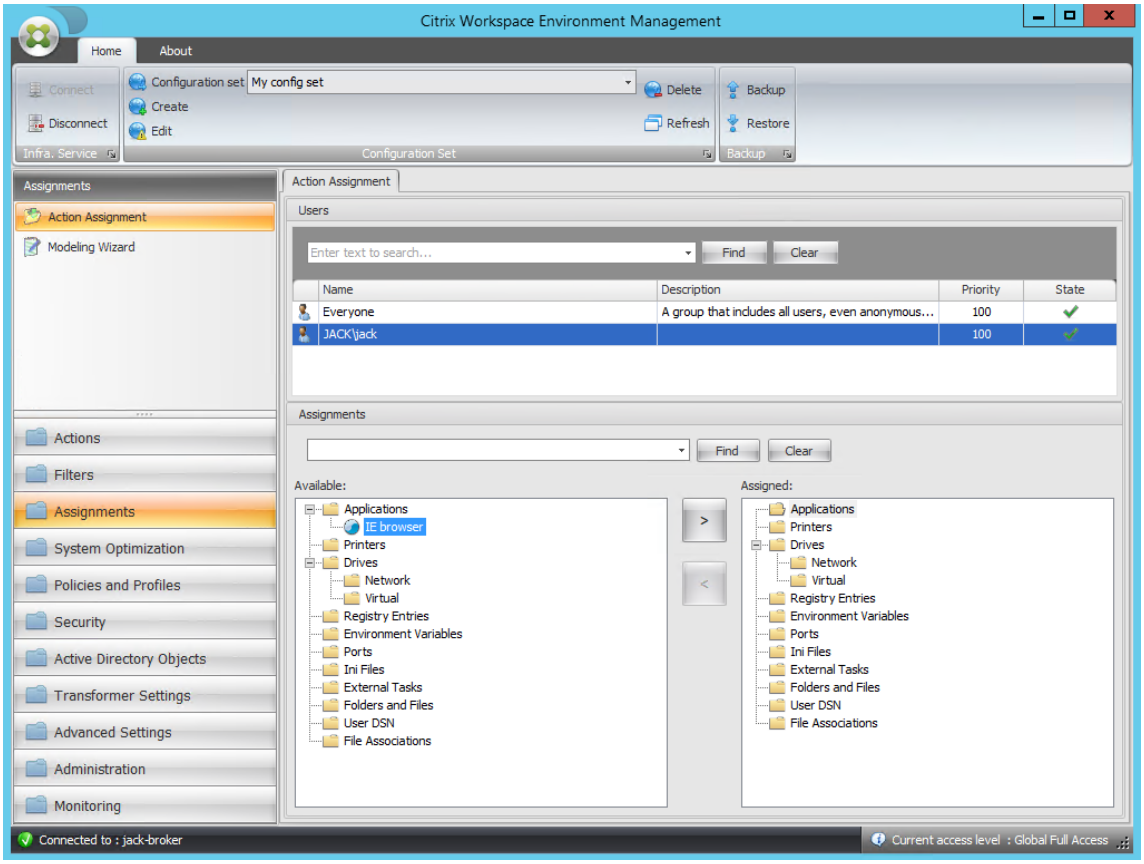
13. [管理コンソール] **>** [割り当て] **>** [アクションの割り当て] タブに移動します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

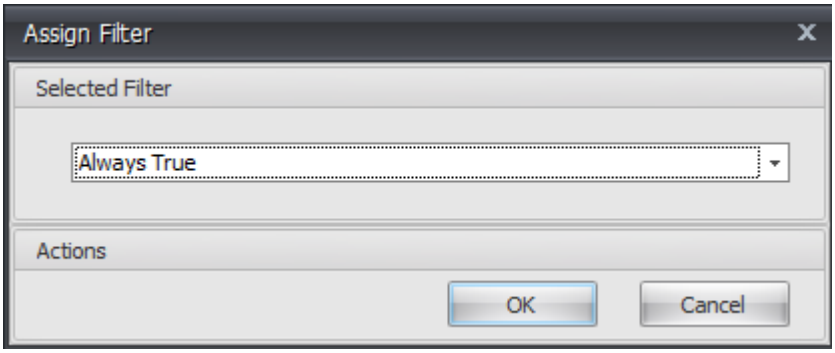


14. 目的のユーザーまたはユーザー・グループをダブルクリックします（この例では、エージェントホストを選択します）。

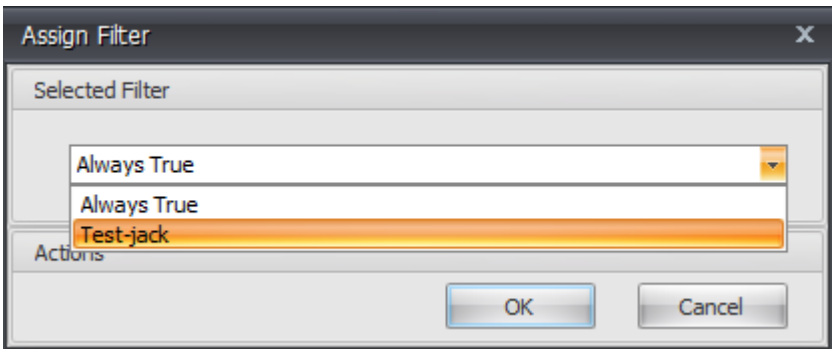
© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



15. アプリケーションを [使用可能] ペインから [割り当て済み] ペインに移動します。

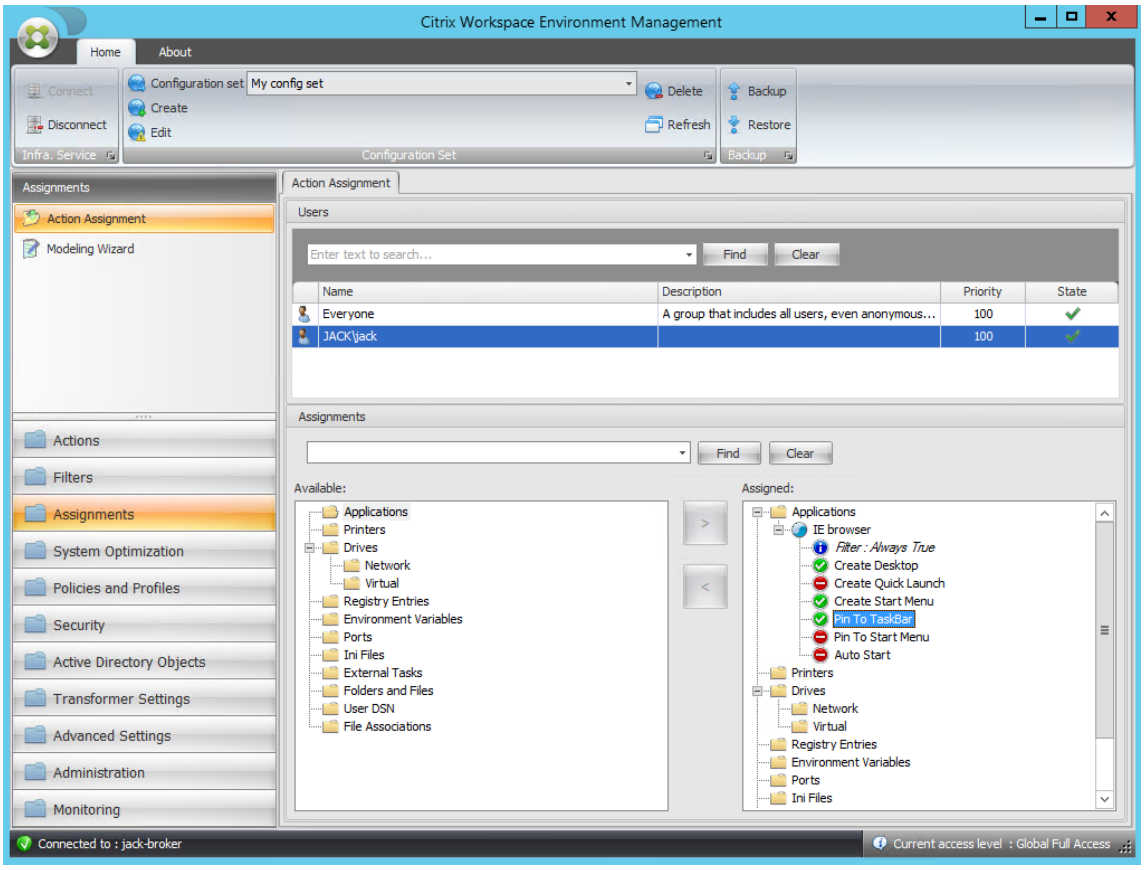


16. フィルタを選択し、「**OK**」をクリックします。



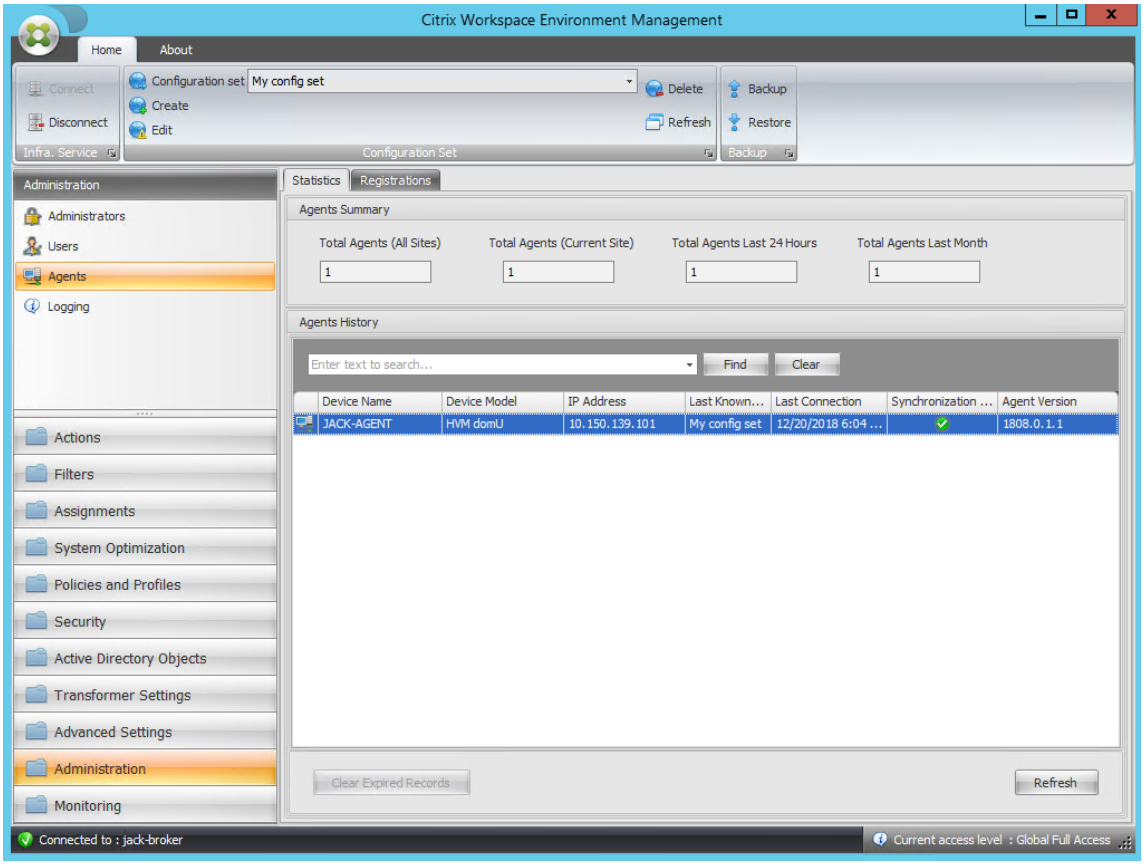
© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

17. 割り当てられたアプリケーションのオプションを有効にします (この例では、[デスクトップの作成] および [タスクバーに固定] を有効にします)。



18. [管理コンソール] **>** [管理] **>** [エージェント] **>** [統計] タブに移動し、[更新] をクリックします。

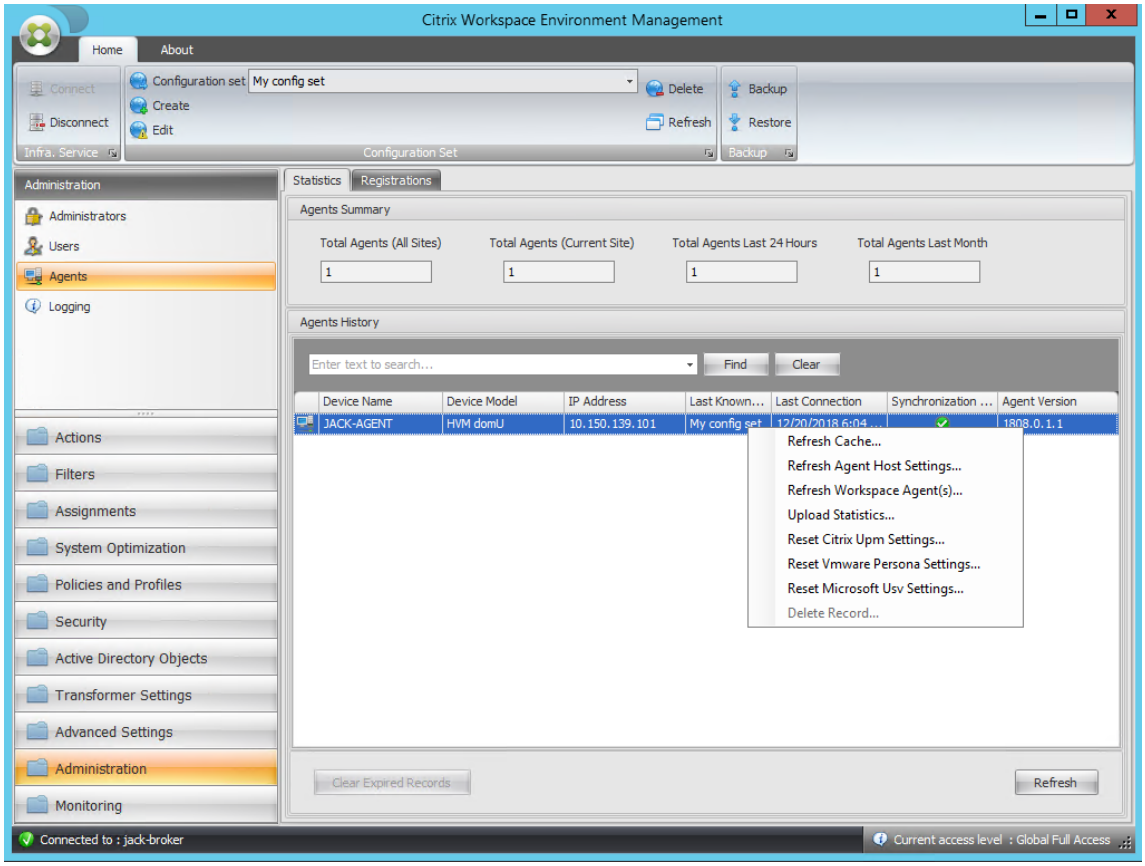
© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



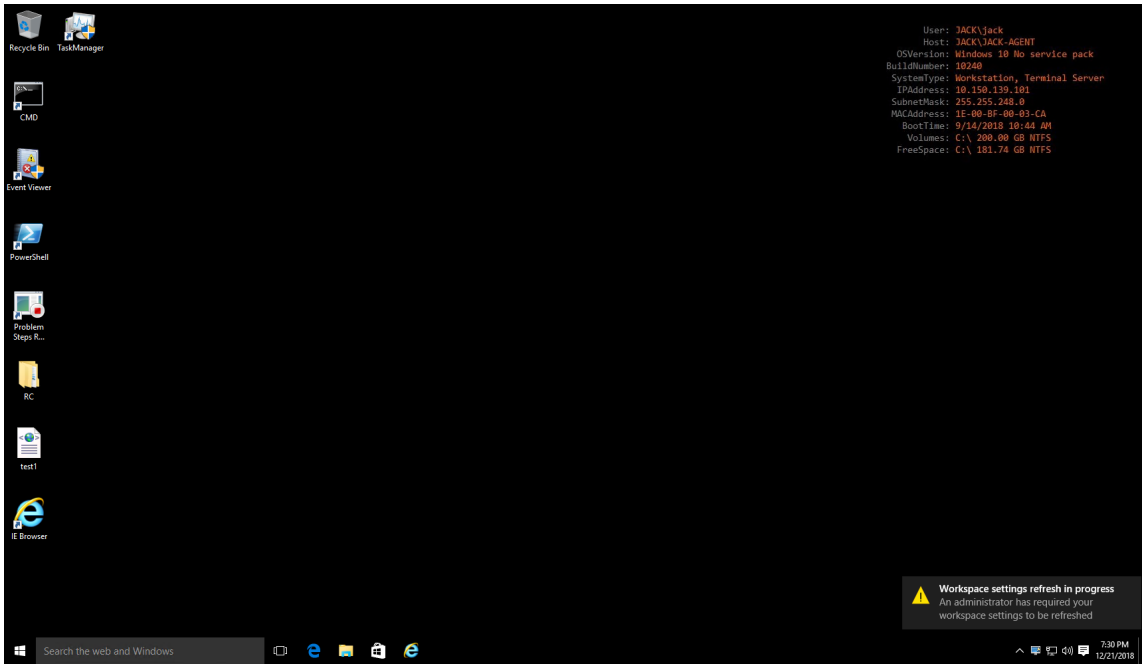
19. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューから [ワークスペースエージェントのリフレッシュ] を選択します。

> 注:
>
> 設定を有効にするには、エージェントが実行されているマシンに移動して、Citrix WEM Agent を更新することもできます。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.



20. エージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）に移動して、構成された条件が機能することを確認します。



この例では、アプリケーションはエージェントマシンに正常に割り当てられています。デスクトップ上に作成され、

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

タスクバーに固定されています。

XML プリンターリストの構成

June 1, 2023

Workspace Environment Management には、XML プリンタリストファイルを介してユーザープリンタを構成する機能が含まれています。

XML プリンタリストファイルを作成したら、[アクションタイプ] オプションを [デバイスマッピングプリンタファイルを使用**] に設定して、管理コンソールでプリンタアクションを作成します **。

> 注:
>
> 特定の Windows 資格情報を必要としないプリンタのみがサポートされます。

XML プリンタリストファイル構造

XML ファイルは UTF-8 でエンコードされ、次の基本的な XML 構造を持ちます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>

    <ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
    ...
    </ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

すべてのクライアントおよび関連付けられたデバイスは、次のタイプのオブジェクトによって表されます。

```
SerializableKeyValuePair<string, List<VUEMUserAssignedPrinter>>>
```

各デバイスは次のように表されます。

```
    <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
        <Key>DEVICE1</Key>
        <Value>
            <VUEMUserAssignedPrinter>
                ...
            </VUEMUserAssignedPrinter>
        </Value>
    </SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

デバイスの各ブロックは、特定のクライアント名またはコンピュータ名に一致する必要があります。**** <Key>** タグには関連する名前が含まれています。** <Value> タグには、指定したクライアントに割り当てられたプリンタと一致する **vueMuserAssignedPrinter** オブジェクトのリストが含まれます。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>

<ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema">
 <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
    <Key>DEVICE1</Key>
    <Value>
        <VUEMUserAssignedPrinter>
     ...
        </VUEMUserAssignedPrinter>
    </Value>
 </SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
</ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

VUEMuserAssignedPrinter タグ構文

構成された各プリンタは、<VUEMUserAssignedPrinter> 次の属性を使用して、** タグで定義する必要があります。

****<IdPrinter>**。これは、構成されたプリンタの **Workspace Environment Management** プリンタ **ID** です。プリンタごとに異なる **ID** が必要です。注:** Workspace Environment Management 管理コンソールで構成された XML プリンタリストアクションは、独自の ID を持つプリンタアクションでもあり、XML リストで個別に設定されたプリンタの ID とは異なる必要があります。

**<IdSite>。関連する Workspace Environment Management サイトのサイト ID が含まれます。このサイトは、既存のサイトの ID と一致する必要があります。

**<State>。1 がアクティブで、0 が無効になっているプリンタの状態を指定します。

**<ActionType>。常に 0 である必要があります。

**<UseExtCredentials>。0 である必要があります。特定の Windows 資格情報の使用は現在サポートされていません。

**<isDefault>。1 の場合、プリンタは既定の Windows プリンタです。0 の場合、デフォルトとして設定されません。

**<IdFilterRule>。常に 1 でなければなりません。

**<RevisionId>。常に 1 でなければなりません。後でプリンターのプロパティを変更する場合は、この値を 1 ずつ増やしてエージェント・ホストに通知し、プリンターのアクションが再処理されるようにします。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

<Name>。これは、Workspace Environment Management** エージェントホストによって認識されるプリンタ名です。** このフィールドを空白のままにすることはできません。

**<Description>。これは、Workspace Environment Management エージェントホストによって認識されるプリンタの説明です。このフィールドは空白にできます。

**<DisplayName>。これは未使用であり、空白のままにしてください。

**<TargetPath>。これは、プリンタへの UNC パスです。

**<ExtLogin>。接続用の Windows 資格情報を指定するときに使用される Windows アカウントの名前が含まれます。[現在サポートされていません。このフィールドは空白のままにします。]

**<ExtPassword>。接続用の Windows 資格情報を指定するときに使用される Windows アカウントのパスワードが含まれます。[現在サポートされていません。このフィールドは空白のままにします。]

<Reserved01>. これには、詳細設定が含まれます。いかなる形でも変更しないでください。

```
&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabled&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/VUEMActionAdvancedOption
```

特定のプリンタオブジェクトに対して自己修復を有効にするには、上記の内容をコピーして貼り付け、ハイライト **0** の値を **1** に変更します。

プリンタオブジェクトの例

次の例では、クライアントまたはコンピュータ **DEVICE1** に 2 つのアクティブなプリンタを割り当てます。

- **UNC** パス上の **HP LaserJet 2200** シリーズ**\\ server.example.net\ HP LaserJet 2200** シリーズ（デフォルトプリンタ）
- **Canon C5531i** シリーズプリンタ UNC パス**\ server.example.net\ Canon C5531i シリーズ **

また、クライアントまたはコンピュータ DEVICE2 上のアクティブなプリンタを 1 つ割り当てます。

- **HP LaserJet 2200** シリーズ UNC パス **\\ server.example.net\ HP LaserJet 2200** シリーズ

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema">
  <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
    <Key>DEVICE1</Key>
    <Value>
      <VUEMUserAssignedPrinter>
        <IdPrinter>1</IdPrinter>
        <IdSite>1</IdSite>
        <State>1</State>
        <ActionType>0</ActionType>
        <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>
```

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

```
12                      <isDefault>1</isDefault>
13                      <IdFilterRule>1</IdFilterRule>
14                      <RevisionId>1</RevisionId>
15                      <Name>HP LaserJet 2200 Series</Name>
16                      <Description />
17                      <DisplayName />
18                      <TargetPath>\server.example.net\HP LaserJet 2200
                           Series</TargetPath>
19                      <ExtLogin />
20                      <ExtPassword />
21                      <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"
                           ?&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:
                           xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
                           xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"&gt
                           ;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;
                           SelfHealingEnabled&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt
                           ;/Value&gt;&lt;/VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt
                           ;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
                           Reserved01>
22                  </VUEMUserAssignedPrinter>
23              </Value>
24            <Value>
25                  <VUEMUserAssignedPrinter>
26                      <IdPrinter>2</IdPrinter>
27                      <IdSite>1</IdSite>
28                      <State>1</State>
29                      <ActionType>0</ActionType>
30                      <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>
31                      <isDefault>0</isDefault>
32                      <IdFilterRule>1</IdFilterRule>
33                      <RevisionId>1</RevisionId>
34                      <Name>Canon C5531i Series</Name>
35                      <Description />
36                      <DisplayName />
37                      <TargetPath>\server.example.net\Canon C5531i Series
                           </TargetPath>
38                      <ExtLogin />
39                      <ExtPassword />
40                      <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"
                           ?&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:
                           xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
                           xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"&gt
                           ;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;
                           SelfHealingEnabled&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt
                           ;/Value&gt;&lt;/VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt
                           ;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
                           Reserved01>
41                  </VUEMUserAssignedPrinter>
42              </Value></
                   SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
                   >
43            <
                  SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
```


© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

```
                >
            <Key>DEVICE2</Key>
            <Value>
                <VUEMUserAssignedPrinter>
                    <IdPrinter>1</IdPrinter>
                    <IdSite>1</IdSite>
                    <State>1</State>
                    <ActionType>0</ActionType>
                    <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>
                    <isDefault>0</isDefault>
                    <IdFilterRule>1</IdFilterRule>
                    <RevisionId>1</RevisionId>
                    <Name>HP LaserJet 2200 Series</Name>
                    <Description />
                    <DisplayName />
                    <TargetPath>\server.example.net\HP LaserJet 2200
                        Series</TargetPath>
                    <ExtLogin />
                    <ExtPassword />
                    <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"
                        ?&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:
                        xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
                        xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"&gt
                        ;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;
                        SelfHealingEnabled&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt
                        ;/Value&gt;&lt;/VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt
                        ;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
                        Reserved01>
                </VUEMUserAssignedPrinter>
            </Value></
                SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
                >
        </
            ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
            >
```

用語集

June 20, 2022

この記事には、Workspace Environment Management (WEM) ソフトウェアとドキュメントで使用される用語と定義が含まれています。

[1] オンプレミス期間のみ

[2] Citrix Cloud サービス期間のみ

管理ブローカーポート。「管理ポート」の従来の用語。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

管理コンソール。インフラストラクチャサービスに接続するインターフェイス。管理コンソールを使用して、リソースの作成と割り当て、ポリシーの管理、ユーザーの承認などを行います。

Citrix Cloud では、Workspace Environment Management サービスの管理コンソールは、Citrix Cloud ベースの Citrix 仮想アプリケーションサーバーでホストされます。管理コンソールを使用して、Web ブラウザを使用してサービスの [管理] タブから **WEM** インストールを管理します。

管理ポート [1]。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポート。ポートはデフォルトで 8284 で、adminPort コマンドライン引数に対応します。

エージェント。WorWorkspace Environment Management エージェントは、エージェントサービスとセッションエージェントの 2 つのコンポーネントで構成されています。これらのコンポーネントはエージェントホストにインストールされます。

エージェントホスト実行可能ファイル。「セッションエージェント」の従来の用語。

エージェントホストマシン。「エージェントホスト」の従来の用語。

エージェントホストサービス。「エージェントサービス」の従来の用語。

エージェントブローカーのポート。「エージェントサービスポート」の従来の用語。

エージェントキャッシュ同期ポート。「キャッシュ同期ポート」の従来の用語。

エージェントホスト。エージェントがインストールされているマシン。

エージェントホスト構成 **GPO**。エージェントのインストール時に ADM または ADMX ファイルとして提供されるグループポリシーオブジェクト（GPO）管理用テンプレート。管理者はこれらのファイルを Active Directory にインポートし、設定を適切な組織単位に適用します。

エージェントポート [1]。インフラストラクチャ・サービスから命令を受信するエージェントホストのリスニング・ポート。たとえば、管理コンソールからエージェントを強制的に更新するために使用されます。ポートのデフォルトは 49752 です。

エージェントサービス。Transformer のユースケースで VDA または物理 Windows デバイスに展開されるサービス。管理コンソールを使用して構成する設定を適用する役割があります。

エージェントサービスポート [1]。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポート。ポートはデフォルトで 8286 で、agentPort コマンドライン引数に対応します。

エージェント同期ブローカポート。「キャッシュ同期ポート」の従来の用語。

ブローカ。「インフラストラクチャサービス」の従来の用語。

ブローカー口座。「インフラストラクチャサービスアカウント」の従来の用語。

ブローカーサーバー。「インフラストラクチャサーバー」の従来の用語。

ブローカーサービスアカウント。「インフラストラクチャサービスアカウント」の従来の用語。

キャッシュ同期ポート [1]。エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続して、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバと同期させるポート。ポートはデフォルトで 8285 で、agentSyncPort コマンドライン引数に対応します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

Citrix ライセンスサーバーのポート [1]。Citrix License Server がリッスンしているポート、およびインフラストラクチャサービスがライセンスを検証するために接続するポート。ポートのデフォルトは 27000 です。

Citrix Cloud Connector [2]。リソースの場所にあるマシンが Citrix Cloud と通信できるようにするソフトウェア。各リソースロケーションの少なくとも 1 台のマシン (クラウドコネクタ) にインストールされます。

構成セット。Workspace Environment Management 構成設定のセット。

接続ブローカー。「インフラストラクチャサーバー」の従来の用語。

データベース。Workspace Environment Management 構成設定を含むデータベース。

Workspace Environment Management オンプレミスバージョンでは、データベースは SQL Server インスタンスに作成されます。Citrix Cloud では、Workspace Environment Management サービスの設定は Microsoft Azure SQL Database サービスに保存されます。

データベースサーバーアカウント [1]。データベース作成ウィザードが SQL インスタンスに接続して Workspace Environment Management データベースを作成するために使用するアカウント。

DSN。データソース名 (DSN) には、データベース名、ディレクトリ、データベースドライバ、ユーザ ID、パスワード、およびその他の情報が含まれます。特定のデータベースの DSN を作成したら、アプリケーションで DSN を使用してデータベースから情報を呼び出すことができます。

インフラストラクチャサーバー [1]。Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスがインストールされているコンピューター。

インフラストラクチャサーバー管理ポート。「管理ポート」の従来の用語。

インフラサービス。インフラストラクチャサーバーにインストールされるサービスで、さまざまなバックエンドコンポーネント (SQL Server、Active Directory) をフロントエンドコンポーネント (管理コンソール、エージェントホスト) と同期します。このサービスは以前「ブローカー」と呼ばれていました。

Citrix Cloud では、インフラストラクチャサービスは Citrix Cloud 上でホストされ、Citrix によって管理されます。これらは、さまざまなバックエンドコンポーネント (Azure SQL Database サービス、管理コンソール) をフロントエンドコンポーネント (エージェント、Active Directory) と同期します。

インフラストラクチャサービスアカウント [1]。インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用するアカウント。デフォルトでは、このアカウントは vuemUser SQL アカウントですが、データベースの作成時に、インフラストラクチャサービスが使用する他の Windows 認証情報をオプションで指定できます。

インフラストラクチャサービスサーバー。「インフラストラクチャサーバー」の従来の用語。

インフラサービス。インフラストラクチャサービスのインストールプロセスによってインフラストラクチャサーバにインストールされるサービス。

Citrix Cloud では、インフラストラクチャサービスは Citrix Cloud 上でホストされ、Citrix によって管理されます。これらは、さまざまなバックエンドコンポーネント (Azure SQL Database サービス、管理コンソール) をフロントエンドコンポーネント (エージェント、Active Directory) と同期します。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

初期管理者グループ [1]。データベース作成時に選択されるユーザーグループ。このグループのメンバーだけが、管理コンソールのすべての Workspace Environment Management サイトへのフルアクセス権を持ちます。デフォルトでは、このグループはこのアクセス権を持つ唯一のグループです。

統合接続 [1]。SQL アカウントの代わりに現在の Windows アカウントを使用して、データベース作成ウィザードを SQL インスタンスに接続します。

キオスクモード。エージェントがウェブまたはアプリケーションランチャーになり、ユーザーを単一のアプリまたはデスクトップエクスペリエンスにリダイレクトするモード。これにより、管理者はユーザー環境を単一のアプリまたはデスクトップにロックダウンできます。

ブローカーポートを監視しています。「WEM モニタリングポート」の従来の用語。

混合モード認証 [1]。SQL Server では、Windows 認証と SQL Server 認証の両方を有効にする認証モードです。これは、インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するデフォルトのメカニズムです。

ライセンスサーバーポート。「Citrix ライセンスサーバーポート」の従来の用語。

ネットワークドライブ。LAN、サーバ、または NAS デバイス上の物理ストレージデバイス。

リソースの場所 [2]。加入者にサービスを提供するために必要なリソースを含む場所 (パブリッククラウド、プライベートクラウド、ブランチオフィス、データセンターなど)。

SaaS [2]。*Software as a Service* は、サードパーティプロバイダーがアプリケーションをホストし、インターネット経由で顧客が使用できるようにするソフトウェア配布モデルです。

セルフサービスウィンドウ。エンドユーザーが Workspace Environment Management で構成された機能 (アイコン、デフォルトプリンターなど) を選択できるインターフェイス。このインターフェイスは、セッションエージェントによって「UI モード」で提供されます。

サービスプリンシパル名 **(SPN)**。サービスインスタンスの一意の識別子。SPN は、サービスインスタンスをサービスログオンアカウントに関連付けるために Kerberos 認証で使用されます。

セッションエージェント。ユーザーセッションのアプリショートカットを設定するエージェント。エージェントは「UI モード」と「コマンドライン」モードで動作します。UI モードは、ステータスバーアイコンからアクセスできるセルフサービスインターフェイスを提供し、エンドユーザーはそこから特定の機能（たとえば、アイコン、デフォルトプリンター）を選択できます。

サイト。「構成セット」の従来の用語。

SQL ユーザーアカウント [1]。インストール時に作成された「vuemUser」という名前の SQL ユーザーアカウント。これは、インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用する既定のアカウントです。

トランスフォーマー。Workspace Environment Management エージェントが制限付きキオスクモードで接続する機能。

仮想ドライブ。**subst** コマンドまたは **definedosDevice** 関数を使用して作成された **Windows** 仮想ドライブ **(MS-DOS** デバイス名とも呼ばれます)。仮想ドライブは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマップします。

仮想 **IP** アドレス **(VIP)** 実際の物理ネットワークインターフェイス (ポート) に対応しない IP アドレス。

© 1999–2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved.

VUEM。仮想ユーザー環境管理。これは、製品の一部の場所に登場するレガシー Norskale 用語です。

vuemUser [1]。Workspace Environment Management データベースの作成中に作成された SQL アカウント。これは、Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用する既定のアカウントです。

WEM ブローカー。「インフラストラクチャサービス」の従来の用語。

WEM 監視ポート [1]。監視サービスによって使用されるインフラストラクチャサーバーのリスニングポート。ポートのデフォルトは 8287 です。(まだ実装されていません。)

WEM UI エージェント実行可能ファイル。「セッションエージェント」の従来の用語。

Windows アカウントのなりすまし。サービスが Windows アカウントの ID で実行されるとき。

Windows AppLocker。ファイルの一意の ID に基づいて、組織内の特定のアプリケーションを実行できるユーザーまたはグループを指定できる Windows の機能。AppLocker を使用する場合は、アプリケーションの実行を許可または拒否するルールを作成できます。

Windows 認証。SQL Server では、特定の Windows ユーザーアカウントとグループアカウントが SQL Server へのログインを信頼する既定の認証モードです。SQL Server の認証の代替モードは、混合モード認証です。

Windows セキュリティ。「Windows 認証」の従来の用語。

Workspace Environment Management (WEM) サービス [2]。WEM 管理コンポーネントを SaaS サービスとして配信する Citrix Cloud サービス。

© 2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved. Cloud Software Group, the Cloud Software Group logo, and other marks appearing herein are property of Cloud Software Group, Inc. and/or one or more of its subsidiaries, and may be registered with the U.S. Patent and Trademark Office and in other countries. All other marks are the property of their respective owner(s).